

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第1分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第12集 —

図 表 編

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	財群馬泉埋藏文化財	01-320
	調査事業団保管	32
No. 98-4962	平成10年5月13日	2-17)

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区、群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第1分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第12集 —

図 表 編

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

第4章・第1節 縄文時代

土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	掘り長軸×短軸(m)	残存深度(m)	採掘番号	備考
Z区第3号土坑	39・40-Z-20	円形	鍋底状	1.36	—	第214図 第62図版	第5号土坑と重複。 第VII期
〃第4号土坑	39-Z-19	〃	〃	1.30	0.68	〃	〃 第VIII期
〃第5号土坑	40-Z-19-20	不整形円形	〃	1.82 × 1.47	0.30	〃	第3・4号土坑と重複。 第VII期
〃第13号土坑	26-Z-19-20	不整形円形	〃	1.17	0.35	〃	
〃第14号土坑	25・26-Z-20・21	円形	〃	1.28	0.41	〃	第VIII期
〃第16号土坑	35-Z-23	楕円形	〃	1.04 × 0.82	0.28	〃	第VIII期
〃第26号土坑	32-Z-26	円形	〃	0.93	0.21	〃	第27号土坑と重複。 第V期
〃第27号土坑	30-Z-25	〃	〃	1.06	0.34	〃	第28号土坑と重複。 第VIII期
〃第28号土坑	31-Z-28	〃	〃	0.90	0.40	第215図 第62図版	第VIII期
〃第30号土坑	33・34-Z-32・33	不整形円形	〃	0.94	0.24	第215図版	第VIII期
〃第47号土坑	37-Z-36・37	円形	〃	1.25	0.40	〃	中央付近に小ピット1個。 第VIII期
〃第48号土坑	37-Z-34・35	〃	〃	1.22	0.50	〃	
〃第52号土坑	34・35-Z-35・36	〃	〃	1.42	0.37	〃	第V期
〃第62号土坑	37・38-Z-32・33	楕円形	〃	1.57 × 0.83	0.39	〃	
〃第63号土坑	39・40-Z-31	不整形円形	〃	1.46	0.42	第215図 第63図版	第VIII期
〃第65号土坑	37・38-Z-36	〃	〃	1.27	0.50	第215図	
〃第66号土坑	43・44-Z-29	〃	〃	0.90	0.32	〃	
〃第70号土坑	36-Z-36	〃	円筒状	0.76	0.56	第216図 第63図版	
〃第72号土坑	38・39-Z-34	〃	鍋底状	1.24	0.30	第216図	

第1節 縄文時代

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	埋存深度 (m)	発 見 番 号 図 版 番 号	備 考
Z区第81号土坑	36-Z-28・29	円形	鍋底状	0.93	0.50	第216図 第63図版	深鉢1個体出土。 第Ⅲ期
# 第82号土坑	36-37-Z-27・28	楕円形	#	1.40 × 1.14	0.30	第216図	第83・86・87・91号土坑と重複。
# 第83号土坑	37-Z-28	円形	#	0.72	—	#	第82・84号土坑と重複。
# 第84号土坑	37-Z-27・28	#	#	1.10	—	第216図 第63図版	第83・85号土坑と重複。
# 第85号土坑	#	#	#	0.72	—	#	第84号土坑と重複。
# 第86号土坑	36-37-Z-27	#	#	—	—	第216図	第82・87・88・91号土坑と重複。
# 第87号土坑	#	#	#	0.47	0.35	#	第82・86・91号土坑と重複。
# 第88号土坑	36-37-Z-26・27	楕円形	撚鉢状	1.60 × 1.16	0.34	#	第86・91号土坑と重複。 第Ⅶ期
# 第91号土坑	36-Z-27	円形	鍋底状	1.03	—	#	第82・86・87・88号土坑と重複。 第Ⅴ期
# 第92号土坑	36-37-Z-24・25	#	#	0.63	0.40	#	第93号土坑と重複。
# 第93号土坑	36-37-Z-25	不整形円形	#	1.14	0.23	#	第92号土坑と重複。
# 第94号土坑	35-36-Z-33	#	#	1.75	0.42	第217図	
# 第98号土坑	36-37-Z-31・32	円形	#	1.58	0.38	#	第Ⅶ期
# 第99号土坑	34-Z-34・35	楕円形	#	2.10 × 1.63	0.45	#	第Ⅶ期
# 第100号土坑	36-37-Z-34・35	円形	#	1.22	0.23	第217図 第63図版	深鉢1個体出土。 第Ⅴ期
# 第116号土坑	40-41-Z-26・27	不整形楕円形	#	1.25 × 0.85	0.47	第217図	第Ⅶ期
# 第117号土坑	41-42-Z-25・26	円形	#	1.70	0.30	#	3個のピットを有する。 第Ⅶ期
# 第123号土坑	36-37-Z-33・34	楕円形	皿状	1.00 × 0.80	0.08	第218図	
# 第124号土坑	43-Z-27	#	鍋底状	1.00 × 0.82	0.38	第218図 第64図版	
# 第132号土坑	31-Z-34・35	円形	#	0.84	0.24	第218図	第133号土坑と重複。

土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	探 図 番 号	備 考
Z区第133号土坑	30・31-Z-34・35	不整形円形	鍋底状	0.78	0.20	第218図	第132号土坑と重複。
# 第137号土坑	32-Z-34	#	#	1.07	0.30	#	
# 第150号土坑	40・41-Z-36・37	不整形円形	#	2.25 × 1.40	0.65	第218図 第64図版	3基の土坑の重複か。
# 第153号土坑	42-Z-36	円形	U字状	0.85	0.75	第218図	
# 第157号土坑	43-Z-35・36	楕円形	袋状	0.83 × 0.59	0.62	#	
# 第158号土坑	43・44-Z-36	円形	U字状	0.60	0.78	#	
A区第24号土坑	1・2-A-19	長方形	円筒状	0.90 × 0.50	0.44	第219図 第64図版	継多数出土。
# 第25号土坑	33-A-27	円形	#	0.97	0.64	第219図	
# 第43号土坑	1・2-A-45	楕円形	鍋底状	1.08 × 0.89	0.20	#	
# 第44号土坑	0-A-48	#	#	1.74 × 1.05	0.16	#	第Ⅷ期
# 第68号土坑	10・11-A-45	不整形楕円形	円筒状	1.51 × 1.36	0.80	第219図 第64図版	
# 第95号土坑	13・16-A-46・47	円形	#	1.03	1.15	第219図	
# 第111号土坑	14・15-A-44・45	楕円形	鍋底状	1.05 × 0.89	0.47	#	第112号土坑と重複。
# 第112号土坑	14・15-A-44・45	#	#	1.57 × 0.99	0.35	第219図 第64図版	第111号土坑と重複。遺物1個体が横位状態で出土。
# 第116号土坑	13・14-A-30・31	楕円形	皿状	1.76 × 1.35	0.46	第220図	第Ⅱ期
# 第121号土坑	13・14-A-42	円形	鍋底状	1.10	0.26	第220図 第65図版	
# 第134号土坑	13-A-30	不整形楕円形	#	1.13 × 0.75	0.38	#	
# 第155号土坑	48-A-43	円形	#	0.75	0.16	第220図	
# 第185号土坑	49-A-39・40	#	円筒状	1.01	0.60	第220図 第65図版	
# 第188号土坑	47・48-A-39	不整形楕円形	鍋底状	1.77 × 1.34	0.51	#	東壁部にビット1個。 第Ⅵ期

第1節 縄文時代

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	採掘 図版 番号	備考
A区第210号土坑	44-A-34	円形	鍋底状	0.66	0.74	第220図 第65図版	深鉢1個体出土。 第Ⅺ期
※ 第239号土坑	33・34-A-37	横円形	※	1.65 × 1.22	0.70	第221図	第Ⅷ期
※ 第240号土坑	25・26-A-29・30	※	竈鉢状	1.74 × 1.23	0.44	第221図 第65図版	ピット2個。
※ 第243号土坑	37-A-34・35	円形	鍋底状	1.37	0.57	第221図 第66図版	
※ 第247号土坑	31-A-33・34	横円形	※	1.43 × 1.19	0.28	第221図	
※ 第248号土坑	24-A-30	円形	※	0.56	0.20	第221図 第66図版	
※ 第274号土坑	38-A-32	横円形	※	1.01 × 0.88	0.37	第221図	第Ⅷ期
※ 第301号土坑	36・37-A-29・30	不整横円形	※	1.01 × 0.75	0.22	第221図 第66図版	
※ 第309号土坑	47-A-33・34	※	※	0.66 × 0.49	0.21	第222図 第66図版	底面より若干遊離した状態で 有孔石製品出土。
※ 第313号土坑	47-A-41・42	円形	※	1.35	0.31	※	
※ 第320号土坑	46・47-A-44	※	※	1.00	0.21	※	第Ⅷ期
※ 第321号土坑	35-A-48	※	※	1.04	0.44	第222図	
※ 第333号土坑	47・48-A-48	横円形	※	1.51 × 1.17	0.39	※	第Ⅷ期
※ 第334号土坑	48・49-A-36	※	—	1.55 × 0.75	0.23	※	
B区第40号土坑	7-B-28	円形	円筒状	0.91	0.74	第222図 第66図版	
※ 第101号土坑	17・18-B-42・43	※	鍋底状	1.36	0.37	第223図 第66図版	第Ⅳ期
※ 第102号土坑	19・20-B-31	不整円形	※	1.16	0.22	第223図 第67図版	第Ⅹ期
※ 第109号土坑	13・14-B-41	不整横円形	※	1.32 × 1.10	0.12	第223図	底面中央部にピット1個。
※ 第122号土坑	15・16-B-40・41	円形	※	1.61	0.23	第223図 第67図版	
※ 第127号土坑	19-B-48	※	※	0.88	0.21	第223図	

土坑一覧表・土製円盤観察表

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	埋 藏 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	採 取 層 番 号 図 版 番 号	備 考
B区第130号土坑	1・2・B-46-47	円形	鍋底状	0.77	0.36	第223図	
＃ 第144号土坑	0・B-38・39	不整形円形	＃	1.18	0.10	＃	
＃ 第148号土坑	2・3・B-35-36	不整形円形	＃	—	0.75	第224図 第67図版	
＃ 第149号土坑	＃	不整形円形	＃	2.35	0.86	＃	
＃ 第155号土坑	0・1・B-49	円形	＃	1.00	0.51	＃	第Ⅷ期
＃ 第168号土坑	24・25・B-50	＃	＃	0.86	0.26	第224図	
＃ 第169号土坑	23・24・B-50	楕円形	＃	1.92 × 1.00	0.42	＃	
I区第156号土坑	5・I-89・90	円形	＃	1.18	0.54	第310回 第69図版	深鉢形土器2個体が入りの状態で出土。

土製円盤観察表

採 取 層 番 号 図 版 番 号	遺 構 名	出土層位	使用部位	大 き さ (cm)			重 さ (g)	備 考
				長 径	短 径	厚 さ		
第43回 2 第127図版	A区31号住	覆土	胴部	4.9	4.7	1.8	46.7	縁辺は6面の研磨面を有する。
＃ 3 ＃	＃	＃	＃	3.2	3.2	1.3	16.5	縁辺は7面の研磨面を有する。加管利E
＃ 4 ＃	＃	＃	＃	3.6	3.5	1.1	16.0	縁辺は9面の研磨面を有するが地味は荒い。加管利E
＃ 5 ＃	＃	＃	＃	3.0	2.6	1.2	9.5	縁辺は7面の打ち欠きのみられ研磨は無。加管利E
＃ 6 ＃	＃	＃	＃	3.1	3.1	0.9	11.4	縁辺は7面の研磨面を有する。
第152回 1 第131図版	B区63号住	＃	＃	2.4	2.2	0.9	5.2	縁辺は6面の凹転を伴う研磨面を有する。加管利E
第235回 15 第135図版	Z区117号土坑	＃	＃	3.7	3.5	1.2	15.6	縁辺は6面の研磨面を有する。加管利E
第238回 61 第136図版	A区25号土坑	＃	＃	2.6	2.4	1.5	9.1	縁辺は7面の研磨面を有する。加管利E
	A区54号土坑	＃	＃	4.0	3.8	1.4	24.2	縁辺は7面の粗い研磨面を有する。加管利E

第1節 縄文時代

障 目 番 号 図 版 番 号	遺 構 名	出土層位	使用部位	大 き さ (cm)			重 さ g	備 考
				長 径	短 径	厚 さ		
第238図 3	A区76号土坑	#	#	3.3	3.2	1.2	13.5	縁辺は5面の研磨面を有する。
第238図 4	A区273号土坑	#	底部	3.7	3.7	0.8	10.7	割落した底部で、縁辺に6面の研磨面を有する。
第238図 5	A区1号埋室周辺	#	胴部	2.6	2.5	1.1	6.1	縁辺は6面の研磨面を有する。 加曽利E
第273図 6 第1396図版	B区	表土	#	3.2	3.2	1.3	16.4	縁辺は粗い7面の研磨面を有する。 加曽利E
# 7	A区161住	覆土	#	3.7	3.6	1.0	13.8	縁辺は8面の打ち欠きで、未研磨。 加曽利E
# 8	B区	V層	#	3.3	3.1	1.2	11.6	縁辺は6面の打ち欠き及び研磨両方を有する。 加曽利E
# 9	A区	#	#	4.1	3.8	1.3	23.4	縁辺は7面の研磨面を有し、円形でない。 加曽利E
# 10	#	#	#	3.9	3.5	1.2	17.5	縁辺は8面の研磨面を有する。 加曽利E
# 11	#	#	#	3.3	3.0	1.4	12.9	縁辺は5面の打ち欠きで研磨は無し。 加曽利E
# 12	A区21号住	覆土	#	3.9	3.8	1.1	17.5	縁辺は8面の打ち欠きで、わずかに研磨が認められる。 加曽利E
第273図 13 第1396図版	A区	V層	胴部	2.8	2.7	1.2	9.9	縁辺は7面の打ち欠きで、わずかに研磨が認められる。 加曽利E
# 14	B区	#	#	3.6	3.3	1.5	18.5	縁辺は5面で、3面がていねいに研磨されている。 加曽利E
# 15	#	#	#	3.7	3.4	1.1	15.0	縁辺は7面の粗い研磨が認められる。 加曽利E
# 16	A区	#	#	4.5	3.4	1.4	19.0	縁辺は7面で、1面だけ研磨がみられる。 加曽利E
# 17	A区16号住	掘り方	#	4.9	4.4	1.9	43.4	縁辺は7面で、1面だけ打ち欠きのままである。 加曽利E
# 18	B区	V層	底部	4.5	4.2	1.2	18.3	縁辺は8面の回転を伴う研磨面を有する。
# 19	A区	#	胴部	3.8	3.3	1.1	15.6	縁辺は6面の打ち欠きで、2面のみ研磨がみられる。
# 20	#	#	#	4.3	4.1	1.4	30.3	縁辺は6面の粗い研磨がみられる。
# 21	B区	表土	#	4.4	4.1	1.2	28.0	縁辺は8面の粗い研磨面を有する。 加曽利E

土製円盤・耳栓観察表

押込番号 図版番号	遺構名	出土層位	使用部位	大 き さ (mm)			重 さ (g)	備 考
				長 径	短 径	厚 さ		
第273図22 第139図版	A区	V 層	#	4.5	4.4	0.8	20.7	縁辺は8面の粗い研磨面を有する。
# 23 #	B区	II 層	#	4.5	3.9	1.1	24.2	縁辺は6面の回転を伴うていぬいな研磨面を有する。
# 24 #	#	#	#	3.3	3.3	1.6	20.6	縁辺は7面の回転を伴う研磨面を有する。
# 25 #	Z区	V 層	#	3.1	3.1	0.9	8.4	縁辺は7面の打ち欠きを有する。
# 26 #	A区	#	#	2.2	2.1	1.3	6.3	縁辺は6面の回転を伴う研磨面を有する。
# 27 第140図版	A区	#	#	3.8	3.6	1.2	13.3	縁辺は6面の打ち欠きを有する。
# 28 #	A区	#	#	4.0	3.5	1.3	14.3	縁辺は5面の回転を伴う研磨面を有する。
# 29 #	B区	#	#	3.3	3.0	1.2	8.6	縁辺は6面の研磨面を有する。 加普利E
# 30 #	A区161号住	覆 土	#	3.7	3.7	1.0	16.4	縁辺は4面の回転を伴う粗い研磨面を有する。
# 31 #	B区	表 土	#	3.4	3.1	1.3	8.3	縁辺は5面の粗い研磨面を有する。

耳栓観察表

押込番号 図版番号	遺構名	出土層位	度 目				胎土・焼成・色調	文 様
			最大径	最小径	厚 さ	重 さ		
第35図 1 第126図版	A区30号住	覆 土	3.2	3.0	2.3	26.2	細粒砂・良好・鈍い褐色	両側共に細沈線の渦巻と、面に凹形刺突を施す。
第273図 1 第140図版	A区	V 層	3.4	3.1	2.3	(22.4)	細粒砂・良好・鈍い赤褐色	両側共に凹形刺突を施す。
# 2 #	A区	#	3.4	2.6	2.2	(20.2)	細粒砂・良好・鈍い黄褐色	#
# 3 #	B区163号住	覆 土	3.3	2.9	2.5	27.4	細粒砂・小礫・良好・鈍い褐色	#
# 4 #	A区	V 層	2.3	2.1	2.5	12.0	粗粒砂・細粒砂 良好・鈍い黄褐色	両側共に細沈線の渦巻を施す。
# 5 #	B区163号住	覆 土	2.5	2.3	1.4	9.4	細粒砂・良好・明赤褐色	両側共に沈線の渦巻を施し、装着部は研磨されている。

Z区 第2号址

図面番号 棟四角番号	器種	出土位置 遺存状況	厚目 (cm)	出土 構成	色調	形状・形状の特徴	文様	備考
第2図1 第1400版	深鉢	甕土 口縁部	破片	細粒砂合 黒矽	褐色	縁くびれ部から、わずかに内湾みに 口縁が立ち上がる。	枕縁で楕円区画し、RLを赤黒施文。	10-5 A
第2 第	第	第	第	第	深い褐色	第	縁部で楕円区画及び渦巻を施し、区画内にLRを縦施文後、縁部に沿って枕縁を施す。	第
第3 第	第	第	第	第	深い黄褐色	第	縁部で楕円区画後、縦方向の条線を赤黒施文し、縁部に沿って枕縁を施す。	第
第4 第	第	第	第	第	深い赤褐色	口縁部内湾。	口縁部に沿って幅広の枕縁を一本施らし、その下に縁部で楕円区画を施した後、区画内に黒彩状の枕縁施文。	10-5 B
第5 第	甕土 胴部		第	第	赤褐色		3本の平行枕縁を施下し、RLを縦方向に黒施文。	10-7 A
第6 第	第	第	第	第	褐色		四角に枕縁を有する縁部を横方向に施らし、RLを縦方向に施文。	第
第7 第	第	第	第	第	明赤褐色		RL施文後、頸部枕縁及び袋状枕縁を施下する。	第
第8 第	第	第	第	第	赤褐色		縁部と枕縁で楕円区画後、区画内に縦方向の枕縁を施す。	10-5 B
第9 第	第	第	第	第	第		斜方向に平行枕縁を施す。	14-1
第10 第	甕土 底部		底 10.4	第	明褐色			15-2

Z区 第14号住居跡

四角番号 碑位置番号	形種	出土位置 遺存状況	尺寸 (cm)	出土 状況	土質 色調	形状・形状の特徴	文様	備考
第13号 第1262号版	石砂土 跡	P.裏面で逆位 No.1 突形	上径12.5 下径14.0 高さ10.4	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色	右部は中央部に内かかって高い面状の窪 みがあり、磨れた状態を呈する。	4ヶ所に孔を有する。	
第2 第1403号版	阿瓦器	覆土 把手	破片	#	鈍い黄 褐色	全面にていねいな磨き。	深い沈線で大小2つの葉手を施す。	
第3 #	深鉢	No.2 口縁部	#	#	鈍い黄 褐色	波状口縁。	口縁突起から口縁に沿って1本の沈線を施し、下に縁部と沈線で楕円区 画及び小渦巻を施す。区画内は胎体Lの黄褐色文。	10-2 A
第4 #	#	覆土 口縁部	#	細粒砂・小渦 含、良好	鈍い黄 褐色	波状口縁で、内側した口縁部が波状部 で外反する。	幅広い沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内RLを呈出文。	10-6
第5 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色	波状口縁。	口縁沈線下に幅広い沈線による渦巻を施す。	#
第6 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色		口縁部文様帯は、幅広い沈線で楕円区画及び渦巻を施す。	10-5 A
第7 #	#	#	#	#	鈍い赤 褐色	口縁部平坦。	同様に沈線を有する盛形で楕円区画及び渦巻を施し、区画内は線方向の 条線施文。	10-3 B
第8 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色	口縁部が若干内湾する。	口縁部下に幅広い沈線を施し、同沈線で楕円区画する。区画内はRL を線方向に充塞施文。	10-5 A
第9 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色	口縁部ごくくわがかに内湾する。	口縁部下に1本の沈線を施し、胎文帯を区画する。胎文は線方向の条線 施文。	赤色顔料 塗布
第10 #	#	覆土 胴部	#	#	褐色		沈線で楕円区画し、胴部は2本の平行沈線を垂下させ、横文はRLの線 方向に充塞施文。	11-8
第11 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色		2本の平行沈線を垂下し、間を置き、横文はRL線方向に充塞施文。	10-7
第12 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色		#	#
第13 #	#	#	#	#	鈍い黄 褐色		横文胴部RL。	#

第1節 縄文時代

第13図14 第1405図	深鉢	胴土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色			2本の平行沈線を垂下し、間を閉ぎ、縄文はR Lの縦方向充塞状文。	10-7
〃 15 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色	比較的強い野くびれ部を有する。	〃	〃	〃
〃 16 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色			2本単位の平行沈線を垂下し、間を閉ぎ、縄文はR Lの縦方向充塞状文後、1本の波状沈線を垂下。	〃
〃 17 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	明黄褐色			3本単位の平行沈線を垂下し、間を閉ぎ、縄文はR Lの縦方向充塞状文。	10-7 A
〃 18 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色			縄文はR L横方向縄文で、平行沈線及び波状沈線を垂下。	〃
〃 19 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	明黄褐色	比較的薄手で割れ強りが強い。		2本単位の平行沈線を閉ぎ、縄文はR Lの斜方向充塞状文で、沈線を曲線的に縄文。	10-8
〃 20 〃	〃	〃	〃	細粒砂含	鈍い黄 褐色			縄文R Lの充塞状文で、縦方向の沈線を垂下。	〃

Z区 第18号址

図録番号 標頭番号	器種	出土位置 埋存状況	破片 (cm)	土質 構成	色調	器形・器形の特徴	文様	備考	
第18図1 第1405図	深鉢	胴土 胴部	破片	細粒砂含 良好	褐色			腹帯で口縁部文様帯を区画し、腹帯上に1本の沈線を垂下。	10-2 A
〃 2 〃	〃	〃	〃	〃	〃			沈線で「U」字状に区画し、区画内は縄文R Lの充塞状文、縄文帯は閉ぎ後、縦方向の沈線を垂下。	10-8
〃 3 〃	〃	〃	〃	〃	明褐色			平行沈線を垂下し、縄文はR Lの充塞状文。	10-7
〃 4 〃	〃	〃	〃	〃	褐色			平行沈線を垂下。	〃
〃 5 〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐色			縄文R L。	〃

第19号 第1402版	深鉢	瓦土 胴部	破片	細粒砂含 貝殻	灰い褐色	縄文R.L.	10-7
7 a	〃	〃	〃	〃	明赤褐色	原形は縁全体L.	
8 a	浅鉢	〃	〃	〃	灰い赤褐色	外面はていねいな磨き。	

Z区 第19号住居跡

図番 番号	器種	出土位置 遺存状況	残目 (cm)	出土 状況	色調	器形・装飾の特徴	文 様	備考
第19号 第1202版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く	口 25.5 高 18.9	細粒砂含 貝殻	灰い褐色	円筒状の胴部と、内湾する口縁部を有する。	口縁部は隆帯と沈線の間門・三角形区画で、胴部は腹面L.R縄文帯、平行沈線を垂下し、沈線間を粗く磨削す。	4L点の接合 10-5 A
第20号 第1402版	〃	瓦土 口縁部	破片	〃	灰い赤褐色	〃	幅広い平行沈線で「口」字状の無文部とする。縄文はR.L.の赤黒縄文。	10-5 A
2 a	〃	〃	〃	〃	〃	口唇部平坦。	縄文はR.L.で口縁に沿って2本の平行沈線を磨らし、沈線を垂下。	11-1
3 a	〃	〃	〃	〃	灰い明赤褐色	口縁部外側に、つまみ上げ状の新玉三角形の隆帯を有する。	縄文はR.L.で、口縁部無文帯を囲い1本の沈線で区画。	
4 a	〃	〃	〃	〃	灰い褐色	波状口縁。	幅広い沈線で間門区画し、縄文はR.L.の赤黒縄文。	
5 a	〃	〃	〃	〃	褐色	口唇部平坦で内面肥厚。	縄文はR.L.の斜方無文。	
6 a	〃	〃	〃	〃	灰い褐色	口縁部内面肥厚。	口唇直下に1本の沈線を磨らし、縦方向の平行沈線を磨文。	
7 a	〃	〃	〃	〃	灰い褐色	口縁部内湾。	5本単位の背縁波状の赤黒縄文。	11-8
8 a	〃	瓦土 胴部	〃	〃	褐色	〃	隆帯と沈線で文様区画し、縄文はR.L.の赤黒縄文。	

第1期 縄文時代

番号	探 跡	覆 土 部 位	破 片	細粒砂含 良 好	色	説明	14?
第2005号 第14055号	10	10	10	10	強い赤褐色	条線文後、弱くびれ部に3本並位の平行沈線を含み、その下に2本の平行沈線を連続した条線文。 隙帯と沈線で文様区画。	14?
11	11	11	11	11	明赤褐色	弱くびれ部が比較的にはっきりしている。 隙帯と沈線で文様区画し、区画内は斜方向の平行沈線条線文。	14?
12	12	12	12	12	強い褐色	条線文後、沈線で文様区画し、区画内は斜方向の平行沈線条線文。	#
13	13	13	13	13	強い赤褐色	#	13?
14	14	14	14	14	強い褐色	2本の平行沈線を垂下し、隙帯と沈線で文様区画し、隙帯はR.L.の斜方向の平行沈線条線文。	10-7 B
15	15	15	15	15	赤褐色	#	10-7
16	16	16	16	16	明赤褐色	部帯は斜帯で、隙帯に沈線を有する1本の隙帯を垂下。	#
17	17	17	17	17	赤褐色	隙帯はR.L.の斜方向条線文。	#
18	18	18	18	18	強い赤褐色	隙帯を1本垂下し、一方に斜方向の平行沈線条線文、他方に波状の隙帯を垂下。	#
19	19	19	19	19	強い褐色	斜帯状に沈線を垂下。	14
20	20	20	20	20	#	#	#
21	21	和南洲味直 底 部	高 4.2	21	強い褐色	「L」字状の沈線を連続させ、隙帯を区画し、区画内は隙帯R.L.の斜方向の平行沈線条線文。	10-8
22	22	覆 土 底 部	高 9.0	22	#	2本の平行沈線を垂下し、隙帯はR.L.の斜方向の平行沈線条線文。	10-7

第20回 23 第1402版	深鉢	出土 底部	高	7.0	細粒砂含 良好	暗赤褐色	底部付込簡文。	15-2
24	浅鉢	出土 口縁部	破片	#	#	灰い褐色	簡文。 口縁部に土縁状の痕みを有する。 内外面共に横方向の磨き。	
25	#	#	#	#	#	灰い赤褐色	# 口唇部断面三角形で内面若干肥厚する。 内外面共に磨き。	
26	#	#	#	#	#	暗赤褐色	# 内面突起状に肥厚する。 内外面共に磨き。	

Z区 第22号住居跡

回 番 号 牌 四 番 号	器 種	出 土 位 置 遺 存 状 況	成 目 (cm)	土 質 成 分	色 調	器 形 ・ 装 飾 の 特 徴	文 様	備 考
第20回 1 第1402版	深鉢	P 8内 口縁部	破片	細粒砂含 良好	灰い赤褐色		口縁部に2本の土縁を施す。	10
2	#	P 7内 口縁部	#	#	灰い褐色	内外面共に磨き。	口縁部に隆帯及び幅広い土縁を施す。	#
3	#	P 8内 口縁部	#	#	灰い褐色		口縁部に隆帯を施状に貼付し、内側に土縁を引き横方向画し、胴部は隆帯状頂部から平行土縁を垂下する。簡文はR L。	10-3 A
4	#	#	#	#	灰い褐色	口縁部内湾。	簡文はR Lで、口縁部に沿って2本の土縁を施す。	#
5	#	P 8内 胴部	#	#	明赤褐色		簡文はR Lで、土縁で文様出出。	10
6	#	P 5内 胴部	#	#	暗赤褐色		原形は鉢状体として、縦・横方向簡文。	#
7	#	P 8内 胴部	#	#	赤褐色		#	#
8	#	#	#	#	明赤褐色		糸線簡文後、簡線的及び幾何状の隆帯を垂下。	14-2

第2509号 第1405版	深鉢	P 8 内 胴部	破片	細粒砂含 良好	明褐色	3本の隆帯を腹方向に貼付し、間に沈線を描す。胴部文様は斜方向の平行沈線。	14
〃 〃	〃	P 8 内 底面	〃	〃	灰褐色	底面付近無文。	13-2

Z区 第23号址

図録番号 標記番号	器種	出土 遺存状況	底面 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第2501号 第1405版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	黒い橙 褐色	口縁部内溝。	幅広い沈線で文様区画し、区画内は縦文R L 形装飾文。	3本の隆帯 10-5 A
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	〃	〃	隆帯と沈線で文様区画及び小溝帯を描し、区画内は腹方向の沈線装飾文。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	隆帯と沈線で前門区画及び小溝帯を描し、区画内腹方向の腰形状沈線装飾文。	10-3 B
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃	口縁部やや内溝。	縦文R L 形装飾文、口縁部に3本の沈線を描し、さらに3本単位の平行沈線垂下。	10-2
〃 〃	〃	No.1 口縁部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	〃	口縁部外反し、口唇部平直で外傾。	条線装飾文、隆帯で前門区画し、胴部に浅い波状沈線垂下。	5本の隆帯 10-3
第2501号 第1405版	〃	胴部	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	沈線橙 褐色	〃	口縁部文様物は隆帯と沈線で区画し、胴部は2本単位の平行沈線を垂下する。区画内及び沈線間は縦文R L の充塞装飾文。	10-5 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	褐色	〃	輪帯体L形装飾文、2本単位の平行沈線及び波状の隆帯を垂下。	10-4 B
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	胴部に歪みがある。	輪帯体L形装飾文、波状の隆帯垂下。	〃
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	〃	褐色	〃	隆帯と沈線で前門及び胴帯を描し、区画内は腹方向の沈線。	10-3 B
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	黒い赤 褐色	〃	隆帯と沈線で文様区画。	〃

A区 第27号住居跡

図版番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状況	尺寸 (cm)	胎土 構成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第29図 第1268図版	深鉢	伊体土器 口縁部・胴下半を欠く	高116.0	粗粒砂・磨合 良好	明赤褐色	胴部は中央部にゆるいくびれを有する。	口縁部は縁部は縁部と紋線による帯状区画し、胴部は2本単位平行花線を重下する。縄文はR.Lの充塞施文。	46点の接合 10-5 A

A区 第30号住居跡

図版番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状況	尺寸 (cm)	胎土 構成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第31図 第1268図版	深鉢	伊体土器 胴下半を欠く	口 36.4 高 120.0	粗粒砂・磨合 良好	明赤褐色	胴部中央にくびれを有し口縁部内傾。口唇部は内傾し平直。	縄文はR.Lの充塞施文後、口縁部及びくびれ部に3本の平行花線を施し、花線間を交互に用い縦状とする。胴上半は3本単位2段の縄文。	22点の接合 13-1
第32図 1 第1405図版	浅鉢	伊周辺 下半部を欠く	口 40.0 高 110.0	粗粒砂・細粒 砂質、良好	褐色	直線的に立ち上がり、口唇内面折り返し状を呈する。内外面共に磨き。	縄文はR.Lで、紋線で文様を表出し、円形刺突を有する。	3点の接合
第 3 2 第 3 3	深鉢	伊周辺 口縁部突起	破片	粗粒砂・小磨 合、良好	鈍い褐色	縁状の突起で頂部に窪みを有する。	縄文はR.Lで、紋線で「日」字状の文様を表出し、肥手部に「日」字状の花線施文。	11-5
第 4 2 第 4 3	深鉢	伊周辺 口縁部突起	破片	粗粒砂・小磨 合、良好	鈍い褐色	口縁部は内傾し、1ヶ所に縁状の肥手	外面は磨きで滑らかな縄文を施し、内面は磨きに沿って縦帯を有する。	#
第 5 2 第 5 3	深鉢	伊周辺 口縁部	破片	粗粒砂・細粒 砂質、良好	鈍い黄褐色	口縁部は内傾し、口唇部内外共に肥厚する。	縁部と幅広の紋線で帯状区画し、区画内は縄文R.Lの横方向充塞施文。	10-8
第 6 2 第 6 3	深鉢	伊周辺 口縁部	破片	粗粒砂・小磨 合、良好	鈍い褐色	口縁部はわずかに内傾し、縁部の胴上半に幅広の磨きを施し口縁部を区画する。	縁部と紋線で帯状区画及び小磨を施し、区画内は斜方向の平行花線。	10-5 A
第 7 2 第 7 3	深鉢	夏土 口縁部	破片	#	明黄褐色	縁部で口唇部外部肥厚。	口縁部に沿って縦帯を施し、口縁部無文等を区画、縄文はL.R。	2点の接合 12-2
第 8 2 第 8 3	深鉢	伊周辺 口縁部	破片	粗粒砂・小磨 合、良好	鈍い黄褐色	#	口縁部に沿って縦帯を施し、口縁部無文等を区画し、胴部は縦い花線を重下する。縄文はLの充塞施文。	#

第3区9 第1405段	深鉢	覆土 口縁部	破片	粗粒砂・小礫 含、良好	黄褐色	口縁部は平坦。	口縁部に沿って2本の枕線を並し、間に縦長の研究線文。胴部は3本単位の平行枕線垂下。	2点の接合 12-2
10	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 砂含、良好	褐色	口縁部平坦。	口縁部に沿って2本の枕線を並し、間に縦長の研究線文。胴部は3本単位の平行枕線垂下。	14
11	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 砂含、良好	黄褐色	口縁部は内傾し、口縁部断面三角形状。	胴本体上層文後、口縁部に沿って3本の枕線を並らし、その下に2本単位の平行枕線垂下。	13-1
12	〃	〃	〃	粗粒砂含 良好	褐色	口縁部外反。	条線層文後、口縁部に2本の枕線を並らす。	〃
13	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	黄褐色	口縁部は平坦で内傾。	条線を斜方向無文後、口縁部に二本の枕線を並らし、間に円筒形刺。	〃
第3区1 第1406段	深鉢	伊賀辺 胴部	破片	粗粒砂含 良好	黄褐色	〃	1本の隆帯を廻らし口縁部を区画し、胴部は枕線を垂下。縦文はR1。	〃
2	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	〃	〃	隆帯と枕線で筒状区画し、区画内は縦方向の枕線層文。胴部上に1本の枕線を並らす。	10-2
3	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 砂含、良好	褐色	〃	枕線を垂下し、縦文部・横文部区画。縦文はL1R充満層文。	10-7
4	〃	覆土 胴部	〃	粗粒砂含 良好	褐色	〃	条線層文後、筒方向及び縦方向に枕線を並らす。	14
5	〃	伊賀辺 胴部	〃	〃	黄褐色	〃	枕線で文様区画し、区画内は縁杉状の枕線層文。	14-1
6	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	黄褐色	斜くびれ部から層文の口縁部外反。	くびれ部に2本の隆帯を並らし、胴部部に小溝帯を有する2本単位の隆帯を並下し、胴部文様区画。区画内は縁杉状の枕線層文。	〃
7	〃	〃	〃	粗粒砂含 良好	黄褐色	〃	縦文R1層文後、縁杉状の枕線層文。	14
8	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	黄褐色	〃	条線層文後、枕線で文様垂出	〃
9	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 砂含、良好	黄褐色	〃	平行枕線を垂下し、枕線間に縦方向条線層文。	3点接合 10-7

第548号 第1405号	深鉢	出土 底部	底 12.6	粗粒砂含 良好	鈍い黄 褐色	縄文R.L.	15-1
# 11	#	伊弉册 台部	破片	#	黄褐色	円孔を有する。	15-5
# 12	#	#	#	#	明褐色	#	#
# 13	浅鉢	伊弉册 口縁部	#	粗粒砂・小礫 含、良好	#	口縁部は外面肥厚し、口唇部平直で 内外部共着き。	#

A区 第31号住居跡

図版番号 図号番号	器種	出土位置 遺存状況	直径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・器形の特徴	文様	備考
# 1 #	深鉢	P12内 No.1 胴下半を欠く	口 44.6 高(18.8)	粗粒砂含 良好	褐色	口縁平直で、内縁きみに直立する口縁 部下に、くびれを有するキャリヤ一形。	口縁部文様帯は腰帯と沈帯で栴門区画及び小渦巻を担し、縄文R.L.を横方 向に充満し、胴部は同縄文帯3本の沈帯を廻らし、胴部無文帯区画。	28点の接合 10-2 A
# 2 #	#	伊弉册 No.2 胴下半を欠く	口 14.8 高(8.0)	#	反黄褐 色	口縁平直で口縁部下にくびれを有し、 胴部に膨らみを有する。	口縁部は渾身の横長の栴門区画、胴部は縄文R.L.施文帯、2本単位の沈帯 を帯下。	3点の接合 10-2
# 3 #	#	P12内 No.3 口縁部・胴下半を欠 く	高(17.2)	粗粒砂含 良好	黄褐色	胴中央部にくびれを有する。	器面充満、縄文R.L.縦方施文。	9点の接合 10-4 A
# 4 #	#	北部埋溝内 No.4 口縁部を欠く	高(17.6) 底 8.0	#	鈍い黄 褐色	胴にくびれ部から「く」字状に屈曲する。	縄文R.L.施文帯、くびれ部に2本の沈帯を廻らし、下半に2本単位の沈 帯で渾身充満。	34点の接合 13-1
# 5 #	#	P15内 No.5 胴上半を欠く	高(14.4) 底 7.2	#	明褐色	胴部におおむかにくびれを有する。	縄文R.L.施文帯、胴くびれ部や上に順位に沈帯を廻らし、3本単位の 沈帯及び1本の横状沈帯を交互に帯下。	19点の接合 10-4 A
# 6 #	#	P12埋溝 No.6 胴上半を欠く	高(15.6) 底 9.0	#	明赤褐 色	#	縄文R.L.施文帯、2本単位の沈帯及び1本の横状沈帯を交互に帯下。	32点の接合 10-4 A
# 7 #	#	出土を欠く	高(8.8) 底 7.5	#	褐色	#	縄文R.L.施文帯、3本単位の沈帯及び1本の横状沈帯を交互に帯下。	4点の接合 10-4 A
# 8 #	浅鉢	伊弉册内 No.7 口縁部を欠く	高(18.4) 底 9.0	#	反黄褐 色	底部から外反し「く」字状に内傾する ソロバン玉状、内外部共に着き。	胴部文様帯は沈帯で文様区画し、縄文R.L.を充満し、胴部には2個単 位の円筒形沈帯を担す。	14点の接合

第32区 1 第127号版	有孔路 付	分比例 No.6 割下手を欠く	口 21.4 高(11.2)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部は直立し、溝部は上反し割手に 陥らみをする。内外面共に直さ。	附部有孔。	8点の版合
〃 2 〃	〃	割切溝内 No.9 口縁部	口 27.4 高(6.6)	粗粒砂含 良好	灰黒濁 色	口縁部は外反し、口唇部平坦で内面に 突出。内外面共に直さ	口縁部有孔。	
第32区 3 第140号版	深 鉢 口縁部	覆 土 口縁部	破 片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口唇部内傾し内側に突出。 波状口縁。	縦文R.L.版文後、枕縁で口縁部直上に小溝帯を掘し、その下は横方向の 波状版文 口唇平坦部は枕縁で横凹区画文。	5点の版合 10-2 A, 2
〃 4 〃	〃	〃	〃	粗粒砂・粗粒 砂含、良好	橙 色	口縁部内傾	口唇部下に枕縁を廻らし、その下に横帯と枕縁で横凹区画及び溝帯を掘 し、区画内は縦文R.L.の充塞版文。溝帯は突出する。	10-2 B
〃 5 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	突出した溝帯を付す。	10-2 A
〃 6 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色	波状口縁。	口縁部に沿って枕縁を掘し、波唇部に横向の小溝帯を付す。	〃
〃 7 〃	〃	〃	〃	〃	橙 色	口縁部内傾。	口縁部文様部は溝帯と枕縁で、縦文はR.L.	10-2 B
〃 8 〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色	鈍い赤 褐色	口縁部直立。	口縁部に1本の溝帯を廻らし、表状の溝帯を垂下。	〃
〃 9 〃	〃	〃	〃	〃	橙 色	口縁部内傾し、口唇部内面若干肥厚。	縦文R.L.R.版文後、2本の幅広の枕縁を廻らし、口縁部版文帯を区画。	10-2 A
〃 10 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色	くびれ部から口縁部直立。	内面にナデを掘した溝帯で横凹区画及び溝帯を廻す。	10-2 B
〃 11 〃	〃	〃	〃	〃	橙 色	鉢形で口縁部が直立し、口唇部内面肥 厚。	口縁部は溝帯で横凹区画し、縦文はR.L.で溝帯が付版文。	12-2
〃 12 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色	口縁部直立。	隆帯と枕縁で文様区画し、区画内縦文R.L.が版文。	10-2 A
〃 13 〃	〃	〃	〃	〃	橙 色	〃	隆帯及び枕縁で横凹区画及び溝帯を掘し、区画内縦方向の溝帯を掘し、区画内縦文。	10-2 B
〃 14 〃	〃	〃	〃	〃	橙 色	口唇部平坦でわずかに内傾。	口唇部下に溝帯を掘し、隆帯及び枕縁で文様区画。区画内は縦文R.L. 充塞版文。	〃

第2区15 第1402版	深 鉢	裏 土 口縁部	破 片	粗・細粒砂・ 小礫石、良好	灰い青 褐色	口縁部内湾。	口縁部は隆帯を軌付し、沈縁で小湾帯隆帯。	10-2 A
# 16 #	#	#	#	#	#	口縁部わずかに内湾。	縄文R.L.蓋文後、口縁部に沿って2本の沈縁を越らし隆帯を越す。	#
# 17 #	#	#	#	粗粒砂・細粒 砂石、良好	#	口縁部直立。	縄文R.L.蓋文後、沈縁で文様区画。	#
# 18 #	#	#	#	#	#	口縁部わずかに内湾し、上端で外反。	縄文R.L.蓋文後、口縁部に沿って1本の沈縁を越らし、沈縁を越す。	#
# 19 #	#	#	#	#	橙 色	波状口縁。胴部内湾し、口縁部「く」 字状に外反。	くびれ部に沈縁を越し、口縁部無文帯を区画し、胴部は縄文R.L.蓋文後 沈縁で湾帯を越す。	2 点の接合 10-2 A
# 20 #	#	#	#	暗赤褐 色	暗赤褐 色	やや外反まみに立ち上がり口縁上端で 内湾。口唇部平直で、波状口縁。	縄文R.L.蓋文後、3本単位の沈縁を波弧状に越す。	10-2 A
# 21 #	#	#	#	#	灰い赤 褐色	口縁部断面三角形状。	縄文R.L.蓋文後、2本単位の沈縁を波状に越す。	#
# 22 #	#	#	#	#	#	口縁部内湾。	縄文R.L.蓋文後、口縁部に沿って2本の沈縁を越らし、沈縁下は3本単 位の沈縁を連弧状に越す。	13-1
第2区1 第1402版	#	#	#	#	明赤褐 色	口縁部内湾し、上端部直立。	縄文R.L.蓋文後、口縁部に沿って2本の沈縁を越らす。	2 点の接合 11-8 ?
# 2 #	#	#	#	#	灰い赤 褐色	口縁部内湾。	結本体し蓋文後、口縁部に沿って2本の沈縁を越らす。	#
# 3 #	#	#	#	#	橙 色	口縁部肥厚し、直立。	口縁部に隆帯等を越らし、口縁部を無文帯とし、胴部は2本単位の平行 沈縁で文様表出。縄文はL.R.で沈縁蓋文。	11-5
# 4 #	#	#	#	#	灰い黄 褐色	口縁部内湾。	口縁部に沿って1本の隆帯を越らし、隆帯を越下させ区画を越し、区画 内に沈縁を越す。縄文はR.L.で、区画内充満蓋文し、隆帯上にも蓋文。	10-2
# 5 #	#	泥 土 胴 部	#	#	灰い赤 褐色	#	隆帯と沈縁で文様表出。縄文はR.L.充満蓋文。	#
# 6 #	#	泥 土 口縁部	#	#	灰い褐 色	波状口縁突起部で、内外面共に直る。 口唇部内に突起を有する。	口縁突起部内に幅広い隆帯と帯状区画を越し、区画内に充満隆帯 を越す。	10-6

第26号7 第1400版	跡	跡	瓦土 剥部	破片	粗粒砂・粗粒 砂含、良好	明赤褐 色			結本体L施文後、横方向に3本の沈線施文。	10-4 A
跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	くびれ部に2本の沈線を廻らす。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	粗粒砂・小礫 含、良好	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、くびれ部に3本の沈線を廻らす。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	粗粒砂・粗粒 砂含、良好	跡	跡	跡	胴くびれ部に2本の沈線を廻らし、上部は縄文で、下部は縄文R.L施文。	10-4 B
跡	跡	跡	跡	跡	粗粒砂・小礫 含、良好	明赤褐 色			縄文R.L施文後、2本単位の沈線で文様表出。	10-4 A
跡	跡	跡	跡	跡	粗粒砂含 良好	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、数本単位の沈線を横方向に施文。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐 色			縄文Lを縦方向施文後、1本の細沈線を横方向施文。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	結本体L施文後、3本単位の沈線で文様表出。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	細粒砂・粗粒 砂含、良好	跡	跡	跡	胴部と沈線で文様区画し、縄文はR.Lで充満施文。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、2本単位の沈線で文様表出。	跡
跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、2本及び3本単位の沈線で文様表出。	2.点の集合 10-4 A
跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、胴くびれ部に沈線を廻らし、3本単位の沈線を横下。	10-4 A
跡	跡	跡	跡	跡	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、2本及び3本単位の沈線で文様表出。	跡
第26号7 第14100版	跡	跡	跡	跡	細粒砂・粗粒 砂含、良好	跡	跡	跡	縄文R.L施文後、沈線で文様表出。	跡

第1節 縄文時代

第20図 21 第141図版									縄文R1掘文後、隆部を流状に垂下し、周囲にナゲを圍子。	10-4 B
22	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1R掘文後、2本単位の流状で文様表出。	10-4 A
23	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2本単位の隆部を垂下し、縦区画する。区画内は縄文LR・RLの2種を縦方向に連続状施文。	10-4 B
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1掘文後、3本単位の平行流線及び2本単位の流状流線を垂下。	10-4 A
25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1掘文後、4本単位の平行流線を垂下。	〃
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1掘方向掘文後、流線垂下。	〃
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1掘文後、3本単位の平行流線を垂下。	〃
28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1掘文後、流状流線垂下。	〃
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1R掘文後、2本単位の平行流線を垂下。	〃
31	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
第40図 1 第141図版	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	格条体L掘文後、流線垂下。	〃
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	条線斜方向掘文後、2本単位の平行流線を垂下。	〃
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	縄文R1掘文後、流状流線を垂下。	〃

第1節 縄文時代

第40図18 第141図A	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	黄い褐色	刷部内側。	縄文R.L.	10-7
# 19	#	黄い褐色		#	#
# 20	#	黄い褐色		結合体L。	#
# 21	#	黄い褐色		縄文R.L.	#
# 22	#	黄い褐色		結合体L。	#
# 23	#	#	刷部内側。	#	
# 24	#	褐色	口縁部は、縦い「く」字状に内側。	縦方向に糸織羅文後、口縁部に2本の沈線を超らし、その下に2本単位の沈線で透瓦文を施す。	13-1
# 25	#	黄い褐色	口縁部直立。	#	#
# 26	#	黄い褐色	刷部に横いくびれを有する。	縦方向に糸織羅文後、横くびれ部に沈線を超らし、その下に3本単位の沈線で透瓦文を施す。	#
# 27	#	黄い褐色		縦方向に糸織羅文後、3本単位の沈線で透瓦文を施す。	#
# 28	#	褐色	深状口縁で内側。	深部は外側に溝帯を有し、下部は溝帯と比較で区画し、区画内は横紗体に沈線を施す。	14-1
# 29	#	黄い褐色		溝帯で横状の指手及び区画を施し、区画内は斜方向に沈線を施す。	#
第41図1 第141図B	#	黄い褐色	刷部に膨らみを有する。	縄文R.L. 羅文後、くびれ部に溝帯を縦状に発行し、下部は2本単位の隆帯及び沈線を施す。	#
# 2	#	黄い褐色		沈線及び小溝帯を有する隆帯を直下し、隆帯間は横状沈線で充満。	#

第4図3 第141図版	深鉢	覆土 胴部	破片	紺・粗粒砂・ 小礫含、真好 色	鈍い褐色	14-1	縁形状の花線施文。
# 4 #	#	覆土 胴部	高(6.8) 底 8.6	#	鈍い褐色	15-1	縄文R.L施文後、2本単位での平行花線施文。
# 5 #	#	#	高(4.8) 底 7.0	紺粒砂・粗粒 砂含、真好	#	2点の接合 15-1	縄文R.L。
# 6 #	#	#	高(5.6) 底 7.0	紺・粗粒砂・ 小礫含、真好	藍色	6点の接合 15-1	縄文R.L。
# 7 #	#	#	高(8.0) 底 7.0	#	#	15-1	縄文R.L施文後、花線施下。
# 8 #	#	#	高(6.8) 底 7.4	紺粒砂・粗粒 砂含、真好	縄文R.L。	#	#
# 9 #	#	#	高(4.0) 底 7.8	#	#	15-2	縄文R.L。
# 10 #	#	#	高(5.2) 底 7.6	紺粒砂含 真好	#	#	花線施下。
# 11 #	#	#	高(5.2) 底 8.4	紺・粗粒砂・ 小礫含、真好	鈍い黄 褐色	#	無文。
# 12 #	#	覆土 高台部	高(7.2) 底 7.4	#	鈍い褐色	15-4	台部に2重の花線で「口」字状の文様表出、2単位。
# 13 #	#	覆土 胴部	破片	#	鈍い赤 褐色	#	台部から外反りみに台部がつき、台部 下面で内面に凹面する。
# 14 #	#	覆土 口縁部	#	紺粒砂・粗粒 砂含、真好	鈍い褐色	#	胴部有孔で器底全面磨る。
# 15 #	#	#	#	#	鈍い赤 褐色	2点の接合	口縁部若干内磨し、外周肥厚。口唇部 平皿で内外面共に磨る。
# 16 #	#	#	#	紺・粗粒砂・ 小礫含、真好 色	鈍い褐色	#	口縁部内磨し、内外周肥厚。口唇部平 皿で内外面共に磨る。

第13回17 第1415図版		覆土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好 良好	黒い褐色 黒い褐色	口縁部外反し、外面肥厚。口縁部平直で内外面に共に磨き。	外面共磨き。	
18				細粒砂含 良好	黒い褐色	口縁部全体に肥厚し、口縁部平直。内外面に共に磨き。	#	
19				細粒砂・粗粒 砂含、良好	黒い褐色	口縁部内傾し外面肥厚。口縁部平直で内外面に共に磨き。	口縁外面に1本の沈線を通す。 内外面に共に磨き。	
20				細・粗粒砂・ 小礫含、良好	黒い褐色	口縁部「く」字状に磨直し、外面肥厚。内外面に共に磨き。		2点の接合
21				#	暗赤褐色	口縁部内面肥厚し、内外面に共に磨き。	内外面に共に磨き。	
22				細粒砂・粗粒 砂含、良好	黒い褐色	口縁部外反し、上端が内側に断面突出する。内外面に共に磨き。		
23				細・粗粒砂・ 小礫含、良好	黒い褐色	#		
24				細粒砂・粗粒 砂含、良好	黒い褐色	口縁部強く内傾し、内外面に共に磨き。	ボタン状の粘土板を貼付。	
25				#	黒い褐色	口縁部「く」字状に断面内傾し、内外面に共に磨き。		
26		覆土 胴部		細・粗粒砂・粗粒 砂含、良好	黒い褐色	ソロバン玉状の磨形で、胴下半は外反きみに断面に至る。	沈線で文様区画し、胴文はR L組文。	
27				#	#	#	#	26と同一個 体から
28				細粒砂・粗粒 砂含、良好	#		沈線で文様表出。	
29		覆土 底部	高(4.8) 底 7.4	#	#	外反きみに立上がる。		3点の接合
第13回1 第1416図版		覆土 口縁部を欠く	高(5.4)	細・粗粒砂・小 礫含、良好	#	粘土板から平直に磨り込んで製作したものが、 外側に指頭痕を多数残す。尖底		

A区 第32号住居跡

図面番号 棟四角番号	動 線	出土位置 遺存状況	底 寸 (cm)	土 質 焼 成	色 調	器 形・器 形 の 特 徴	文 様	備 考
第46区 第127図版	深 鉢	1号和体土器 底部を欠く	口 18.5 底 (15.4)	細粒砂・粗粒 砂含、良好	赤褐色	胴中に強いくびれを有し、くびれ部 下半に膨らみを有する。	口縁部は約3cmの幅で肥厚し、上に沈線を引き、縁部を連続状に彫けし 区画し、胴部は連続状の波線部から隆帯を垂下。縄文R.L.R.	10-3 A
" "	"	2号和体土器 胴部の一部を欠く	口 21.5 底 7.0 高 27.0	細粒砂含 良好	"	胴中にわずかにくびれを有し、口縁 部内湾し、口縁部は平坦。	条線彫文後、口縁部が斜くびれ部に2本の沈線を廻らし、胴に交互斜 突上下半共に3本単位の沈線で連続彫文、下半は逆風から波状沈線垂 下。	10-1
第46区1 第141図版	"	甗 土 口縁部突起	破 片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	波状口縁。	口縁突起部には沈線で連続彫文し、下部は沈線の線子。	10-2 A
" 2	"	甗 土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 色		隆帯と沈線で文様区画。	10-3
" 3	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	波状口縁。	口縁部に白って2本の沈線を廻らし、胴に縦文、下部は沈線で文様表出。	
" 4	"	甗 土 胴 部	"	細粒砂含 良好	褐色色		3本の沈線を廻らし、そこから2本単位の平行沈線垂下。縄文不詳。	10-4 A
" 5	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 色		縦方向に条線彫文後、数本の沈線を廻らす。	"
" 6	"	"	"	"	黒褐色		沈線で文様表出。	"
" 7	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 色		沈線で文様区画し、縄文R.L.R.連続彫文。	"
" 8	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		結集体L彫文後、3~4本単位の平行沈線垂下。	"
" 9	"	"	"	細粒砂含 良好	"		縄文L.R.縦方向の連続彫文後、沈線垂下。	"
" 10	"	"	"	"	炭酸性 色		2本の隆帯を垂下。縄文はR.L.	10-7

第48011 第1419版	深鉢	甌土 胴部	破片	細粒砂合 良好	鈍い黄 褐色	2本単位の平行沈線を呈下し、沈線間に織文R.L.を交互に充満施文。	10-7
# 12	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	#	織文R.L.	#
# 13	#	#	#	#	灰色	平行沈線施文。	14-1
# 14	#	#	#	細粒砂合 良好	鈍い黄 褐色	線状沈線施文。	#

A区 第34号住居跡

図版番号 標記番号	器種	出土位置 遺存状況	底径 (cm)	焼成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第528 第1272版	深鉢	中体土器 胴部下半を欠く	□ 17.6 底(14.4)	細粒砂合 良好	鈍い黄 褐色	胴中心にくびれを有し、口縁部内溝。 胴部最大径は上位にある。	口縁部及び胴にくびれ部に2本単位の沈線を廻らし、上半に2本単位の沈線が波状に施し間を踏く。織文はR.L.	5点の都合 13-2
第528 1 第1272版	#	P 1 胴部 No.1 胴部下半を欠く	□ 50.8 高(21.2)	粗粒砂 良好	明褐色	5単位の突起を有し、胴部中央にくびれを有する。	突起部には大小の渦巻を施し、胴部と沈線で胴円区画及び内部に渦巻を施し、胴部は沈線で縦区画し、区画内は織文R.L.R充満施文。	14点の都合 10-5 A
# 2	#	P 2 西側 No.3 胴部下半を欠く	□ 38.4 底(24.4)	#	赤褐色	胴部が外反し、口縁部が成立する。	口縁部文様帯は散帯と沈線の槽円区画及び小渦巻。区画内織文R.L横方向充満施文。胴部は2本単位の平行沈線帯下後、間と同織文交互に施文。	34点の都合 10-5 A
第528 3 第1282版	#	住居跡中央やや南 No.5口縁部	□ 38.0	#	鈍い黄 褐色	鉢形で、口唇部断面三角形状。 鉢形で、口唇部断面三角形状。	口縁部に散帯等を施し、上部の口縁部無文帯を区画。胴部は2本単位の平行沈線を重下し、織文R.L横方向充満施文。	4点の都合 12-2
第548 1 第1419版	#	甌土 口縁部	破片	#	灰褐色	口縁部内溝。	散帯帯で文様区画し、区画内織文R.L充満施文。口縁部織文帯には2列の目影斜深を施す。	11-6
# 2	#	No.5 口縁部	#	細粒砂合 良好	鈍い黄 褐色	#	口縁部に1本の沈線を廻らし、口縁部無文帯を区画。胴部は沈線で「目」字状に区画し、区画内は織文R.Lの充満施文。	11-2 B
# 3	#	#	#	#	鈍い黄 褐色	口縁部が成立。	口縁部に散帯等を廻らし、無文帯を区画。胴部は2本単位の平行沈線を重下し、沈線間は交互に織文R.Lを充満施文。	11-7
# 4	#	No.5 胴部	#	#	灰褐色			第548 1と 同一器種

探跡 No.5 第5区5 第14回版	探跡 No.5 別版	破片	細粒砂合 具好	鈍い境 色	内面。		
6 6	No.3 別版	6	#	#		磨削と沈線で開口区画し、区内内縁全体L断面。 沈線直下。属文R1。	10-7
7 7	No.5 別版	6	#	鈍い境 色		2本単位の平行沈線を直下し、沈線間は交互に属文R1と単基文。 #	5点の結合 10-7 B
8 8	No.3 別版	6	#	#		#	2点の結合 10-7 B
9 9	#	6	#	鈍い境 褐色		#	10-7 B
10 10	#	6	#	鈍い境 色		#	#
11 11	四土 別版	6	#	鈍い境 色		#	3点の結合 10-7 B
12 12	No.2 別版	6	#	灰褐色		#	10-7 B
13 13	四土 別版	6	#	鈍い境 色		側縁部を2本単位で直下し、側縁部間は交互に属文R1と単基文後、後 縁部の両側に沈線を直下。	#
14 14	No.2 別版	6	#	鈍い境 色		2本単位の平行沈線を直下し、沈線間は交互に属文R1と単基文。 #	10-7
15 15	#	6	#	鈍い境 色		属文直文後、沈線直下。 #	#
16 16	#	6	#	#		3本単位の平行沈線を直下し、間に属文R1と単基文後、沈線直下。 #	10-7 A
17 17	No.5 別版	6	#	鈍い境 色		属文はR1で沈線で文相表出。 #	10-7
18 18	#	6	#	鈍い境 色		#	#

第1節 縄文時代

第562 16 第1412版	# #	#	#	#	#	#	#	#	#	口縁部文様帯は隆帯と沈帯で文様区画。胴部は沈帯を下し、区画内及び沈帯間には縄文R.L.の充填施文。胴部文様帯には兼手状沈帯施文。	10-8
# 19	#	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文R.L.	10-7
# 20	#	#	#	#	#	#	#	#	#	隆帯を垂下し、隆帯間に縄文R.L.充填施文後、隆帯向側に沈帯施文。	2点の接合 10-7
# 21	#	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文R.L.施文後、2本単位の隆帯を垂下し、隆帯向側に沈帯施文。	4点の接合 10-7 A
# 22	#	#	#	#	#	#	#	#	#	2本単位の隆帯垂下。隆帯間に縄文R.L.を充填施文し、隆帯向側に沈帯施文。	10-7 A
# 23	#	#	#	#	#	#	#	#	#	沈帯を垂下し、沈帯間に縄文R.L.縦方向充填施文。	10-7
# 24	#	#	#	#	#	#	#	#	#	平行沈帯を垂下し、沈帯間に縄文R.L.充填施文後、沈帯施文。	#
第563 1 第1412版	# #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	10-8
# 2	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 3	#	#	#	#	#	#	#	#	#	沈帯で「+」字状に文様区画し、区画内に縄文R.L.充填施文。	10-7
# 4	#	#	#	#	#	#	#	#	#	沈帯で渦巻状の文様施文し、縄文R.L.充填施文。	11-6
# 5	#	#	#	#	#	#	#	#	#	隆帯で渦巻状文様施文し、円筒胴部を施す。	
# 6	#	#	#	#	#	#	#	#	#	2本の隆帯で文様区画し、区画内に円筒胴部を施す。	
# 7	#	#	#	#	#	#	#	#	#	2本単位の平行沈帯を垂下し、沈帯間に交互に縦方向充填施文。	10-7

第9区 8 第14185版	深鉢 #	瓦土 口縁部 #	破片 #	粗粒砂含 良好 #	黄褐色 #	口縁部内面し内面部厚。口縁部平坦。 #	結条体土層文後、口縁部に2本の枕縁を廻らし、下面に3本単位の枕縁 で埋弧文を施す。 #	13-1
第9区 #	深鉢 #	瓦土 胴部 #	#	#	#	胴部両曲。 #	横文R土層文後、3本単位の枕縁で埋弧文を施す。 #	#
第9区 #	深鉢 #	#	#	粗粒砂・小礫 含、良好 #	鈍い褐色 #	#	階層で口縁部土層等を区画し、区画内は縦方向の平行枕縁層文、胴部は 階層部から2本単位の平行枕縁を垂下し、間に斜方向の平行枕縁層文。 #	14
第9区 #	深鉢 #	#	#	粗粒砂含 良好 #	#	#	横斜状に枕縁層文。 #	#
第9区 #	深鉢 #	#	#	#	#	#	垂下する枕縁間に横方向の平行枕縁層文。 #	#
第9区 #	深鉢 #	瓦土 底部 #	#	#	鈍い赤 褐色 #	#	2本単位の平行枕縁を垂下し、枕縁間に交互に横文R Lを交錯層文。 #	10-7
第9区 #	深鉢 #	#	#	底 4.6 高 (3.6)	鈍い褐色 #	底面突出。 #	横文R L。 #	15-3
第9区 #	深鉢 #	#	#	底 8.0 高 (6.4)	#	#	#	#
第9区 #	深鉢 #	#	#	底 9.4 高 (2.8)	#	#	#	15-2
第9区 #	浅鉢 #	瓦土 口縁部 #	破片 #	粗粒砂・小礫 含、良好 #	褐灰色 #	口縁部内面し、上部外反。内外面に 磨き。 #	口縁部に1本の枕縁を廻らす。 #	
第9区 #	深鉢 #	#	#	#	赤褐色 #	口縁部わずかに内面し、内外面に磨 き。 #	口縁部に1本の枕縁を廻らす。 #	

A区 第43号住居跡

版番号 棟四番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 集成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第9区 第12855版	深鉢	平体土層 底部	底 8.0 高 (9.0)	粗粒砂含 良好	褐色		2本単位の枕縁を7単位垂下。 #	4点の接合 14

第6地区 第141号版	深鉢 No.4 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含む、良好	灰褐色	「く」字状に歪曲し、口唇部平風。	趾部上半部文RL。	
16	瓦土 口縁部	片	細粒砂含む 良好	灰い赤 褐色	口縁部内隅。	口縁部に沿って隆帯を廻らし、船本体L施文。	
17	瓦土 胴部	片	片	明赤褐色		2本単位の隆帯で楕円区画し、区画内横文R.L.光澤施文。	10-2
18	片	片	片	片		隆帯で楕円区画し、通気部に楕円に粘土層を貼付、隆帯上に灰みを施す。2点の接合区画内は船本体L施文。	2点の接合 10-2 A
19	片	片	片	灰い赤 褐色	内隅。	船本体L施文後、隆帯で滑巻施文。	片
20	No.4 胴部	片	片	褐色		沈殿で楕円区画し、区画内船本体L施文。	片
21	瓦土 胴部	片	片	片	胴部にくびれを有する。	横文RL施文後、沈殿で縦区画し、区画内に「U」「口」字状に上下に沈 殿施文。	3点の接合 10-4 A
22	片	片	片	明赤褐色		沈殿帯下し、横文RL施文。	2点の接合 10-4 A
23	片	片	片	褐色		横文RL楕円向施文後、3本単位の平行沈殿帯下。	10-4 A
24	片	片	片	明赤褐色		片	片
25	No.3 胴部	片	片	片		横文RL楕円向施文後、3本単位の平行沈殿帯及び波状沈殿帯下。	片
26	片	片	片	片		横文LR施文後、3本単位の平行沈殿帯下。	片
27	瓦土 胴部	片	片	片		横文RL。	片
28	片	片	片	灰い褐色		船本体L施文後、3本の沈殿で滑巻文施文。	片

第1節 縄文時代

第648号 第141号版	深鉢	覆土 胴部	No.5	破片	細粒砂含 良好	黄い褐色	胴中に強いくびれを有する。	くびれ部に2本の沈線を通らし、無文帯を区画。胴部は器本体L層文後、3本単位の平行沈線直下。	2点の接合 10-2 B
第30号	深鉢	覆土 胴部				黄褐色		器本体L層文後、沈線で文様区画。	10-4 A
第658号1 第141号版	深鉢	No.6 胴部				褐色		器本体L。	2点の接合 10-4 A
第2号	深鉢	覆土 胴部				黄い褐色			10-4 A
第3号	深鉢	覆土 胴部				黄い赤褐色			
第4号	深鉢	覆土 底部		底 8.4 高 (6.8)		明赤褐色			15-1
第5号	深鉢	覆土 底部		破片		褐色		縄文L層文後、沈線直下。	15-2
第6号	深鉢	覆土 底部		底 11.6 高 (6.0)		黄褐色			
第7号	深鉢	No.7 底部		底 9.4 高 (9.2)		黄褐色		底部に原体の圧痕あり。	5点の接合
第8号	深鉢	No.8 底部		底 8.4 高 (9.2)	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐色		無文。	
第9号	浅鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂含 良好	黄い赤褐色	口縁部外反。		

A区 第209号住居跡

図面番号 押印番号	器種	出土位置 埋没状況	口径 (cm)	出土 状態	土質	色調	形状・整形の特徴	文様	備考
第209号1 第128号版	深鉢	No.1 胴下半を欠く	口 48.0 高 (15.2)	粗粒砂含 良好	褐色	褐色	口縁部若干内凹。胴部にくびれを有する。	口縁部上側に無文帯を有し、口縁部文様帯は隣帯と沈線で相対区画及び洪巻施文。区画内は縄文L層施文。	15点の接合 10-2 A

A区(209号住居跡)

第70区2 第1415区版	深鉢	瓦土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	赤い褐色	口縁部内湾し、小突起を有する。	黒帯と花縁で幅巾区画及び筒巻施文。区画内は横文R L光燐施文。	S.点の接合 10-2 A
第3 第4	第3 第4	第3 第4	第3 第4	第3 第4	褐色 赤い褐色	口縁部直立。 口縁部内湾し上端で外反。	黒帯を環状に彫付した間を、1本の黒帯で連結し区画する。区画内は横文R L光燐施文。胴部は横文R L施文後、環状彫付部から沈降痕下。	10-3 A #
第5 第6	第5 第6	第5 第6	第5 第6	第5 第6	赤褐色 赤い褐色	口縁部内湾。 #	黒帯と花縁で文様区画。 #	#
第7 第8	第7 第8	第7 第8	第7 第8	第7 第8	赤い褐色 赤い褐色	口縁部直立し、口唇部平坦。 #	黒帯と花縁で幅巾区画及び小溝巻を施し、区画内横文R L光燐施文。	#
第7区1 第1415区版	深鉢	瓦土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	赤い褐色	口縁部直立し、口唇部平坦。	黒帯と花縁で文様区画。筒巻を突出し筒向。区画内は筒巻全体L施文。	10-2 A
第2 第3	第2 第3	第2 第3	第2 第3	第2 第3	赤い褐色 赤い褐色	口縁部若干内湾し、内面肥厚。 口縁部直立。	口縁に沿って2本の沈降を廻らし、花縁で幅巾区画。区画内は筒巻全体L施文。 胴部に1本黒帯を廻らし、口縁部文様帯区画。区画内は上下に沈降を廻らし、中に斜方向の沈降及び小溝巻施文。	6点の報告 10-2 B 10-2
第4 第5	第4 第5	第4 第5	第4 第5	第4 第5	赤い赤褐色	口縁部外油肥厚し、口唇部平坦で外反。 口縁部内湾。	黒帯及び花縁で文様区画し、区画内横文R L施文。 口縁に沿って沈降を廻し、交互向況。	# #
第6 第7	第6 第7	第6 第7	第6 第7	第6 第7	赤褐色	口縁部外反。 口縁部直立し、口唇部平坦で外反。	口縁部に無文部をもち、上段は横文L R施文。 縦方向の平行沈降施文。	# #
第7	第7	第7	第7	第7	赤い褐色	口縁部直立し、口唇部平坦で外反。	口縁に沿って2本の沈降を廻らし、2本単位の沈降を垂下。沈降部に凹点を施す。	#

第1節 縄文時代

第1図8 第14図版	深鉢	夏土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色	口縁部内溝。	青銅状赤褐色土。	
9	夏土 胴部		#	細粒砂・細粒 砂含、良好	灰い黄 褐色	くびれ部を有する。	結晶体L施文後、沈線で歯帯を施し、同沈線で左右溝縁及び下方に3本 単位で垂下。	2.点の接合 10-4 A
10	#	#	#	細粒砂含 良好	#		縄文RL施文後、沈線で文様表出。	10-4 A
11	#	#	#	#	褐色		#	#
12	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色		結晶体L施文後、重弧状及び懸垂沈線施文。	#
13	#	#	#	#	明赤褐色		縄文RL施文後、沈線を廻らす。	#
14	#	伊内 胴部	#	細粒砂・細粒 砂含	灰い赤 褐色		結晶体L施文後、3本単位の平行沈線垂下。	#
15	#	夏土 胴部	#	細粒砂含 良好	#		縄文RL施文後、2本単位の平行沈線垂下。	#
16	#	#	#	#	灰い褐色		縄文RL施文後、沈線垂下。	#
17	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		歯帯を垂下し、縄文RL施文後、歯帯に沿って沈線を施す。	10-7
18	#	#	#	細粒砂・細粒 砂含	#		縄文RL斜方向施文後、沈線及び重弧状沈線垂下。	#
19	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤 褐色		縄文RL施文後、波状沈線垂下。	#
20	#	#	#	#	灰褐色		沈線を垂下し、沈線間に縄文RL施文。	2.点の接合 10-7
21	#	#	#	細粒砂含 良好	灰い黄 褐色	胴部内溝	#	10-7 B

第71図22 第1412図版	深鉢 H	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		2本単位の平行沈積を重下し、沈積面に縄文R.L.を交互に充満直文後、 波状沈積層下。	10-7 B
第 23 H	H	H	H	細粒砂含 良好	灰褐色		縄全体L。	10-7
第 24 H	H	H	H	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		縦方向条線。	H
第 25 H	H	H	H	H	灰褐色		斜格子状条線型直文。	2点の接合 10-7
第71図26 第1412図版	H	覆土 口縁部	H	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰褐色	胴中に強いくびれを有し、口縁部内 部。	縄文R.L.縦方向簡直文、口縁部に沿って2本、くびれ部に3本の沈積を 重らし、沈積面に3本単位の波状直文。	2点の接合 13-1
第 27 H	H	H	H	H	灰褐色	口縁部内面肥厚。	縄全体L直文後、口縁に沿って2本の沈積を重らし、沈積面に円形斜交 を重す。下部は3本単位の波状直文を重す。	H
第 28 H	H	H	H	H	褐色		縄文R.L.直文後、口縁に沿って3本の沈積を重らし、下部に波状で波風 直文。	H
第72図 1 第142図版	H	覆土 胴部	H	H	灰褐色		隆帯と沈積で区画及び簡直文。区画内は縦方向沈積で、隆帯上に沈積 直文。	10-8
第 2 H	H	H	H	細粒砂含 良好	褐色	胴部にくびれを有する。	隆帯を重らし口縁部を区画し、下部は波状で文様表出。	
第 3 H	H	H	H	H	灰褐色		縄文R.L.直文後、2本単位の隆帯で区画。	10-4 B
第 4 H	H	H	H	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		隆帯を重下し、隆帯間に波状直文。	14
第 5 H	H	H	H	H	灰褐色		2本単位の隆帯層下、縄文R.L。	14-2
第 6 H	H	覆土 底部	盛 13.6 高 (6.0)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰褐色		縄文R.L.直文後、3本単位の平行沈積層下。	13-2
第 7 H	H	伊内 底部	盛 12.0 高 (5.2)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	H			H

図番番号 第7258号	深林 #	夏土 底層	底 8.4 高 (2.4)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰褐色			#
# 9	#	#	底 7.5 高 (3.6)	#	#			#
# 10	#	#	破片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	#	台付。	2重化粧施文。	2点の接合 13-4
# 11	深林 #	夏土 胴部	#	細粒砂含 良好	灰褐色	「く」字状に屈曲する。	胴部と化粧で文様区画し、区画内に縄文R.L充満施文、胴部上に刻みを 施す。	
# 12	#	#	#	細粒砂・粗粒 砂含、良好	灰褐色	内外面共に磨き。		
# 13	#	夏土 口縁部	#	微・粗粒砂・ 礫含、良好	灰褐色	口縁部外面肥厚、口唇部平直で外傾し、 内外面共に磨き。		
# 14	#	#	#	粗粒砂・小礫 含、良好	灰褐色	口縁部肥厚し、口唇部に1本の化粧施 文。内外面共に磨き。		

A区 第211号住居跡

図番番号 井田番号	深林	出土位 置状況	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	形状・断面の特徴	文様	備考
第785号 第1285版	#	炉体土器 口縁部・底層を欠く	高(12.8)	細粒砂含 良好	明赤褐色	胴中央に強いくびれを有する。	縄文R.L施文後、2本単位の放線で横方向に平行な線段状に施文し、 伏線間を磨消す。	12点の接合 13-2
第865号 第1285版	#	1号埋篋 口縁部・底層を欠く	高(14.9)	粗粒砂含 良好	#	鉢形。	結晶体L。	10-7
#	#	2号埋篋 大型破片	高(23.2)	細粒砂含 良好	褐色		2本単位の平行放線を垂下し、縄文R.Lを交互に充満施文。	12点の接合 10-7
#	#	3号埋篋 胴下半を欠く	口48.0 高(22.5)	粗粒砂含 良好	黄褐色	胴中央にゆるいくびれを有する。	口縁部文様等は胴部と化粧で閉口区画し、区画内縄文R.L充満施文。 胴部は2本単位の平行放線を垂下し、縄文R.L交互に交互に充満施文。	添点の接合 10-5 A

A区 第214号住居跡

調査番号 棟四番号	種類	出土位置 遺存状況	尺寸 (cm)	出土 構成	色調	形状・形状の特徴	文様	備考
第825号 第1286取	漆 鉢	外体土器 口縁部・胴下半心欠	高(14.7)	細灰砂・細灰 砂含、良好	黒い褐色	胴中心にくびれを有する。	口縁部は漆帯と沈線で文様区画し、胴部はくびれ部下に横文R.L.施文後、胴部に2～3本の沈線を通らし、上部に無文部区画。	6点の接合 10-2 A
第825号 1 第1426取	#	甕土 胴部	破片	細灰砂・小礫 含、良好	暗褐色	「く」字状の扉面部を有する。	くびれ部に4本の沈線を通らし、沈線間に交互刺突、胴部は沈線で文様区画及び垂手施文し、区画内線彩沈線施文。	11点の接合 14-1
# 2 #	#	#	#	細灰砂含 良好	黒褐色	胴中心にくびれを有する。	横文R.L.	9点の接合
# 3 #	#	No 1 口縁部	#	細灰砂・小礫 含、良好	黒い赤 褐色		口縁部文様帯は漆帯と幅広沈線で横行区画及び小渦巻を施し、区画内縦方向沈線。胴部は粘漆体L。	3点の接合 10-3 B
# 4 #	#	甕土 口縁部	#	細灰砂含 良好	黒い褐色	口縁部内溝。	漆帯と沈線で文様区画し、区画内縦方向沈線施文。	10-2
# 5 #	#	#	#	#	褐色	口縁部内面肥厚。	口縁に沿って沈線を通らし無文部区画。下部は格子状沈線。	#
# 6 #	#	#	#	#	褐色	口縁部内溝。	口縁に沿って2本の沈線を通らし、沈線内に連続刺突、横文R.L.	#
# 7 #	#	#	#	細灰砂・細灰 砂含、良好	褐色	口縁部内溝し、口唇部平坦。	粘漆体L施文後、口縁に沿って2本の沈線を通らす。	#
# 8 #	#	#	#	細灰砂・小礫 含、良好	暗褐色	液状口縁。	沈線部間に漆帯で横行区画し、区画内は縦方向の沈線施文。	#
# 9 #	#	甕土 胴部	#	細・粗灰砂・ 小礫含、良好	明赤褐色		上に1本の沈線を通した幅広の漆帯を、横方向に通らす。横文R.L.	#
# 10 #	#	#	#	細灰砂・小礫 含、良好	#		外縁に2本の沈線を通した幅広の漆帯で文様区画。横文R.L.	10-4 A
# 11 #	#	#	#	#	黒い褐色		横文R.L.施文後、2本単位の沈線で文様表出。	#
# 12 #	#	#	#	細・粗灰砂・ 小礫含、良好	褐色		粘漆体L施文後、沈線で文様表出。	#

第1節 縄文時代

第3区13 第1429版	深鉢	灰土 胴部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰い黄 褐色	縦方向条線型文後、枕縁で横帯型文。	#
# 14	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	暗褐色	横文及L。	#
# 15	#	#	#	細粒砂・粗粒 砂含、良好	灰い赤 褐色	結束体L。	#
# 16	#	#	#	#	灰い黄 褐色	縦方向条線型文後、横方向横帯型行。	#
# 17	#	#	#	細粒砂含 良好	赤褐色	条線型文後、横帯及び枕縁で文様剥出。	B-1
# 18	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐 色	#	#
# 19	#	#	#	細粒砂含 良好	#	条線型文後、3本単位の間行枕縁剥下。	10-7 A
# 20	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	縦・斜方向条線型文。	10-4 A
# 21	#	#	#	細粒砂含 良好	灰い黄 褐色	#	B-1
# 22	#	覆土 口縁部	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	条線型文後、重弧文型文、口唇部平ら面に彫みを施す。	
# 23	#	洗鉢	#	細粒砂含 良好	灰い赤 褐色	口縁部外縁若干部厚し、内外部に磨き。 口唇部内湾し、内面に突起状に肥厚。 口唇部平坦。	

A区 第216号住居跡

図面番号 採回番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	胎形・彫影の特徴	文様	備考
第6区 第1294版	深鉢	炉体上部 胴下半を欠く	□ 21.0 高(12.3)	細粒砂・小礫 含、良好	赤褐色	口縁部内湾し、胴中にくびれを有する。	口縁部文様帯は横帯と枕縁で横帯区画と横帯を施し、区画内横文R L充 横帯文、胴部は「U」字状で枕縁で区画し、区画内に横文R L充横帯文。	17-5の採合 10-5 A

第1期 縄文時代

測97号 13 第14250版	深鉢	口周辺 胴部	破片	細粒砂含 良好	灰い褐色	胴中にゆるいぐびれを有する。	2本単位の平行沈線を下し、縄文R.L.光澤施文。	#
# 14	#	#	#	#	灰い赤褐色		3本単位の平行沈線を下し、縄文R.L.光澤施文。	2本の接合 10—7 A
# 15	#	#	#	#	褐色		底全体L。	
# 16	#	#	#	#	褐色		縦方向糸線施文し、沈線直下。	10—7
# 17	#	#	#	#	灰い黄褐色	胴中にゆるいぐびれを有する。	縦方向糸線施文後、くびれ部に2本の平行沈線を施す。	
# 18	#	口周辺 口胴部	#	#	明赤褐色	口縁部内湾。	縦方向糸線施文後、口縁に沿って2本の沈線を超らし、沈線間に凹形施文。下部に2本沈線で連環文を施す。	13—1
# 19	#	口周辺 胴部	#	#	灰い褐色		縦方向糸線施文後、3本単位の沈線で連環文を施す。	#
# 20	#	口周辺 底部	底 9.9 高 (3.9)	#	褐色		縄文R.L。	15—1
# 21	浅鉢	#	底 7.5 高 (1.5)	#	褐色	底面若干突出。	無文。	15—3

A区 第217号住居跡

図面番号 測98号 第12950版	器種	出土位置 遺存状況	尺寸 (cm)	胎土 構成	色調	形状・装飾の特徴	文様	備考
測98号 第12950版	深鉢	炉床上面 口縁部、胴下半を欠く	高(10.4)	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤褐色	胴中にくびれを有し、上部は外反し、下部は球状。	縦方向糸線施文後、くびれ部に3本の沈線を超らし、下部に3本単位の沈線で連環文を施す。	2本の接合 13—1
測99号 1 第14250版	#	泥土 胴部	破片	#	灰赤褐色		沈線で文様表出。	
# 2	#	#	#	#	灰い赤褐色	胴部にゆるいぐびれを有する。	2本の底帯を胴部に施し、縦方向の糸線施文。	

A区 第218号住居跡

調査番号 棟別番号	跡構	出土位置 遺存状況	尺目 (cm)	出土 構成	色調	形状・形状の特徴	文様	備考
第0650 1 第1208B区	深 #	瓦土 胴下半を欠く	口 14.0 高 (9.0)	細粒砂合 良好	褐色 色	胴中心にくびれを有し、上半に於いて 下半が縮径に小さい。	口縁部文様帯は襷帯と辻縁で横口区画し、区画内は縦文R Lを交互に充満施文。胴 部は2本単位の平行辻縁を垂下し、横文R Lを交互に充満施文。	3点の接合 10-5 A
第 2 #	浅 #	瓦土 胴下半を欠く	口 33.6 高(10.4)	細粒砂合 良好	赤褐色	口縁部が外反し、胴部が「く」字状を 呈する。	胴部は襷帯を纏らし口縁部と区画、胴部を襷帯で区画し、区画内に凹形 刺突を施す。	12点の接合
第0650 1 第1208B区	深 #	瓦土 胴上半と底部を欠く	高(19.6)	#	黄い 色	胴中心にくびれを有する。	横文R Lは縦文帯くびれ部に2本の辻縁を纏らし中に凹形刺突を施し下部 に3本単位の深凹文を施す。また、胴状部から2本の辻縁を垂下。	31点の接合 10-1
第 2 #	#	瓦土 底面	底 10.8 高(16.4)	細粒砂合 良好	赤褐色	わずかに外反きみに立ら上がる。	結本体L型文様、1本及び2本の襷帯を交互に垂下。	14-2
第0650 3 第1428B区	#	瓦土 突起部	破片	細粒砂・小礫 合、良好	橙 色	外面割き。	辻縁で文様区画し、区画内に列点を施す。	
第 4 #	#	瓦土 口縁部	#	#	暗黄褐 色	口縁部内凹。	襷帯と辻縁で襷帯を施し襷帯上に割み。	10-5 A
第 5 #	#	#	#	#	黄褐色	#	襷帯と辻縁で横口区画し、区画内は縦方向の縦線文、横口区画連続部 に上向き突起状襷帯を施す。	10-1 B
第 6 #	#	#	#	#	黄褐色	#	口縁に沿って襷帯及び辻縁を施し、下部は横文R L。	10-5
第 7 #	#	#	#	#	黄い 色	口縁部若干外反部厚し、口唇部平坦。	口縁に沿って2本の辻縁を垂らす。	#
第 8 #	#	#	#	#	橙 色	口縁部直立し、口唇部平坦。	口縁に沿って襷帯帯を施す。	12-2
第 9 #	#	瓦土 胴部	#	細粒砂・小礫 合、良好	黄褐色 色	#	襷帯で文様区画し、両側内斜方向の縦線文。	2点の接合 10-5
第 10 #	#	#	#	細粒砂・小礫 合、良好	黄い 色	胴部におわずかにくびれを有する。	口縁部文様帯は襷帯と辻縁で文様区画し、胴部は北縁垂下後、横文R L 充満施文。	3点の接合 10-5

第90回 第1429版	深	跡	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	明茶褐色		2本単位の平行沈積を垂下し、羅文R.L.充塞施文。	10-7
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	細粒砂含 良好	灰褐色	胴部凹曲。	〃	〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	胴部にくびれを有する。	〃	〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	灰黄色 褐色		微粒層を垂下し、羅文R.L.充塞施文。	12-2
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	灰褐色		沈積を垂下し、底伏条線施文。	10-7
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		羅文R.L。	2本の接合 10-7
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	細粒砂含 良好	褐色	胴部凹曲。	結条体L。	10-7
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色	内外面共に磨き	2本単位の平行沈積を垂下し、沈積間に旋形伏条線施文。	14?
〃 〃	浅	跡	覆土 口胴部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色	内外面共に磨き		2本の接合
〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃	細粒砂含 良好	黒褐色	口胴部外面肥厚、内外面共に磨き。	内外面共に未塗。	

A区 第219号住居跡

図面番号 推定番号	深	跡	出土 位置	出土位置 保存状況	破片 高(cm)	出土 構成	色調	器形・形状の特徴	文様	備考
第99回 第1290版	〃	〃	中体土器 底部を欠く	口21.0 高(19.2)	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	鉢形。			口縁に沿って沈積を覆らし、下部に腰帯を器体に貼付。区画内は斜方向 沈積施文。胴部は羅文R.L.充塞施文、胎部、「口」状沈積・旋形伏条線施文。10-3 B
第100回 第1291版	〃	〃	覆土 胴部大形破片	破片	細粒砂含 良好	褐色	胴中にくびれを有する。			口胴部文様帯は腰帯と沈積で斜交区画し、区画内斜条体L。胴部は2本 単位の平行沈積を垂下し、斜条体Lを交互に充塞施文。10-5 A

第10002	深鉢	瓦土 胴部大型破片	破片	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	胴中に若干くびれを有する。 輪郭が比較的良くとらえられる。	2本単位の平行沈線を下し、縄文R.L.を交互に縦方向充填施文後、波状沈線を下。	10-7 A
第10003	〃	瓦土 口縁部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰い橙 色	波状口縁で、口縁部内凹。	胴部と沈線で横凹区画し、区画内縄文R.L.充填施文。波頂部には沈線で小溝を施す。胴部は縄文R.L.	10-3 A
〃	〃	〃	〃	〃	明黄褐色	口縁部内凹。	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部には沈線で横凹区画し、区画内は縄文R.L.	10-2
〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐色	波状口縁。	縄文R.L.施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らす。	〃
〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	灰い赤 褐色	口唇部平坦。	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部は胴部と沈線で文様区画。	〃
〃	〃	〃	〃	〃	明黄褐色	口縁部内凹。	沈線で文様区画。	2本の接合 10-2
〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	〃	胴部と沈線で横凹区画し、区画内縦方向充填施文。	10-2
〃	〃	〃	〃	〃	灰い赤 褐色	〃	口唇部文様帯は胴部と沈線で横凹区画し、区画内縦方向波状沈線施文。胴部は3本単位の沈線を施下し、充填施文。	〃
〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃	〃	口縁に沿って胴部を廻らし、胴部と口唇部間に縦方向の沈線施文後、胴部に沿って沈線を施す。	〃
〃	〃	瓦土 胴部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	暗赤褐色	〃	胴部と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-8
〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	灰い黄 褐色	〃	胴部と沈線で文様区画し、区画内縦方向充填施文。	10-2
〃	〃	〃	〃	〃	赤褐色	〃	胴部と沈線で文様区画し、区画内縦方向充填施文。	〃
〃	〃	〃	〃	〃	灰褐色	〃	結糸体L施文後、沈線で文様表出。	10-4 A
〃	〃	〃	〃	〃	橙 色	〃	縄文R.L.施文後、沈線で文様表出。	〃

第1節 縄文時代

第100516 第1425版										比線を垂下し、横文R Lを横織文。	10-7
17	〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐色	〃	〃	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色	〃	〃	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐色	〃	〃	〃	2本単位の平行比線を垂下し、横文L Rを交互に縦方向に織織文。	〃
20	〃	〃	〃	〃	〃	明黄褐色	〃	〃	〃	横文R L。	〃
21	〃	〃	〃	〃	〃	暗赤褐色	〃	〃	〃	隣帯を1本垂下し糸織織文後、6本単位の比線を弧状に織文。	14-2
22	〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐色	〃	〃	〃	隣帯で文様区画し斜方向に織織文後、隣帯に沿って比線織文。	〃
23	〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色	〃	〃	〃	3本単位の平行比線を垂下し、斜方向に織織文。	147
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃	〃	〃	明黄褐色	〃	〃	〃	綾紗に織織文。	〃
26	〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐色	〃	〃	〃	横文。	〃
27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	口縁部消滅し、内外帯共に磨き。	〃
28	〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐色	〃	〃	〃	「く」字状に屈曲。	〃
29	〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐色	〃	〃	〃	屈曲部に隣帯を同心して有段文様帯区画し、円形の窪みに沿って弧状を 描す。	〃
29	〃	〃	〃	〃	〃	褐色	〃	〃	〃	〃	〃

A区 第220号住居跡

図面番号 博覧番号	種類	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	形状・装飾の特徴	文様	備考
第103図 第129図版	深鉢	伊体土器 底部を欠く	口 20.2 高(17.6)	細粒砂・磁含 良好	黄褐色	口縁部下に若干面曲部を有する形状。 口縁部下に若干面曲部を有する形状。	口縁部文様帯は隆帯と裾広の沈線で甬口区画及び渦巻を施し、区画内横文R Lを充填。文、胴部は2本単位の平行沈線帯下後、横文R Lを交互に充填。文。	21点の接合 10-5 A
第104図 1 第129図版	〃	1号須要 口縁部を欠く	底 5.8 高(21.0)	細粒砂含 良好	明赤褐色	底部から直線的に立ち上がる。	胴部は2本単位の平行沈線帯下後、横文R Lを交互に充填。文。 口縁部文様帯区画は隆帯。	36点の接合 10-5 A
〃 2 〃	〃	2号須要 底部を欠く	口 29.6 高(25.0)	粗粒砂含 良好	赤褐色	口縁部から胴部にかけて内傾。	口縁部下及び胴下半部に縦方向条線を2段施文。	22点の接合
第105図 1 第142図版	〃	瓦土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	灰い黄 褐色	沈状口縁。	隆帯で文様区画し、区画内は横文L Rを充填。文。波頂部外面に隆帯で渦巻が付。	10-5 A
〃 2 〃	〃	瓦上 胴部	〃	〃	灰い褐色	〃	隆帯と沈線で渦巻施文。横文はR L。	10-6
〃 3 〃	〃	〃	〃	〃	灰褐色	〃	隆帯と沈線で甬口区画し、区画内内彫研究。	10-5 A
〃 4 〃	〃	〃	〃	〃	褐色	〃	沈線で文様区画し、区画内横文R Lを充填。文。	10-5
〃 5 〃	〃	〃	〃	〃	灰い赤 褐色	〃	沈線を帯下し、横文R Lを充填。文。	10-7
〃 6 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	数本の沈線帯下。	3点の接合 10-7
〃 7 〃	〃	〃	〃	〃	灰い褐色	〃	沈線を帯下し、横文R Lを充填。文後、波状沈線帯下。	10-7
〃 8 〃	〃	〃	〃	〃	灰い赤 褐色	胴中にくびれを有する。	胴くびれ部に隆帯を施らし、縦方向条線施文後、隆帯周囲に沈線施文。	14
〃 9 〃	〃	瓦土 底部	底 10.0 高 2.4	細粒砂・小礫 含、良好	〃	〃	〃	15-2

A区 第221号住居跡

図版番号 押印番号	種類	出土位置 遺存状況	奥目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第1108版 第1300版	深鉢	1号炉土器 胴下半を欠く	口 19.6 高(12.7)	粗粒砂含 良好	褐色	胴中に比較的強いくびれを有する。	口縁部文様部は幾帯と沈線で南円区画及び小溝巻を施し、区画内横文R L横方向充填。胴部は2本単位の沈線重下後、同横文交互に充填部文。	45点の組合 10-5 A
第1096版 #	#	埋蓋 胴下半を欠く	口 24.3 高(21.5)	粗粒砂含 良好	黄褐色	#	口縁部文様部は幾帯と沈線で南円区画及び小溝巻を施し、区画内横文R L充填。胴部は2本単位の平行沈線重下後、横文R Lを交互に充填部文。	37点の組合 10-5 A

A区 第222号住居跡

図版番号 押印番号	種類	出土位置 遺存状況	奥目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第1110版 第1300版	深鉢	1号炉土器 胴上半を欠く	底 9.2 高(18.1)	粗粒砂含 良好	赤褐色	文様部文は器面の軟弱が著んだ段階で 行っている。	2本単位の平行沈線を重下し、横文R Lを交互に充填部文。	25点の組合 10-7
# 2 #	#	2号炉土器 部・胴下半を欠く	高(11.7)	#	鈍い黄 褐色	胴中にわずかなくびれを有する。	#	17点の組合 10-7
第1420版 1 #	#	甕土 大型破片	破片	粗粒砂含 良好	明赤褐 色	口縁部内湾。	口縁部文様部は幾帯と幅広沈線で南円区画及び溝巻を施し、区画内は横文R L充填。胴部は2本単位の沈線重下し、横文R Lを交互に充填部文。	26点の組合 10-5 A

A区 第223号住居跡

図版番号 押印番号	種類	出土位置 遺存状況	奥目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第1108版 第1300版	深鉢	1号炉土器 胴下半を欠く	高(15.9)	粗粒砂含 良好	赤褐色	胴中にわずかなくびれを有する。	口縁部文様部は幾帯区画、胴部は2本単位の平行沈線重下後、横文R Lを交互に充填部文。	17点の組合 10-5 B
第1150版 #	#	埋蓋 胴下半を欠く	口 20.0 高(17.6)	#	褐色	口縁部内湾し、胴中にくびれを有する。	口縁部文様部は幾帯と沈線で南円区画し、区画内は横文R L充填。胴部は2本単位の平行沈線と幅広沈線部文。横文はR Lで交互に充填部文。	47点の組合 10-8
第1681版 第1420版	#	甕土 口縁部	破片	微・粗・粗粒 砂含、良好	鈍い褐 色	口縁部非円面肥厚。	「口」字状及び兼手状の沈線部文し、区画内横文R L充填部文。	11-1

第114号2 第1245号版	深 鉢 # #	瓦 土 口縁部	破 片	細粒砂・粗粒 砂合、良好	灰い赤 褐色		陶器と幅広い枚縁で支那区画し、区画内瓦文RL充填層文。	10-5
# 3 #	#	#	#	#	暗赤褐色 色		口縁に沿って3本の北縁を廻らす。	#
# 4 #	深 鉢 #	瓦 土 胴部	#	細・粗粒砂・ 小礫合、良好	灰い赤 褐色		陶器で焼色を呈し、花邊で文様表出。	8点の組合 10-5
# 5 #	#	#	#	#	#		2本単位の平行北縁を畫下し、瓦文RLを交互に充填層文。	10-7
# 6 #	#	#	#	#	灰い褐色 色		2本単位の平行北縁を畫下し、瓦文RLを充填層文並に花邊状北縁を畫す。	#
# 7 #	#	#	#	#	灰い赤 褐色		陶器を側面に起付し瓦文RL並文後、腰折瓦面にナア状の北縁層文。	#
# 8 #	#	#	#	細粒砂・粗粒 砂合、良好	灰い褐色 色		陶器を表状に畫下し、腰折間に瓦状の北縁層文。	#
# 9 #	#	#	#	#	#		縦方向条縁層文。	#
# 10 #	深 鉢 #	瓦 土 口縁部	#	細・粗粒砂・ 小礫合、良好	灰い赤 褐色	頸部のくびれから口縁部が「く」字状 に部曲し内溝、口縁部内面に突起状に 肥厚。	口縁部斜方向条縁層文、突起状部に北縁層文。	
# 11 #	浅 鉢 #	#	#	#	暗赤褐色 色	口縁部若干内溝し、片外蓋共に蓋さ。		

A区 第226号住居跡

図面番号 探検番号	器 種	出土位置 遺存状況	成 目 (cm)	土 質 構成	色 調	器 形・装 形 の 特 徴	文 様	備 考
第120号 第120号版	深 鉢 #	中体土器 胴下半を欠く	高(15.0)	粗粒砂合 良好	灰い褐色 色	胴中に強いくびれを有する。	2本単位の平行北縁を畫下し、瓦文RLを交互に縦方向充填層文。	28点の組合 10-5 A
第121号1	#	No.1 口縁部	破 片	細粒砂合 良好	区画褐色 色	法状口縁で、口唇部に北縁を有する。	陶器と幅広い枚縁で区画及び溝巻層文し、区画内は瓦文RL充填層文。瓦 頂部に円孔を有する。	10-5

第1部 遺文時代

探跡区	探跡	瓦上 口縁部	瓦土位置 状況	瓦目 (cm)	胎土 焼成	色調	胎形・胎形の特徴	文様	備考	
第12区2	探跡	瓦上 口縁部								
# 3	#	No.2 口縁部			細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤 褐色	波状口縁で内溝。		口縁に沿って沈線を通らし、口縁間に刺突を施す。胴部は沈線で細粒的 文様区画をし、区画内横文R.L.充填施文。	11-2 B
# 4	#	No.3 胴部			細粒砂含 良好	灰褐色	胴中にわずかにびれを有する。		口縁部全体帯は刺突と細粒沈線と肩田区画及び渦巻施文し、区画内は横 文R.L.充填施文。胴部は横文R.L.	10-3 A
# 5	#	No.3 胴部			#	灰い褐色	器厚比較的薄く内溝。		胴部と沈線で文様区画し、区画内横文R.L.充填施文。	11-6
# 6	#	瓦土 胴部			#	灰い褐色			沈線で渦巻状区画し、区画内横文R.L.充填施文。	10-7
# 7	#	瓦土 底部		底 9.9 高 (8.1)	細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色			横文R.L.	2点の接合 15-2

A区 第227号住居跡

探跡区	探跡	瓦土位置 状況	瓦目 (cm)	胎土 焼成	色調	胎形・胎形の特徴	文様	備考	
第12区 第1306版	探跡	瓦土器 胴下半を欠く							
第125区1 第1306版	#	1号埋裏 胴下半を欠く	高(18.5)	粗粒砂含 良好	褐色	胴部にはほとんどとどろびれを有しない鉢形 で口縁部内溝。		口縁部は胴部と沈線で肩田区画を施し、区画内縦方向区画。胴部は「 Π 」 字状の沈線を通し、沈線間に横文R.L.施文。	71点の接合 10-5 B
# 2	#	2号埋裏 底部	口 22.0 高(22.8)	#	黄褐色	4単位の波状口縁で胴中にびれを 有し、口縁部内溝。		口縁部文様は細粒の沈線で、横田及び波頂部に渦巻を施し、区画内横文 R.L.充填。胴部は沈線を垂下し横文R.L.交互に充刺後、肩手状沈線施文。	65点の接合 10-6
第136区 第1306版	#	3号埋裏 胴下半を欠く	底 9.0 高(12.2)	細粒砂・小礫 含、良好	褐色			2本単位の平行沈線を垂下し、横文R.L.充填施文。	27点の接合 10-7
#	#		高(13.2)	細粒砂含 良好	灰い黄 褐色	胴部にびれを有する。		2本単位の平行沈線を垂下し、横文R.L.を交互に充填施文後、上部が縦 手状を呈する波状沈線施文。	7点の接合 10-7

A区 第228号住居跡

探跡区	探跡	瓦土位置 状況	瓦目 (cm)	胎土 焼成	色調	胎形・胎形の特徴	文様	備考
第12区 第1306版	探跡	瓦土器 胴下半を欠く						

第129号 第1310号	深鉢 和体土器 底部を欠く	口 20.8 高 20.7	粗粒砂合 貝好	橙 色	4単位の波状口縁で胴中に浅いくびれを有する。	口縁沿文様帯は波帯で区画し、波帯で文様表出。胴部は「U」「口」の波帯を上下に並べ、縄文R1R部方向充塞施文。	51点の接合 10-3 B
-----------------	---------------------	------------------	------------	-----	------------------------	--	------------------

A区 第229号住居跡

図面番号 押印番号	器種 出土位置 遺存状況	口径 (cm)	出土 焼成	色調	器形・形状の特徴	文様	備考
第133号 第1310号	深鉢 和体土器 胴下半を欠く	高(18.0)	粗粒砂合 貝好	赤 色	胴部に「く」字状のくびれ及び胴部に頸りを有する。	3単位の波帯で「U」「口」字状に上下に施文し、間に縄弧文を施す。	26点の接合 14-1
第132号 第1310号	〃 埋塞 口縁部・胴下 半を欠く	高(14.6)	〃	赤褐色	胴中に浅いくびれを有する。	口縁沿文様帯と波帯で文様区画し、胴部は2本単位の波帯を施す。胴部には縄文R1施文。	36点の接合 10-8
第134号 第1420号	〃 覆土 口縁部		細粒砂合 貝好	灰い赤 褐色	口縁部内湾し、わずかに内面肥厚。	縄文R1。	11-1
〃 2 〃	〃 和綴り方内 胴部		〃	灰い橙 色		胴部と幅広い波帯で文様区画し、区画内縄文R1充塞施文。	10-5 B
〃 3 〃	〃		〃	灰い黄 色			10-8
〃 4 〃	〃		〃	灰い赤 褐色		2本単位の平行波帯を下下し、縄文R1充塞施文。	2点の接合 10-7
〃 5 〃	〃 細粒砂・小磯 合、貝好		細粒砂・小磯 合、貝好	灰い赤 褐色		浴衣体L施文並、波帯で文様表出	〃
〃 6 〃	〃		細粒砂合 貝好	灰い橙 色		縄文R1施文並、波帯で文様表出	13-2
〃 7 〃	〃 洗鉢 No.1 口縁部		〃	灰赤色	口縁部肥厚し、内外面共に磨き。		
〃 8 〃	〃 和綴り方内 口縁部		〃	灰い橙 色	口縁部内湾し、内外面共に磨き。		
〃 9 〃	〃 深鉢 和綴り方内 胴部		〃	〃		波方向集積施文。	2点の接合 10-7

図版番号 標記番号	器種 出土位置 出土状況	底径 (cm)	胎土 焼成	色調	形状・装飾の特徴	文様	備考
第134図10 第142図版	深鉢 No.1 底部を欠く	底 8.0 高 (2.7)	細粒砂含 良好	褐色	2本単位で平行状襷を帯下。		2点の接合 10-2
第138図1 第131図版	深鉢 No.1 底部を欠く	口 31.0 高 (32.4)	粗粒砂含 良好	褐色	胴中に強いくびれと、胴下半におよ びから膨らみを有する。	口縁部文様帯は襷帯で区画し、耳状突起を付す。区画内は基本体L縷文。 胴部はくびれ帯に3本立襷を施す。基本体L縷文後、半軌竹管で渦巻。	2点の接合 10-1 A ?
第 2 第142図版	〃 No.2 口縁部・底部を欠く	高 (17.2)	〃	明赤褐色	胴中にくびれを有する。	くびれ帯に襷帯を施す。襷帯は縦方向半縷文。	8点の接合 10-2 B
第 3 〃	〃 No.3 胴部破片	破片	〃	明褐色	円筒状胴部。	基本体L縷文後、襷帯で縦帯に区画し、襷帯上に閉みを施す。	2点の接合 10-1
第138図4 第131図版	〃 No.4 口縁部・胴下 半を欠く	高 (18.4)	〃	明赤褐色	胴中にくびれを有する。	基本体L。	15点の接合 10-1
第138図5 第142図版	〃 No.5 覆土 把手	破片	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	横状の把手は口縁部より上部に突出。	把手部に縷文L R縷文。	11-5
第 6 〃	〃 No.6 口縁部	〃	〃	鈍い褐色	口縁部直立。	口縁に寄って5本の立襷を施す。襷帯間に2段交互斜交を施す。	2点の接合 10-2 A
第 7 〃	〃 No.7 口縁部	〃	細粒砂・細粒 砂含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾し、口唇部平坦で若干内傾。	口縁部文様帯は立襷と襷帯で区画区画し、円形は襷帯の貼付。	〃
第 8 〃	〃 No.8 口縁部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾し、口唇部外反。	口縁に寄って立襷を施す。下部に襷帯と立襷で渦巻縷文。	〃
第 9 〃	〃 No.9 覆土 口縁部	〃	〃	鈍い褐色	襷帯と細粒の立襷で文様区画。		10-5
第 10 〃	〃 No.10 〃	〃	細粒砂含 良好	〃	口縁部内湾し、波状口縁。	襷帯と立襷で文様区画。	10-2
第 11 〃	〃 No.11 〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾。	縷文L R縷文後、口縁に寄って1列の円形突起を施す。	11-1

A区 第1号土器(渾)

A区(1号土器甕)

第138612 第14256版	深鉢	灰土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 良好	灰い赤 褐色	灰口縁で若干内擠し、内面肥厚。	外面は沈線で傾円区画し、区画内横文R L光澤文。 内面肥厚部に沈線で傾円区画。 縦方向連続横文後、口縁に沿って沈線を廻らす。	
第138613 第14257版	深鉢	灰土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	幅広の沈線で文様区画し、区画内横文R L光澤文。	2点の接合 10-5
第138614 第14258版	深鉢	No.7 胴部	破片	細・粗粒砂・小礫 小礫含、良好	灰 褐色	沈線帯を垂下し、間に交互に横文L R光澤文。	沈線帯を垂下し、間に交互に横文L R光澤文。	6点の接合 12-2
第138615 第14259版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い橙 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横線帯で「U」字状文様区画をし、区画内横文R L光澤文。	2点の接合 12-1
第138616 第14260版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂含 良好	灰い赤 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横線帯と沈線で文様区画。	
第138617 第14261版	深鉢	灰土 胴部	破片	灰 褐色	灰黄濁 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横線帯と沈線で文様区画し、区画内横文R L光澤文。	
第138618 第14262版	深鉢	灰土 胴部	破片	灰 褐色	灰い橙 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	沈線帯を垂下し、横文L L光澤文。	12-2
第138619 第14263版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横線帯と沈線で文様区画し、区画内横文R L光澤文。	10-5
第138620 第14264版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂含 良好	灰い橙 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	沈線帯を垂下し、横文R L光澤文。	12-2
第138621 第14265版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横線帯を垂下し、横文R L光澤文。	10-7
第138622 第14266版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い黄 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横文R L光澤文後、沈線帯下。	10-7
第138623 第14267版	深鉢	灰土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	沈線帯を垂下し、横文R L光澤文後、沈線帯下。	10-7
第138624 第14268版	深鉢	灰土 胴部	破片	灰 褐色	明赤濁 褐色	灰口縁で内擠し、内面肥厚。	横線帯を垂下し、横文はR L。	12-2

第13期G12 第142型版									沈澱で文様区画。	10-7
# 13	#	#	#	#	#	#	#	#	沈澱を垂下し、縄文R L充塞施文。	#
# 14	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文R L、縄文帯と断文帯を区隔するのはナズ状沈澱。	12-1
# 15	#	#	#	#	#	#	#	#	沈澱を垂下し、縄文R L充塞施文。	10-7
# 16	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L施文後、陸帯を「J」字状に駆付けし、胴部は3本の沈澱を廻らす。	5点の陸帯 10-4 B
# 17	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L断文後陸帯を廻らし、陸帯上に羽みを施す。	
# 18	#	#	#	#	#	#	#	#	沈澱を垂下し、唇縁波状の基礎施文。	
# 19	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L施文後、3本の陸帯で文様区画し、胴部の陸帯外側に沈澱を、中央の陸帯に交互斜線を施す。	2点の陸帯 10-4 B
# 20	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L施文後、2本の沈澱を斜くびね部に廻らす。	
# 21	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L施文後、陸帯を垂下。	10-4 A
# 22	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L施文後、2本単位の花輪で文様区画。	#
# 23	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L、断陸帯と沈澱で文様区画。	#
# 24	#	#	#	#	#	#	#	#	船本体L施文後、2本単位の花輪で文様区画。	#
# 25	#	#	#	#	#	#	#	#	2本単位の平行沈澱を垂下し、船本体L充塞施文。	10-7

A区 (2号土器編り)

第132620版 第14292版	深 鉢	覆 土 胴 部	破 片	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		結糸体L。装部を横位に廻らし、下側に沈線施文。	10-4 A
# 27 #	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		結糸体L。	#
# 28 #	#	#	#	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		#	#
# 29 #	#	#	#	#	褐色		#	#
# 30 #	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		#	#
# 31 #	#	#	#	#	鈍い赤 褐色		#	#
第146521 第14926版	深 鉢	覆 土 底 部	破 片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い褐 褐色		結糸体L施文後、4本単位の沈線施文。	3点の接合 10-4 A
# 2 #	#	#	#	#	褐色		#	10-4 A
# 3 #	#	#	#	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		縦方向の平行沈線施文。	#
# 4 #	#	覆 土 底 部	底 13.5 高(3.6)	#	鈍い褐 褐色			15-2

A区 第2号土器編り

図版番号 押印番号	器 種	出土位 置 出 土 状 況	成 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 装 形 の 特 徴	文 様	備 考
第143521 第13126版	深 鉢 復原完形	No.1 復原完形	口 7.2 底 6.8 高 30.8	細粒砂含 良好	褐色	胴上半にくびれを有し、胴部下半に若干膨らみをもつ長円圓形。	口縁部は2本単位の沈線施文、胴部中央から頸部へ、胴部は結糸体施文、沈線区画。	3点の接合 9
# 2 #	深 鉢	覆 土 底 部	底 15.0 高(11.2)	細粒砂含 良好	赤褐色		結糸体L。	4点の接合 10-4 A

第1部 縄文時代

第13図3 第142図B	縦線	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色	波状口縁。	口縁に沿って波線を廻らし、胴部沈線で文様区画後、縄文R.L.充填協文。	11-2
4	〃	〃	〃	〃	灰褐色		胴部と沈線で文様区画。	10-5
5	〃	〃	〃	〃	鈍い褐色	波状口縁。	胴部の沈線で文様区画。	〃
6	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	〃	〃		11-6
7	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐色	口縁部内溝。	胴部と沈線で帯状区画し、区画内斜方向沈線。	10-2
8	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い褐色		縄文R.L.	
9	〃	覆土 胴部	〃	細粒砂含 良好	明黄褐色		胴部と沈線で区画及び角部蓋文し、区画内縄文R.L.充填協文。	10-2
10	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		〃	〃
11	〃	〃	〃	〃	灰褐色		胴部と沈線で文様区画、区画内縄文R.L.充填協文。	
12	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色		〃	
13	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		胴部蓋文。	
14	〃	〃	〃	〃	鈍い褐色		沈線を垂下し縄文R.L.充填協文後、波状胴部垂下。	10-7
15	〃	〃	〃	〃	淡黄色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.交互に充填協文。	〃
16	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		〃	〃

図原番号 陣原番号	深鉢 H	覆鉢 H	出土 H	位置 H	破片 H	細粒砂含 具好 H	色調 H	形状・整形の特徴 H	文様 H	備考 H
第143917 第14299版	H	H	H	H	H	H	黄い黄 褐色		沈線で文様区画、縄文L。	10-4 A
第 18 H	H	H	H	H	H	H	黄い黄 褐色		H	H
第 19 H	H	H	H	H	H	H	黄い黄 褐色		縄文R L。	H
第 20 H	H	H	H	H	H	H	H	粘糸体L。		2点の組合 10-4 A
第 21 H	H	H	H	H	H	H	H		H	10-4 A
第 22 H	H	H	H	H	H	H	黄い赤 褐色		H	H
第 23 H	H	H	H	H	H	H	黄い黄 褐色		縦方向糸線断文。	

B区 第48号址

図原番号 陣原番号	深鉢 H <th>覆鉢 H <th>出土 H <th>位置 H <th>破片 H</th> <th>細粒砂含 具好 H <th>色調 H</th> <th>形状・整形の特徴 H</th> <th>文様 H</th> <th>備考 H</th> </th></th></th></th>	覆鉢 H <th>出土 H <th>位置 H <th>破片 H</th> <th>細粒砂含 具好 H <th>色調 H</th> <th>形状・整形の特徴 H</th> <th>文様 H</th> <th>備考 H</th> </th></th></th>	出土 H <th>位置 H <th>破片 H</th> <th>細粒砂含 具好 H <th>色調 H</th> <th>形状・整形の特徴 H</th> <th>文様 H</th> <th>備考 H</th> </th></th>	位置 H <th>破片 H</th> <th>細粒砂含 具好 H <th>色調 H</th> <th>形状・整形の特徴 H</th> <th>文様 H</th> <th>備考 H</th> </th>	破片 H	細粒砂含 具好 H <th>色調 H</th> <th>形状・整形の特徴 H</th> <th>文様 H</th> <th>備考 H</th>	色調 H	形状・整形の特徴 H	文様 H	備考 H
第147911 第14299版	H	H	H	H	H	H	黄い黄 褐色	口縁部内高。	口縁に沿って部染帯を廻らし、下面に沈線を垂下し、縄文L糸線断文。	12-2
第 2 H	H	H	H	H	H	H	黄い黄 褐色		口縁に沿って沈線を廻らし、下部縄文L R。	10-5
第 3 H	H	H	H	H	H	H	灰黄褐 褐色	胴部に強いくびれを有する。	隆部下に押正。	
第 4 H	H	H	H	H	H	H	明赤褐 褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R L糸線断文。	10-5
第 5 H	H	H	H	H	H	H	黄褐色		沈線で文様区画し、粘糸体L糸線断文。	

第147図6 第1432版	深鉢	甌土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色	胴中心に薄いくびれを有する。	削くびれ部に3本の比線を廻らし、下部に縄文R L屈文。	10-2
7	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂含 良好	褐色		比線を垂下し、縄文R L光輝屈文。	10-7
8	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		2本単位の隆帯を垂下し、縄文R L光輝屈文。	10-4
9	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		比線を垂下し、縄文R L光輝屈文。	10-7
10	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		縄文R L。	
11	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		糸線屈文後、花線垂下。	3本の隆帯
12	深鉢	甌土 胴部	片	片	鈍い橙 色		糸線屈文後、波状花線垂下。	
13	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		2本単位の隆帯を垂下し、区内に交互に斜方向比線光輝屈文。	14

B区 第63号住居跡

図版番号 陣型番号	器種	出土 遺存状況	位置 (cm)	土 質	土 質	色調	器形・装形の特徴	文 様	備考
第149図 第1312版	深鉢	炉体土器 口縁部・胴下半を欠く	高(15.3)	細粒砂含 良好	片	黄褐色	胴中心に若干くびれを有する。	削くびれ部に3本の比線を廻らし、一部に縄文帯区画。下半は縄文R L 屈文後、3本単位の比線で文様区画。	18点の併合 10-2 A
第150図1 第1433版	深鉢	甌土 口縁部	破片	片	片	鈍い黄 褐色		口縁に沿って隆帯を廻らし、下部は隆帯で文様区画後、縄文R L光輝屈 文。	10-2 A
2	深鉢	甌土 胴部	片	細粒砂・小礫 含、良好	片	褐色	口縁部内溝。	隆帯と比線で、上向突起状の溝帯屈文。	10-1
3	深鉢	No.1 口縁部	片	細粒砂含 良好	片	鈍い橙 色	内面凹溝。	口縁に沿って4本の比線を廻らし、比線間1ヶ所に交互斜交、縄文R L。	10-2 A

第1節 縄文時代

第1506718 第148292段										8点の接合 10-2
19	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	10-2
20	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
21	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	10-2 A
22	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
23	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	10-2
24	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
25	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	10-4 A
26	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
27	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
28	No.5 靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	2点の接合 10-4 A
29	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
30	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑
31	靑土 胴部	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑	靑

第131回1 第1436版	細砂・小礫 含、良好	破片	褐色	細い褐色	縄文R.L.簡文後、花縄で文様区画。	2点の接合 10-2
# 2	細砂 良好	#	#	#	縄文R.L.簡文後、2本の隆帯垂下。	10-4 B
# 3	細砂・小礫 含、良好	#	#	#	2本の縄文R.L.で羽状に隆帯後、隆帯垂下。	#
# 4	細砂 良好	#	褐色	褐色	#	#
# 5	#	#	褐色	褐色	縄文R.L.簡文後、隆帯で文様区画。	#
# 6	#	#	褐色	褐色	隆帯を有する縄文LR簡文。	10-4 A
# 7	細砂・小礫 含、良好	#	褐色	褐色	縄文R.L。	#
# 8	細砂 良好	#	褐色	褐色	縄文L、Rを交互に施文。	#
# 9	細砂・小礫 含、良好	#	褐色	褐色	縦方向条線簡文後、幅広い隆帯を隔らす。	#
# 10	細砂 良好	#	#	#	縦方向条線簡文後、花縄で文様区画。	10-1
# 11	#	#	褐色	褐色	縦方向条線簡文後、花縄は隆帯垂下。	#
# 12	細砂・小礫 含、良好	#	褐色	褐色	2本の隆帯で小溝帯を有する文様区画し、区画内に条線簡文後、隆帯に 沿って花縄を施す。	10-4 B
# 13	細砂 良好	#	褐色	褐色	隆帯で文様区画し隆帯上に円形部穴を施す。区画内は条線簡文後、隆帯 に沿って花縄を施す。	#
# 14	#	#	褐色	褐色	縦方向条線簡文後、2本単位の隆帯を垂下。	#

第151015 第14期版	#	硯土 剥部	破片	細粒砂含 良好	褐色		縦方向条線文後、3本単位の辻線で連続的に横文し、波状辻線を垂下。 10-1
# 16	#	#	#	#	灰い黄 褐色		縦方向条線を置く横文。
# 17	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤 褐色		斜方向条線文後、波状辻線を横位に横文。
# 18	#	#	#	細粒砂含 良好	明茶褐色		波状辻線横位横文。 14
# 19	#	#	#	#	灰い褐色		条線横文後、波状辻線横位に横文。 #
# 20	#	硯土 剥部	#	#	灰い褐色		横文R.L.横文後、3本単位の平行辻線垂下。 #
# 21	#	#	#	#	灰褐色		結全体L.横文。 10-4 A
# 22	洗鉢	硯土 口縁部	#	#	灰い黄 褐色		口唇平直部に辻線で溝凹区画し、区画内辻線。 #
# 23	#	#	#	#	#		口縁に沿って幅広い辻線を垂らす。 #

B区 第66号址

四角番号 標頭番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 径(mm)	焼土 焼成	色調	形状・整形の特徴	文様	備考
第156031 第14期版	深鉢	硯土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色	波状口縁で、口縁部内湾し、口縁突起部外反。	隆部と幅広い辻線で溝凹区画し、区画内横文R.L.充填横文。 R.L.	2点の報告 10-6
# 2	#	#	#	細粒砂含 良好	灰い褐色	口縁部内湾。	隆部と辻線で文様区画し、区画内横文R.L.充填横文。	10-5 A
# 3	#	#	#	#	灰い褐色	波状口縁。	口縁に沿って辻線を垂らし、横文R.L.横文後、辻線で文様表出。	#

深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	焼い境 色	波状口縁。	口縁に貼って沈積を認らし、下部縄文R.L.	10-5
# 5 #	#	#	#	焼い境 色	波状口縁で、口縁部内湾し、突起部外 反。	溝帯と幅広い沈積で横円区画及び突起部に溝帯層文。突起部内面に細 広沈積で単位化の痕跡。区画内は縄文R.L.充填層文。	10-6
# 6 #	#	#	#	焼い境 色	口縁部わずかに内湾し、口唇部平坦で 内傾。	口縁部に2本の溝帯を認らし、下部縄文R.L.層文後、胎帯下側に沈積を 認らす。	10-5
# 7 #	#	#	#	焼い境 色	口縁部わずかに内湾。	縄文R.L.で口縁に沿って浅い沈積を認らす。	#
# 8 #	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	焼い境 色	#	縄文L.R.層文後、口縁に沿って沈積を認らす。	#
# 9 #	#	#	細粒砂含 良好	焼い境 色		縄文R.L.口縁部まで層文後、「U」字状に沈積を連続層文。	11-1
# 10 #	#	#	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	焼い境 色	口縁部わずかに内湾。	口縁に沿って胎帯帯を認らし、下部は「U」「A」字状に沈積を連続させ 文層区画し、区画内縄文R.L.充填層文。	11-2 C
# 11 #	#	#	細粒砂含 良好	焼い境 色		沈積を垂下し縄文R.L.充填層文後、波状沈積層下。	10-7
# 12 #	#	#	#	#		#	#
# 13 #	#	#	#	焼い赤 褐色		2本単位の平行沈積を垂下し、縄文L.R.交互に発達層文。	8点の接合 10-7 B
# 14 #	#	#	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	焼い境 色		3本単位の平行沈積を垂下し、縄文R.L.充填層文。	10-7
# 15 #	#	#	細粒砂含 良好	#		2本の沈積で文層区画し、区画内縄文R.L.充填層文。	11-3
# 16 #	#	#	#	#		沈積で「U」字状文層区画し、区画内縄文R.L.充填層文。	4点の接合 11-3
# 17 #	#	#	#	#	波状口縁で内湾。	口縁に沿って2本の沈積を認らし、沈積間縄文R.L.充填層文。下部は沈 積で「U」字状文層区画及び縦手状沈積層文。	10-8

第1期 縄文時代

図版番号 押印番号	深鉢	瓦土 胴部	破片	細粒砂含 量好	顔色	断面中にびれを有する。	化粧を垂下し文様区画し、区画内織文R.L.充満指文。	内底点の接 合10-8
# 19 #	#	#	#	#	灰褐色	#	「U」「口」字状に化粧で文様区画し、胴文部に垂下状化粧指文、区画内は織文R.L.充満指文。	11-3
# 20 #	#	#	#	#	棕色	#	「U」「口」字状に化粧で文様区画し、区画内織文R.L.指文。	2点の接合 11-3
# 21 #	#	#	#	#	同じ顔色		織文R.L.織文化粧で文様区画し、区画内織文R.L.充満指文。	10-8
# 22 #	#	#	#	#	#		懸垂化粧及び「U」字状に化粧で文様区画し、区画内織文R.L.充満指文。	11-3
# 23 #	#	#	#	#	#		化粧垂下織文後、斜方向未織指文。	
# 24 #	#	#	#	#	赤褐色		斜方向平行化粧指文。	
# 25 #	#	瓦土 底面	径 7.0 高(10.2)	#	同じ顔色	断面付区画方向の磨き。	平行化粧垂下。	2点の接合 15-3
# 26 #	#	#	径 8.4 高(5.4)	#	#		#	15-1

B区 第69号住居跡

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	径目 (cm)	細粒砂含 量好	顔色	磨形・磨形の特徴	文様	備考
第159図 第131図版	深鉢	埋没 胴下部を欠く	口 30.8 高(21.5)	細粒砂含 良好	暗褐色	断面中にびれを有し、下部に膨らみを有する。内面灰みが激しい。	口縁部文様帯は横帯と化粧で帯状区画し、区画内縦方向化粧。胴部は2本単位の平行化粧を垂下し、織文R.L.を交互に充満指文。	32点の接合 10-5 B

B区 第70号址

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	径目 (cm)	顔色	磨形・磨形の特徴	文様	備考

B区 (69号住居跡、70号址、71・154号住居跡)

第160図1	残跡	夏土 口縁部	破片	細粒砂合 良好	褐色 色	口縁部内凹し、内外面に磨き。 口縁下に輪跡残存。	瓦文。	
--------	----	-----------	----	------------	---------	-----------------------------	-----	--

B区 第71号住居跡

図版番号 押印番号	種類	出土位置 遺存状況	破片 (cm)	出土 状況	土 質	色調	形状・形状の特徴	文様	備考
第162図 第131図版	深鉢	伊体土器 底面	高(7分)	粗粒砂合 良好	灰い黄 褐色	比較的腹部の張る器形。	瓦文L.R施文様、3本単位の平行状條線下。	24点の集合 10-4 A	
第163図1 第142図版	〃	夏土 口縁部	破片	〃	灰い赤 褐色	板状口縁。	口縁部頂部から條線を経的に転付し横凹区画し、区画内縦方向に條線文 様、條線に沿って花線を畫す。	10-3 B	
〃 2 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 合、良好	暗褐色	口唇部平坦。	隆部と枚縁で横凹区画及び溝線を施し、区画内縦方向に條線文。頸部は 結全体L。	2点の集合 10-3 B	
〃 3 〃	〃	夏土 胴部	〃	〃	灰い赤 褐色	〃	結全体L。	3点の集合 14-1	
〃 4 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10-4 A	
〃 5 〃	〃	夏土 口縁部	〃	粗粒砂合 良好	褐色	口縁部内面突起状に肥厚し、口唇部平 坦で内凹。	外面は條線状花邊。口唇部は内面に1本花線を施らし、外面に斜方向状 條線文。	〃	

B区 第154号住居跡

図版番号 押印番号	種類	出土位置 遺存状況	破片 (cm)	出土 状況	土 質	色調	形状・形状の特徴	文様	備考
第167図1 第142図版	深鉢	夏土 胴部	破片	粗粒砂合 良好	灰い黄 褐色	胴部にくびれを有する。	瓦文R.L施文様、漸次に平行状條線を施し、枚縁間に内凹突起を施す。	4-1	
〃 2 〃	〃	〃	〃	粗粒砂・礫合 良好	黄灰色	〃	瓦文R.L施文様、横位の平行状條線文。	4-2	
〃 3 〃	〃	夏土 突起部	〃	粗粒砂合 良好	褐色	大突起を4単位有する。	各面に平行状條線文。	5-3	

第17図4 第1435図	深鉢 No.1 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黄い褐色	横位平行沈線縄文。	2点の接合 5-3
5	深鉢 No.1 口縁部	片	細粒砂含 良好	黄い褐色	片	5-3
6	深鉢 No.1 胴部	片	片	赤褐色	片	片

B区 第156号址

図番 器種 器番号	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第172図1 第131図版	No.1 胴部下半を欠く	口 17.6 底 17.6	細粒砂含 良好	褐色	胴部上半に最大径。中位こくびれを有し口縁部内湾。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は「U」「O」字状に沈線で区画し、区画内は縄文R.L.光澤縄文。	34点の接合 11-2 B
第173図2 第132図版	No.2 底部	底 4.8 高 113.2	細粒砂含 良好	黄褐色	底部の小径で胴下半部部が狭い。	2本単位の平行沈線を廻らし、縄文R.L.光澤縄文。	15点の接合 10-7 B
第173図3 第1435図版	深鉢 No.1 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	口縁部内湾し上部内縁。	隣等と沈線で区画し、区画内は縄文R.L.光澤縄文。	10-5 A
4	片	片	片	黄い赤褐色	隣等と沈線で胴口区画し、区画内は縄文R.L.光澤縄文。	片	10-5
第172図5 第132図版	片	片	片	反褐色	波状口縁。	波状口縁から口縁に沿って沈線を廻らし、下部は縄文R.L.縄文後、沈線で区画し、区画内は縄文R.L.光澤縄文。	11-2 A
第173図6 第1435図版	片	片	細粒砂含 良好	黄い褐色	波状口縁で内面凹溝。	縄文L.R.	11-2
7	片	片	細粒砂・小礫 含、良好	片	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部は縄文L.R.横方向縄文。	片	10-5
8	片	片	片	片	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は縄文R.L.	片	11-2
9	片	片	細粒砂含 良好	片	片	片	片

第172010 第14352版					表状口縁で内面若干肥厚。				11-2 C
11	#	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	黄い黄 褐色	黄褐色	口縁に沿って微稜帯を廻らし、下部横文R L充塞面文。横文は微稜帯上にも横文。	#
12	#	#	#	#	細粒砂含 良好	黄い黄 褐色	黄褐色	口縁に沿って微稜帯を廻らし、下部は「A」字状に区画区画し、区画内横文R L充塞面文。	#
13	#	#	#	#	#	黄灰色	黄灰色	口縁に沿って微稜帯を廻らし、稜帯上に円形刺突を並す。	11-2 B
14	#	#	#	#	#	黄い黄 褐色	#	口縁部横文部に2段に円形刺突を置し、下部は横文R L。	#
15	#	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	褐色	稜帯と区画で文様区画、下部は2本単位の平行沈線を下し、横文R L充塞面文。	10-5
16	#	#	#	#	#	明水濁 色	明水濁 色	横文R L縦方向横文後、3本単位の平行沈線を下す。	10-4 A
17	#	#	#	#	#	黄い橙 色	黄い橙 色	横文L R縦方向横文後、2重に「U」字状に沈線施文。	10-8
18	#	#	#	#	#	黄い濁 色	黄い濁 色	3本単位の平行沈線を下後、横文R L充塞面文。	3点の綜合 10-7 A
19	#	#	#	#	細粒砂含 良好	黄い濁 色	黄い濁 色	#	10-7 A
20	#	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	褐色	2本単位の平行沈線を下し、横文R L充塞面文。	#
21	#	#	#	#	細粒砂含 良好	灰褐色	灰褐色	沈線を下し、横文R L充塞面文。	10-7
22	#	#	#	#	細粒砂・細粒 砂含、良好	黄い橙 色	黄い橙 色	2本単位の平行沈線を下し、横文R L充塞面文。	#
23	#	#	#	#	細粒砂含 良好	#	#	#	10-8

第12024 第14305B	深鉢	瓦土 胴部	破片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	黒色		2 本単位の平行沈線を垂下し、縦文R.L.縦方向光線施文。	10-7
25	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰い橙 色		沈線で「U」字状に文様区画し、区画内縦文R.L.光線施文。	8
26	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	灰褐色		〃	〃
27	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	灰い橙 色	胴中に強いくびれを有する。	沈線で「U」「O」字状に文様区画し、区画内縦文R.L.光線施文。	11-3
28	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃		沈線で渦巻施文し、区画内縦文R.L.光線施文。	〃
29	〃	〃	〃	〃	橙 色		横紋に沈線施文。	14
30	〃	〃	〃	〃	〃		腰方向渦巻施文。	
31	〃	〃	〃	〃	灰い橙 色		格子体渦巻施文。	
32	〃	瓦土 胴部	底 5.7 高 15.7)	細粒砂・粗粒 砂含、良好	〃		3 本単位の平行沈線垂下。	15-3

B区 第164号位痕跡

図面番号 捺四番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 構成	色調	形状・装飾の特徴	文 様	備考
第12027 第12028B	深鉢	中体土源 胴下半を欠く	高(19.2)	粗粒砂含 良好	黄褐色	胴中にわずかにくびれを有し、口縁部外反。	口縁部文様は渦巻と沈線で横間区画及び渦巻を施し、区画内斜方向に横施文。胴部縦文R.L.	10-3 B
第12302 第12302B	〃	埋 裏 胴下半を欠く	口 31.1 高(18.5)	粗粒砂・小礫 含、良好	暗赤褐色	4 単位の波状口縁で胴中にわずかにくびれを有し、口縁部外反。	口縁部文様は、渦巻と沈線で横間区画及び渦巻施文。胴部縦文。	71点の接合 10-3
第14001 第14302B	〃	瓦土 口縁部	破 片	細粒砂含 良好	灰い橙 色	波状口縁で内滑し、胴部部外反。	破面部から口縁に沿って沈線を廻らし、下部縦文R.L.光線施文。	11-2

第14回2 第1433版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色			口縁に沿って花線を廻らし、2本単位の平行花線を直下し縄文L.R充満層文。	2点の接合 11-7
7 8	3	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	口縁に沿って幅広い花線を廻らし、下部縄文R.L充満層文。	10-5
7 8	4	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	口縁に沿って2本の花線を廻らし、花線間に半截竹管の押引きを施す。	7 8
7 8	5	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	2本の腰帯を横位に貼付し、縄文R.L層文後、腰帯に沿って充満層文。	7 8
7 8	6	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	横位に腰帯を貼付し、縄文R.L層文後、腰帯に沿って花線層文。	7 8
7 8	7	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	腰帯と花線で文様区画し、区画内縄文R.L充満層文。腰帯上に目録刷状を施す。	10-8
7 8	8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	縄文R.L層文後、花線直下。	10-7
7 8	9	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	花線直下し、縄文R.L充満層文。	7 8
7 8	10	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8
7 8	11	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	花線を直下し縄文R.L充満層文。縄文部に花線で腰手層文。	10-8
7 8	12	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	結条体L。	
7 8	13	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	縄文R.L。	3点の接合
7 8	14	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	縄文R.L層文後、花線直下。	10-7
7 8	15	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	7 8	結条体L層文後、花線直下。	7 8

第145回16 第142回	深鉢 胴底	夏土 割底	破片	細粒砂含 良好	黒い赤 褐色	枕縁を垂下し、縦方向条線状襷縁文。	10-7
# 17	#	#	#	#	#	2本単位の平行枕縁を垂下し、縦方向条線状襷縁文。	2点の組合 10-7
# 18	#	#	#	#	#	#	10-7
# 19	#	#	#	#	区別弱 色	縦方向条線襷縁文。	#
# 20	#	#	#	#	黒い赤 褐色	縦方向条線襷縁文後、3本単位の枕縁で連続状襷縁文。	13-1

B区 第165号住居跡

図版番号 検出番号	器種	出土位置 遺存状況	底面 (cm)	出土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第147回1 第142回	深鉢 中体土器 口縁部が胴下半次く		底(10.4) 成(10.4)	粗粒砂・小礫 含、良好	黒褐色	胴中にいくびれを有する。	2本単位の平行枕縁を垂下し、縦文R.L.光線襷縁文。	16点の組合 10-7
# 2	# 埋蓋 底底		底 8.0 成(17.7)	細粒砂・礫含 良好	黒褐色		数本の枕縁を垂下し、間は縁形枕縁襷縁文、波状枕縁下。上半部には縦文R.L.襷縁文。	27点の組合 14-1

Z区 第4号土坑

図面番号 棟四番号	種類	出土位置 遺存状況	厚目 (cm)	焼成	土 色調	形状・形状の特徴	文 様	備考
第225回1 第1435版	深鉢 No.1 口縁部		破片	粗粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部内溝。	横帯と比喩で文様区画し、区面向横文R.L.充塞施文。	10-5 A
第 2 回	深鉢 No.2 腹土		破片	良好	鈍い褐色	胴中心におよぶにくびれを有する。	2本単位の平行比喩を帯下し、横文R.L.縦方向充塞施文。	10-7 A

Z区 第5号土坑

図面番号 棟四番号	種類	出土位置 遺存状況	厚目 (cm)	焼成	土 色調	形状・形状の特徴	文 様	備考
第225回1 第1435版	深鉢 底面直上 胴下半を欠く		破片	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	胴上位にくびれを有し、口縁部内反。	口縁部は横文R.L.施文後、横帯で帯門区画及び満巻施文。胴部は2本単位の平行比喩を帯下し。	10-5 A
第 2 回	深鉢 No.2 口縁部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部内溝。	横帯と比喩で文様区画し、区面向横文R.L.充塞施文。	第 2 回
第 3 回	深鉢 No.3		破片	細・粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色	良好	横帯と比喩で帯門区画し、区面向横文R.L.充塞施文。	第 3 回
第 4 回	深鉢 No.4		破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色	良好	横帯と比喩で文様区画。	第 4 回
第 5 回	深鉢 No.5		破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色	良好	横帯及び幅広い比喩で文様区画。	第 5 回
第 6 回	深鉢 No.6		破片	粗粒砂含 良好	明赤褐色	口縁部内溝し、波状口縁。	横文R.L.斜方向施文後、幅広い比喩を口縁に沿って帯下す。	第 6 回
第 7 回	深鉢 No.7		破片	粗粒砂含 良好	褐色	良好	横文L.R.施文後、2本単位の平行比喩を帯下す。	10-4

第255号 第143号版	深鉢	甑土 胴部	破片	細粒砂合 良好	黒い褐色	縄文LR。	
# 9	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	黒い黄 褐色	縦方向条線施文。	
# 10	#	#	#	細粒砂合 良好	黒い褐色	沈線を垂下し、斜方向に施文。	
# 11	#	#	#	#	褐色	隆帯で文様区画。	10-5 A

Z区 第14号土坑

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第265号 第143号版	深鉢	甑土 口縁部	破片	細粒砂合 良好	灰褐色	突起を有する。	突起に沿って平行沈線を施文し、口縁部上端に斜交を連続施文。下部は 棒状付文・ヒタテ状付文を施す。	5-2
# 2	#	甑土 胴部	#	#	黒い褐色		隆帯と沈線で文様区画。下部は2本単位の平行沈線を垂下し、区画内周 文RLを順施文。	10-8
# 3	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	黒い赤 褐色		縄文RL。	12-2

Z区 第16号土坑

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考	
第265号 第143号版	深鉢	No.1 口縁部	破片	細粒砂合 良好	褐色	耳状の突起を有する。		隆帯と沈線で隆帯区画区画し、区画内周文RLを順施文。突起部上端は縦手 状。	10-1
# 2	#	No.2 口縁部	#	#	黒い黄 褐色	口縁部内凹。		口縁部内凹は横方向、下部は縦方向に縄文RL施文後、縦手状沈線施文。11-1	11-1
# 3	#	No.3 口縁部	#	細・粗粒砂合 良好	灰褐色	#		隆帯と沈線で文様区画。	10-5 A

第260号 第143号版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 良好	明褐色 色	口縁部外面肥厚。	10-5 A
5	#	#	#	#	灰い黄 褐色	覆文R L横方向施文。	11-1
6	#	#	#	#	細・粗粒砂・小礫 含、良好	口縁に沿って細粒沈積を認め、覆文R L充塞施文。	#
7	#	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	口縁に沿って腐葉等を認め、下部に覆文R L施文。	11-7
8	#	#	#	#	明赤褐色 色	口縁に沿って沈積を認め、下部は沈積で文様区画。	10-8
9	#	#	#	#	灰黄褐色 色	覆文R L施文並、兼手状沈積施文。	11-1
10	#	覆土 胴部	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	沈積で文様区画し、縦方向条線施文。	10-8
11	#	覆土 口縁部	#	#	明赤褐色 色	隆帯と沈積で文様区画し、覆文R L充塞施文。	#
12	#	No.4 胴部	#	#	細・粗粒砂・小礫 含、良好	上部は隆帯で文様区画し、下部は上部が断片状の沈積を垂下し、覆文R L充塞施文。	#
13	#	No.5 胴部	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	2本単位の平行沈積及び「U」字状・兼手状沈積を認め、区画内覆文R L充塞施文。	#
14	#	No.6 胴部	#	#	細粒砂含 良好	2本単位の平行沈積を垂下し、覆文R L充塞施文。	10-7 A
15	#	覆土 胴部	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	沈積で文様区画し、覆文R L充塞施文。	10-8
16	#	#	#	#	明赤褐色 色	覆文R L。	10-7 A
17	#	No.7 胴部	#	#	明褐色 赤褐色	3本単位の平行沈積を垂下し、覆文R L充塞施文。	#

第1期 縄文時代

図版番号 第四番号	深鉢	出土 副部	破片	胎土 構成	胎色	文様	備考
第226図1 第1435図版	深鉢	副部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	胎色	沈澱を垂下し、縄文R L光澤施文。	10-8
第227図19 第1435図版	深鉢	副部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	胎色	「U」字状・垂下沈澱で文様区画し、区画内縄文R L光澤施文。	#
第230 #	深鉢	副部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	胎色	2本の沈澱を「U」字状に施し、区画内縄文R L光澤施文。	10-7A
第231 #	深鉢	副部	破片	細・粗粒砂含 良好	明赤褐色	3本単位の平行沈澱を垂下し、縄文R L光澤施文。	#
第232 #	深鉢	副部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	黄い褐色	沈澱を垂下し、縄文L R光澤施文。	#
第233 #	深鉢	副部	破片	粗粒砂 良好	明赤褐色	沈澱を垂下し、縄文R L光澤施文。	11-4
第234 #	深鉢	副部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黄い赤褐色	沈澱を単位に施し、縦方向に条線施文。	

Z区 第26号土坑

図版番号 第四番号	深鉢	出土 副部	破片	胎土 構成	胎色	胎形・胎形の特徴	備考
第227図1 第1435図版	深鉢	副部	破片	細粒砂含 良好	黄い褐色	胎形・胎形の特徴	10-2A

Z区 第27号土坑

図版番号 第四番号	深鉢	出土 副部	破片	胎土 構成	胎色	胎形・胎形の特徴	備考
第227図1 第1435図版	深鉢	副部	破片	細粒砂含 良好	黄い褐色	胎形・胎形の特徴	10-7A
第2 #	深鉢	副部	破片	胎土 構成	胎色	胎形・胎形の特徴	

深鉢 淵部	瓦土 淵部	破片	細粒砂含 貝好	浅黄褐色	形状・断面	2本単位での平行状線画下。 口縁に沿って沈線を描く。	#
# 3	瓦土 口縁部	#	#	棕色	口縁部内溝。		10-2A

Z区 第52号土坑

深鉢 淵部	瓦土 淵部	破片	細粒砂含 貝好	浅黄褐色	形状・断面	2本単位での平行状線画下。 口縁に沿って沈線を描く。	#
# 2	瓦土 口縁部	#	#	棕色	口縁部内溝。		10-2A
# 3	瓦土 淵部	#	細粒砂・小礫 含、貝好	浅黄褐色		隣帯で文様区画し、隣帯上に北周線画。	
# 4	瓦土 淵部	#	細粒砂含 貝好	灰白色		隣帯で文様区画し、隣帯上に斜めを入り、反面内は斜め状沈線画。	
# 3	瓦土 淵部	#	細粒砂・小礫 含、貝好	浅黄褐色		隣帯で文様区画。	
# 4	瓦土 淵部	#	細粒砂含 貝好	灰白色	胴部に強いくびれを有する。	隣帯で文様区画。 結帯体上層線画。	

Z区 第63号土坑

深鉢 淵部	瓦土 淵部	破片	細粒砂含 貝好	浅黄褐色	形状・断面	2本単位での平行状線画下。 口縁に沿って沈線を描く。	#
# 2	瓦土 口縁部	#	#	棕色	口縁部内溝。		10-2A
# 3	瓦土 淵部	#	細粒砂・小礫 含、貝好	灰白色		隣帯で文様区画し、隣帯上に北周線画。	
# 4	瓦土 淵部	#	細粒砂含 貝好	灰白色	胴部に強いくびれを有する。	隣帯で文様区画。 結帯体上層線画。	
# 2	瓦土 口縁部	#	#	棕色	口縁部内溝。		10-2A
# 3	瓦土 淵部	#	細粒砂・小礫 含、貝好	浅黄褐色		隣帯で文様区画し、隣帯上に北周線画。	
# 4	瓦土 淵部	#	細粒砂含 貝好	灰白色	胴部に強いくびれを有する。	隣帯で文様区画。 結帯体上層線画。	

№2285 第144段	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黒い褐色		縄文R.L.	10-7
№	6	No.1 胴部	#	粗粒砂・小礫 含、良好	褐色		#	#
№2295 第144段	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黒い褐色		#	#
№	8	No.2 胴部	#	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐色		#	#
№	9	覆土 底部	#	細粒砂含 良好	黒い褐色		無文、	10-2

Z区 第70号土坑

図版番号 換段番号	鉢種	出土位置 遺存状況	破片 (cm)	出土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
№2285 第144段	深鉢	No.1 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黒い赤褐色	口縁部内溝、	口縁部文様帯は、隆帯と並縁で胴区画及び両唇部文、胴部は北縁で「口」 字状及び垂手筋文、区画内は縄文R.L.横方向筋文。	10-6
№	2	覆土 口縁部突起	#	細粒砂含 良好	黒い赤褐色	波状口縁、内外面共に磨き有り。	内面幅広い波縁で垂手筋文。	10-5
№	3	覆土 口縁部	#	#	暗褐色	波状口縁	縄文R.L。口縁に沿って隆帯を帯す。	
№	4	#	#	#	明褐色		口縁に沿って隆帯と波縁を起らし、下部縄文R.L。	
№	5	覆土 胴部	#	#	褐色	胴部が「く」字状に屈曲し、外反する 口縁部を有する。	隆帯と幅広い波縁で文様区画し、区画内縄文R.L.充満筋文。肥前部に幅 広の波縁で垂手筋文。	
№	6	深鉢 胴部	#	#	灰褐色		隆帯で文様区画。	
№	7	No.3 胴部	#	#	明赤褐色		隆帯と波縁で文様区画し、区画内縄文R.L.充満筋文。	10-5

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	破片	胎土 構成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第29図8 第144図	陶片 副部	N.4 副部	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		隆帯と幅広い枕縁で、文様区画及び稜子指式、区画内織文R.L.充塞指文。	10-8
# 9 #	深鉢 副部	N.5 副部	#	#	鈍い黄 褐色		平行枕縁を垂下し、織文R.L.充塞指文後縁文付着。	10-7 B
# 10 #	# 副部	N.6 副部	#	#	黒褐色		織文R.L.	10-5

Z区 第81号土坑

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	破片	胎土 構成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第206図1 第135図	深鉢	底面直上	破片	粗粒砂含 良好	褐色	胴部が「く」字状となり、口縁部外反し内凹肥厚。非直にもろい。	口縁部織文で、胴部は隆帯で文様区画し、隆帯上に刻みを施す。	8-1

Z区 第84号土坑

図版番号 押印番号	器種	出土位置 遺存状況	破片	胎土 構成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第206図1 第144図	深鉢	瓦土 口縁部突起	破片	細粒砂含 良好	濁灰色	山形の突起を有する。	隆帯上押印。枕縁で渦巻・三文を施文。	8-1
# 2 #	# 副部	# 副部	#	#	鈍い赤 褐色	口縁部内凹し、胴部にくびれを有する。	口縁部とくびれ部に隆帯を施し、間に隆帯で渦巻指文。	10-2
# 3 #	# 副部	# 副部	#	#	鈍い褐色	口縁部内凹し、外凹肥厚。	隆帯と幅広い枕縁で文様区画し、区画内織文R.L.充塞指文。	10-5 A
# 4 #	# 副部	# 副部	#	#	#		枕縁を垂下し、織文R.L.充塞指文後、枕縁織文。	10-7 A
# 5 #	# 副部	# 副部	#	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		織文R.L.	10-7
# 6 #	# 副部	# 副部	#	細粒砂含 良好	暗赤灰 色		平行枕縁を垂下し、織文R.L.充塞指文後、胴中に枕縁織文。	10-8

第20区7 第144区版	深鉢	瓦土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	灰い褐色		陸帯で突起状遺物散在、下部褐色L。	
8	瓦土 胴部		#	#	灰い黄褐色		陸帯で文様区画し、褐色L。	10-5
9	瓦土 口縁部		#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤褐色	口縁部内寄。	口縁直下に輪郭み盛を築き、	10と同一個 体
10	瓦土 口縁部		#	#	赤褐色			9と同一個 体
11	瓦土 胴部		#	細粒砂含 良好	灰い褐色		褐色L。	
12	瓦土 胴部		#	#	灰い黄褐色		#	
13	瓦土 胴部		#	#	明赤褐色		褐色L上面文様、平行沈線直下。	
14	瓦土 胴部		#	粗粒砂・小礫 含、良好	灰黄色		2本単位の平行沈線直下、褐色不明。	10-7
15	瓦土 胴部		#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤褐色		無文。	
第21区16 第144区版	瓦土 胴部		#	細粒砂含 良好	明赤褐色		陸帯で文様区画し、区画内平行沈線及び褐色、陸帯上に斜めの刻みの溝を施し、下部は横方向条線施文。	9
17	瓦土 口縁部		#	#	#		粘土体L。	10-7
18	瓦土 胴部		#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		#	#
19	瓦土 胴・底部		底 高(10.7)	細粒砂含 良好	#		褐色L。	15-1
20	瓦土 口縁部		破片	#	明赤褐色	口縁部突起状、内面肥厚。	陸帯と沈線で文様区画。	10-2 A

Z区 第85号土坑

図録番号 探頭番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・器形の特徵	文様	備考
第231回1 第144回版	深鉢	甕土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黒褐色	内外面縁方向微凸。	隆帯で文様区画し、区画内に縦向き線文。隆帯上に奇みを極す。	
n 2 n	n	n	n	n	明赤褐色		沈線で文様区画。	
n 3 n	n	n	n	n	鈍い赤褐色	口縁部若干内湾。		
n 4 n	n	甕土 胴部	n	細粒砂含 良好	鈍い褐色		隆帯を始付し、平行沈線区画。	
n 5 n	n	n	n	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色		結条体上。	
n 6 n	n	n	n	n	棕色		結条体上施文後、2本の隆帯始付。	
n 7 n	n	n	n	n	鈍い赤褐色		結条体上。	
n 8 n	n	n	n	n	n	胴面にくびれを有する。	横文R L。	

Z区 第88号土坑

図録番号 探頭番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・器形の特徵	文様	備考
第231回1 第144回版	深鉢	甕土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾し、肥厚する。	隆帯と幅広い沈線で文様区画し、区画内横文R L充塞施文。	10-5 A
n 2 n	n	n	n	n	棕色		隆帯で文様区画。	n

第21区3 第14控版	夏土 口縁部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部内湾し、外距肥厚。	口縁部外湾肥厚。	隆帯と幅広い沈積で文様区画。	10-5 A
4						口縁部内湾し、外距肥厚。		隆帯と幅広い沈積で文様区画。	10-5
5				細粒砂含 良好	黄い赤 褐色	口縁部内湾し、内距肥厚。		口縁に沿って沈積を認め、間に指先による斬欠を認め、下部は縄文R L層文。	11-2 A
6					褐灰色	口縁部わずかに外反。		口縁に沿って沈積を認め、下部は縄文R L層文。	10-5
7				細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	器厚薄く、口縁部内湾。		沈積で「目」字状に文様区画し、区画内縄文R L充層部文。	11-1
8								口縁に沿って行形斬欠を施す。	11-2
9	夏土 胴部			細粒砂含 良好	黄い赤 褐色			隆帯貼付。	10-5
10				細粒砂・小礫 含、良好				隆帯と幅広い沈積で文様区画。	#
11								隆帯で文様区画。	12-3
12					黄い黄 褐色			隆帯と幅広い沈積で文様区画し、区画内縄文R L充層部文。	10-5
13				細粒砂含 良好				隆帯と沈積で文様区画し、区画内縄文R L充層部文。	12-3
14					褐灰色			平行沈積を著下し、縄文R L層方向充層部文。	10-7
15					灰黄褐色			沈積を著下し、縄文R L充層部文後、黒手印沈積部文。	10-8
16				細粒砂・小礫 含、良好	黄い橙 色			隆帯と幅広い沈積で文様区画し、区画内縄文R L充層部文。	#

第1節 編文時代

第231回17 第144回版	紙	覆土 刷部	破片	細粒砂含 良好	橙色	隆帯で文様区画し、黒文R.L.充填施文後、隆帯の両側に幅広沈線施文。	12-3
第 18 紙	紙	紙	紙	細粒砂・小礫 含、良好	黒い赤 褐色	平行沈線を重下し、黒文R.L.充填施文後、沈線重下。	10-7
第232回19 第144回版	紙	紙	紙	紙	紙	隆帯と幅広の沈線で文様区画し、区画内黒文R.L.充填施文。	
第 20 紙	紙	紙	紙	紙	黒い黄 色	紙	11-1
第 21 紙	紙	紙	紙	細粒砂含 良好	黒い橙 色	黒文R.L.	10-7
第 22 紙	紙	紙	紙	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	紙	紙
第 23 紙	紙	紙	紙	細粒砂含 良好	黒い橙 色	隆帯貼付後、黒文R.L.施文。若干隆帯上にも施文。	紙
第 24 紙	紙	紙	紙	紙	黒い黄 褐色	黒文R.L.	紙
第 25 紙	紙	紙	紙	紙	黒い橙 色	平行沈線を重下し、黒文R.L.充填施文。	10-7 B
第 26 紙	紙	紙	紙	紙	黒い黄 褐色	隆帯の黒文R.L.施文。	10-7
第 27 紙	紙	紙	紙	細粒砂・小礫 含、良好	黒い橙 色	沈線を重下し、黒文R.L.充填施文。	紙
第 28 紙	紙	紙	紙	紙	褐色	紙	10-7 B
第 29 紙	紙	紙	紙	紙	紙	沈線を重下し、区画内に縁杉沈線施文。	紙
第 30 紙	紙	紙	紙	紙	黒い赤 褐色	縁杉体L施文後、半幅竹管による平行沈線施文。	10-7 A

探検 探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検
第22031 第1405版												10-7
# 22 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 23 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 24 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 25 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	13-1

Z区 第95号土坑

探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検
第22031 第1405版												
# 2 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	10-7
# 3 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 4 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#

Z区 第98号土坑

探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検	探検 探検
第22031 第1405版												10-2
# 1 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#

第1節 縄文時代

9230図2 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.斜方向縄文。	10-2
93	#	#	#	#	褐色	口縁部内面肥厚。		
94	#	覆土 胴部	#	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色		隆帯と沈線で文様区画。	
95	#	覆土 口縁・胴部	#	細粒砂含 良好	鈍い黄褐色	胴部にくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯区画及び沈線、胴部は縄文R.L.	10-2 A
96	#	覆土 胴部	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填縄文。	10-7 B
97	#	#	#	#	鈍い赤褐色		結糸体L施文様、沈線で文様区画。	10-7
98	#	#	#	#	鈍い褐色		縄文R.L.施文様、平行沈線垂下。	10-4 A
99	#	#	#	#	明赤褐色		結糸体L施文様、沈線で文様区画。	10-7
100	#	#	#	細粒砂含 良好	赤褐色		平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填縄文。	#
101	#	#	#	#	褐色		結糸体L施文様、隆帯貼付。	#
102	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色		結糸体L。	#
103	#	#	#	#	鈍い褐色		縄文R.L.施文様、3本の沈線で文様区画。	10-1
104	#	#	#	細粒砂含 良好	明赤褐色		結糸体L施文様、隆帯貼付。	#
105	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	黒褐色		結糸体L施文様、沈線で文様区画。	

第223区16 第144段版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	赤い赤 褐色	無文。	
# 17 #	#	#	#	#	赤い橙 色	船形体L施文皿、2本の隆帯付。	
# 18 #	#	覆土 底部	#	#	赤い橙 色		15-2

Z区 第99号土坑

図録番号 標頭番号	鉢種	出土位置 遺存状況	破片 (cm)	胎土 焼成	色調	形状・整形の特徴	文	備考
第223区1 第144段版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	赤い黄 褐色	口縁部内凹。	縄文R.L施文皿、隆帯と花線で文様区画。	10-2 A
# 2 #	#	#	#	#	赤い橙 色		隆帯と花線で文様区画し、区画内縄文。	10-5
# 3 #	#	#	#	#	赤い赤 褐色	口縁部内凹。	船形体L施文皿、隆帯と花線で文様区画。	#
# 4 #	#	#	#	#	赤い黄 褐色		隆帯で文様区画。	#
# 5 #	#	#	#	#	灰褐色	口縁部平直で、外面若干起厚。	縄文R.L。	
# 6 #	#	#	#	#	赤灰色	口縁部に突起を有し、内凹。	船形体L施文皿、隆帯で文様区画。	10-5
# 7 #	#	#	#	#			船形体L施文皿、口縁に沿って隆帯付。	#
# 8 #	浅鉢	#	#	#	灰褐色	口縁部肥厚し、内外面置き。	無文。	10-3 A
# 9 #	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	赤褐色	#	#	#

第1期 縄文時代

第230510 第1402版									灰帯で文様区画。	10-7 A
# 11	#	灰土 口縁部	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色	#	#	細粒砂含 良好	口縁部文様帯は墨帯で区画及び褐色施文し、胴部は灰帯垂下。区画内縄文LR充満施文。	10-8
# 12	#	灰土 胴部	#	細粒砂・小礫 含、良好	#	#	#	細粒砂含 良好	2本単位の平行沈線を下し、縄文RL充満施文。	12-2
# 13	#	#	#	細粒砂含 良好	灰い褐色	#	#	細粒砂含 良好	灰帯で文様区画し、区画内縄文RL充満施文は沈線施文。	10-7
# 14	#	#	#	#	灰い褐色	#	#	#	灰帯で文様区画し、区画内縄文RL充満施文後、墨帯胴側にナデを施す。	#
# 15	#	#	#	#	明褐色	#	#	#	縄文RL。	10-7 A
# 16	#	#	#	#	灰い褐色	#	#	#	縄文RL施文後、3本の平行沈線垂下。	#
# 17	#	#	#	#	灰い黄褐色	#	#	#	2本単位の平行沈線を下し、縄文LR充満施文。	10-7
# 18	#	#	#	#	灰い褐色	#	#	#	沈線を下し、縄文LR充満施文。	#
# 19	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	縄文RL。	13-1
# 20	#	#	#	#	灰い赤褐色	#	#	#	縄文RL施文後、透面伏沈線施文。	10-7
# 21	#	#	#	#	褐色	#	#	#	縄文RL施文後、沈線垂下。	#
# 22	#	#	#	細粒砂含 良好	#	#	#	#	#	10-8
# 23	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰い赤褐色	#	#	#	沈線で文様区画し、縄文RL施文。	10-7

図版番号 押印番号	深	鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 量好	外周 内表	外周跡き	注	10-7
# 25 #	#	#	#	#	#	鈍い黄 褐色		注	注
# 26 #	#	#	#	#	#	#		注	注
# 27 #	浅	鉢	覆土 口縁部	#	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部に「く」字状に屈曲。	注	注

Z区 第100号土坑

図版番号 押印番号	深	鉢	出 土 位 置 遺 存 状 況	成 目 (cm)	胎 土 構成	色 調	器 形 ・ 装 形 の 特 徴	文 様	備 考
第23図1 第135図版	#	鉢	底面 復元完形	口 44.8 底(10.8) 高(66.5)	細粒砂含 量好	鈍い赤 褐色	口縁部に4単位の突起及び胴部にくびれを有する。		口縁部文様等は胎土と区別の精同区画及び「S」字状を施し、胎土帯との区別は胎土帯の胎土帯を越らす。胴部文様帯は2種の縄文LRで2段に施し、2本単位の胎土帯で順に産層する褐色を施し、褐色から黄褐色及び平行の胎土帯を垂下。

Z区 第116号土坑

図版番号 押印番号	深	鉢	出 土 位 置 遺 存 状 況	成 目 (cm)	胎 土 構成	色 調	器 形 ・ 装 形 の 特 徴	文 様	備 考
第23図1 第140図版	#	鉢	口縁部	破片	細粒砂含 量好	黒褐色	口縁部わずかに内湾。		胎土帯で文様区画し、区画内斜方向の平行状胎土帯。
# 2 #	#	#	#	#	#	褐色	口縁部内湾し、内面肥厚。		口縁に沿って胎土Rを胎土帯方向に施し、下部に胎土R L胎土。
# 3 #	#	覆土 胴部	#	#	#	鈍い褐色	胴部にくびれを有する。		平行状胎土帯を垂下し、胎土R L充満胎土帯、胎土帯胎土帯。
# 4 #	#	#	#	#	#	鈍い黄 褐色		#	#

第2353号 第1414号版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	褐色	沈降で文様区画し、縄文R.L.描文。	
6	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色	平行沈降を著下し、縄文R.L.充塞描文。	10-7 B
7	〃	〃	〃	〃	褐色	胴部と沈降で文様区画し、区画内縄文R.L.充塞描文。	
8	〃	〃	〃	〃	明褐色	沈降を著下し、縄文R.L.充塞描文。	10-7
9	〃	〃	〃	〃	鈍い褐色	縄文R.L.	〃
10	〃	〃	〃	〃	褐色	沈降で文様区画し、縄文R.L.描文。	〃
11	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色	沈降で文様区画し、区画内縄文R.L.充塞描文。	〃
12	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	粘全体L。	〃
13	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐色	胴部と沈降で文様区画し、縄文R.L.充塞描文。	〃
14	洗鉢	覆土 口縁部	〃	〃	鈍い黄 褐色	無文。	

Z区 第117号土坑

図版番号 標頭番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 成目 (cm)	土 質 焼成	色調	器形・器形の特徴	文様	備考
第2353号1 第1414号版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	褐色	胴部内溝。 口縁部内溝。	胴部と沈降で文様区画し、区画内縄文R.L.	10-2
2	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色		胴部と沈降で文様区画。	〃

第23503 第14回版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂合 貝好	灰い褐色		隙帯と辻縁で文様区画及び渦巻模文。	10-2 A
# 4	#	覆土 胴部	#	#	灰い褐色		2本単位の隙帯を重下し、縄文R.L.充塞模文。	10-7 B
# 5	#	#	#	#	#		辻縁を重下し、縄文R.L.充塞模文。	#
# 6	#	#	#	#	灰い褐色		縄文R.L.施文後、隙帯突出。	10-7
# 7	#	#	#	細粒砂・小礫 合、貝好	褐色		辻縁を重下し、縄文R.L.充塞模文。	10-7 B
# 8	#	#	#	#	#		#	10-7
# 9	#	#	#	#	灰い褐色		#	#
# 10	#	#	#	#	褐色		#	10-7 B
# 11	#	#	#	細粒砂合 貝好	#		縄文R.L.施文後、辻縁重下。	10-7
# 12	#	#	#	#	灰い褐色		縄文R.L.施文後、平嶋竹管で波状辻縁施文。	#
# 13	#	#	#	細粒砂・小礫 合、貝好	褐色		隙帯と辻縁で文様区画し、隙帯上に灰みを施す。	
# 14	#	覆土 底部	#	細粒砂合 貝好	灰い褐色		2本単位の隙帯を重下し、縄文L.R.施文。	15-2
# 15	#	土割門 蓋		#	灰褐色			

図版番号 標頭番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第236図1 第135図改	深鉢	覆土 胴下半を欠く	口(22.0) 底(28.0)	細粒砂含 良好	暗赤褐色	口縁部は内湾し、突起を持つ。胴部にくびれを有する。	口縁部は幅広い浅縁の柳井区画及び滑石施文。区画内縄文R.L。胴部は2本単位の平行波線を垂下し、縄文R.L.充填施文後兼手状波線施文。	10-6

Z区 第150号土坑

図版番号 標頭番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第236図1 第144図改	深鉢	覆土 胴下半を欠く。		細粒砂含 良好	褐色	4単位の突起を持ち、胴部はくびれ。口縁部「く」字状に内湾し、突起部外反。	口縁部は幅広い浅縁の柳井区画及び滑石施文。区画内縄文R.L.充填。胴部は2本単位の平行波線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-6

A区 第25号土坑

図版番号 標頭番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第236図1 第144図改	深鉢	覆土 胴部		細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		浅縁で「U」字状の文様区画をし、区画内縄文R.L.充填施文。	11-1?
第237図2 #	#	覆土 口縁部		細粒砂含 良好	鈍い褐色	波状口縁。	口縁にあたって隆帯を廻らし、下部に隆帯で滑石施文。区画内縄文L.R.充填施文。	10と接合 12-3
# 3 #	深鉢	No.1 口縁部		#	#		隆帯で柳井区画し、区画内斜方向波線施文。	10-2
# 4 #	覆土 口縁部	#		#	#		隆帯と浅縁で柳井区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	11-1
# 5 #	#	#		#	#		口縁部文様帯は隆帯で滑石、下部は線条体L層文。	10-3 A
# 6 #	#	No.2 口縁部		#	鈍い黄 褐色	内外部に磨き。	浅縁で柳井区画後、ナガを磨す。	
# 7 #	#	覆土 口縁部		#	黄灰色	波状口縁で外面肥厚。	口唇部内面に波線を廻らし、外面は縄文R.L.層文。	

第27区 第145段									無文。	
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	口縁に沿って花線を廻らし、下部縄文R.L.施文。	
10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	無文。	2と接合
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	無文。	
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	隣等で文様区画。	
13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	口縁に沿って花線を廻らし、下部縦方向条線施文。	11-8
14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	口縁に沿って花線を廻らし、下部状況条線施文。	〃
15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	隣等と花線で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	10-8
16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2本単位の比較で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	11-6
17	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2本単位の隣等帯で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	12-3
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	比較で「U」字状に区画し、区画内縄文L.R.施文。	10-8
19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	隣等と花線で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	花線を垂下し、縄文R.L.施文。	10-7
21	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2本単位の隣等帯で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	〃

深鉢	No.8 胴部	破片	細粒砂合 良好	産色		産色を垂下。	10-7
# 23 #	No.9 胴部	#	#	美しい 褐色		産帯で文様区画。	10-8
# 24 #	瓦土 胴部	#	#	#		2 本単位の化粧で文様区画し、区画内縄文R.L.光輝施文。	11-6
# 25 #	#	#	#	美しい赤 褐色	胴中にくびれを有する。	化粧で「U」「O」字状文様区画し、区画内縄文R.L.光輝施文。	11-3
# 26 #	No.10 胴部	#	#	褐色		細粒帯で文様区画し、区画内縄文L.R.光輝施文。	12-3
# 27 #	瓦土 胴部	#	#	美しい赤 褐色		産帯で文様区画し、区画内縄文R.L.光輝施文。	10-7
# 28 #	#	#	#	明赤褐色		2 本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.R.光輝施文。	#
# 29 #	#	#	#	美しい 褐色		2 本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.光輝施文。	#
# 30 #	#	#	#	美しい赤 褐色		#	#
# 31 #	No.11 胴部	#	#	美しい黄 褐色		#	#
# 32 #	瓦土 胴部	#	#	美しい赤 褐色		縄文R.L.	#
# 33 #	#	#	#	美しい黄 褐色		産帯で文様区画し、区画内縄文R.L.光輝施文。	#
# 34 #	#	#	#	美しい赤 褐色		化粧で「U」字状に文様区画し、区画内縄文L.R.光輝施文。	11-3
# 35 #	#	#	#	美しい黄 褐色		化粧を垂下し、縄文R.L.光輝施文。	

第27回26 第144回B	縦	靑土 剥部	破片	細粒砂含 良好	灰い褐色			横文R.L.	
37	縦			細粒砂・小礫 含、良好	褐色			#	
38	縦			細粒砂含 良好	灰褐色			沈降を垂下し、横文R.L.充満箇文。	
39	縦			#	灰い褐色			2本単位の平行沈降を垂下し、横文R.L.充満箇文。	10-7
40	縦			細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色			横文R.L.	#
第28回41 第144回B	縦	No.12 底部	底 9.0 高(9.0)	細粒砂含 良好	明赤褐色			2本単位の平行沈降を垂下し、横文R.L.を交互に縦方向充満箇文。	10-7 B
42	縦	靑土 剥部	破片	#	灰い黄褐色			横文R.L.箇文帯、2本の沈降で文様表出。	
43	縦			#	灰い褐色			絡糸体L。	
44	縦	No.13 剥部		#	褐色			沈降を垂下し、横文R.L.充満箇文。	
45	縦	靑土 剥部		#	灰い黄褐色			横帯で「U」字状に文様区画し、区画内横文R.L.充満箇文。	
46	縦			細粒砂・小礫 含、良好	灰い褐色			縦方向条痕箇文。	
47	縦	No.12 剥部		#	灰い黄褐色			#	
48	縦	靑土 剥部		細粒砂含 良好	褐色			縦方向条痕箇文帯、沈降で文様表出。	
49	縦			#	灰い褐色			縦方向条痕箇文。	

深鉢	No.14 胴部	破片	細粒砂含 貝殻	灰い赤 褐色		縦方向条線施文。
228650 第140段	# 51 # 胴土 # 胴部	#	#	#	胴部にくびれを有する。	#
# 52 # 胴土 # 胴部	No.15 # 胴部	#	#	明赤褐色		絡糸体L。
# 53 # 胴土 # 胴部	No.5 # 胴部	#	#	灰い黄褐色		斜方向条線施文。
# 54 # 胴土 # 胴部	No.18 # 胴部	#	#	褐色		#
# 55 # 胴土 # 胴部	No.17 # 胴部	#	#	灰い褐色		沈線直下。 10-7B
# 56 # 胴土 # 胴部	胴土 # 胴部	#	#	灰い赤褐色		沈線で褐色を施文し、沈線間に斜みを施す。
# 57 # 胴土 # 胴部	No.18 # 胴部	#	#	明赤褐色		沈線直下。
# 58 # 胴土 # 胴部	No.12 # 底部	底 5.8 # 高 13.7)	#	明赤褐色	若干突出、外面磨き。	13-2
# 59 # 胴土 # 底部	胴土 # 底部	破片	#	灰い黄褐色	右付、外面斜方向磨き、	13-4
# 60 # 胴土 # 口縁部	No.19 # 口縁部	#	#	#	口縁部若干内溝。	口縁部斜縁不定方向・下部斜方向施文。
# 61 # 胴土 # 胴部	胴土 # 胴部	#	#	灰い褐色	横状細子部割部。	隆部立文隆区磨し、区部内横文及L条線施文。
# 62 # 土製円 # 盤			#	赤褐色		

図面番号 陣四番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第238図1 第135図版	阿耳蓋 No.1 底部を欠く	口 22.4 高(22.0)	灰・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰い橙 色	口縁部「く」字に外反。胴部に2単位の 横状凹手を有する。	口縁部無文。胴部に横帯を廻らせる。胴部は縄文L.R。		

A区 第44号土坑

図面番号 陣四番号	器種	出土位置 遺存状況	底目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
第238図1 第136図版	深鉢	底土? 胴下半を欠く	口 22.3 高(15.8)	細粒砂含 良好	灰褐色	口縁部内湾し、胴中にくびれを有す る。最大径は胴上半部。	口縁に沿って横帯を廻らし、下部は「O」 字状及び断手状装飾を交互に配し文様区画し、区画内縄文R.L.充満 施文。	11-2 A
第2 第	口縁部	口縁部	口 36.0 高(19.0)	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色	口縁部内湾。	隆帯と横帯で胴区画及び小湾巻施文。区 画内は縄文R.L.充満施文。	10-5 B
第239図3 第144図版	阿土 口縁部	阿土 口縁部	破片	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、胴中にくびれを有す る。最大径は胴上半部。	幅広の横帯で「O」字状及び断手状に施 文し、区画内及び口縁部に縄文L.R.充 満施文。	11-1
第4 第	阿土 口縁部	阿土 口縁部	阿土 口縁部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、胴中にくびれを有す る。最大径は胴上半部。	口縁部文様帯は幅広の横帯で胴区画し 、区画内縄文R.L.充満施文。胴部は 縄文R.L.。	10-5 B
第5 第	阿土 胴部	阿土 胴部	阿土 胴部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、内部肥厚。	口縁に沿って横帯を廻らし、下部は「O」 字状に横帯で区画し、区画内 縄文R.L.充満施文。	11-2 A
第6 第	阿土 胴部	阿土 胴部	阿土 胴部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、内部肥厚。	口縁に沿って横帯を廻らし、上部に列点 、下部は縄文R.L.施文。	第
第7 第	阿土 胴部	阿土 胴部	阿土 胴部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、内部肥厚。	口縁に沿って横帯を廻らし、上部に列点 、下部は縄文R.L.施文。	第
第8 第	阿土 胴部	阿土 胴部	阿土 胴部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、内部肥厚。	口縁に沿って横帯を廻らし、上部に列点 、下部は縄文R.L.施文。	10-8
第9 第	阿土 胴部	阿土 胴部	阿土 胴部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、内部肥厚。	口縁に沿って横帯を廻らし、上部に列点 、下部は縄文R.L.施文。	第
第10 第	阿土 胴部	阿土 胴部	阿土 胴部	灰褐色	灰褐色	口縁部内湾し、内部肥厚。	口縁に沿って横帯を廻らし、上部に列点 、下部は縄文R.L.施文。	第

探跡 深 鉢 " 12 " "	深 鉢 " "	破 片 " "	焼 色 灰赤色	2 本単位の平行状織を垂下し、織文R.L.縦方向に充満織文。 2 本単位の平行状織を垂下し、縦方向に縁充満織文。	
器 種 深 鉢	出 土 位 置 深 鉢	厚 目 (cm) 口 38.0 底 径 24.4 高 36.4	加 土 焼 成 細粒砂含 良好	器 形・装 形 の 特 徴 胴中にくびれを有し、口縁部に最大径を有する。	備 考 10-5 A 口縁部文様は織帯と花織で幅内織文R.L.充満織文、胴部は2本単位の平行状織を垂下し、織文R.L.を交互に縦方向に充満織文。

A区 第112号土坑

器 種 深 鉢	出 土 位 置 深 鉢	厚 目 (cm) 口 44.8 底 径 34.2 高 43.2	加 土 焼 成 粗粒砂含 良好	器 形・装 形 の 特 徴 口縁部内溝し、胴中にくびれを有する。	備 考 13-1 口縁に沿って2本、くびれ部に3本の沈線を施らし、間に刺突。織文R.L.織文織、上半部に花織で連続状等織文。
------------	-------------------	---	--------------------------	-------------------------------------	--

A区 第188号土坑

器 種 深 鉢	出 土 位 置 深 鉢	厚 目 (cm) 口 22.4 底 径 14.8 高 42.4	加 土 焼 成 細粒砂・小礫 含、良好	器 形・装 形 の 特 徴 胴中に最大径を有し、口縁部内傾。胴状の足子は2単位。	備 考 16-1 ? 胴上半及び把手部に織文L.R.を織文し、胴部に円形刺突を有するボタン状刺突を施す。
------------	-------------------	---	------------------------------	---	--

A区 第210号土坑

器 種 深 鉢	出 土 位 置 深 鉢	厚 目 (cm) 口 44.8 底 径 34.2 高 43.2	加 土 焼 成 粗粒砂含 良好	器 形・装 形 の 特 徴 口縁部若干内溝し、胴中にくびれを有する。	備 考 10-3 A 口縁部文様は織帯と花織で幅内織文及び高巻織文、区部内及び胴部上半部全体L。下半は各縁で花織織下。
------------	-------------------	---	--------------------------	---------------------------------------	---

図番 探検番号	深 林	覆 土	瓦 土	破 片	土 質	色 調	器 形・整 形の特 徴	文 様	備 考
第241図4 第171図版			瓦土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 藍色	板状口縁。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内横文R L充満施文。	10-1
〃 〃	〃	〃	瓦土 胴部	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		細い浮線文沈線帯を重下し、沈線で文様区画、区画内横文L R充満施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	〃		隆帯区画後、横文R Lを施文し、隆帯に沿って沈線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い暗 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内横文R L充満施文。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い小 藍色		沈線を重下し、横文L R充満施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		沈線で文様区画し、区画内横文L R充満施文。	10-1

A区 第239号土坑

図番 探検番号	深 林	覆 土	瓦 土	破 片	土 質	色 調	器 形・整 形の特 徴	文 様	備 考
第242図1 第145図版			No.1 胴下半を欠く	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	突起を有する。	口縁部は隆帯と沈線で横円区画及び渦巻施文、胴部は2本単位の平行沈線を重下し、区画内及び沈線間横文R L充満施文。	10-5 A
〃 〃	〃	〃	No.2 胴部大型破片	〃	〃	〃	〃	沈線を重下し、横文R L充満施文。	10-7 B
〃 〃	〃	〃	瓦土 口縁部	〃	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	〃		隆帯と沈線で横円区画及び渦巻施文し、区画内横文R L R充満施文。	10-5
〃 〃	〃	〃	瓦土 胴部	〃	細粒砂含 良好	鈍い暗 色		隆帯と沈線で文様区画し、下部に横文R L R施文、横文は隆帯上に通ずる。	10-7 B
〃 〃	〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		隆帯で文様区画。	10-7 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃		沈線を重下し、横文R L充満施文。	10-7 B

第1節 縄文時代

第2425号7 第14586枚									2 本単位の平行沈線を垂下し、縄文R L光輝織文。	10-5
# 8	#	#	#	#	#	#	#	#	同様にナギを施す陸海垂下。	#
# 9	#	#	#	#	#	#	#	#	2 本単位の平行沈線垂下し、縄文L光輝織文。	10-7
# 10	#	#	#	#	#	#	#	#	沈線を垂下し、縄文R L R光輝織文。	#
# 11	#	#	#	#	#	#	#	#	2 本単位の平行沈線を垂下し、縄文L光輝織文。	#
# 12	#	#	#	#	#	#	#	#	沈線で文相区画し、区画内縄文R L光輝織文。	11-6
# 13	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文R L。	10-7
# 14	#	#	#	#	#	#	#	#	沈線を垂下し、縄文R L光輝織文。	#
# 15	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文R L。	#
# 16	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 17	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文L。	#
# 18	#	#	#	#	#	#	#	#	縄文R L。	#
# 19	#	#	#	#	#	#	#	#	結晶体L。	#
# 20	#	#	#	#	#	#	#	#	2 本単位の平行沈線垂下。	#

A区 第240号土坑

図面番号 棟図番号	種類	出土位置 遺存状況	深度 (cm)	出土 構成	色調	形状・形状の特徴	文	備考
第2425/1 第1360/2	深林 掘削部	掘削部	高(12.0)	細・粗粒砂・ 砂含、良好	灰い赤 褐色	台付で胴中心に凹らみを有する。		10-1?

A区 第248号土坑

図面番号 棟図番号	種類	出土位置 遺存状況	深度 (cm)	出土 構成	色調	形状・形状の特徴	文	備考
第2430/1 第1450/2	深林	掘削部 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫石、良好	灰い橙 色	胴中心にくびれを有し、口縁部内湾。		10-2 A
第 2	深林	掘削部	破片	細粒砂・小礫 石、良好	灰い橙 色	胴中心におろかにくびれを有する。		併
第 3	深林	掘削部	破片	粗粒砂・小礫 石、良好	褐色	胴中心にくびれを有する。		5と接合 10-3
第 4	深林	掘削部	破片	細粒砂・小礫 石、良好	灰い橙 色			10-3
第 5	深林	掘削部	破片	細・粗粒砂・ 小礫石、良好	明赤褐 色			3と接合 10-3
第 6	深林	掘削部	破片	細粒砂含 良好	灰い橙 色	口縁部内湾し、外周即厚、内外面に 磨き。		

A区 第274号土坑

図面番号 棟図番号	種類	出土位置 遺存状況	深度 (cm)	出土 構成	色調	形状・形状の特徴	文	備考
第2430/1 第1450/2	深林	掘削部	高(6.8)	細粒砂含 良好	灰い赤 褐色	胴中心におろかにくびれを有する。		10-5 A

調査区 番号	深鉢 番号	深鉢 種類	出土位置 番号	出土位置 状況	底層 深さ (cm)	土質 種類	土質 色調	土質 形状・状態	土質 色調	口縁部内情	調査 内容	調査 結果
第243区 第145図版	# 3	深鉢	#	覆土 口縁・胴部	口縁高 (10.0)	細粒砂合 良好	鈍い赤 褐色	口縁部内情。	#	縄文R L R	#	15-1
第244区 第145図版	# 5	深鉢	#	覆土 口縁部	#	#	鈍い赤 褐色	口縁部平坦。	#	口縁に沿って黒帯を廻らし、下部縄文R L。	#	10-5
# 6	#	深鉢	#	#	#	#	褐色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	沈積で文様区画し、区画内縄文R L。	#	#
# 7	#	深鉢	#	#	#	#	鈍い橙 色	口縁部内外面肥厚、上部で「く」字状 に外死。	#	無文。	#	#
# 8	#	深鉢	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	灰青層 色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	無文。	#	#
# 9	#	深鉢	#	覆土 胴部	#	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	縄文R L	#	10-7
# 10	#	深鉢	#	#	#	細粒砂合 良好	鈍い褐 色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	2 本単位の黒帯を垂下し、縄文R L 底文。	#	#
# 11	#	深鉢	#	#	#	#	橙 色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	縄文R L。	#	#
# 12	#	深鉢	#	#	#	#	灰褐色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	口縁部内情し、区画内縄文R L 底文。	#	#
# 13	#	深鉢	#	覆土 底部	#	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	口縁部内情し、内外面に磨き。	#	無文。	#	15-2

A区 第301号土坑

調査 番号	深鉢 番号	出土位置 番号	出土位置 状況	底層 深さ (cm)	土質 種類	土質 色調	土質 形状・状態	調査 内容	調査 結果
#	#	#	#	#	#	#	#	#	#

図番 第145図	深 鉢 # 2 #	覆 土 附 部	破 片	細・粗粒砂含 良好	黒褐色 赤い褐色	10-7 A
# 2 #	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	赤い褐色	2 本単位の平行花線を垂下し、縦方向を軸とする。縦文R.L.を縦置文。
# 3 #	#	#	#	細粒砂含 良好	#	#
# 4 #	#	#	#	#	赤い赤 褐色	2 本単位の平行花線を垂下し、沈線間斜方向を軸とする。縦文R.L.を縦置文。
# 5 #	#	#	#	#	赤い褐色	2 本単位の平行花線を垂下し、縦方向を軸とする。縦文R.L.を縦置文。
# 6 #	#	#	#	#	灰褐色	#
# 7 #	#	#	#	細粒砂・赤褐色 色粒子含良好	赤い褐色	14-1

A区 第320号土坑

図番 第145図	深 鉢 # 2 #	覆 土 附 部	破 片	細・粗粒砂含 良好	黒褐色 赤い褐色	10-2 B
# 2 #	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好	赤い褐色	落着と花線で文様区画し、区画内縦方向を軸とする。縦文R.L.を縦置文。
# 3 #	#	#	#	#	#	2 本単位の平行花線を垂下し、縦文R.L.縦方向を軸とする。縦文R.L.を縦置文。
# 4 #	#	#	#	#	#	#
# 5 #	#	#	#	#	#	#

第24606 第1450版	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		陸等と枕縁で文様区画。	12-2 A
7 #	#	#	#		縄文R L 断文後、枕縁断文。	
8 #	#	#	#		2 本単位の平行枕縁を垂下し、縄文R L 断文。文。	10-7 B
9 #	#	#	#		#	#
第24610 第1450版	No.1 断片	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		枕縁垂下後、縄文R L 断文。文。	#
11 #	#	#	#		枕縁垂下後、縄文R L 断文。文。	#
12 #	#	#	#		#	#
13 #	No.2 断片	細粒砂・褐色 粘土含、良好	灰褐色		枕縁垂下。	#
14 #	#	#	#		枕縁で文様区画。	

A区 第333号土坑

図版番号 挿入番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 破目 (cm)	胎土 焼成	色調	形状・装飾の特徴	文様	備考
第24951 第1495版	深鉢 口縁部	#	#	細・粗粒砂・小礫 含、良好	灰褐色 赤褐色	口縁部外周肥厚。 口縁部わずかに内折。	口縁に沿って枕縁を廻らし、下部縄文R L 断文。	10-5 B
2 #	#	#	#	#	#	#	枕縁で栴檀区画し、区画内縄文R L 断文。文。	10-5 B
3 #	#	#	#	細・粗粒砂・小礫 含、良好	灰褐色 赤褐色	口縁部内外周肥厚。	口縁に沿って幅広い枕縁を廻らし、下部は枕縁で文様区画し、区画内縄文R L 断文。文。	10-5

第24504 第14309版	深 鉢 口縁部	覆 土 口縁部	破 片	灰・粗粒砂・ 小礫含、良好 色	口縁部わずかに内傾。	口縁に沿って沈積を認めず。	10-5
# 5 #	洗 鉢	#	#	細・粗粒砂・ 小礫含、良好 褐色	口縁部外周突起状に肥厚し、口縁部平 坦で内傾。	口縁に沿って2本沈積を認め、下部は腐で文様取出。	#
# 6 #	深 鉢 胴 部	覆 土 胴 部	#	細粒砂・小礫 含、良好 褐色	#	胴帯で褐色腐文。	#
# 7 #	#	#	#	#	#	沈積を垂下し、縄文R L光輝腐文。	10-7
# 8 #	#	#	#	細・粗粒砂含 良好 黄褐色	胴部湾曲。	2本の沈積で渦巻状文様区画し、区画内縄文R L光輝腐文。	#
# 9 #	#	#	#	細粒砂・小礫 含、良好 褐色	#	胴帯と沈積で文様区画し、区画内縄文R L光輝腐文。	11-6
# 10 #	#	#	#	灰・細・粗粒砂・ 小礫含、良好 外状は 黄褐色 内底は黄 褐色	#	胴帯と沈積で文様区画し、区画内糸線文輝腐文。	#
# 11 #	#	覆 土 胴 部	#	細粒砂含 良好 黄褐色	#	胴帯で文様区画し、下部は平行沈積を垂下し、糸線文輝腐文。	#

B区 第101号土坑

図録番号 押印番号	鉢 種	出 土 位 置 遺 存 状 况	厚 目 (cm)	焼 成	色 調	形 形 ・ 装 形 の 特 徴	文 様	備 考
第24651 第13792版	深 鉢	土坑掘上中位 口縁部を欠く	破 片	細粒砂含 良好	明赤褐色	胴上半にくびれを有し、下半に最大径 を持つ。胴部は若干突出。	口縁部文様帯は胴帯と沈積で文様区画し、胴部は縄文L R 縦方向腐文後、 3本単位の文様で胴口及び胴縁部腐文。	9-10-1
# 2 #	#	覆 土 口縁部	#	細粒砂・小礫 含、良好	#	口縁部外周肥厚。	腐文。	#
# 3 #	#	#	#	#	褐色	口縁部外反し、胴方向湾き。	#	#
# 4 #	#	覆 土 胴 部	#	細粒砂含 良好	明赤褐色	沈積で文様区画し、区画内縄文R L。	#	10-8 ?

第246回5 第145図版	深鉢	甕土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	黒い赤 褐色		沈腔を垂下し、縄文R L R充満施文。	10-7
7 7	#	#	#	#	褐色		縄文R L施文後、沈腔垂下。	#
7 7	#	#	#	#	黒い褐色		縄文R L。	#
7 7	#	#	#	#	明赤褐色		結全体L。	#
7 7	#	#	#	#	褐色		沈腔を垂下し、縄文Lを充満施文後、ナズ状の沈腔施文。	#
7 7	#	#	#	#	暗赤褐色		結全体L。	#
7 7	#	#	#	#	黒い赤褐色		横位の平行沈腔施文。	#
7 7	#	#	#	#	明褐色	器面は凹凸があり、磨きも丁寧でない。	沈腔垂下。	10-7
7 7	#	#	#	#	黒い褐色	器面丁寧な磨き。	沈腔で文様区画し、区画内に黒い縄文L R充満施文。外面未達。	
第247回14 7	深鉢	甕土 底面	破片	細粒砂・小礫 含、良好	明褐色		隆帯で横円区画。褐色を施し、区画内縄文R L充満施文後、隆帯に沿って平威竹管で沈腔施文。	9~10-1
7 7	#	#	#	#	褐色	器面が欠れている。	沈腔垂下。	10-7
7 7	#	#	#	#	黒い褐色		縄文R L。	15-1

B区 第102号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	底面 高(cm)	胎土 焼成	色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
--------------	----	--------------	-------------	----------	----	----------	----	----

深鉢	覆土 口縁部を欠く	破片	細・粗粒砂含 良好	褐色	割断上位に細くみを有し、底部突出、 割断は下半まで横文取し、基部付足は横文。	10-1?
----	--------------	----	--------------	----	---	-------

B区 第130号土坑

図原番号 検出番号	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	褐色	割断上位に細くみを有し、底部突出、 割断は下半まで横文取し、基部付足は横文。	10-7
第249回1 第145回版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	緑い赤 褐色	2本単位の平行沈線を垂下し、横文R.L.充填施文。	10-7
第2 第	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	緑い黄 褐色	幅広い沈線で文様区画し、区画内横文R.L.充填、下部は縦方向条線施文。	
第3 第	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	褐色	無文。	15-3

B区 第144号土坑

図原番号 検出番号	深鉢	覆土 割下半を欠く	破片	粗粒砂含 良好	赤褐色	割断中にくびれを有する。	10-3 A
第249回1 第147回版	深鉢	覆土 割下半を欠く	破片	粗粒砂含 良好	赤褐色	割断中にくびれを有する。	横文R.L.施文後、底帯で横円及び渦巻施文、下部は波状及び渦巻を付す 2本の後野垂下。
第2 第	深鉢	覆土 大型破片	破片	粗粒砂含 良好	褐色	頸部が「く」字状に突出し、口縁部内 面肥厚。	口縁部無文、頸部に円形刺突を有する沈線と波状施帯を施らし、胴部は 縦方向波線施文後、底帯垂下付。
第249回3 第145回版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	緑い粗 色	口縁部内側へ、外面肥厚。内外部に 際る。	内外面未達。
第4 第	深鉢	覆土 口縁部	破片	粗粒砂含 良好	緑い赤 褐色	沈線と沈線で文様区画し、区画内横文の沈線施文。	10-2
第5 第	深鉢	覆土 胴部	破片	粗粒砂含 良好	褐色	底帯と沈線で文様区画し、区画内横文R.L.充填施文。	
第6 第	深鉢	覆土 口縁部	破片	粗粒砂含 良好	褐色	縦方向条線施文後、口縁に沿って2本の沈線を施らす。	

第25087 第1452号版	深鉢	取土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	灰褐色		斜方向条線施文後、口縁に沿って2本の沈線を施らす。	11-8
8	浅鉢					口唇部平坦で、内外面に磨き。	口唇部に沈線を施らす。	
9	深鉢	取土 胴部			灰褐色		胴部で文様反画し、反面内側文R.L.充満施文後、横帯に沿って沈線施文。	
10				細粒砂・小礫 含、良好	灰黄 褐色		縦文R.L.	10-4
11				細・粗粒砂含 良好	灰黄 褐色			
12				細粒砂含 良好				
13					灰褐色			
14					灰赤 褐色		縦文R.L.施文後、3本の沈線施文。	
15						胴部にくびれを有する。	縦文R.L.	
16					灰褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縦文R.L.充満施文。	10-7
17					灰褐色		縦文R.L.施文後、沈線施文。	
18					灰黄 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縦文R.L.充満施文。	10-7
19					灰赤 褐色		縦文R.L.施文後、横帯に沈線を施らし、沈線で文様反出。	10-4
20							縦文L.R.施文後、横帯附付。	10-7

第25(8)21 第14566版									鉄帯で文庫区画し、区画内押引き文2本線文。	
# 22 #	#	#	#	#	#	#	#	#	横文R L。	10-7
# 23 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#
# 24 #	#	#	#	#	#	#	#	#	結糸体L。	#
# 25 #	#	#	#	#	#	#	#	#	横文R L。	#
# 26 #	#	夏土 剥部	#	#	#	#	#	#	2本単位の鉄帯と横紋沈線並下後、7本の沈線を単位施文し、上下に縦 方向糸線施文。	14-2
# 27 #	#	#	#	#	#	#	#	#	鉄帯で文庫区画し、斜方向糸線施文後、鉄帯に沿って沈線施文。	
# 28 #	#	#	#	#	#	#	#	#	縦方向糸線施文後、2本単位の沈線で文庫区画。	
# 29 #	#	#	#	#	#	#	#	#	斜方向糸線施文。	
# 30 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	
# 31 #	#	#	#	#	#	#	#	#	#	10-7
# 32 #	#	夏土 底層	#	#	#	#	#	#	3本単位の平行沈線並下。	15-2
# 33 #	#	#	#	#	#	#	#	#	横文R L。	#
# 34 #	#	#	#	#	#	#	#	#	断面単位糸線施文。	#

B区 第148号土坑

図面番号 神田番号	種類	出土位置 遺存状況	度目 (cm)	出土 焼成	色調	形状・装形の特徴	文様	備考
第251図1 第1482版	深鉢	No.1 胴部	破片	細・粗粒砂・ 小礫石、良好	深い褐色		口縁部文様帯は幅広い文様区画で、区画内縦文L・R光線文、斜帯は2本、 単位の平行沈線を下し、縦文L・R光線後、波状沈線文。 口縁部は平行沈線を垂下し、波状条線文。	10-5 A H
第2 H	H	H	H	H	H			H
第3 H	H	口縁部	H	微・粗粒砂・ 小礫石、良好	深い褐色	口縁部内傾し、内面肥厚。	口縁に沿って円形刻点を施し、沈線で文様区画、縦文R・L施文。	11-1
第4 H	深鉢	No.1 胴部	H	細・粗粒砂・ 小礫石、良好	深い褐色		縦文R・L施文後、平行沈線及び波状沈線垂下。	10-7
第5 H	H	甑土 胴部	H	H	深い赤褐色		平行沈線垂下後、縦文R・L光線施文。	H
第6 H	H	H	H	細粒砂・小礫 石、良好	深い黄褐色		沈線垂下後、縦文R・L光線施文。	H
第7 H	H	H	H	H	深い褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縦文R・L光線施文。	H
第8 H	H	H	H	H	褐色		H	H
第9 H	浅鉢	No.2 口縁部	H	細・粗粒砂・ 小礫石、良好	深い赤褐色	口縁部内傾し、肥厚する。口唇部平直 で内傾。	沈線と沈線で酒帯と文様区画をする。	

B区 第149号土坑

図面番号 神田番号	種類	出土位置 遺存状況	度目 (cm)	出土 焼成	色調	形状・装形の特徴	文様	備考
第251図1 第1482版	深鉢	No.1 胴下半を欠く	口 26.8 高(19.6)	細粒砂含 良好	褐灰色	胴中に強い張り出しを有する。 胴中に強い張り出しを有する。	口縁部に沿って幅広い沈線及び刻点を施し、酒帯と沈線で文様区画、胴 部は「U」字状に沈線区画と横字状沈線施文、縦文R・L。	10-8

探検番号 四角番号	測体 測体	測体 No.2 胴部	破片	細粒砂含 良好	色調 強い黄 褐色	形状・整形の特徴	文様	備考
第223回2 第145回探							平行沈線を垂下し、横文R L充塞施文後、波状沈線施文。	10-7
第223回1 第137回探	測体 No.1 本文完形		高さ 8.0 高(28.0)	細粒砂含 良好	強い黄 褐色	胴中にくびれを有し、二次突起で、 歪みが大きい。	2本単位の平行沈線を垂下し、横文R L充塞施文後、波状沈線垂下。	10-6
第223回2 第145回探	測体 No.2 胴部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		胴帯で胴帯等文様区画し、区画内横文R L充塞施文後、胴帯に於いて沈線施文。	
第223回3 第145回探	測体 No.3 口胴部		破片	細粒砂含 良好	強い黄 褐色		口胴部文様帯は胴帯と沈線で文様区画し、区画内横文R L充塞。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、斜方向沈線施文。	10-5 A
第223回4 第145回探	測体 No.4 胴部		破片	細粒砂含 良好	褐色	波状口縁。口胴部内側し、茎頂部外反。	胴帯と幅広沈線で横帯区画し、区画内横文R L充塞施文。茎頂部内側に幅広沈線で垂下施文。	#
第223回5 第145回探	測体 No.5 胴部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	明黄褐色	口胴部内側。	胴帯で文様区画し、両側施文。区画内横文R L充塞施文。	#
第223回6 第145回探	測体 No.6 胴部		破片	細粒砂含 良好	強い黄 褐色		胴帯と沈線で文様区画し、区画内横文R L。	10-5
第223回7 第145回探	測体 No.7 胴部		破片	細粒砂含 良好	褐色		沈線を垂下し、横文R L充塞施文後、波状沈線施文。	10-7
第223回8 第145回探	測体 No.8 胴部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	強い黄 褐色		平行沈線を垂下し、横文R L充塞施文。	#
第223回9 第145回探	測体 No.9 胴部		破片	細粒砂含 良好	褐色		沈線を垂下し、横文R L充塞施文。	#
第223回10 第145回探	測体 No.10 胴部		破片	細粒砂含 良好	強い黄 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、横文R L充塞施文後、波状沈線施文。	#
第223回11 第145回探	測体 No.11 胴部		破片	細粒砂含 良好	褐色		沈線を垂下し、横文R L充塞施文後、波状沈線施文。	#

第1節 縄文時代

深鉢	底鉢	破片	細粒砂合 貝好	色	縄文R.L.施文後、波状沈線施文。	#
# 13 #	#	#	#	鈍い赤 褐色	沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	#
# 14 #	#	#	#	鈍い褐色	#	#
# 15 #	#	#	#	鈍い赤 褐色	縄文R.L.R施文後、波状沈線施文。	#
# 16 #	#	#	#	鈍い黄 褐色	2本の沈線で調査状区画、区画内縄文R.L.充填施文。	11-6
# 17 #	#	#	#	鈍い褐色	縄文L施文後、沈線垂下。	10-7
# 18 #	#	#	#	鈍い褐色	沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	#
# 19 #	#	#	#	鈍い赤 褐色	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	#
# 20 #	#	#	細・粗粒砂・ 小礫含、貝好	灰褐色	陸部で調査及び文様区画し、区画内横位の平行沈線。	#
# 21 #	#	#	細粒砂合 貝好	鈍い褐色	沈線を垂下し、波状沈線を充填施文。	#
# 22 #	底鉢部	底 8.8 高(17.6)	#	褐色	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	14
# 23 #	No.3 底鉢部	破片	#	#	陸部を垂下。	15-2

遺構内出土石器観察表

Z区第14号住居跡

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第14回1 第146図版	磨石	No.3	輝石安山岩 (粗粒)	15.3	6.9	4.1	716.9	側面が面取りされている。
# 2 #	敲石	覆土	霞母石英片岩	(9.2)	4.4	2.5	157.3	両端に剝離面を有する。
# 3 #	剥片石器	#	黒色頁岩	6.0	5.2	1.7	41.9	背部に自然面を残し、刃部片面調整。
# 4 #	石棒	No.4	緑泥片岩	(38.0)	(10.2)	8.4	1,258.0	破損が激しく全体形不明。

Z区第19号住居跡

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第21回1 第146図版	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	15.3	13.0	5.9	1,060.0	孔は少なく、敲打痕を有する。
# 2 #	剥片石器	#	黒色頁岩	8.6	4.9	1.1	48.0	背部に自然面を残し、刃部片面調整。
# 3 第146図版	剥片石器	#	#	7.6	6.3	2.6	110.3	片面に自然面を残す。

A区第30号住居跡

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第35回2 第146図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	12.8	5.4	2.7	188.4	基部端に自然面を残す。
# 3 #	打製石斧 C	#	#	(7.7)	5.5	1.8	89.1	片面に自然面を残し基部欠損。
# 4 #	打製石斧 A	#	#	(7.8)	3.5	2.0	61.6	刃部欠損。
# 5 #	剥片石器	#	#	(9.6)	4.7	1.2	44.9	背部に自然面を残し、刃部片面調整。

A区第31号住居跡

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第44回1 第146図版	打製石斧 B	覆土	安山岩	15.9	5.4	2.2	224.1	片面に自然面を残す

第1節 縄文時代

第44図2 第146図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	10.7	4.6	1.0	52.6	片面に自然面を残す。
第44図3 #	打製石斧 A	#	#	10.4	3.9	1.2	64.0	#
# 4 #	打製石斧 B	#	輝石安山岩	14.0	5.7	2.6	228.1	#
# 5 #	#	#	黒色頁岩	11.1	4.2	2.6	116.0	#
# 6 #	#	#	#	10.1	4.7	1.3	68.0	# 基部の一部欠損。
# 7 #	#	#	安山岩 (9.3)	5.0	2.2	2.2	141.2	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
# 8 #	打製石斧 A	#	輝緑岩	12.5	3.9	1.6	97.7	刃部磨滅。
# 9 #	#	#	灰色安山岩 (8.0)	4.0	2.0	2.0	93.9	片面に自然面を残す。 基部欠損。
第45図1 第146図版	打製石斧 B	#	黒色頁岩 (7.0)	4.6	1.7	1.7	73.8	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
# 2 #	打製石斧 A	#	安山岩 (7.4)	4.6	2.4	2.4	105.7	#
# 3 #	打製石斧 A	#	安貫安山岩 (6.4)	3.7	1.9	1.9	54.7	刃部欠損。
# 4 #	打製石斧 B	#	流紋岩? (8.4)	5.5	1.8	1.8	87.5	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
# 5 #	#	#	安貫安山岩 (6.8)	4.2	2.0	2.0	65.1	#
# 6 #	敲石	#	輝石安山岩 (粗粒)	11.8	4.9	5.2	472.1	一端に截断面を有する。
# 7 #	#	#	黒色片岩	10.8	3.8	2.8	141.8	両端に剥離面を有する。
# 8 #	#	#	# (11.6)	3.2	2.2	2.2	109.0	一端に剥離面を有する。
# 9 #	#	#	# (8.2)	4.8	2.1	2.1	101.4	両端に剥離面を有する。
# 10 #	#	#	雲母石英片 岩 (7.6)	(3.0)	1.0	1.0	32.4	一端に剥離面を有する。
# 11 #	#	#	安貫安山岩	3.8	3.5	2.8	47.0	
第46図1 第146図版	多孔石	#	輝石安山岩 (粗粒)	22.3	13.4	13.2	3,280.0	

A区(32・34・35号住居跡)

第46図2 第146図版	多孔石	No10	輝石安山岩 (粗粒)	17.7	12.4	9.5	1,510.0	一孔を有する。
# 3 #	#	No11	#	(14.2)	(8.2)	(12.4)	1,620.0	#
# 4 #	割片石器	覆土	黒色頁岩	10.1	5.1	1.3	71.6	背面に自然面を残す。
# 5 #	#	#	#	6.4	4.4	1.1	33.1	#
# 6 #	不定形石器	#	#	4.6	3.6	1.2	18.8	
# 7 #	割片石器	#	珪質頁岩	4.7	4.9	0.7	15.3	

A区第32号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第55図1 第146図版	打製石押 A	覆土	黒色頁岩	(4.5)	4.7	1.5	42.6	片面に自然面を残す。 基部欠損。

A区第34号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第55図1 第146図版	多孔石	No6	輝石安山岩 (粗粒)	30.9	21.1	19.3	1,267.0	
# 2 #	#	覆土	#	21.0	14.2	13.7	4,270.0	
第56図3 #	石錘	No5	黒曜石	(1.7)	(1.6)	0.4	0.6	錘状部のみ残存。

A区第35号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第60図1 第146図版	打製石押 A	覆土	緑色片岩	15.0	4.7	2.1	201.4	両端部が磨滅し、刃部再調整跡。
# 2 #	打製石斧 B	#	黒色頁岩	10.5	4.9	1.5	90.3	端部に自然面を残す。 刃部磨滅。
# 3 #	#	#	#	11.4	4.7	2.2	118.8	刃部一部欠損。
# 4 #	打製石斧 A	#	珪質頁岩	(8.5)	5.3	2.4	145.3	片面に自然面を残す。 基部欠損。

第1節 縄文時代

第60図5 第1468図版	打製石斧 A	覆土	安山岩	(5.3)	4.0	1.7	44.8	基部欠損。
# 6 #	打製石斧 D	#	#	(14.7)	9.9 5.6	3.3	498.3	片面に自然面を残し、刃部磨滅、一端欠損。
第61図1	磨石	#	輝緑岩	(8.6)	6.4	2.4	210.0	一端に刺摩面を有する。
# 2 #	磨石		緑色片岩	(10.0)	7.0	1.3	134.5	片面及び側面に磨痕。

A区第43号住居跡

縄図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第66図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	13.5	5.2	2.2	175.4	基端に自然面を残し、刃部は磨滅し、再調整刺摩。
# 2 #	打製石斧 A	#	#	11.6	4.2	1.7	112.3	基部に自然面を残し、中央から基部にかけて磨滅。
# 3 #	#	#	安山岩	(10.5)	4.9	1.6	104.1	
# 4 #	#	#	黒色頁岩	(7.5)	4.0	2.2	78.4	基部欠損。
# 5 #	#	#	#	(7.7)	5.0	2.2	111.9	片面に自然面を残す。 基部欠損。
# 6 #	#	#	#	(7.8)	3.8	1.5	61.4	両端部欠損
# 7 #	#	#	#	(5.8)	3.3	1.9	45.6	基部欠損
# 8 #	#	#	安山岩	(6.4)	4.4	1.4	43.0	片面に自然面を残す 両端部欠損
第67図1 #	磨石	No9	緑色片岩	(17.2)	9.5	2.5	517.6	
# 2 #	#	No10	輝石安山岩 (細粒)	9.7	(4.1)	6.3	312.7	円磨を載断したもののか、両面に磨痕を有する。
# 3 #	削片石器	覆土	黒色頁岩	(8.2)	4.8	1.9	66.1	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。
# 4 #	不定形石器	#	#	(3.6)	3.3	1.7	18.8	片欠損。
# 5 #	P.S	#	#	4.5	2.9	1.2	20.4	両面に自然面を残す。 両様打法か。

A区第209号住居跡

縄図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
--------------	-----	------	----	------------	-----------	------------	-----------	----

A区(43・209号住居跡)

第73図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	輝石安山岩	17.1	6.1	2.7	297.2	基部に自然面を残す。
# 2 #	#	#	黒色頁岩	11.8	5.2	1.2	93.5	刃部の磨滅が激しい。
# 3 #	#	#	#	12.3	4.6	1.8	132.3	片面に自然面を残す。
# 4 #	打製石斧 A	#	#	10.1	4.5	1.9	87.6	#
# 5 #	#	#	#	(8.0)	4.0	1.9	69.2	刃部欠損。
# 6 #	#	#	#	(4.6)	5.1	1.2	26.4	刃部のみ残存。 刃部磨滅。
第74図1 #	打製石斧 B	#	#	12.4	6.1	2.3	191.4	刃部から基部にかけて磨滅し、片面が特に激しい。
# 2 #	#	#	黒色頁岩	14.0	7.2	4.6	422.0	両面に自然面を残す。
# 3 #	#	#	輝緑岩	9.6	5.5	1.7	92.2	片面に自然面を残す。
# 4 #	#	#	輝石安山岩 (粗粒)	(6.6)	5.5	2.3	92.7	# 基部欠損。
# 5 #	打製石斧 A	#	黒色頁岩	(8.6)	5.1	2.0	113.4	基部欠損。
# 6 #	打製石斧 D	#	ホルンフェルス	13.6	8.4 5.8	1.7	205.2	
# 7 #	緑石	#	緑色片岩	8.0	2.3	1.7	40.0	
# 8 #	#	#	雲母石英片岩	(6.9)	2.3	1.5	29.3	両端部に割離面を有する。
# 9 #	#	#	雲母石英片岩	(7.5)	3.1	1.5	42.6	一端に割離面を有する。
# 10 #	#	#	輝石安山岩 (粗粒)	9.3	7.7	4.7	417.6	両面に凹有り、側面に敲打痕を有する。
# 11 #	#	#	安山岩	12.6	7.0	3.6	433.4	側面敲打痕を有する。
# 12 #	#	#	輝石安山岩 (粗粒)	12.8	7.2	3.6	482.4	#
第75図1 第147図版	緑石	#	溶結凝灰岩	13.7	5.5	3.7	424.1	両端部に敲打痕を有する。
# 2 #	多孔石	#	輝石安山岩 (粗粒)	9.9	8.0	6.3	690.0	

第1節 縄文時代

第75図3 第147図版	多孔石	No.2	輝石安山岩 (粗粒)	25.8	22.5	12.5	6,550.0	
〃 4 〃	〃	覆土	〃	17.9	15.7	10.6	2,360.0	
第76図1 〃	割片石器	〃	黒色頁岩	9.2	5.4	2.6	127.5	背面に自然面を残す。 刃部両面調整。
〃 2 〃	〃	〃	〃	9.8	4.7	1.7	91.1	片面に自然面を残す。 縁辺片面調整。
〃 3 〃	〃	〃	〃	(6.6)	5.6	1.8	80.6	〃
〃 4 〃	〃	〃	〃	8.0	4.1	1.3	37.8	背面に自然面を残す。
〃 5 〃	〃	〃	黒色安山岩	5.6	5.0	1.2	33.1	〃

A区第214号住居跡

押図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第84図1 第147図版	打製石片 A	覆土	輝石安山岩 (細粒)	(8.6)	4.9	2.8	163.3	片面に自然面を残し、基部は欠損し、刃部磨滅。
第84図2 〃	敲石	〃	〃	(8.5)	(7.6)	(6.1)	353.0	側面に敲打痕を有する。
〃 3 〃	〃	〃	〃	(11.8)	(11.2)	6.3	1,011.5	〃
〃 4 〃	石核	〃	黒色頁岩	7.0	5.3	5.2	261.1	3面に自然面を有する

A区第216号住居跡

押図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第88図1 第147図版	打製石片 B	覆土	黄緑石英片 岩	(9.4)	4.7 3.9	2.1	102.0	
〃 2 〃	〃	〃	黒色頁岩	10.8	4.7	1.3	73.6	刃部磨滅。

A区第217号住居跡

押図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第92図1 第147図版	多孔石	伊 藤	輝石安山岩 (粗粒)	37.0	21.2	22.4	1,925.0	

A区第218号住居跡

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第97図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	11.2	5.0	1.6	99.5	片面に自然面を残す。
# 2 #	打製石斧 A	#	#	9.6	4.7	1.8	84.2	# 刃部欠損。
# 3 #	打製石斧 B	#	#	(8.7)	4.5	1.8	83.4	#
# 4 #	打製石斧 A	#	#	(6.8)	4.9	2.2	96.5	#
# 5 #	打製石斧 B	#	安山岩	(6.8)	4.1	1.0	27.9	片面に自然面を残す。 基部欠損。
# 6 #	磨石	#	雲母石英片岩	(7.6)	4.7	2.0	103.9	両端に截断面を有する。
# 7 #	磨石・敲石	#	グラノファ イヤー	(10.1)	7.4	4.5	510.0	両面に磨痕激しい。
# 8 #	台石	#	石英閃緑岩	(14.7)	(10.5)	11.8	2,670.0	片面におおむね凹みを有する。 #
第97図9 #	石皿 (多孔石)	#	輝石安山岩 (粗粒)	(18.2)	(17.4)	6.1	2,270.0	欠損する前に孔を穿ったものと考えられる。
# 10	多孔石	#	#	20.2	15.4	6.9	2,000.0	

A区第219号住居跡

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第101図1 第148図版	磨石	覆土	雲母石英片岩	14.5	8.5	1.4	274.3	縁辺に剥離面を残す。
# 2 #	#	#	黒色片岩	(8.4)	(6.8)	1.4	115.2	縁辺磨痕、一端は剥離。
# 3 #	多孔石	#	輝石安山岩 (粗粒)	24.4	22.4	14.6	13,750.0	
# 4 #	多孔石	#	輝石安山岩 (粗粒)	12.4	17.5	4.8	900.0	
# 5 #	#	#	#	29.7	17.0	12.5	6,020.0	

第1節 縄文時代

A区第220号住居跡

棟目番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第106図1 第148図版	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	17.3	14.5	10.3	3,100.0	両面に磨痕を有し、後に剝離。

A区第223号住居跡

棟目番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第117図1 第148図版	磨石	覆土	輝石安山岩 (細粒)	(11.0)	(19.0)	6.8	930.0	両面に磨痕を有し、後に剝離。

A区第226号住居跡

棟目番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第122図1 第148図版	剥片石器	覆土	黒色頁岩	7.0	5.8	0.8	33.5	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。

A区第227号住居跡

棟目番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第127図1 第148図版	打製石斧 A	覆土	灰色安山岩	(6.0)	4.3	2.5	90.4	片面に自然面を残す 基部欠損

A区第229号住居跡

棟目番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第135図1 第148図版	敲石	覆土	輝石安山岩 (細粒)	14.3	(9.6)	6.2	987.0	片面に敲打痕強い。 一部欠損。
// 2 //	//	//	珸岩	(7.1)	(7.2)	7.3	592.3	
// 3 //	//	//	輝石安山岩 (細粒)	12.1	6.9	4.9	618.1	両側に磨痕を有し、両端部敲打痕 を有する。

A区第1号土器溜り

棟目番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第141図1	打製石斧 A	覆土	緑色片岩	10.0	3.9	2.4	104.6	刃部欠損。
// 2	打製石斧 B	//	安山岩	(9.3)	5.8	1.8	117.7	片面に自然面を残す。 基部欠損し、刃部と中央部が磨滅。

A区 (220・223・226・227・229号住居跡、1・2号土器溜り) B区 (63号住居跡)

第141図3	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	(4.4)	4.6	1.2	35.4	両端欠損。
# 4	敲石	#	輝石安山岩 (細粒)	10.7	7.8	5.3	667.3	側面に敲打痕強い。
# 5	#	#	#	10.6	8.9	3.2	456.9	#
# 6	#	#	#	14.1	9.8	4.9	980.0	#

A区第2号土器溜り

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第144図1	打製石斧 B	覆土	輝石安山岩	11.5	4.7	1.7	99.5	片面に自然面を残し、刃部と中央部が磨滅。
# 2	打製石斧 A	#	安山岩	(6.1)	3.5	1.3	37.2	片面に自然面を残す。 基部欠損。
# 3	擦石	#	雲母石英片岩	11.5	10.1	1.6	291.7	全面に磨痕を有する。
# 4	敲石・擦石	#	輝石安山岩 (粗粒)	14.6	13.4	10.1	2,960.0	円錐で側面に磨痕を有する。
第144図5	台石	#	#	26.8	(19.6)	12.9	6.9	
# 6	#	#	#	(17.3)	(19.9)	6.7	3,300.0	片面に磨痕を有する。
第145図1	#	#	#	(18.7)	(17.2)	10.6	4,430.0	両面に敲打痕強い。
# 2	#	#	#	(13.5)	(14.1)	12.3	2,960.0	
# 3	多孔石	#	#	15.4	9.8	9.3	1,390.0	
# 4	#	#	#	23.8	18.3	9.9	3,850.0	

B区第63号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第152図2 第148図版	打製石斧 B	覆土	実質安山岩	5.8	3.4	1.6	42.0	
# 3	#	#	安山岩	(4.9)	4.9	1.0	34.3	片面に自然面を残す。 基部欠損。

第1節 縄文時代

# 4 #	#	#	黒色頁岩	16.2	4.9	1.6	124.4	刃部及び中央部磨滅。
第153図1 #	打製石斧 A	#	#	(8.6)	4.6	1.5	67.8	基部欠損し、片面の磨滅激しい。
# 2 #	打製石斧 B	#	#	(6.3)	4.6	2.4	88.0	片面に自然面を残す。 基部欠損。
# 3 #	#	#	珪質頁岩	(7.8)	5.0	1.6	68.3	片面に自然面を残す。 刃部欠損、基部磨滅
# 4 #	#	#	安山岩	(6.4)	5.0	1.5	39.1	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
# 5 #	打製石斧 A	#	#	(5.1)	4.6	2.0	57.5	両端欠損。
# 6 #	敲石	#	輝石安山岩 (細粒)	12.7	9.4	5.5	920.0	
# 7 #	凹石	#	#	10.5	7.0	5.1	515.8	両面に磨痕を有する。
# 8 #	石皿 (多孔石)	#	#	(18.9)	12.3	5.3	1,400.0	裏面に孔多い。
# 9 #	刮片石器	#	黒色頁岩	6.2	3.8	0.7	14.0	刃部片面調整。
# 10 #	#	#	#	5.5	4.4	3.4	54.0	#
# 11 #	#	#	#	5.4	6.7	1.0	28.0	#
# 12 #	#	#	#	6.6	5.4	2.4	83.0	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。
第154図1 #	#	#	変質玄武岩	11.4	6.6	1.5	103.0	#
# 2 #	#	#	黒色頁岩	5.5	5.0	1.6	44.0	#

B区第66号住居跡

陣国番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第157図1 第148図版	打製石斧 A	覆土	灰色安山岩	4.5	3.1	1.1	19.0	基部のみ残存し、磨滅が激しい。

B区第70号住居跡

陣国番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
--------------	-----	------	----	------------	-----------	------------	-----------	----

B区 (66・70・71・154・156号住居跡)

第160図2 第148図版	打製石片 A	覆土	黒色頁岩	(6.3)	4.1	0.9	31.5	刃部欠損。
# 3 #	砥石	#	青緑石英片 岩	(9.0)	3.4	1.7	85.2	#
# 4 #	凹石	#	輝石安山岩 (粗粒)	11.6	7.6	3.4	300.0	片面に凹を有する。
# 5 #	刮片石器	#	黒色頁岩	9.4	5.5	2.1	93.0	片面に自然面を残す。
# 6 #	多孔石	#	輝石安山岩 (粗粒)	28.6	19.1	12.7	7,680.0	

B区第71号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第164図1 第148図版	磨石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	(6.9)	6.8	4.5	310.0	両面及び側面に磨痕を有する。
# 2 #	砥石	#	砂岩	(7.8)	6.1	1.4	75.0	#

B区第154号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第168図1 第148図版	石皿 (多孔石)	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	17.9	(13.4)	6.9	1,780.0	
# 2 #	多孔石	#	#	21.9	19.0	17.1	5,700.0	
# 3 #	刮片石器	#	黒色頁岩	8.3	4.1	1.0	35.0	刃部両面調整。
# 4 #	#	#	#	5.9	4.8	0.9	25.8	#

B区第156号址

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第174図1 第149図版	打製石片 A	覆土	黒色頁岩	9.4	4.2	1.8	64.0	片面に自然面を残し、基部は欠損し、刃部磨減。
# 2 #	多孔石	No.3	輝石安山岩 (粗粒)	18.9	14.0	14.8	2,250.0	
# 3 #	#	No.7	#	25.4	21.1	16.0	6,050.0	

第1節 縄文時代

Ⅱ 4 Ⅱ	Ⅱ	No 9	Ⅱ	20.7	16.9	8.6	2,930.0	
第175図1 Ⅱ	Ⅱ	No 6	Ⅱ	32.0	21.0	17.0	10,350.0	
Ⅱ 2 Ⅱ	Ⅱ	覆土	Ⅱ	20.1	10.5	4.1	1,060.0	
Ⅱ 3 Ⅱ	Ⅱ	No 5	Ⅱ	23.7	21.3	17.6	8,000.0	
第176図1 Ⅱ	Ⅱ	No 4	Ⅱ	16.3	16.0	9.9	2,950.0	
Ⅱ 2 Ⅱ	Ⅱ	覆土	Ⅱ	15.3	15.6	13.0	2,070.0	
Ⅱ 3 Ⅱ	Ⅱ	No 10	Ⅱ	28.2	21.3	13.0	7,330.0	
第177図1 Ⅱ	Ⅱ	覆土	Ⅱ	21.7	14.9	10.9	3,780.0	
Ⅱ 2 Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	21.8	13.4	11.4	2,400.0	
Ⅱ 3 Ⅱ	Ⅱ	No 8	Ⅱ	23.6	17.7	12.0	3,380.0	
第178図1 Ⅱ	多孔石	覆土	Ⅱ	20.5	16.6	9.9	3,070.0	
Ⅱ 2 Ⅱ	Ⅱ	No 11	Ⅱ	21.3	14.0	11.8	3,790.0	
Ⅱ 3 Ⅱ	Ⅱ	覆土	Ⅱ	(10.3)	17.4	6.6	1,470.0	
Ⅱ 4 Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	11.3	9.1	7.3	790.0	
第179図1 Ⅱ	剥片石器	Ⅱ	黒色頁岩	7.9	6.0	1.0	44.0	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。
第179図2 Ⅱ	剥片石器	覆土	黒色頁岩	7.0	6.1	2.3	83.0	両端に自然面を残す。
Ⅱ 3 Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	6.2	3.6	0.8	17.0	刃部片面調整。
Ⅱ 4 Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	5.2	3.5	1.4	24.0	
Ⅱ 5 Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	6.4	3.4	0.8	13.0	

B区第164号住居跡

B区(164・165号住居跡、6・7号屋外埋壘、2号炉)

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第185図1 第149図版	打製石斧 A	覆土	点紋頁岩	10.1	3.7	1.3	50.0	
# 2 #	打製石斧 B	#	黒色頁岩	(6.7)	4.8	1.6	52.3	片面に自然面を残す。 基部欠損。
# 3 #	新片石器	#	#	6.6	4.5	1.8	62.0	
# 4 #	#	#	赤色珧質岩	4.7	4.3	2.0	31.0	背面に自然面を残す。

B区第165号住居跡

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第165図1 第149図版	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	17.0	13.0	12.9	1,500.0	

A区第6号屋外埋壘

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第199図1	磨製石斧	掘り方内	変輝緑岩	8.3	3.9	1.6	87.4	刃部に再調整刻痕を有する。

A区第17号屋外埋壘

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第207図1	磨製石斧	掘り方覆土	変輝緑岩	(5.7)	(2.5)	2.1	29.5	一部に制離面を有する。
# 2	觥石	掘り方底面	輝石安山岩 (粗粒)	(6.7)	9.0	4.2	303.2	片残存。
第208図1	多孔石	掘り方底面	輝石安山岩 (粗粒)	21.9	12.7	13.5	2,930.0	
# 2	#	#	#	18.1	15.1	10.3	2,860.0	

A区第2号炉

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第212図1	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	18.5	17.5	12.0	4,150.0	

第1節 縄文時代

# 2	#	#	#	14.2	16.4	10.2	1,600.0	
# 3	#	#	#	28.8	20.8	14.6	7,000.0	

Z区第4号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第225図3 第149図版	板状石器品	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	6.4	4.6	1.4	55.3	片面中央に孔を有する。 全面に磨痕を有する。

Z区第13号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第226図1 第149図版	磨製石斧	No.1	輝石安山岩	12.1	5.1	3.2	304.1	刃部に再調整磨痕を有する。

Z区第16号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第227図25	打製石斧 B	No.10	黒色頁岩	11.0	4.5	2.1	97.0	片面に自然面を残す。 刃部磨滅。
# 26	剥片石器	覆土	黒色頁岩	5.9	5.2	1.2	22.2	背面に自然面を残す。

Z区第27号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第227図4	磨石	覆土	流紋岩	14.1	6.5	4.1	583.7	両面の磨痕激しい。
# 5	磨石	No.12	輝石安山岩 (粗粒)	6.4	3.8	2.7	102.0	

Z区第30号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第228図4	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	28.0	24.0	203.0	12,500.9	

Z区第99号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第233図28	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	25.5	22.5	16.8	7,380.0	

Z区第117号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第235図16	石核	覆土	閃緑岩	(6.0)	6.7	4.5	198.3	一面に自然面を残す。 全面磨滅。

A区第24号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第236図1	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	(15.6)	(10.3)	8.5	1,100.0	

A区第25号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第238図63	剥片石	覆土	黒色頁岩	4.0	4.8	1.2	23.5	片面に自然面を残す。 刃部両面調整。

A区第121号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第240図1	多孔石	No.5	輝石安山岩 (粗粒)	(22.7)	(17.2)	7.5	2,500.0	

A区第210号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第241図10	多孔石	No.12	輝石安山岩 (粗粒)	21.8	19.4	18.5	8,600.0	

A区第239号土坑

検出番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第242図21	打製石 B	覆土	安山岩	(6.0)	4.8	1.0	38.5	片面に自然面を残す。 基部欠損。

第1節 縄文時代

A区第243号土坑

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第243回1 第149図版	凹石	No.1	緑色片岩	15.5	6.6	2.9	438.9	縁辺に剥離を有する。

A区第274号土坑

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第244回14	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	9.9	5.0	1.6	73.0	片面に自然面を残す。 刃部磨滅。
# 15	剥片石器	#	#	7.3	4.2	1.1	25.8	片面に自然面を残す。

A区第334号土坑

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第245回1	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	11.9	5.5	2.0	133.7	片面に自然面を残す。 刃部磨滅。
第245回2	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	29.3	17.7	14.5	5,640.0	
# 3	#	#	#	23.9	23.2	19.2	11,350.0	

B区第101号土坑

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第227回5	打製石斧 C	覆土	黒色頁岩	9.3	5.9	1.7	76.0	端部に自然面を残す。
# 18	敲石	#	雲母石英片 岩	7.2	3.8	2.8	87.7	片残存。

B区第109号土坑

採回番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第248回1	多孔石	覆土	輝石安山岩	28.9	24.4	12.9	8,450.0	片面に磨痕を有する。

B区第144号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第250図35	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	(5.7)	4.8	1.9	65.4	両端欠損。

B区第148号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第251図10 第149図版	石皿	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	15.0	11.5	4.2	1,160.0	完形。 裏面に1孔を有する。

B区第155号土坑

採掘番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第253図24	打製石斧 B	No3	黒色頁岩	(10.0)	5.0	1.3	85.6	片面に自然面を残す。 刃部、中央部に磨痕を有する。
# 25	剥片石器	覆土	#	3.6	3.5	0.9	8.5	

第2節 弥生時代

J区第12号住居跡

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
338-1 151	甕 ゼット周辺 完形	口縁部 破片	口 16.0 胴 13.2 柄 20.5 底 8.0	粗粒砂を多量 に混入 良	褐	底部から外傾しながら立ち上がり胴部で最大径を計る。 肩部は比較的直線的に頸部に向かい立ち上がる。 口縁部は受け口状口縁を呈する。 器面の風化が著しい。	口・6本一単位の波状文。 胴・6本一単位の波状文、定回り。 肩・6本一単位の波状文が6段に施されてい る。	高 26.7

J区第13号住居跡

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
340-1	甕 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 好	淡黄	口縁直下が若干肥厚している。 内面は刷毛目。	刷・兼状文、右回り。	
340-2	甕 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 良	灰青褐	外傾し立ち上がった口縁が口唇直下で垂直に立ち上がり受け口状 口縁を呈する。内面は滑順で。	口・波状文。	
340-3	甕 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 良	暗灰黄	外反する口縁が垂直に立ち上がり受け口状口縁を呈する。	口唇・刷毛状乃至刷毛状器体の押捺。	
340-4	甕 ? 床瓦溝 口縁部	破片		粗粒砂を混む 好	淡黄	口縁部はやや内湾している。		
340-5	甕 ? 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 良	灰黄橙	口縁部は内湾している。 一部に片割が残存する。		
340-6	甕 ? 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 良	黒褐	口縁部は外傾しながら立ち上がる。 内面の複合口縁に成っている。		内面は暗 褐色
340-7	甕 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 良	淡黄橙	小単位の波状口縁。器外縁口唇直下は斜位に刷毛目。		
340-8	甕 床瓦溝 口縁部	破片		細粒砂 良	暗褐	口縁全体が肥厚している。	口・5本一単位の波状文。 刷・兼状文。	

340-9	葦	灰泥層 胴部 破片		微粒砂 良	微粒砂 好	洗炭 良	内外面とも研磨。		胴・腰状文(9本以上)右回り。	
340-10	葦	灰泥層 胴部 破片		微粒砂 良	微粒砂 好	純炭 良	外面は新毛状工具による磨面で洗炭層。内面は研磨。		胴・5本一単位の腰状文を2段右回り。	
340-11	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂 良	細粒砂 好	純炭 良			胴・5本一単位の腰状文を2段右回り。	8と同一 個体
340-12	葦	灰泥層 胴部 破片		細粒砂 良	細粒砂 好	純炭 良	外面全体は磨面で。内面は研磨。		胴・腰状文、右回り。	
340-13	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂 良	細粒砂 好	黒炭 良			胴・6本一単位の腰状文、右回り。 胴・腰状文。	内面は明 褐色
340-14	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂 良	細粒砂 好	純炭 良			胴・腰状文、腰文(R側面)腰状文平行洗炭を 施し反側している。	
340-15	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂を混入 良	細粒砂を混入 好	純炭 良	内面は新毛状工具による磨面で洗炭層を指す。 外面は新毛状工具による磨面で洗炭層を指す。		胴・洗炭。(腰状文)	
340-16	藁	初繰穴 胴部 破片		細粒砂を混入 良	細粒砂を混入 好	純炭 良			胴・2段の波状文。	
340-17	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂 良	細粒砂 好	純炭 良			胴・腰状文及び洗炭文を指す。	
340-18	藁	灰泥層 口縁部 破片		細粒砂を混入 良	細粒砂を混入 好	炭	外面は新毛磨で。			
340-19	藁	灰泥層 ? 破片		細粒砂を混入 良	細粒砂を混入 好	炭			胴・斜行洗炭文下に腰状文を指す。	
340-20	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂を混入 小断 含有 良	細粒砂を混入 小断 含有 好	炭			胴・5本一単位の洗炭文を指す。	
340-21	藁	灰泥層 胴部 破片		細粒砂を混入 良	細粒砂を混入 好	洗炭層	外面は新毛磨で。			

340-22	甕	灰直筒 胴部 破片		細粒砂を混入 好 良	胴 溝		胴・胴口破片。
340-23	甕 ?	灰直筒 胴部 破片		細粒砂を混入 好 良	胴溝槽		胴・胴口文。
340-24	高 坏	灰直筒 口縁部 破片		細粒砂を混入 好 良	浅溝槽	外面は溝で、溝口状を示す破口縁。	
340-25	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 9.9	細粒砂を混入 好 良	胴溝槽		
340-26	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 10.0	細粒砂を混入 好 良	溝		
340-27	甕 ?	貯蔵穴 底部	底 9.1	細 粒 砂 良	溝 溝 溝		
340-28	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 6.8	細 粒 砂 良	底及び 胴 溝	化膿時にヒビ割れをおこしている。	
340-29	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 10.4	細粒砂に濃泥 入 良 好	浅溝槽	外面は成形直後編での後若干時間経過後、部分的に再度編でも行なっているが、研磨とは異なる断面は粘土層によりなる。	
340-30	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 5.3	細 粒 砂 良	反	内外面共に刷毛状工具による溝を施している。	
340-31	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 6.8	細 粒 砂 良	輪 溝		
340-32	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 9.1	細粒砂に濃泥 入 良 好	浅溝槽		
340-33	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 7.2	細粒砂に小礫 混入 良 好	浅溝槽	内面は溝編で施している。	
340-34	甕 ?	灰直筒 胴部 破片	底 9.0	細 粒 砂 良	浅 溝	外面は溝編で、内面は刷毛目による溝で施している。	
340-35 151	甕 ?	口縁・胴部 破片	口 19.5 底 10.6	細粒砂を混入 良 好	浅溝槽	口縁は受け口状を示す。 内面は刷毛状工具による溝を施している。	胴・胴縁を施している。 8点の都合

J区第18号住居跡

棟号 団地番号	種類	出土位置 遺存状態	成目 (cm)	出土 構成	色調	器形・成形・装飾の特徴	文様	備考
342-1	瓦	床直 口縁部 細片		細粒砂を混入 好 瓦	濁 灰	口縁部は「く」の字状に外反している。 口縁部にR.L.部を伴部。		
342-2	瓦	床直 口縁部 細片		細粒砂を混入 好 瓦	純 灰	外反する口縁中位程が肥厚している。		
342-3	瓦?	床直 口縁部 破片		微粒砂を混入 好 瓦	純 灰	口縁は内湾する。	口唇・肩口。	
342-4	瓦?	覆土内 口縁部 破片		微粒砂を混入 好 瓦	赤褐色と 純 灰		口・肩縁文の内側に斜行状線。	
342-5	瓦	覆土内 頸・肩部 破片		粗粒砂を混入 好 瓦	橙	外面の装状文については風化が著しい為本数は不分明。	頸・4本一単位の簡状文、右回り。流状文。 肩・斜状直線文。	2点の装 合
342-6	瓦	床直・覆土内下層 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 好 瓦	純 濁 と 橙	内面は平滑。	頸・8本一単位の簡状文、右回り。 肩・7本一単位の装状文を2段に施す。	2点の装 合
342-7	瓦	床直 頸部 破片		細粒砂を混入 好 瓦	橙	内面は綿毛状工具の跡で傷痕帯で(指痕で)。	頸・7本一単位の簡状文、右回り。	
342-8	瓦	床直 頸部 破片		細粒砂を混入 好 瓦	橙		肩・7本一単位の簡状文、左回り。 肩・簡縁文?	
342-9	瓦	床直 頸部 破片		細粒砂を混入 好 瓦	純 濁		頸・5本一単位の装状文。 肩・装状文。	
342-10	瓦	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 好 瓦	濁 灰		肩・装状文。赤瓦(「コ」の字重文?)。	2点の装 合
342-11	瓦	覆土内 肩部 破片		粗粒砂を混入 好 瓦	濁 灰		肩・装状文。	2点の装 合
342-12	瓦	床直 肩部 破片		細粒砂を混入 好 瓦	純 濁		肩・5本一単位の装状文を2段に施す。斜状直 線文。	

342-13	壺	灰底 頸部・胴部	破片	破片	粗粒砂を混入 良	灰 濁		胴・7本一単位の敷状文、左回り。胴面文内に斜行波線文。
342-14	壺	夏土内 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	赤 濁	外面は磨蝕。内面は風化が著しい。	胴・胴面文の一部(斜行波線により劣部)。
342-15	壺	夏土下層 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	灰 濁		胴・胴面文の枕頭区画内に斜交文。
342-16	壺	灰底 頸部	破片	好	粗粒砂を混入 良	灰 白		胴・平行波線。
342-17	壺	灰底 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	灰 濁		胴・波状文。羽状波線文。
342-18	壺	夏土内 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	橙		胴・羽状波線文。
342-19	壺	夏土下層 胴部		好	粗粒砂を混入 良	灰 灰		胴・羽状波線文。
342-20	壺	灰底 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	灰 濁	外面は刷毛目。	
342-21	壺	夏土内 胴部	破片	好	粗粒砂に小骨 を含有する 良	浅黄橙	凹凸の著しい工具による磨で。	胴・刷毛状工具による磨で。
342-22	壺	灰底 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	灰 濁	外面は磨蝕が施されている。内面は磨蝕。	
342-23	壺	夏土内 胴部	破片	好	粗粒砂を混入 良	灰 濁	外面は磨蝕で残付磨。内面は磨蝕。	
342-24	壺	灰底 口縁部	破片	好	粗粒砂を混入 良	橙	受け口状口縁。	口・5本一単位の波状文。
342-25	壺	夏土下層 口縁部	破片	好	粗粒砂を混入 良	橙	器面の風化が著しい。	口・7本一単位の波状文。

342-26	竪	灰皿 口縁部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	浅黄褐色	口唇部には修状工具乃至磨文部体による押跡。	
342-27	竪	覆土内 口縁部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	橙	口縁部は網毛状工具による磨削で。	口唇部を 欠損
342-28	小型竪	灰皿 口縁・頸・肩部	破片	口 10.3 頸 9.2 肩 9.2	黄褐色	口唇部には修状工具による押跡により波状口縁。	

J区第20号住居跡

発見 図面番号	種 類	出土位置 保存状態	径目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備 考
344-1	竪	覆土内 頸・肩部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	黄褐色			頸・磨状文、左回り。 肩・波状文。
344-2	竪	覆土内 肩部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	黒			肩・波状文。
344-3	竪	覆土内 頸部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	淡黄褐色			頸・単純LRの磨文・網毛目。
344-4	竪	覆土内 頸部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	黄褐色	網毛目の磨で黄褐色で。		内面は黄 色
344-5	竪	覆土内 肩部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	淡黄褐色			肩・磨状下には磨削文、磨削文内に平行波状文。3点の磨 合
344-6	竪	覆土内 肩部	破片	細粒砂を喰ひ 貝	赤			内面は灰 白色
344-7	竪	覆土内 底部	破片	底 7.4 頸 粒砂 肩 貝	黄褐色	器面の黄化が著しい。		6点の磨 合
344-8	竪	覆土内 底部	破片	底 9.5 頸 粒砂 肩 貝	淡黄褐色	内面は網毛目。		2点の磨 合
344-9	竪	床底層 頸・底部	破片	底 10.0 頸 細粒砂を喰ひ 肩 貝	黄褐色	底部は網毛目。		

341-10	高 杯	出土位置 口縁部・体部 又	口 20.0	細粒砂を含む 口縁部 好	明灰質	内面は赤色塗布。器面の風化が著しい。	2点の接 合
341-10	高 杯	出土位置 遺存状態	口 20.0	細粒砂を含む 口縁部 好	明灰質	内面は赤色塗布。器面の風化が著しい。	2点の接 合
347-1	壺	出土位置 口縁部 破片	口 15.1	細粒砂 好	褐色	口縁部は外反している。内外面とも磨蝕で。	
347-2	壺	出土位置 胴・胴部 破片	口 9.6	細粒砂 好	褐色	胴・7本一単位の風化文、右回り。 肩・波状文。	
347-3	壺	出土位置 胴・胴部 破片	口 29.5	細粒砂 好	褐色	外面は磨毛目。	2点の接 合
347-4	壺	出土位置 胴部 破片	口 15.1	細粒砂 好	褐色	胴・磨状文、右回りを2段に覆す。右回り。	
347-5	壺	出土位置 胴・胴部 破片	口 9.6	細粒砂 好	褐色	胴・5本一単位の波状文を2段に施す。 肩・羽状直線文。	
347-6	壺	出土位置 胴部 破片	口 15.1	細粒砂 好	褐色	胴・6本一単位の風化文。 外面は磨毛目。	
347-7	壺	出土位置 胴部 破片	口 9.6	細粒砂 好	褐色	肩・波状文。	
347-8	壺	出土位置 胴部 破片	口 15.1	細粒砂 好	褐色	外面は磨毛目を部分的に認められるが、全体に風化が著しい。	7点の接 合
347-9	壺	出土位置 胴部 破片	口 15.1	細粒砂 好	褐色		
348-1 151	壺	出土位置 胴部以外の各 部	口 15.1 胴 9.6 肩 29.5 器高31.2	細粒砂 好	褐色	器部から垂縁を揃えながら立ち上がり、胴中位置で最大径(29.5cm)をとり、器面に向かい窄んでいく。胴部直下には刺毛状工具による磨で覆っている。口縁部は外反し斜位に刺毛状工具による磨で覆っている。口部直下では斜位に刺毛状工具による磨で覆っている。内面は胴部直下で磨で覆い、口縁部では刺毛状工具による磨で斜位乃至斜位に覆っている。	

J区第45号住居跡

340-2 151	表	覆土内 口縁部 破片	口 17.9	細 粒 砂 良	洗 炭 性	粒 性	口縁直下は刷毛目による痕跡で、それより下位は刷位の刷毛目による層で充填し、胴部は土層による層構造を呈している。刷化が著しい。	胴・刷位の沈積	3点の接 合
340-3	表	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 好	洗炭性	刷毛目。			2点の接 合
340-4	表	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 好	洗炭性	刷毛目。刷化が著しい。			2点の接 合
340-5	表	覆土内 胴部 破片		細 粒 砂 良	洗炭性	刷毛目。			
340-6	表	覆土内 胴・刷部 破片	胴 34.2	細 粒 砂 良	洗炭性	刷毛目。胴縁的に外植しながら立った胴が内側気味に刷を張り「く」の字を呈する様に立ち上がる。			2点の接 合
340-7	表	覆土内 胴部 破片	胴 31.0	粗粒砂を混入 良	洗炭性	刷毛目を部分的に遺存するが、全体的に刷化が著しい。胴でを遺存する。(胴縁下部を遺存する。)			
340-8	表	覆土内 胴部 破片		微粒砂を混入 良	洗炭性	刷毛目を部分的に遺存するが、刷化が著しい。			
340-9	表	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 良	洗炭性	刷毛目を部分的に遺存するが、刷化が著しい。			
340-10	高 坏	覆土内 底部 破片		細 粒 砂 良	赤	外面は刷化が著しく彫部等の反り分りはない。			2点の接 合

I区第74号住居跡

神四番号 四四番号	層 様	出土位置 遺存状態	成 自 (cm)	土 質 成 成	色 調	輪 形・成 形・特 徴	文 様	備 考
550-1	裏	覆土内 口縁・胴部	口 13.0 胴 10.3	細 粒 砂 良	灰 緑	口縁部は外植し、外面は刷毛目状工具による層で遺す。胴内外面は刷化が著しい。	胴・5本一単位の刷状文、右回り。	3点の接 合
550-2 151	裏	覆土内 与遺存	口 13.4 胴 11.9 成 成 7.7 器跡19.5	細 粒 砂 良	灰 緑	内外面とも刷化が著しく刷位の痕跡を認める事ができない。	口唇・上Rの刷状文。 胴・7本一単位の刷状文、右回り。 刷・6本一単位の刷状文を2段に施す。	15点の接 合

350-3	裏 覆土内 口縁・頸・胴部 片 片残存	口 16.9 胴 14.1 頸 14.1 片 片	細粒砂に粗粒 砂混入 片 好	黒 腐 好	口縁部は外反し、筋毛状工具による溝を施す。	口・肩文。 胴・6本一単位の縦状文と5本一単位の縦状 文、左回りを施している。 肩・6本一単位の縦状文を3段施している。	4 点の接 合
350-4	裏 覆土内 口縁・頸・胴部 破片 片残存	口 12.6 胴 11.8 頸 11.8 片 片	細粒砂に粗粒 砂混入 片 好	褐 灰 好	口縁部は外傾する。	胴・6本一単位の縦状文、左回り。 肩・6本一単位の縦状文を3段に施す。	2 点の接 合
350-5	裏 覆土内 口縁・頸・胴部 片 片残存	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	細粒砂に小礫 混入 片 好	植 好	口縁部は外傾する。	口・6本一単位の縦状文。 胴・6本一単位の縦状文、肩部の風化が著しい 為、筋の部分が多分明。 肩・6本一単位の縦状文。	3 点の接 合
350-6 151	裏 覆土内 口縁・頸・胴部 片 片残存	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	細粒砂に小礫 混入 片 好	褐 灰 好	筋本底を胴部に有する。肩部に浅かい内傾し、口縁部はやや外傾 しながら立ち上がる。口部内部は複合口縁を呈し、指頭圧痕が 認められる。肩部全体に筋毛状工具による溝を施している。	口唇・横文。 胴・5本一単位の縦状文、右回り。 肩・5本一単位の縦状文、右回り。	
350-7	裏 覆土内 口縁部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	細粒砂に粗粒 砂混入 片 好	褐 灰 好	口縁部は外傾する。	胴・6本一単位の縦状文。 口唇・横状工具により筋目目を施す。	
350-8	裏 覆土内 口縁部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	細粒砂に粗粒 砂混入 片 好	灰黄褐 好	外部は筋毛状工具による溝で。	口唇・横状工具により筋目目を施す。	
350-9	裏 覆土内 口縁部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	細粒砂に粗粒 砂混入 片 好	赤 褐 好	外部は筋毛目。	器外部に赤色顔料の塗彩。	
350-10	裏 覆土内 口縁部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	細粒砂に粗粒 砂混入 片 好	褐 灰 好	外部は筋毛目。 内部は横溝で。	胴・横状文、左回り。	
350-11	裏 覆土内 口縁部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	粗粒砂に粗粒 砂混入 片 好	赤 褐 好	内外傾とも風化が著しい。受け口状を呈する？	胴・7本以上一単位とする 縦状文。	
350-12	裏 覆土内 口縁部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	小礫を含有する 細粒砂片好	植 好	内部は筋毛目。受け口状を呈する。	胴・6本一単位の縦状文。	
350-13	裏 覆土内 胴部 破片	口 13.4 胴 12.0 頸 18.6 片 片	小礫を含有する 粗粒砂片好	灰 植 好	器外部は筋毛目で後縦状文を施す。	胴・5本一単位の縦状文、右回り。筋状縦文。	

350-14	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦	内面は横溝で、 外面は風化が著しい。	刷・横状文、右回り。
350-15	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦		刷・6本一単位の横状文、右回り。
350-16	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦		刷・横状文。 刷・6本一単位の横状文。
350-17	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂に小礫 混入 瓦 瓦	瓦 瓦		刷・横状文。 刷・7本一単位の横状文。
350-18	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦		刷・横状文。 刷・横状文。
350-19	裏	覆土内 扉部 破片		細粒砂に粗粒砂 混入 瓦 瓦	瓦 瓦	横位の縦毛溝で、 内面は横溝で。	刷・横状文。 刷・6本一単位の横状文。 刷・斜状波線文。
350-20	裏	覆土内 扉部 破片		細粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦	内面は縦毛目。	刷・横状文。 刷・6本一単位の横状文。
350-21	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦	外面は縦毛目。 内面は横溝で。	刷・横状文内にも6本一単位の横状文。
350-22	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦	外面は縦毛目。 内面は風化が著しい。	刷・6本一単位の横状文。
350-23	裏	覆土内 扉部 破片		粗粒砂 瓦 瓦	瓦 瓦		刷・7本一単位の横状文。
350-24	裏	覆土内 扉部・扉部 破片		細粒砂を混入 瓦 瓦	瓦 瓦	内面は横溝で。 外面は風化が著しい。	刷・横状文。 刷・横状文。
350-25	裏	覆土内 扉部 破片		細粒砂に粗粒 砂を混入 瓦 瓦	瓦 瓦		刷・横溝下に横溝に横状文刷毛の横溝。
350-26	裏	覆土内 扉部 破片		細粒砂に小礫 を混入 瓦 瓦	瓦 瓦	内面は横溝で。	刷・横溝に横状文刷毛の横溝。

350-27	葉	覆土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	風 堀		胴・胴筋R隅文系体の模範。	
350-28	葉	覆土内 胴部 破片		粗粒砂に粗粒 砂を混入した 良	堀 溝	内面は模範で。	胴・三角部状の波状文。	
350-29	葉	覆土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	浅溝堀		胴・斜位に北縁を施す。	2点の接 合
350-30	葉	覆土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	浅溝堀		胴・三角部の北縁。	
350-31	葉	覆土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	堀		胴・羽状波腐文。	
350-32	葉	覆土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	浅 溝		胴・横縁。	
350-33	葉	覆土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	堀 溝	内面は横方向に刷毛目調整。	胴・羽状波腐文。	2点の接 合
350-34	葉	覆土内 胴・胴筋 破片		粗粒砂に小礫 を混入 した 良	堀	外面は横方向に刷毛目調整。 内面は等間隔が美しい。	胴・4本一単位以上の波状文・無筋及隅文主体 の模範（波状文に先行する）後横縁を施す。	5点の接 合 内面は 赤褐色
351-1	壺	覆土内 胴・肩・胴部 破片	頸 9.3 胴 12.5	粗 粒 砂 良	浅溝堀	内面は斜方向に刷毛目調整。	胴・横状文、右回り。	3点の接 合
351-2	小形壺	覆土内 胴・肩・胴部 破片	頸 9.9 胴 10.9	粗 粒 砂 良	浅溝堀	外面は風化が美しい。 内面は模範で。	胴・横状文。 胴・波状文。	
351-3	台付壺	覆土内 口縁・胴・肩・胴部 破片	頸 10.0	小礫を含有す る粗粒砂 良	浅溝堀	曲線的胴部から胴筋が「く」の字状に外縁する。 器面は風化が美しい。	胴・4本一単位の横状文。	
351-4	台付壺	覆土内 底部 破片	底 9.6	粗粒砂を混入 した 良	堀	曲線的胴部から胴筋が「く」の字状に外縁する。外縁部に一部破 位の刷毛目調整を認める。		底の一部 褐色色
351-5	壺	覆土内 底部 破片	底 7.8	粗粒砂を混入 した 良	明堀戻	外面は縦、斜位方向の刷毛目。		

351-6	竪 灰流溝 底部 破片	底 8.0	細粒砂を混入 良	純 濁	外面は縦方向の縦溝で、 内面は横溝で。		
351-7	竪 覆土内 底部 破片	底 8.0	細粒砂を混入 良	純 濁	外面は横溝で。		
351-8	竪 灰流溝 底部 破片	底 7.7	粗粒砂を混入 良	横と 純 濁	外面は斜位方向の縦毛目。		底の一部 を欠損
351-9	竪 灰流溝 底部 破片	底 6.7	細粒砂を混入 良	明 濁	外面は縦方向に縦溝ま、 内面は横溝で。		
351-10	竪 覆土内 底部 破片	底 7.0	細粒砂を混入 良	純 濁			
351-11	竪 灰流溝 底部 破片	底 6.0	明粒砂を混入 良	純 濁			
351-12	竪 覆土内 底部 破片	底 5.5	粗粒砂を混入 良	横	内外面とも風化が著しい。		底部を欠 損
351-13	竪 覆土内 底部 破片	底 6.9	細粒砂を混入 良	純 濁	内外面とも風化が著しい。		内面は黒 褐色
351-14	竪 覆土内 底部 破片	底 6.3	粗粒砂を混入 良	純 濁	外面は縦毛目調整後縦溝で、内面は研溝。		2点の接 合
351-15	竪 覆土内 底部 破片	底 7.4	細粒砂に小礫 を含有 良	横	外面は縦の縦溝で。 内面は横溝で。		2点の接 合 内面 の一部は 褐色
351-16	竪 覆土内 口縁部 破片	口 19.8	細粒砂に粗粒 砂を混入 良	横	口縁部は受け口状に呈する。 内外面とも風化しているが、外面は縦毛目、内面は横溝で。		3点の接 合 口唇 部に欠損 有り
351-17	竪 覆土内 口縁部 破片		粗 粒 砂 良	明赤濁	内外面とも風化が著しく二重り。		

351-18	葦 口縁部 破片	葦土内 口縁部 破片	口縁部は特殊工具による押捺。	口・波状文。(風化が著しい。)		3点の接合
351-19 151	葦 胴部 破片	葦土内 胴部 破片	内面は風化が著しい。	胴・細線文の細い花線。		5点の接合
351-20	葦 胴部 破片	葦土内 胴部 破片	外面は斜位の刷毛目調整痕跡で、内面は風化が著しい為肉厚である。	胴・刷状文。		
351-21	葦 胴部下半 破片	葦土内 胴部下半 破片	外面は研磨。			
351-23	高 環 底部 破片	葦土内 底部 破片	外面は環方向の刷毛目。			2点の接合

I 区第120号住居跡

調査番号 図面番号	器 種	出土位置 保存状態	口径 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	特 形・造 形・装 飾 的特 徴	文 様	備 考
353-1 151	甕 底部のみ欠損	床直 底部のみ欠損	口 21.4 胴 18.1 胴 22.1	細 粒 砂 好	灰 色 好	胴部は丸味を帯び、胴部は「く」の字状を呈し、口縁部は外傾している。 外面は斜位の研磨で内面は横位の研磨を施している。	胴・7本一単位の波状文、左回り。 胴・肩にかけて7本一単位の波状文。 口唇・棒状工具による押捺。	31点の接合
353-2 151	甕	葦土・床直 口縁・胴・肩・胴部 欠	口 19.0 胴 15.6 胴 19.2	細 粒 砂 好	灰褐色	胴部は曲線的に立ち上がり、胴部でくびれ口縁部は内傾しながら立ち上がる。口唇部は平坦である。 外面は斜位の研磨で新方向に施している。	口・7本一単位の波状文。 胴・7本一単位の波状文、右回り。 胴・7本一単位の波状文を2段に施している。	7点の接合
353-3	甕	葦土 胴・肩・胴部 欠	胴 16.0 胴 20.3	細 粒 砂 好	赤褐色	外面は横位の研磨(風化により分明に認められない)。 外面は肩部から斜部にかけて横位の研磨である。	胴・5本一単位の波状文、右回り。 胴・6本一単位の波状文を2段に施している。	2点の接合
353-4 151	甕	葦土・床直 口縁・胴・肩・胴部 欠	口 14.9 胴 11.5 胴 13.4	細 粒 砂 好	褐色 好	内傾しながら立ち上った胴部が肩部で内傾し、胴部でくびれ口唇部は外傾している。口唇部は平坦である。 外面は斜位の研磨で内面は横位の研磨を施している。	口唇・棒状工具による押捺。 胴・7本一単位の波状文、右回り。 胴・7本一単位の波状文を2段に施している。 胴・羽状波線文。	9点の接合
353-5	甕	葦土内 口縁部 破片	細 粒 砂 好	灰褐色	褐色 好	口縁部は内傾し、口唇部は平坦である。 外面は斜位の刷毛目で、内面は研磨。	口唇・棒状工具による押捺。 口・7本一単位の波状文。	
353-6	甕	葦土内 口縁部 破片	細 粒 砂 好	灰褐色	褐色 好	口縁部は外傾している。 内面は横磨で。	口唇・単筋L R部体線文の押捺。 口・単筋L R部体線文の横紋。	

353-7	裏	覆土内 口縁部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	口縁部は外周し口唇直下で垂直に立ち上がる。口唇部は丸い。 内面は研盤。	口唇・轉状工具による押捺。 口・7本一単位の破状文。
353-8	表	覆土内 口縁部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	口縁部は外周し口唇直下で垂直に立ち上がる。口唇部は丸い。 外面は斜位の影毛織で、内面は研盤。	口唇・轉状工具による押捺。 口・5本一単位の破状文。
353-9	裏	床直 口縁部	破片	細粒砂に粗粒 砂を混入貝好	好	浅黄褐色	口縁部は内周し受け口状を呈する。 外面は斜位の影毛織で、内面は研盤。	口唇・轉状工具による押捺。 口・7本一単位の破状文。
353-10	裏	覆土内 頸部	破片	細粒砂 貝	好	灰白	内面は研盤。内外面とも黒化が著しい。	頸・8本一単位の破状文、右回り。
353-11	裏	覆土内 頸・肩部	破片	細粒砂 貝	好	黄灰	内面は影毛織で洗練面。	頸・7本一単位の破状文、右回り。 肩・7本一単位の破状文を2段に施している。
353-12	裏	床直 頸・肩部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	内外面とも研盤。	頸・破状文、右回り。 肩・7本一単位の破状文を2段に施している。
353-13	裏	覆土内 肩部	破片	細粒砂 貝	好	灰	内面は研盤。	肩・6本一単位の破状文を2段に施している。 2点の接合
353-14	裏	覆土内 頸・肩部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	内面は研盤。	頸・7本一単位の破状文、右回り。 肩・7本一単位の破状文を2段に施している。
353-15	裏	覆土内 頸・肩部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	内面は斜位の影毛織。	頸・6本一単位の破状文、右回り。 肩・6本一単位の破状文を2段に施している。
353-16	裏	覆土 頸・肩部	破片	粗粒砂に小骨 を混入 貝好	好	浅黄褐色	内面は研盤。	頸・6本一単位の破状文、右回り。 肩・6本一単位の破状文を2段に施している。
353-17	裏	覆土内 頸部	破片	細粒砂 貝	好	灰白	内面は研盤。	頸・7本一単位の破状文、右回り。
353-18	裏	覆土内 頸・肩部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	外面は研盤。 内面に粘土の層が目度有り。	頸・7本一単位の破状文、右回り。 肩・7本一単位の破状文。
353-19	裏	床直 胴部	破片	細粒砂 貝	好	灰褐	外面は影毛織で洗練面での痕跡が見られるが、全体的に表面は荒 れている。内面は研盤。	胴・破状文。
353-20	裏	覆土内 肩・胴部	破片	細粒砂 貝	好	浅黄褐色	外面は影毛織。 内面は研盤。	肩・破状文。

333-21	要	甌土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰 黄	外面は刷毛織で、 内面は研磨。	刷・波状文。	
333-22	要	甌土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰 黄	外面は刷毛織で、 内面は織で。	刷・波状文。	
333-23	要	甌土内 胴部 破片		細 粒 砂 良	灰 黄	内面は織で。	刷・波状文。	
333-24	要	甌土内 胴・胴部 破片		粗粒砂に細粒 砂を混入良好	灰 黄	外面は織位の刷毛織で、 内面は研磨。	刷・波状文。羽状直線文。	
333-25	要	甌土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰 白	内面は研磨。	刷・車削R.L.多角織文の横転。	
333-26	要	片直 胴・胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰 白	内面は織織で。	刷・横状文、右回り。 刷・車削R.L.多角織文の横転。	2点の接 合
333-27	要	甌土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰 黄		刷・7本一単位の羽状直線文。	
333-28	要	甌土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰黄體	断面の風化が著しい。	刷・横状文。	
333-29	要	甌土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰 白	外面刷毛織で織織織で。		
333-30	要	甌土内 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰 白	内外面とも斜位の刷毛目調整。		2点の接 合
333-31	要	灰直・甌土内 胴部 破片	胴 13.6	粗 粒 砂 良	灰黄體	外面は車削り斜位方向への研磨。 内面は斜上方向への研磨。		4点の接 合
334-1	要	外底直成上 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰黄體	外面は斜方向の箕状工具の織で織研磨。 内面は織織で。		
334-2	要	甌土・歩底直成上 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰黄體	外面は斜位の刷毛目調整による織で織研磨。 内面は織織で。		2点の接 合
334-3	要	甌土内 口縁部 破片		粗 粒 砂 良	灰 黄	内面に粘土の置き目痕が見える。	口・山形波状文。	

354-4	竪 覆土内 底部 破片	高 12.0	細粒砂を投入 良	純黄 好	純黄 と黒褐	外周は黒位の刷毛層で、 内周は黒位の刷毛層で。		
354-5	竪 覆土内 底部 破片	高 8.0	細粒砂に小礫 を混入 良好	洗黄褐		外周は黒位の刷毛層で、 内周は黒褐色で後部部。		
354-6	竪 ? 床底 底部 破片	高 10.5	粗粒砂を投入 良	洗黄褐 好		外周は黒で、 内周は黒部は黒層で、上位は黒で。		
354-7	竪 覆土内 底部 破片	高 8.0	細粒砂に小礫 含有 良 好	洗黄褐		外周は黒層で、 内周は黒で。		
354-8	竪 覆土内 底部 破片	高 7.8	粗粒砂を投入 良	純黄褐 好		外周は黒で、 内周は刷毛目調整。	2 点の接 合	
354-9	竪 覆土内 底部 破片	高 8.4	粗粒砂を投入 良	灰 褐 好		外周は黒層で、 内周は黒で。	外周は黒 色	
354-10 151	鉢 床底 口縁部 破片	口 17.2	細粒砂を投入 良	純黄褐 好		口縁部は外傾し、口唇部は丸味を帯びる。 外周は黒位の強い黒層で、内周に刷毛目調が見られるが、後行す る層により大半が閉去されている。	口・7本一単位の兼状文、右回り。 4 点の接 合	
354-11	高坪? 覆土内 底部		粗粒砂を投入 良	黒		内外面とも黒層で、黒化が著しい。		

I 区第146号住居跡

棟 号 神 原 区 高 原 番 号	出 土 位 置 遺 存 状 態	高 さ (cm)	土 質 成 分	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	文 様	備 考
355-1	覆土内 口縁部 破片		粗粒砂を投入 良 好	純黄褐 好	口縁部は外傾し口唇部は丸い。 内外面とも刷毛層で。		
355-2	竪 覆土内 口縁部 破片		粗粒砂を投入 良 好	純 黄 好	口縁部は外傾し口唇部は丸い。 外周は刷毛層で。		
355-3	竪 覆土内 口縁部 破片		微粒砂に小礫 混入 良 好	洗赤褐 好	口縁部は外傾し口唇部が肥厚している。 内外面とも黒層で。		
355-4	竪 覆土内 口縁部 破片		粗 粒 砂 良 好	黒 褐 好	口縁部は外傾している。 外周は黒化が著しい。	斜・兼状文、左回り。	

355-5	埴 覆土内 口縁部 破片	粗 砂 瓦 好	純 堊	口縁部は外縁している。	頭・鬚状文、右回り。
355-6	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂に小礫 を混入 良好	浅黄堊	内外面とも鬚位の階層で。	頭・鬚状文、右回り。
355-7	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂に小礫 を混入 良好	浅黄堊	外面は風化している為文部がはっきりしない。	頭・6本一単位の鬚状文、左回り。 肩・6本一単位の波状文。
355-8	埴 覆土内 胴・肩部 破片	粗粒砂を混入 良好	黒	内面は鬚層で。	頭・6本一単位?の鬚状文。 右回り。肩・6本一単位?の波状文。
355-9	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂を混入 良好	浅黄堊	内外面とも風化が著しい。	頭・5本一単位の鬚状文を2段に施す。
355-10	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂を混入 良好	浅黄堊		頭・鬚状文、右回り。頸状付文。
355-11	埴 覆土内 胴・肩部 破片	粗粒砂を混入 良好	暗赤褐		
355-12	埴 覆土内 胴・肩部 破片	粗粒砂を混入 良好	純 褐	内面は鬚層で。	肩・4本一単位の鬚状文、右回り。羽状波線文。
355-13	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂を混入 良好	純 褐	内面は粗毛層で後階層で。	
355-14	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂を混入 良好	黒 褐	内面は鬚層で。	頭・5本一単位の波状文。
355-15	埴 覆土内 頸部 破片	粗粒砂を混入 良好	赤 褐	内面は風化が著しい。	肩・5本一単位の波状文。 2点の接合
355-16	埴 覆土内 胴部 破片	粗粒砂を混入 良好	赤 褐	内面は風化が著しい。	肩・5本一単位の波状文の下層に横線文。
355-17	埴 覆土内 胴・肩部 破片	粗粒砂を混入 良好	暗 灰	外面は風化が著しい。 内面は鬚層で。	頭・鬚状文、右回り。 肩・羽状波線文?
355-18	埴 覆土内 胴・肩部 破片	粗粒砂に小礫 を混入 良好	純 堊	内面は風化が著しい。	頭・7本一単位の波状文。 肩・4本一単位の波状文。

355-19	裏 ?	瓦土内 胴部 破片				細粒砂に小礫 を混入 良好	純鉄骨		厨・庫跡R L多角積立の積立。
355-20	裏	瓦土内 胴・胴部 破片				細粒砂を混入 良好	灰鉄骨		厨・庫跡L R多角積立の積立。
355-21	裏	瓦土内 胴部 破片				粗粒砂を混入 良好	純 磚		厨・4本1束の扉目文。
355-22	表	瓦土内 底部 破片	葎 10.9			細粒砂を混入 良好	暗 層	外面は縦方位斜位の刷毛目。 内面は裏で。	
355-23	表	瓦土内 底部 破片	葎 9.9			細粒砂を混入 良好	灰鉄骨	外面は斜位の刷毛目で、 内面は裏で。	
355-24	裏	瓦土内 底部 破片	葎 7.5			粗粒砂を混入 良好	純 瓦	内面は裏で。	
355-25	表 ?	瓦土内 底部 破片	葎 7.8			細粒砂を混入 良好	純 磚	厨面の風化が著しい。	
355-26	裏	瓦土内 底部 破片	葎 6.3			細粒砂を混入 良好	淡鉄骨		
355-27	表	瓦土内 底部 破片	葎 12.5			細粒砂に小礫 を混入 良好	灰鉄骨		
355-28	表	瓦土内 底部 破片	葎 7.0			細粒砂を混入 良好	暗 層	外面は裏割り後継で。	
355-29	表	瓦土内 底部 破片	葎 5.2			微粒砂を混入 良好	灰鉄骨	厨面に風化が著しい。	
355-30 152	高 坏	瓦土内 胴・坏部				細粒砂を混入 良好	淡鉄骨	内外面とも刷毛目調整。	5点の接 合

I 区第172号住居跡

棟 号 番 号	種 類	出土位置 遺存状態	成 品 (cm)	土 質 地 産 地	色 調	輪 郭 ・ 形 状 ・ 特 徴	文 様	備 考
350-1	葉	覆土内 口縁・頸部 片	口 14.6 頸 11.6	細粒砂に小礫 を含有 良好	灰 褐色	口縁部は外傾し、口唇直下で肥厚している。 外面は風化が著しい。	頸・4本一単位の縦状文、右回り。 肩・車筋L R縦文原体の残存。	8点の陪 合
350-2	葉	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 褐色	外面は褐色帯で化粧面。 内面は化粧面。	口唇・車筋L R多糸縄文原体の押染。 頸・縦状文、右回り。	
350-3	葉	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 褐色	口縁部は外傾し、口唇部は平坦。 外面は磨位の状態で。	口唇・車筋L R多糸縄文原体の押染。	
350-4	葉	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	黒 褐色	口縁部は外反している。 内面は磨目調整状態で。	口唇・車筋R L多糸縄文原体の押染。 口・車筋R L多糸縄文原体の磨化。 頸・縦状文、右回り。	
350-5	葉	覆土内 口縁部 破片		細 粒 砂 良好	褐	口縁部は外反している。 内外面とも磨面。	口・4本一単位の縦状文。 頸・縦状文、左回り。	
350-6	葉	覆土内 口縁部 破片		細 粒 砂 良好	灰 褐色	口縁部は外反する。 内外面とも磨面。	口唇・車筋R L多糸縄文原体の押染？ 口・6本一単位の縦状文。	
350-7	高 坪	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 白	口縁部は外傾する。 内外面とも磨面。	内面に赤色顔料の磨彩。	2点の陪 合
350-8	葉	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 褐色	口縁部は外反している。 外面は磨面。		
350-9	葉	覆土内 口縁・頸部 片	口 12.6 頸 11.7	細粒砂を混入 良好	明褐色	受け口状口縁。 内外面とも磨面。		
350-10	葉	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 褐色	受け口状口縁。 内外面とも磨面。	口・縦状文（4本一単位？）。 頸・縦状文、右回り。	口唇部欠 損有り
350-11	葉	覆土 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 褐色	受け口状口縁。 内外面とも磨面。	口唇・車筋R L縦文原体の押染。 頸・縦状文、右回り。	
350-12	葉	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	褐	口縁部は外反し、口唇部は平坦。 外面は磨面で調整後磨目。内面は磨面。		

358-13	裏	覆土内 第・前部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	内外面とも是層で。	第・ 塵状文 (6本一単位以上)、右回り。	
358-14	裏	覆土 第・前部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	外面は新毛織で。 内面は新毛織で炭化層で。	第・ 5本一単位の塵状文、右回り。	
358-15	裏	覆土内 第・前部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	外面は新毛織で。 内面は塵位の炭化層で。	第・ 6本一単位の塵状文、左回り。	
358-16	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	内外面とも是層で。 外面は炭化が著しい。	第・ 塵状文 (6本一単位以上)、左回り。	
358-17	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	内外面とも是層で。	第・ 4本一単位の塵状文、右回り。	
358-18	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	内面に粘土紐の層目が見られる。炭化層で。	第・ 6本一単位の塵状文、右回り。鋭い斜位の 枕線文。	2点の層 合
358-19	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好		第・ 6本一単位の塵状文、右回り。層目状態。	18と同一 個体
358-20	裏	覆土内 第・前部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	内外面とも全体的に器面が荒れている。 内面は是層で。	第・ 塵状文、左回り。 肩・段筋LR横文面体の横転。	
358-21	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	枕	内面は是層で。	第・ 7本一単位の塵状文、左回り。 肩・ 7本一単位の炭状文。単筋LR多糸織文面 体の横転。	
358-22	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	枕	内外面とも是層で。	肩・炭状文。単筋LR多糸織文面体の横転。	
358-23	裏	覆土内 第・前部	破片	細粒砂を埋入 良	洗炭層 好	内面は炭化層で。	第・ 7本一単位の塵状文、右回り。 肩・ 7本一単位の炭状文。	
358-24	裏	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	灰 白	外面は是層で。 内面は砂層。	第・ 6本一単位の炭状文を2段に施す。	
358-25	表	覆土内 第部	破片	細粒砂を埋入 良	灰黄褐色	外面は塵位の厚化層で。	第・ 2本1条の横線文 (半筋竹管?)	3点の層 合

358-26	甕 ?	甕土内 底部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	淡黄褐色	内外面とも器面が荒れている。	胴・腹部R.L.多量縄文原体の横・斜紋、横線文。	
358-27	甕	甕土内 肩・胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	褐色	外面は横位の刷毛織で、 内面は磨面で。	肩・腹部L.R.縄文原体の横紋。	2点の接 合
358-28	甕	甕土内 肩・胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	淡黄褐色		肩・腹部R.L.多量縄文原体の横紋。	
358-29	甕	甕土内 肩部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	褐色	外面は横位の刷毛織で。	肩・7本一単位の横紋文。	
358-30	甕	甕土内 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	褐色	内面は横位の刷毛織で。	胴・腹い斜位の横線文。	
358-31	甕	甕土内 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	淡黄褐色	内面は磨面。	胴・羽状横線文。	
358-32	甕	甕土内 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	褐色	器面の風化が著しい。	胴・横位の横線文、斜状斜行文。	2点の接 合
358-33	甕 ?	甕土内 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	淡黄褐色	内外面ともに刷毛織で。		
358-34	甕 ?	甕土内 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	褐色	内外面ともに刷毛織で。		
358-35	甕	甕土内 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	淡黄褐色	内面は磨面で。	胴・「コ」の字状重文 ?	内面は灰 色
358-36	甕	P-1 胴部 破片	粗粒砂を記入 貝 好	淡黄褐色	外面は磨面で。		3点の接 合
358-37	甕 ?	甕土内 底部 破片	底 9.2 粗粒砂を記入 貝 好	灰 白	外面は磨面で。 内面は刷毛織で磨面で。		内面は磨 灰色
358-38	甕 ?	甕土内 底部 破片	底 8.1 粗粒砂を記入 貝 好	灰 白	外面は斜位の磨面で。		
358-39	甕 ?	甕土内 底部 破片	底 7.4 粗粒砂を記入 貝 好	褐色	内外面とも磨面で。		

358-40	窯 ? 西土内 底部 破片	底 7.3	細粒砂を混入 好 貝	純 橙	断面の風化が著しい。		
358-41	窯 ? 西土内 底部 破片	底 8.5	細粒砂を混入 好 貝	純 橙	外面は黄褐色で？ 断面が荒れている。		
358-42	窯 ? 西土内 底部 破片	底 7.3	細粒砂を混入 好 貝	灰黄橙	外面黄褐色。 内面は荒れている。		
359-1	窯 ? 灰土層 西土内 底部 破片	底 8.1	細粒砂を混入 好 貝	灰黄橙	内外面ともに断面の風化が著しい。		2点の接 合
359-2	窯 ? 西土内 底部 破片	底 9.6	細粒砂を混入 好 貝	純 橙			
359-3	窯 ? 西土内 底部 破片	底 5.2	細粒砂を混入 好 貝	純 橙			
359-4	窯 西土内 底部 破片	底 6.0	細粒砂を混入 好 貝	灰黄橙			
359-5	窯 ? 西土内 底部 破片	底 8.1	細粒砂を混入 好 貝	橙			
359-6	窯 西土内 底部 破片	底 10.0	細粒砂を混入 好 貝	橙	外面は黄褐色で黄褐色。内面は細毛目調黄褐色。 底部中央に円形の穴を穿つ。		
359-7	窯 西土内 口縁部 破片		粗粒砂を混入 好 貝	灰 白	口縁部は強く外反し、口唇部は丸い。 外面は上部は黄褐色で、下部は細位の細毛目調で。		
359-8	窯蓋? 西土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 好 貝	灰 橙	口縁部は外反し、口唇部は丸い。 外面は黄褐色で、内面は黄褐色で。		
359-9	窯 西土内 胴部・底部周辺 片	底 10.2	細粒砂を混入 好 貝	灰黄橙	外面は細位の細毛目調で、底部周辺は黄褐色で、内面は細毛目調で、粘 土層の層を貫通。		2点の接 合
359-10 152	窯 西土内 胴・底部	底 10.0	細粒砂を混入 好 貝	純 橙	外面は細位の黄褐色で南向き方向の細毛目調で。 内面は黄褐色で。		6点の接 合

359-11 152	表	体直溝・覆土内 空砂	口 11.8 頸 7.8 肩 13.2 底径21.5	細粒砂 好 貝	純黄土 好	断面は胴部から体直にかけて直線。 内面は直線。 口・胴部R.L.多糸縄文原体の横断。 肩・4本一単位の縷状文、右回り。 胴・胴部R.L.多糸縄文原体の横断。	23点の接 合
359-12 152	裏	覆土内 胴・肩・胴部 空	覆土内 頸 13.1	細粒砂に小礫 を含有 良好	純 黄土	断面は横断で、内面は胴部に指圧痕。粘土質の縷ま目直。 内外面とも断面が荒れている。	10点の接 合

I 区212号住居跡

検出番号 図面番号	表	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	胎形・成形・断面の特徴	文	備考
361-1 152	裏	覆土内 口縁・胴・胴部	口 12.7 頸 10.2	細粒砂を混入 好 貝	純黄土 好	口縁部は外側して平直。 内外面とも横断で。	口時・単節L.R.多糸縄文原体の横断。 胴・7本一単位の縷状文、左回り。 肩・単節L.R.多糸縄文原体の横断。	19点の接 合
361-2	裏	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	赤 褐	口縁部は内側して丸い。	胴・4本一単位の縷状文、右回り。	外面は赤 色胎形
361-3	裏	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	純黄土 好	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	2点の接 合
361-4	裏	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	純 褐	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	
361-5	裏	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	純 褐	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	
361-6	裏	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	純 褐	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	
361-7	裏	体直溝 胴・肩部 破片		細粒砂を混入 好 貝	赤 褐	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	
361-8	裏	体直溝 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	赤 褐	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	
361-9	裏	体直溝 胴部 破片		細粒砂を混入 好 貝	赤 褐	断面はやや歪れている。	胴・7本一単位の縷状文、左回り。	

361-10	竪	床直溝 基部 破片		細粒砂を混入 良好	洗剤槽	内面は横位の鋭い胡瓦目。	頭・沈線、L Rの横文。	
361-11	竪	床直溝 基部 破片		細粒砂を混入 良好	溝		頭・平行沈線。	2点の接 合
361-12	竪	床直溝 脚・基部 破片	底 5.4	細粒砂に小礫 を混入 良好	洗剤槽	外面は風化が著しい。内面は横溝で、 乾燥時にひび割れをおこしている。		6点の接 合
361-13 152	右付蓋	覆土内 溝部のみ欠損	口 12.6 溝 15.9	粗粒砂を混入 良好	洗剤槽		口・7本一単位の波状文、右回り。 脚・6本一単位の波状文、右回り。 脚・削位の断毛溝で、風状文。	2点の接 合
361-14	竪 ?	床直溝 基部 破片	底 8.7	細粒砂を混入 良好	洗剤槽	外面は横溝で。		
361-15	竪 ?	床直溝 基部 破片	底 7.7	細粒砂を混入 良好	洗剤槽	外面は横溝で。		
361-16	高 坏	覆土内 溝部? 破片	底 11.7	細粒砂を混入 良好	溝	表面はやや荒れている。	赤色顔料塗彩。	

I区232号住居跡

棟頭番号 図原番号	形	出土位置 遺存状態	底面 (cm)	土 質	土 色	形状・成形・装飾の特徴	文 様	備 考
363-1	竪	覆土内 口縁・頸部 破片		粗粒砂に礫を 混入 良好	橙	口縁部は外反し、口唇部は丸い。 外面は横位の横溝で、内面の器面は荒れている。	頭・風状文、左回り。	
363-2	竪	覆土内 口縁部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	鈍黄褐色	口縁部は外反し、口唇部は丸い。 外面は風化が著しい。内面は横溝で。	口唇・単節L R多糸編文器体の押捺。 口・単節L R多糸編文器体の押捺。	
363-3	竪	覆土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良好	鈍 黄	口縁部は外反し、口唇部は平坦。 外面は風化が著しい。	頭・風状文、左回り。	
363-4	竪	覆土内 口縁・頸部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	橙	受け口状口縁。 内外面とも横溝で。	頭・風状文、右回り。	

363-5	葉	瓦土内 口縁・頸部 破片	口 13.2 頸 12.0	細粒砂を混入 好	純黄褐色	受け口状口縁。 内外面とも輪縁で。	2点の接 合
363-6	葉	瓦土内 口縁・頸部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	洗黄褐色	口縁部は欠損する。 口縁部は外反している。	葉・葉状文、右回り。
363-7	葉	瓦土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良好	純 橙	口縁部は外反し、口唇部を欠損している。 外部は風化が著しい。内面は磨で。	葉・葉状文、左回り。
363-8	葉	瓦土内 頸・肩部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	純黄褐色	外面は風化が著しい。 内面は輪縁で。	葉・葉状文、右回り。
363-9	葉	瓦土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良好	純黄褐色	内面は輪縁で。	葉・7本一単位の葉状文、左回り。 肩・葉状文。
363-10	葉	瓦土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良好	純 濁	口縁部は縦位の刷毛磨で。	葉・葉状文、右回り。
363-11	葉	瓦土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	純黄褐色	肩部外面は縦位の刷毛磨で。	葉・葉状文、左回り。
363-12	葉	瓦土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良好	灰 白	肩部外面は縦位の刷毛磨で。 内面は輪位の刷毛磨で。	葉・9本一単位の葉状文、右回り。
363-13	葉	瓦土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	洗黄褐色	外面は輪位の灰磨で。 内面は輪位の刷毛磨で。	葉・葉状文、右回り。
363-14	葉	瓦土内 頸・肩部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	洗黄褐色 と暗灰	外面は輪位の灰磨で。 内面は輪位の刷毛磨で。	葉・葉状文、右回り。 肩・5本一単位の山形状の葉状文。
363-15	葉	瓦土内 頸部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	橙	器面の風化が著しい。	葉・葉状文、右回り。 肩・5本一単位の山形状の葉状文。
363-16	葉	瓦土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	黒 濁	外面は縦位刷毛磨で後輪縁で。 内面は磨で。	葉・4本一単位の葉状文を3段に磨す。
363-17	葉	瓦土内 肩部 破片		微粒砂に細粒 砂を混入 良好	純黄褐色	外面は縦位の刷毛磨で。 内面は研磨。	肩・5本一単位の葉状文を磨す。
363-18	葉	瓦土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良好	純黄褐色	内面は輪位の刷毛磨で。	葉・2種類の葉状文を磨す。

363-19	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	純黄褐色	内面は腐位の褐色層で。	附・単節RⅠ多条縄文原体の腐乱。	2点の接 合
363-20	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	浅黄褐色	外面は腐化が著しい。	附・単節RⅠ多条縄文原体の腐乱。	
363-21	礎 附部 破片	覆土内下層 附部 破片		細粒砂を混入 良好	黒褐色		附・複節Ⅰ早縄文原体(多条縄文)の腐乱。	
363-22	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂に細礫 を混入、良好	黒	内面は腐位の褐色層で。	附・複節Ⅰ早縄文原体(多条縄文)の腐乱。	2点の接 合
363-23	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	純黄褐色	内面は研部。	附・重状文、右回り。派状文(輪縁部分)。	
363-24	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	黄褐色	内面は研部。	附・羽状派状文。	
363-25	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	純黄褐色	内面は腐位の褐色層で。		
363-26	礎 附部 破片	覆土内 底層 破片	幅 7.2	粗粒砂 良好	橙			
363-27	礎 附部 破片	覆土内 底層 破片	幅 7.2	細粒砂に粗粒 砂を混入良好	橙	外面基部は腐位の褐色層で。		
363-28	礎 附部 破片	覆土内 底層 破片	幅 8.4	粗粒砂を混入 良好	純赤褐色	底層中心に向かって階層になっている。 外面は腐位の黄褐色で。		
363-29	礎 附部 破片	覆土内 底層 破片	幅 7.2	細粒砂に粗粒 砂を混入良好	黒	外面は新土層で後構で。		
363-30	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂に礫を 混入、良好	純橙	内外面とも腐位の黄褐色で。	附・新構文内に腐位に柱眼を施す。	
363-31	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	橙	内面は研部。	附・平行派状文。	
363-32	礎 附部 破片	覆土内 附部 破片		細粒砂を混入 良好	黒褐色		附・「コ」の字状派状文。	

要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要	要
303-33	覆土内 胴・胴部 破片											胴・胴状直線文。
303-34 132	灰瓦溝・覆土内 胴・胴・胴部 瓦	胴 10.4	細粒砂を記入 瓦 好	胴 體	内面の頸部は斜位に、胴部は横位に刷毛施で文を施す。							10点の装 合
304-1 132	覆土内 胴部 瓦	胴 29.2	細粒砂を記入 瓦 好	胴 體	外面は塗で後研磨。 内面は斜位の刷毛施で。							15点の装 合
304-2 132	覆土内 胴・胴部 瓦	胴 34.0 底 9.7	粗粒砂に小礫 を記入 瓦好	胴 體	外面は塗で後研磨。 内面は横位の刷毛施で。							12点の装 合
304-3 133	灰瓦溝・覆土内 胴・胴部 瓦	胴 31.2	細粒砂を記入 瓦 好	胴 體	外面は塗施で。 内面は斜位の刷毛施で後磨で。一部に刷毛施でも施す。							23点の装 合
304-4 133	灰瓦溝・覆土内 胴・胴部 瓦	胴 9.6	細粒砂を記入 瓦 好	胴 體	外面は塗で後研磨。 内面は斜位の刷毛施で。 器厚はほぼ均一な厚みをもつ。							11点の装 合 底面に 欠損有り
305-1 133	灰瓦溝・覆土内 胴部 瓦	胴 30.0	細粒砂を記入 瓦 好	胴 體	外面は刷毛施で後研磨。内面は刷毛施で。 器厚はほぼ均一な厚みをもつ。							10点の装 合
305-2	灰瓦溝・覆土内 胴・胴部 瓦	胴 33.7	細粒砂を記入 瓦 好	胴 體	外面は横位の刷毛施で後磨で。器厚はほぼ均一な厚みをもつ。 内面は横位の刷毛施で。							13点の装 合
305-3	灰瓦溝・覆土内 胴部 瓦		細粒砂 瓦 好	胴 體	外面は横位の刷毛施で後研磨。器厚はほぼ均一な厚みで見られる。 内面は横位の刷毛施で。							12点の装 合
305-4	覆土内 胴・胴部 瓦	底 9.0	細粒砂 瓦 好	胴 體	外面は横位の刷毛施で後研磨。 内面は瓦施で。							5点の装 合
305-5 133	灰瓦溝・覆土内 完全形	口 19.0 底 9.8 器高 6.8	粗粒砂 瓦 好	胴 體	底部から外縁し立ち上がる体部と口部で、口部には棒状工具による内凹が見られる。 口縁には2孔一対の孔を具備している。							
305-6	高 坏 覆土内 胴部 破片	縁 4.2	粗粒砂を記入 瓦 好	胴 體	外面は酸化が著しい。 胴部の底部分が欠損している。							器外面に雲彩状。
305-7	高 坏 覆土内 胴部 破片	縁 3.5	粗粒砂を記入 瓦 好	胴 體	胴部外面は瓦削り。							胴部外面に雲彩。 器外面に雲彩状。
												2点の装 合

363-8	高坏	甌土内口縁部 破片		黒砂に黒粒砂を混入良好	赤褐色		口唇・唇状突出文。		
363-9	鉢	甌土内口縁部 破片	口 33.2	黒粒砂を混入良好	橙		体部上半を火圍後新れ口を平滑にし、鉢として服用している。外面は黒毛無地で後研磨。		3点の組み合わせ

J区第1号方形周溝墓

検出番号 図面番号	種類	出土位置 遺存状態	度量 (cm)	出土 構成	色調	器形・成形・装飾の特徴	文	備考
374-1	蓋	甌土内口縁部 破片		黒粒砂を混入良好	灰黄色	外周する口縁。		
374-2	蓋	甌土内口縁部 破片		黒粒砂を混入良好	純黄色	口縁部に棒状工具による押捺。口縁部は内湾状味で内面は磨面で。		
374-3	蓋	甌土内胴部・胴部 破片		黒粒砂を混入良好	純黄色	内面は黒毛状工具による磨で。	頸・る木一単位の装状文。	
374-4	蓋	甌土内胴部 破片		黒粒砂を混入良好	純黄色	黒毛状工具による磨で。		
374-5	蓋 ?	甌土内胴部		黒粒砂を混入良好	灰黄色			
374-6	蓋	甌土内胴部・体部 破片		黒粒砂を混入良好	橙			
374-7	蓋	甌土内底部 破片	底 12.0	黒粒砂を混入良好	灰黄	外面は上部で研磨。下部で覆磨り。内面は磨面。		
374-8	蓋	甌土内底部 破片	底 6.0	黒粒砂を混入良好	純黄色	外面は覆磨り。内面は磨面で。		
374-9	高坏	甌土内組合部のみ遺存		黒粒砂を混入 黒粒含有良好	橙			
374-10 153	蓋	甌土内体部下半 片	底 3.0	黒粒砂を混入良好	純黄色			

H区第1号方形周溝墓

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
374-11 153	甕	溝底直上 完整	口 15.6 胴 8.2 肩 30.9 底 7.8 総高44.9	細粒砂に礫を 混入 良	褐色 好	平短な胴部から肩部にやや外傾し立ち上がり、肩部に縁外縁を有し、肩部から腹部にやや内傾し、胴部ですぼんでいる。口縁部は下位で外傾し土位では内傾している。 外周は縁で後周毛脚を帯すが、肩毛は明確に認められない。 内面は滑で、口縁部は傾位の研削。	口・口唇・肩部・L・R縁交点部(多条線文)横線。 胴・7本一単位の葉状文、左回り。 肩・肩部・L・R縁交点部(多条線文)の横線。 7本一単位の半行状線文・7本一単位の葉状文を2段に帯す。	124点の 検出
374-12 153	甕	溝底直上 肩・胴・底部 5/6	肩 30.0 底 9.5	細粒砂を混入 良	褐色 好	平短な胴部から肩部にやや外傾な味に立ち上がる。 外周は傾位の研削・肩部は傾位に研削部で後周溝でにより肩毛目を帯している。内面も同様である。		40点の検 出

G区第121号址

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
377-1	甕	掘上内 口縁部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	黒褐 色	口縁部は外傾する。 内面は滑削で。	口唇直下に7本一単位の葉状文。	
377-2	甕	掘上内 口唇・頸部 破片		細粒砂を混入 良	灰黄褐 色	口縁部は外傾し口唇部は平直。 内面は滑削で。	口唇直下に8本一単位の葉状文。 胴・葉状文、左回り。	
377-3	甕	掘上内 肩・頸部 破片		細粒砂を混入 良	褐色 色	外部の頸部直下に斜位の葉状文。 傾位の研削目。	胴・10本一単位の葉状文、右回り。 肩・10本一単位の葉状文。	

遺構外出土遺物

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm)	胎土 構成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
378-1	甕	表土 胴部 破片		細粒砂に礫を 含む 良好	明黄褐色	内面は滑削で。	胴・L・R縁文。長く幅の広い状態。	
378-2	甕	表土 胴部 破片		細粒砂に礫を 含む 良好	明黄褐色	内面は滑削で。	胴・L・R縁文。長く幅の広い状態。	

378-3	蓋	覆土内・覆瓦 胴部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	横	外面は墨色が残っているが、横断での跡が見られる。 内面は黒褐色。	胴・太い沈線により「工字状文」を施す。
378-4	蓋	表土 口縁部 破片	口 10.5	粗粒砂を混入 良	横	内面は黒褐色を施す。	口唇部直下に、漆状の黒帯文を施す。胴・幅の 広い条痕文を横位に施す。
378-5	蓋	表土 口縁部 破片		粗粒砂を混入 良	横	口唇部には施文工具を押捺。外反し立ち上がる口縁部には斜位に 刺毛目を施している。内面は黒褐色。	口・L・R縦文。
378-6	蓋	覆土内 口縁部 破片		粗粒砂に小礫 を含有 良	横	内面は黒褐色を施す。 口唇部は斜位により凹状を呈する。 口縁部は外反し立ち上がり、斜位の刺毛目を施している。	口・L・R縦文。
378-7	蓋	表土 胴部 破片		細粒砂に小礫 含有 良好	横	内面は黒褐色を施す。	胴・条痕。
378-8	蓋	表土 胴部 破片		小礫を含有す る粗粒砂良好	横		胴・条痕。
378-9	蓋	表土 胴部 破片		小礫を含有す る粗粒砂 良	浅黄褐色 或黄褐色 或赤褐色	内外面とも黒褐色。 外面は浅黄褐色と深い赤褐色で縞を作っている。 器内はほぼ均一。	2点の漆 合
378-10	?	覆土 口縁部 破片		粗粒砂を混入 良	明黄褐色		口・刺状文。
378-11	?	表土 口縁部? 破片		粗粒砂に礫を 混入 良好	横		胴・胴・刺状文。
378-12	蓋	表土 胴・胴部 破片		粗粒砂を混入 良	横	外面に黒部が見られる。	胴・L・Rの縦文押捺。斜位施付文。
378-13	手づく ね	皿 % 破片		粗粒砂 良	灰白	外形は円筒形。内面は外反する。 器面の黒化が著しい。	2点の漆 合
379-1	蓋	カマド・覆土内 口縁・胴部 破片		粗粒砂に細粒 砂を含有 良好	明黄褐色	口唇部は外反し口唇部は深い。 外面は斜位の刺毛目を施す。	口唇・胴部L・R多条縦文帯体の押捺。 胴・横状文、右回り。
379-2	蓋	覆土内 口縁部 破片		粗粒砂 良	浅黄褐色	口唇部は直立取柄。	口唇・棒状工具による押捺。 口・7本一單位の條状文。

379-3	壺	灰土層 口縁部	破片	細粒砂を混入 良	純高	口縁部は外縁してない。 外面は磨製で、内面は刷毛目調整痕跡で。	口・3本一単位の波状文。
379-4	壺	黒土内 口縁部	破片	微粒砂を混入 好	明赤褐色	口唇部は平直でL・Rの磨製。外面は刷毛目の刷毛目。 口縁部は外縁してL・Rの磨文。内面は磨製で。	頸・磨製文、左回り。
379-5	壺	黒土 口縁部	破片	細粒砂を混入 良	褐色	口縁部は外縁して平直。外面の磨面は荒れている。 内面は刷毛目の刷毛目。	口唇・磨文の磨製。 口・R・Lの磨文。
379-6	壺	灰土 口縁部	破片	微粒砂を混入 良	褐色	外面は刷毛目、内面は刷毛目の刷毛目。	口・R・Lの磨文。
379-7	壺	黒土内 口縁部	破片	細粒砂を含む 良	純高	口縁部は受け口状を呈し、内外面とも風化が著しい。	
379-8	壺	黒土内 口縁部	破片	微粒砂を含む 良	黄褐色	口縁部は受け口状を呈する。内外面とも刷毛目の刷毛目。	口・8本一単位の波状文。
379-9	壺	黒土内 口縁部	破片	細粒砂を混入 良	褐色	口縁部は外縁してなくやや肥厚している。 口唇部に工具による押捺。外面は磨製。	口・内面は5本一単位の波状文。 頸・磨製文、左回り。
379-10	壺	赤土 口縁部	破片	粗粒砂に砂を 混入。良好	褐色	口縁部は外縁してない。 内外面とも磨面が荒れている。	口・4本一単位の波状文。
379-11	壺	黒土内 口縁部	破片	粗粒砂に小礫 を混入。良好	褐色	内外面とも磨製で。	頸・波線、刺英文。
379-12	壺	黒土内 口縁部	破片	微粒砂を混入 良	黄褐色		頸・磨製文内に刷毛目。 内外面とも赤褐色
379-13	壺	黒土内 口縁部	破片	粗粒砂を混入 良	灰白	口縁部は直立し口唇部はない。 外面は刷毛目で鋭い刷毛目。研磨。	
379-14	壺	黒土内 口縁部	破片	粗粒砂を混入 良	黄褐色	内外面とも風化しているが、研磨の痕跡が見られる。	
379-15	壺	赤土 口縁部	破片	微粒砂に小礫 を混入 良	褐色	口縁部は内縁してなく肥厚している。 口唇部に工具による押捺を呈し波状を呈する。 内外面とも刷毛目の刷毛目。	内外面とも赤色顔料塗彩。

379-16	壺	甕土内 胴部 破片	粗粒砂 好 貝	灰 陶	外面は胴部の縞状文を採んで頸位の刷毛目。 内面の胴面は荒れているが、頸位の刷毛目の跡が見られる。	頸・5本一単位の縞状文を2段に施す。右回り。
379-17	壺	赤土 胴部 破片	粗粒砂 好 貝	灰 陶	外面は荒化する。 内面は磨滅で。	頸・5本一単位の縞状文。右回り。
379-18	壺	赤土 胴部 破片	粗粒砂 好 貝	灰 陶	外面は斜位の刷毛目。	頸・7本一単位の縞状文。右回り。
379-19	壺	甕土内 口縁・胴部 破片	細粒砂を混入 好 貝	灰 陶	口縁部は外反し立ち上がり刷毛目を施している。	頸・縞状文。右回り。
379-20	壺	田舎 胴部 破片	粗粒砂 好 貝	灰 陶		頸・縞状文。右回り。
379-21	壺	田舎 胴部 破片	細粒砂 好 貝	灰 陶	外面は縦位の刷毛目。 内面は磨滅で。	頸・縞状文。右回り。
379-22	壺	赤土 胴部 破片	粗粒砂 好 貝	灰 陶	内面は磨滅で。	頸・縞状文。左回り。
379-23	壺	甕土内 胴部 破片	微粒砂を混入 好 貝	滑 陶		頸・7本一単位の縞状文。右回り。
379-24	壺	赤土 胴部 破片	細粒砂 好 貝	明赤陶		頸・7本一単位の縞状文。右回り。
379-25	壺	赤土 胴部 破片	細粒砂を混入 好 貝	灰 陶	内面は荒化が著しい。	頸・6本一単位の縞状文。右回り。 2点の接 合
379-26	壺	赤土 胴部 破片	細粒砂を混入 好 貝	灰 陶	外面は荒化が著しい。 内面は磨滅で。	頸・3本一単位の縞状文。右回り。
379-27	壺	土灰 胴部 破片	細粒砂 好 貝	灰 陶		頸・縞状文。右回り。
379-28	壺	土灰 胴・胴部 破片	微粒砂を混入 好 貝	浅黄陶	内面の胴面は荒れているが胴面での残跡が見られる。	頸・縞状文。右回り。 胴・縞状文。 2点の接 合
379-29	壺	土灰 胴・胴部 破片	粗粒砂 好 貝	灰黄陶	外面は胴面が荒れているが、頸位の刷毛目の跡が見られる。 内面は頸位の刷毛目磨滅後側で。	頸・縞状文。右回り。 胴・5本一単位の縞状文。

第2節 弥生時代

379-30	葦	表土 胴・胴部	破片		細砂を混入 良	黒 馬		胴・6本一単位の縹状文、右回り。 胴・波状文。
379-31	葦	泥土 胴・胴部	破片		細砂を混入 良	靑	内面は縹色で、	胴・縹状文、右回り。 胴・5本一単位の波状文。
379-32	葦	表土 胴・胴部	破片		細砂に小礫 を混入 良好	黒 馬	外面は縹位の縹色でと縹位の刷毛目。	胴・縹状文、左回り。 胴・4本一単位の波状文。
379-33	葦	カマド 胴・胴部	破片		粗 粒 砂 良	靑	内面は縹位の刷毛目調整後縹で、	胴・縹状文、右回り。 胴・8本一単位の波状文。
379-34	葦	泥土 胴部	破片		細砂を混入 良	靑	内面は刷毛目調整後縹及び研磨。	胴・5本一単位の縹状文、右回り。 胴・波状文。
379-35	葦	泥土 胴・胴部	破片		微砂を混入 良	灰黒靑	内面は刷毛目調整後縹。	胴・5本一単位の縹状文、右回り。 胴・波状文。
379-36	葦	泥土内 胴・胴部	破片		粗 粒 砂 良	浅黄靑	内面は縹位の刷毛目。	胴・5本一単位の縹状文、右回り。 胴・4本一単位の波状文。
379-37	葦	表土 胴部	破片		細砂に小礫 を混入 良好	浅黄靑	内面は黒化が著しい。	胴・4本一単位の縹状文、右回りを2段に纏す。
379-38	葦	泥土 胴・胴部	破片		細砂を混入 良	明 靑		胴・縹状文、右回り。 胴・羽状直縹文。
379-39	葦	2溝 胴・胴部	破片	胴 11.5	細 粒 砂 良	純黄靑	内面は研磨。	胴・4本一単位の縹状文、右回り。 胴・縹色文。
379-40	葦	表土 胴・胴部	破片		細 粒 砂 良	靑		胴・3本一単位の縹状文、右回り。 胴・縹色文。
379-41	葦	表土 胴部	破片		細 粒 砂 良	靑	外面は刷毛目の刷毛目、 内面は縹色で。	胴・波状文、浅縁、縹色文。 胴・縹色文。
379-42	葦	泥土内 胴部	破片		細砂を含む 良	靑	外面は刷毛目の刷毛目、	胴・縹色文内に平行直縹文。
379-43	葦	表土 胴部	破片		細砂に小礫 を含有 良好	靑	外面は研磨。	胴・縹色文の中に刷毛文。

379-44	甕	表土 胴部 破片	粗 灰 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好	内面は研磨。	胴・垂状文、右回り。 胴・平行瓦條文。	
379-45	甕	表土 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好	外面は研磨。	胴・垂状文内に平行瓦條文。	
379-46	甕	土坑・覆土内 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	灰 瓦 瓦 瓦 好		胴・垂状文、右回り。 胴・瓦條、刺状文。	
379-47	甕	表土 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好	内面は横撫で。	胴・垂状文、左回り。	
379-48	甕	表土 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	灰 瓦 瓦 瓦 好	外面は斜位の刷毛目調整後研磨。 内面は覆削り後研磨。器内はほぼ均一。	胴・垂状文。	
379-49	甕	表土 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	灰 瓦 瓦 瓦 好	内面は覆削り後研磨。 器内はほぼ均一。	胴・垂状文。	
379-50	甕	覆土内 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好		胴・平行瓦條間に身み。	
379-51	甕	表土 胴・胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	洗 灰 瓦 瓦 好	内面は横撫でがましい。	胴・平行瓦條内に斜方向（羽状）に瓦條文。	
379-52	甕	覆土内 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	灰 瓦 瓦 瓦 好	外面は縦位の刷毛目調整後研磨。 内面は横撫で後縦位の刷毛目。 器内はほぼ均一。	胴・垂状文。	外部の一 部黒色
379-53	甕	6溝 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好	外面は縦位の縦削り後研磨。 内面は横撫で後縦位の刷毛目。器内はほぼ均一。	胴・垂状文。	
379-54	甕	覆土内 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	洗 灰 瓦 瓦 好	外面は縦位の刷毛目。 内面は横撫で後斜毛目調整。	胴・斜状の瓦條文。	
379-55	甕	覆土内 胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好		胴・垂状文。	
379-56	甕	表土 胴・胴部 破片	粗 瓦 瓦 瓦 好	粗 瓦 瓦 瓦 好	内面は横撫で 器内はほぼ均一。	胴・垂状文。	

379-57	壺	甬土 頸部	破片	細粒砂を細入 砂を細入良好	明赤褐色	内面は磨面で、 器内はほぼ均一。	胴・波状文。
379-58	壺	甬土内 頸部	破片	細粒砂を含む 良好	褐色		胴・波状文。
379-59	壺	甬土 頸部	破片	細粒砂を細入 良好	褐色	内面は磨で後好磨。	胴・5本一単位の波状文。
379-60	壺	甬土 頸部	破片	細粒砂を細入 良好	灰白	内面は磨面で。	胴・5本一単位の波状文。
379-61	壺	甬土 胴部	破片	粗粒砂 良好	褐色	内面は磨面で。 器内はほぼ均一。	胴・波状文。
379-62	壺	甬土 頸部	破片	細粒砂を細入 良好	褐色	外面は黒化の爲一部赤味がはっきりしない。 内面は磨面で。	胴・波状文。
379-63	壺	甬土 胴部	破片	細粒砂を細入 良好	褐色	外面は磨面の細毛目。 内面は磨面で後好毛目調整。	胴・波状文。
379-64	壺	甬土 頸部	破片	細粒砂を細入 良好	褐色	外面は黒化している為、文様の本数ははっきりしない。 内面は磨面で。	胴・波状文。
380-1	壺	樽瓦 胴部	破片	粗粒砂 良好	褐色	外面は磨面の細毛目。 内面は磨面で。	胴・波状文。
380-2	壺	カマド 頸部	破片	細粒砂を細入 良好	褐色		胴・8本一単位の波状文。
380-3	壺	甬土内 頸部	破片	粗粒砂 良好	褐色	内面は磨面で。 器内はほぼ均一。	胴・6本一単位の波状文。
380-4	壺	甬土 頸部	破片	細粒砂を細入 良好	褐色	外面は磨面で。 内面は磨面で。 器内はほぼ均一。	胴・4本一単位の波状文。
380-5	甕	甬土内 胴部	破片	粗粒砂 良好	褐色	外面は磨れている為文様の本数がはっきりしない。 内面は磨面で。	胴・磨面波状文。羽状直線文。

380-6	裏 土坑 胴部 破片		細粒砂を器入 良	灰青地	胴部外面は刷毛目調整。 内面は横線で。	刷・化粧及びL.Rの織文。	
380-7	裏 土坑 胴部 破片		細粒砂を器入 良	灰青地	外面は刷毛の刷毛目調整。 内面は横線で、刷位の刷毛目調整。	刷・L.Rの織文及び化粧。	
380-8	裏 灰土 胴部 破片		細粒砂を器入 良	黒 漆	内面は横線で。	刷・L.Rの織文。横線文。	
380-9	裏 覆土 胴部 破片		細 粒 砂 良	横 線	内面は刷毛の刷毛目。	刷・織文ころがし。	内面は黒 色。
380-10	裏 覆土 胴部 破片		粗粒砂に細粒 砂を含有良好	灰青地		刷・織文。	
380-11	裏 灰土 胴部 破片		粗粒砂を器入 良	灰 漆	内面は横線で、器内はほぼ均一。	刷・格子目文。	2点の裏 合
380-12	裏 覆土内 胴部 破片		細粒砂を器入 良	灰 漆	内面は横線で。	刷・条刷。	
380-13	裏 覆土内 胴部 破片		粗粒砂を器入 良	横 線	外面は黒化が著しい。 内面は横線で。	刷・条刷。	
380-14	裏 覆土 胴部 破片		細 粒 砂 良	灰 漆	内面は横線で。	刷・刷目。	
380-15	裏 灰土 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰 漆	内面は横線で。	刷・刷目。	
380-16	裏 覆土内 胴部 破片		細粒砂を器入 良	灰青地	内面は刷毛の刷毛目調整。	刷・刷目。	
380-17	裏 覆土内 胴部 破片		細粒砂を器入 良	横 線	外面の器内は荒れている。 内面は刷位の器内。	刷・刷目。	2点の裏 合
380-18	裏 覆土内 胴部 破片		細粒砂に粗粒 砂を器入良好	黒 漆	内外面とも黒化が著しい。		
380-19	裏 覆土内 胴部 破片		細粒砂に小礫 を器入。良好	横 線	外面は刷毛の刷毛目調整。 内面は刷毛の刷毛目調整の痕跡が見られる。		

第2節 弥生時代

300-20	裏 裏土内 割部 硬片		細粒砂を混入 良 好	橙	外面は礫位の細かい刷毛目調整。 内面は磨で。	
300-21	裏 床底 割部 硬片		細粒砂を混入 良 好	浅黄褐色	外面は斜位の刷毛目調整。	
300-22	裏 裏土内 割部 硬片		細粒砂を混入 良 好	浅黄褐色	外面は刷毛目調整。 内面は磨で。	
300-23	裏 裏土内 割部 硬片		細粒砂を混入 良 好	灰 白	外面は斜位及び礫位の刷毛目調整。 内面は礫位の刷毛目調整での磨、磨削で。	
300-24	裏 裏土内 割部 硬片		細粒砂に漆を 含む 良 好	橙	内面は風化している。	25と同一 個体
300-25	裏 裏土内 割部 硬片		細粒砂に漆を 含む 良 好	橙	内面は風化が強い。	2点の磨 台24と同一 個体
300-26	裏 裏土内 底部 硬片		細粒砂を混入 良 好	浅黄褐色	外面は礫位及び斜位の刷毛目調整。 内面は礫磨で磨、研削。	4点の磨 合
300-27	裏 表土 底部 硬片		細粒砂に小礫 を混入 良 好	黄褐色	外面は礫面が覆れているが、礫位の刷毛目の跡が見られる。 内面は礫面の裏れが強い。	3点の磨 合
300-28	裏 表土 底部 硬片		細粒砂を混入 良 好	浅黄褐色	外面は礫位には刷毛目調整。外面は礫磨で。 内面は礫面の裏れが強い。	
300-29	裏 表土 底部 硬片		細粒砂を含む 良 好	浅黄褐色	外面は礫位の刷毛目調整跡、磨削で。	
300-30	裏 裏土内 底部		細粒砂に小礫 を混入 良 好	黒 褐	外面は礫位の刷毛目調整。	2点の磨 合 外面底 部は黒色
300-31	裏 裏土内 底部		細粒砂を混入 良 好	浅 褐	外面は礫位の刷毛目、内面は礫位の刷毛目調整。	
300-32 154	裏 河川敷 口縁・割・割部		粗 粒 砂 良 好	灰 白	口縁部は外装しているが口縁部を欠損する。 欠損は磨きにより平様になっている。	4点の磨 合 頭・底は之。 肩・割は之。 割面文。

389-33 134	遺	瓦土 第・何部	類 9.5	細 粒 砂 瓦	種		類・10本一單位の量状文。	
---------------	---	------------	-------	------------	---	--	---------------	--

第3節 古墳時代（前期）

第3節 古墳時代（前期）

Z区第1号住居跡出土土器一覧表

博国番号 版番号	器種	出土位置 遺存状態	寸目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
384-1	埴	覆土内 片	□20.6 縦15.6	細粒砂含 有・良好	褐	器外面は口唇部直下が横撫で後右斜上方向からの刷毛撫で。 器内面は口唇直下が横位の刷毛撫で後さらに全体に横撫で。	3点の 接合
384-2	埴	覆土内 破片	□16.0	細粒砂含 有・良好	明 褐	器外面は口唇部直下が横撫後口縁全体に縦位の研磨。 器内面は横位の刷毛撫で後縦位の研磨を施す。	
384-3	埴	覆土内 破片	□12.0	粗粒砂含 有・良好	赤 橙	器外面は口唇部直下が斜位の刷毛撫で後縦位の研磨。 器内面は横位の刷毛撫で後斜位気味の研磨を施す。	
384-4	埴	覆土内	—	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は口唇部直下が撫で、頸部周辺は寛削りを施す。 器内面は研磨を施すが器面の風化により方向は不分明。	
384-5	甕?	覆土内	—	粗粒砂混 入・良好	浅黄橙	器外面口縁部は横撫でを施し、体部は縦位の粗い寛削りを施す。 器内面口唇直下は横撫で、下位は斜位の寛削りを施している。	
384-6 156	埴	覆土内	□14.0 最14.7	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は口縁部周辺が横位の研磨、下位は斜位の研磨。器内 面は横位の研磨を基調とする。	
384-7 156	埴	覆土内	□14.8 最15.2	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は口縁部横撫で後横位の研磨を施し、体部は方向性の 無い刷毛撫で。器内面は体部下平辺が斜位・上平より口縁部 は横位の研磨を施す。	2点の 接合
384-8	壺	覆土内	□15.8	粗粒砂含 有・良好	淡 黄	器外面口縁部は縦位の寛撫でを施し、頸部下は刷毛撫で後部 指めに研磨状の肌撫で乃至軽い指撫でを施している。器内面 口縁部は横位の刷毛撫でを施し、頸部下は横位の寛撫でを施 している。	
384-9	台付壺 S字状口 縁	覆土内	—	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	口縁下段部の下半部より寛削りを施し、さらに横撫でを施し ている。頸部以下は縦位の刷毛目を施す。器内面口縁部は横 撫でを施し、頸部周辺は横位の寛撫でを施す。	
384-10	台付壺 S字状口 縁	覆土内 破片	—	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面は口縁下段部より縦位の刷毛撫でを施している。上段 及び器内面口縁部は横撫でを施し、頸部内面は横位の寛撫で を施している。	
384-11	台付壺S 字状口縁	覆土内 破片	—	粗粒砂含 有・良好	黄 橙	器面の風化が著しい。	
384-12	台付壺脚 基部	覆土内 破片	—	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は脚上位が縦位の刷毛撫で、脚部は斜位の刷毛撫で後 縦位の刷毛撫で部分を残す様に指撫でを施している。器内面 底部は粗粒砂を多量に含む粘土を付加し指撫でを施してい る。脚部内面は底部と同質の粗粒砂を多量に含有する粘土を 付加し小刻みに横位に寛撫でを施している。	
384-13	台付壺	覆土内 破片	基 4.8	細粒角礫 多量・良好	黄 橙	器外面は縦位の粗い刷毛状の撫でを施している。脚部内面は 方向性の無い撫でを施す。	
384-14	甕?	覆土内 破片	底10.1	小角礫含 有・良好	橙	器外面底部は横位の寛削り、底面は方向性の無い寛削りを施 す。器内面は方向性の無い寛撫でを施す。	
384-15	壺	覆土内 破片	—	粗粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面には斜位気味の刷毛撫でを施し、後行し横位刷毛目を 施している。	

Z区第20号住居跡出土土器一覧表

神国番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
385-1	碗	覆土内 破片	口径13.0	細粒砂含有	橙	器内・外面口唇部直下は横撫で、外面口縁部は横位の研磨、体部は縦位の研磨を施す。内面は全体的に縦位の研磨。	
385-2 156	碗乃至高 杯	覆土内 片	口径20.0	粗粒砂含有・良好	鈍黄	器内・外面共に横位の研磨を基調とし、部分的に斜位の研磨が認められる。	4点の 接合
385-3	碗 (片口?)	覆土内 破片	口径14.0	粗粒砂含有・良好	橙	器外面は斜位の刷毛撫でを施す。外面体部に凍による剥落により、粘土帯の単位が器面で認められる。器内面は口唇直下は指頭押圧痕が認められ、以下は指撫でが施されている。	
385-4	器台(器 受部)	覆土内 破片	口径12.0	細粒砂含有・良好	鈍黄	胎土中黒色鉱物粒を多量に含有する。器外面は横位の縦撫で後斜位の研磨を施す。器内面口唇直下は横位の置削りを施し、縦位の研磨を施す。	
385-5	器台(脚 部)	覆土内 破片	底11.0	粗粒砂含有・良好	橙	器外面は広い置削りで後斜位気味の研磨を施すが器面の風化により単位は不明瞭、器内面は横位の指撫でを施す。	
385-6	台付壺 S字状口 縁	覆土内 破片	口径14.0 頸11.2	微粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部下段の中心以下から置削りを施し、さらに縦位の刷毛撫でを施す。内・外面口縁部は横撫でを施し、器内面頸部は横位の置削りを施す。	
385-7	台付壺 S字状口 縁	覆土内 片	口径12.6 頸11.2	細粒砂含有・良好	褐 灰	器外面は口縁下部下半より置削りを施した後斜位気味に刷毛撫でを施している。器内面は口唇部直下にも指撫を有している。整形は頸部下迄横位の指撫でを施している。	2点の 接合
385-8	台付壺 S字状口 縁	覆土内 片	口径19.0 頸14.2	細粒砂含有・良好	褐 灰	器外面口縁下部下半より置削りを施した後斜位に刷毛撫でを施している。口縁部内・外面は横位の撫でを施している。器内面頸部は横位の置削りを施しており、以下は指撫でを施している。	3点の 接合
385-9	台付壺	覆土内 片	基 5.4	細粒砂・ 微粒礫含有・良好	灰 褐	器外面底部周辺は上方向から下方向への刷毛撫でを基部から体部方向へ小型みに施し、体部は斜位方向の刷毛撫でを上方向から下方向へ施している。器内面は体部下位に帯状に磨れる部分が認められる。整形は横位の置削りを施している。	7点の 接合
385-10	台付壺	覆土内 片	基 4.9	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は縦位乃至斜位の刷毛撫でを脚部に連続して施している。底部と基部の接合は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加している。器内面の底部ではこの付加粘土を丁寧に指撫でにより平滑にしている。脚内面は斜位の置削りで後付加粘土を追加し指により押し付けている。	2点の 接合
385-11 156	台付壺	覆土内 一部欠損	基 5.0 底 9.2	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面脚部上半のみに斜位に刷毛撫でを施している。器内面は底部と脚部の接合に粗粒砂を多量に混入する粘土を付加し、指撫で後刷毛状工具により縦撫でに施す。脚部は、端部を内側に折り返している。粗粒砂を多量に混入する付加粘土を接合部に指で押し付けている。これに先行し全体的に斜位に指撫でを施している。	7点の 接合
385-12	台付壺	覆土内 破片	底 9.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は斜位の刷毛撫でを施している。器内面は端部を折り返している。器厚に均一性が無い。粗粒砂を多量に混入する付加粘土が部分的に認められる。この付加粘土は全体を指撫で後に施されている。	
385-13	壺	覆土内	底 3.4 孔 1.0 ~1.6	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面は縦位の置・刷毛撫で後縦位の研磨を施し、底部は置削りを施す。器内面は置削りで後斜位の研磨を施している。孔部は器内・外面で径が大きく中間が狭く置削りを施している。	

第3節 古墳時代(前期)

Z区第27号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
389-1	埴	覆土内 破片	□ 8.5 底 5.7	粗粒砂含 有・良好	純赤橙	器外面口縁部は横位の指痕で後縦位の刷毛痕で指し、さらに体部迄一気に縦位の研磨を施している。頸部の括弧部は沈線により表出している。器内面口縁部は斜位の研磨を施し、頸部下・体部は横位に近い斜位の研磨を施している。	
389-2	埴	覆土内 破片	□ 9.0 底 6.7	粗粒砂含 有・良好	純橙	器外面口縁部は横位の指痕で後縦位の刷毛痕で指し、さらに縦位方向の研磨を施している。頸部は括弧から体部に向う部分は横が鋭く、体部も縦位方向の研磨を施している。器内面口縁部は縦位の研磨を施し、頸部以下体部は低い寛度で後縦位の研磨を施している。	2点の 接合
389-3	埴	覆土内 破片	□ 9.0 底 7.1	粗粒砂含 有・良好	橙	器外面口縁部は横位の指痕で後縦位方向に研磨を施している。器内面は斜位の研磨を施している。	
389-4	埴(底部)	覆土内	底面厚 1.0	細粒砂混 入・良好	純橙	器外面底面周辺は放射状に研磨を施し、体部周辺は横位乃至横位に近い斜位の研磨を施している。器内面は底面が放射状に研磨を施し、体部は横位の研磨を施している。	
389-5 156	埴	覆土内	径 8.4 体11.1 底 3.3	粗粒砂含 有・良好	純褐	器外面全体に成形時の旋削りを施したと考えられる稜が認められる。口縁部は横位の研磨を施し、頸部は刷毛痕で後体部・底部に斜位の研磨を施している。底面は寛度で後放射状に研磨を施している。器内面口縁部は斜位の研磨を施している。頸部直下は横位の寛度で指し、体部から底部は指痕でより平滑にされている。	7点の 接合
389-6	埴	覆土内	□12.0	粗粒砂多 量・良好	純橙	器外・内面全体に横位の研磨を施している。胎土中の砂粒に黒色鉱物粒が少量に含有される。	
389-7	埴	覆土内 破片	□10.1	細粒砂含 有・良好	純橙	器外面は口縁部周辺が横位の研磨を施し、体部・底部は斜位の研磨を施す。器内面は縦位の研磨を施す。	
389-8	白付窯 S字状口 縁	覆土内 破片	□13.8 底12.3	粗粒砂含 有・良好	純橙	器外面口縁部は横線で後下段部が頸部に向かい寛削りを施し、さらに縦位乃至斜位の刷毛痕で施している。器内面口縁部から頸部にかけては横線で施す。	
389-9	白付窯 S字状口 縁	覆土内 片	□13.6 底12.0	粗粒砂含 有・良好	純橙	器外面口縁部は横線で後下段部が頸部に向かい寛削りを施し、さらに縦位乃至斜位の刷毛痕で施している。器内面口縁部は横線で施し、頸部下は指痕圧痕を留めている。	2点の 接合
389-10	白付窯 S字状口 縁	覆土内 破片	径15.4	細粒砂含 有・良好	純橙	器外面口縁部は横線で施しているが頸部下の刷毛痕で後行っている。器内面は全体的に横位で施されているが、頸部下は指痕圧痕の痕跡がすくなく認められる。	口縁上 段部欠 損
389-11 156	白付窯 S字状口 縁	覆土内 片	□13.6 径11.7 底19.3 基 4.6 底 8.5 高23.9	細粒砂含 有・良好	純黄橙	器外面口縁部は横線で後下段部中心位より縦位方向の旋削り後刷毛痕で施している。刷毛痕では器外面全体に認められ、頸部肩部間は上方から縦位に施し、肩部には寛削りによる地肌が残存し、肩部から胴部中心位にかけては斜位に施している。胴下半は間隔を置きほぼ縦位の方向に施し、底部及び脚部は連続的に施している。器内面は口縁部は横位で施し、頸部下は指痕圧痕が認められる。胴部から胴部・底部は横位の寛度で施している。器内面は指痕で施している。底部と脚の接合部は粗い砂粒を多量に含有する粘土を両面から付加し、底部側は施すにより平滑にしている。脚部は凹凸が認められる程度の指痕で施している。脚部は粘土を折り返し複合状にしている。	23点の 接合

389-12 156	台付塞 S字状口 縁	両隣部床 面直上	□11.2 縦10.0 横15.7 基 4.6 脚 7.6 高19.7	細粒砂含 有・良好	橙	器外面口縁部横断で後下段中程から麓削りを施し、岡部位より若干斜位に肩部迄刷毛撫でを施している。肩部周辺は斜位に前者に先行している。脚部は斜位気味の刷毛撫でを基部迄肩部に先行し進している。脚部は塞部の刷毛目とは別の目の粗い刷毛撫でを施している。この刷毛撫ででは一端器面全体に施した後新たに刷毛撫でを施している。器内面は口縁部の横断を施し、頸部以下底部迄は横位の瓦撫でを施している。器内面は指撫でを施している。塞部と脚部の接合部は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加し、塞部では瓦撫でにより平滑に脚部では指撫でにより押し付けをしている。	22点の 接合
389-13	台付塞	覆土内 破片	基 5.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面基部から脚部にかけて連続的に刷毛撫でを施しており、基部では縦位に、脚部では斜位に施している。器内面は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加している。	
389-14	小形壺	覆土内 破片	底 4.2	粗粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面は横位・斜位の研磨を施す。器内面方向性が一定しない研磨を施す。	

Z区第41号住居跡出土土器一覽表

持 田 番 号 四 原 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 装 形 の 特 徴	備 考
391-1	埴	覆土内 破片	□14.0	粗粒砂若 干・良好	浅黄橙	器内面・器外面口縁部横断で、器外面体部は刷毛撫で後縦位の研磨。	
391-2	台付塞	覆土内	□16.0 縦13.8	細粒砂若 干・良好	浅黄橙	器外面は縦位の刷毛撫で後口縁下段部の横断を施している。口縁上段・器内面口縁は横断を施している。	2点の 接合
391-3	台付塞S 字状口縁	覆土内 片	□14.0 縦12.3	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面頸部下刷毛撫で後再度口縁部に横断を施している。器内面頸部以下は横位の瓦撫でを施している。	
391-4	台付塞 S字状口 縁	覆土内 片	□14.0 縦12.1	細粒砂混 入・良好	鈍黄橙	器外面口縁部下段中下より頸部に向かい麓削りを施し、刷毛撫でを施しており、さらに再度口縁部全体に横断を施している。器内面は口縁部から頸部は横断を施し、頸部下脚部周辺は指撫でを施している。	
391-5	台付塞S 字状口縁	覆土内	□14.0 縦12.2	細粒砂含 有・良好	鈍 褐	器外面口縁部下段より刷毛撫で後さらに横断を施している。器内面は横断を施している。2と同一個体か?	
391-6	台付塞	覆土内 破片	—	粗粒砂多 量・良好	鈍 橙	器外面口縁部下段より刷毛撫で後さらに横断を施している。器内面は横断。	
391-7	台付塞	覆土内	基 5.6	細粒砂含 有・良好	浅 黄	器外面底部から脚部にかけて連続的に刷毛撫でを施している。器内面底部は瓦撫で後、粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施した後さらに瓦撫でを施している。脚部は指撫で後付加粘土を押し付け指撫でを施している。	
391-8	台付塞	覆土内 破片	底 8.0	細粒砂含 有・良好	浅 黄	器外面は指撫で後斜位の刷毛撫でを施している。器内面は底部端部を折り返した後指撫でを施している。	
391-9	壺	覆土内 破片	□12.0 縦 8.9	細粒砂多 量・良好	褐 灰	口唇部は平直である。器外面口縁部は粘土帯の接合痕が認められる。また、口縁部内外面は指撫でを施し、器内面頸部下は瓦撫でを施している。	
391-10	壺	覆土内 破片	□11.8 縦 9.5	細粒砂多 量・良好	鈍 灰	口唇部は平直である。器外面口縁部は粘土帯の接合痕が認められる。また、口縁部内外面は指撫でを施している。	9と同一?
391-11	壺	覆土内 破片	底 3.8	細粒砂多 量・良好	褐 灰	器外面は斜位の研磨を施している。器内面は斜位の研磨を渦巻状に施している。胎土内に黒色鉱物を多量に混入する。	

第3節 古墳時代（前期）

Z区第46号住居跡出土土器一覧表

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
394-1	埴	覆土内 破片	口15.0 頸 9.4	細粒砂含有・良好	橙	器外・内面口唇直下は横位の撫でを施し口縁部・体部は斜位の研磨を施す。	
394-2	埴	覆土内 破片	口12.0	細粒砂多量・良好	鈍黄橙	器外・内面は横撫でを施す。器内面中位程には刷毛状工具の彫突痕状の痕跡が2箇所認められる。	
394-3	台付甕	覆土内 破片	基 6.0	粗粒砂含有・良好	鈍赤褐	基部の接合状態は壺部の底部に単に脚を付けただけのものがある。器外面は刷毛撫でを基部を境に縦位に施している。器内面は荒撫でにより平滑にしている。	
394-4	台付甕	覆土内 破片	底 9.0	細粒砂含有・良好	鈍 褐	器外面は撫でにより器面を平滑にしているが、器内面は凹凸が多い。器外面上半には斜位の刷毛撫でを施している。	
394-5 156	壺 有段口縁	覆土上層 片	口24.9 底15.8	細粒砂多量・良好	橙	口縁部段部の接合はしっかりと接合していない。上段と下段の接合部は乾燥・焼成により隙間が生じている。また、器内面の頸部下は著しく磨減している。これは壺がその機能を選した段階で何かに転用し、その段階で故意にしたものと考えられる。器外面口縁部は縦位の研磨を施し、頸部下は斜位の研磨を施している。器内面は横位の研磨を施している。	5点の 接合
394-6	壺	覆土内 片	底 4.8	粗粒砂多量・良好	灰黄褐	器外面は粗雑な撫でを施し、器内面は横位を基調とする研磨が施される。	2点の 接合
394-7	壺	覆土内 片	底 8.2	粗粒砂多量・良好	鈍赤褐	器外・内面は縦位の研磨を施す。器内面には貫入が著しく認められる。	2点の 接合

Z区第47号住居跡出土土器一覧表

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
397-1 156	埴	覆土内 口縁部全 周	口12.4 頸 6.6	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面口唇部直下は横撫でを施し、後行し縦位方向の研磨を施している。器内面口唇直下は横位の横撫でを施し、後行し全体に斜位の研磨を施している。	6点の 接合
397-2	埴	覆土内 破片	口12.0 頸 7.4	粗粒砂混入・良好	黄 橙	器外面口唇部直下は横撫でを施し、後行し縦位方向の研磨を施している。器内面は上半部は横位の研磨を施し、下半部は斜位・縦位の研磨を施している。	
397-3 156	埴	覆土内	口11.0 頸 8.6	微粒砂混入・良好	鈍 灰	器外面口唇部直下は横撫でを施し、口縁部は縦位の研磨を施している。頸部から肩にかけては斜位の荒撫で後斜位の研磨を施している。器内面は口唇直下が横撫でを施し、口縁部は斜位の研磨を施している。頸部から肩部にかけては雑な撫撫でを施している。	6点の 接合
397-4 156	埴	覆土内	口12.0 頸 9.7	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は横位・斜位の研磨。頸部から肩部にかけては斜位の研磨を施す。器内面も器外面に同じ。	7点の 接合
397-5	埴	覆土内 破片	底 2.2	粗粒砂含有・良好	鈍赤橙	底部は履による削り出し、胎土内粗粒砂中に黒色鉱物粒を含む。器外面は荒撫で、器内面は荒撫で後部分的に研磨を施す。	
397-6	埴	覆土内 破片	底 4.0	粗粒砂含有・良好	淡黄橙	胎土内粗粒砂中に黒色鉱物粒を含有する。器外面は縦位方向の研磨を施す。器内面も縦位の研磨を施す。底部底面は同心円状に研磨を施す。	

397-7	台付壘S 字状口縁	覆土内 破片	□14.8 類13.7	粗粒砂含 有・良好	純 雫	器外面下段部以下が縦位の箕削りを施す。内外面共に横位の横撫でを施す。	
397-8	台付壘S 字状口縁	覆土内 破片	□10.5 類 9.2	粗粒砂含 有・良好	濁 灰	器外面下段部以下が縦位の箕削り後横撫でを施している。	
397-9	台付壘S 字状口縁	覆土内 破片	□14.0 類13.0	粗粒砂含 有・良好	雫	器外面下段部以下が縦位の箕削り、上段・器内面は横撫でを施している。	
397-10	台付壘S 字状口縁	覆土内 破片	□16.0 類14.8	粗粒砂石 子・良好	濁 灰	器外面口縁部下段は縦位の箕削り後器部下が刷毛撫でを施している。口縁上段・器内面は横撫でを施す。	
397-11	台付壘S 字状口縁	覆土内 破片	□14.0 類12.8	細粒砂含 有・良好	純 雫	器内・外面に横撫でを施す。	
397-12	台付壘S 字状口縁	覆土内 破片	□16.0 類14.2	粗粒砂石 子・良好	濁 灰	器外面口縁部下段は縦位の刷毛撫でを施し、口縁上段・器内面は横撫でを施す。	
397-13	台付壘 S字状口 縁	覆土内 破片	□15.0 類13.2	粗粒砂混 入・良好	浅 雫	器外面口縁部下段から頸部は斜位の刷毛撫でを施している。口縁上段・器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は雑な横撫でを施す。	
397-14	台付壘 S字状口 縁	覆土内	□13.6 類11.1	細粒砂含 有・良好	暗褐色	器外面口縁部下段から箕削り後頸部から肩部にかけて斜位の刷毛撫でを施している。肩部から頸部は上位の刷毛撫でに先行し斜位の刷毛撫でを施している。口縁上段から器内面口縁部・頸部は横撫でを施している。頸部から肩部は箕撫でを施している。器内面頸部に粘土の接合痕が認められる。	7点の 接合
398-1	台付壘 S字状口 縁	覆土内	□11.0 類10.2	細粒砂含 有・良好	浅黄雫	器内・外面口縁部は横撫でを施す。頸部下は縦位の刷毛撫でを施している。頸部は横撫で後刷毛撫でを施し、さらに横撫でを行なっている。この時に粘土粒が付き、これを平滑しているが、器面には凹凸が残存している。器内面は頸部下で指頭圧痕が認められ、下位は横位の横撫でを施している。	3点の 接合
398-2	台付壘 S字状口 縁	覆土内 片	□11.0 類10.2	粗粒砂含 有・良好	浅黄雫	器外面口縁部下段は横撫で後左斜上方向からの刷毛撫でを施している。肩部周辺には横位の刷毛撫でを施している。さらに口縁下段は刷毛撫で後再び横撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、以下は横位の横撫でを施している。	2点の 接合
398-3	台付壘	覆土内 片	□13.7 類12.1	細粒砂含 有・良好	黄灰雫	器外面口縁部下段は横撫で後刷毛撫でを斜位に施している。さらに口縁部は刷毛撫で後横撫でを施している。肩部周辺には横位の刷毛撫でを施している。器内面は口縁部・頸部に横撫でを施している。頸部直下には指頭圧痕が認められ、これに後行し肩部周辺に横位の横撫でを施している。	3点の 接合
398-4 157	台付壘	覆土内 片	□16.0 類14.6 割19.1 基 4.8 底部高 18.9	粗粒砂・ 白色粗粒 子含有 良好	純黄雫	器外面口縁部は横撫で後縦位の刷毛撫でを施し、さらに横撫でを施している。頸部下は刷毛撫でを施すが、縦位は、底部→胴下平→胴上平(肩部周辺)→口縁であるが、いずれも上位から下位方向に向かい施している。器内面は口縁部で横位の刷毛撫で後さらに横撫でを施している。頸部から肩部にかけては斜位方向に刷毛撫で後さらに箕撫でにより刷毛目を消している。胴部から底部はやはり箕撫でにより平滑化されており、胴中位に縦位方向の研磨が施されている。また、器外面胴下平部全体の刷毛目が段成以前に磨滅しており、恐らくは製作段階で手持ちにより行なわれたために生じたものと考えられる。	25点の 接合
398-5	台付壘	覆土内 破片		粗粒砂混 入・良好	濁 灰	器外面は刷毛撫でを施している。刷毛撫では基部側より先行し上方から下方に向かい撫でを施している。	2点の 接合

第3節 古墳時代（前期）

398-6	台付壘	覆土内 破片	基 5.8	粗粒砂含有・良好	灰 褐	器外面掘削り後縦位の刷毛撫でを施す。刷毛撫では基部側から先行し胴部方向が後行しており、撫での方向は上方向から下方向に向い施している。器内面は、掘削後粗粒砂を多量に混入する付加粘土の残存が認められ、付加粘土は指撫でにより押し付けている。付加粘土中黒色鉱物を多量に混入する。	2点の 接合
398-7	台付壘	覆土内 破片	—	粗粒砂若干・良好	橙	基部では底部との接合痕が認められる。壘部の底部は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加した粘土のみで、底面として認められるものは胴台部の天井部の粘土である。この部分に最終的に粗粒砂を多量に混入する粘土を付加している。器外面は斜位の刷毛撫でを施し、器内面は指撫でにより平滑化している。	
398-8 157	台付壘	覆土内	基 5.0	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は底部から脚部に連続的に刷毛撫でを施している。脚部下半は指撫でを施している。器内面は底面・基部には粗粒砂を多量に混入する付加粘土を付加し、内表面は黄撫でにより平坦にしているが基部側は雑な指撫でを施している。	
398-9 157	台付壘	覆土内 全周	基 5.8 底 8.6	粗粒砂多量・良好	鈍赤橙	脚部は底部に付け出すものである。器外面底部は斜位気味の黄削りを施し刷毛撫では部分的に認められる。脚部は左上位からの刷毛撫でを施す。器内面底部は指撫でにより平滑にしている。底面は指撫でを施している。脚内面は横位の刷毛撫でを施している。又、粘土の巻き上げ状に粘土帯が認められる。	
398-10	台付壘	覆土内 破片	底10.4	細粒砂混入・良好	鈍 橙	器外面は丁寧な指撫でを施し斜上位からの刷毛撫でを施している。器内面は端部を折り返し横位の指撫でを施している。	
398-11	台付壘	覆土内	—	細粒砂含有・良好	灰 褐	台付壘の破片を円形状に打ち欠いている。器外面は刷毛撫で、器内面は横位の黄撫でを施している。	
398-12	壺	覆土内 破片	口12.0 頸10.1	粗粒砂若干・良好	鈍 橙	器外面に粘土帯が認められる。口縁部は横位の指撫でを施し、頸部下は縦位の刷毛撫でを施している。器内面は横位の黄撫でを施している。	
398-13	壺	覆土内 破片	口14.0 頸11.2	細粒砂多量・良好	淺黄橙	器外面に粘土帯が認められる。口縁部は整形痕らしきものは認められない。器内面は横位の黄撫でを施す。	2点の 接合
398-14	壺	覆土内 破片	口14.0 頸10.8	細粒砂多量・良好	鈍黄橙	器外面口縁部に粘土巻き上げの粘土帯が認められ、顕著な整形は口唇直下が横位の指撫でを施している。頸部は縦位の刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横位の刷毛撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施している。	3点の 接合
398-15	壺	覆土内 破片	口15.0	粗粒砂含有・良好	淺 橙	複合口縁。器外面は刷毛撫で後に口縁を複合にしている。器内面は横位の刷毛撫で後さらに黄撫でを施している。	
398-16	壺	覆土内 片	頸11.1	粗粒砂多量・良好	鈍 褐	器内外面ともに横撫でを施している。	
398-17	壺	覆土内	頸11.0	粗粒砂多量・良好	黄 橙	器外面は斜位の研磨を施し、器内面は平滑な撫でを施している。器外面は凍ハズが著しい。	
398-18	壺	覆土内	底 9.0	粗粒砂多量・良好	鈍 橙	器外面は横位の研磨状の黄撫でを施している。器内面は横位の黄撫でを施している。また、器内面には粘土結の接合痕が認められる。	9点の 接合
398-19 157	壺	覆土内 片	底 6.3	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は雑な撫でを施し、器内面は黄撫でを施している。	
399-1	瓶	覆土内 破片	口16.6	粗粒砂多量・良好	鈍 褐	器外面体部は縦位の黄撫でを施し、口縁部は雑な指撫でを施している。器内面は丁寧な指撫でを施している。	

399-2	高坏? 舞台?	覆土内 片	底 9.4	細粒砂含 有・良好	暗赤橙	器外面は縦位の刷毛撫で後縦位の研磨を施している。器内面は粘土紐巻き上げ痕が認められる。粘土帯を掻き出す様に横位の刷毛撫でを施しさらに刷毛目を消す様に横位の寛撫で施している。	
399-3	舞台	覆土内 片	基 3.0 孔 0.6	粗粒砂含 有・良好	橙	器外面器受部口縁部周辺は横撫でを施し、下半は縦位の刷毛撫でを脚部迄施しており、さらに器面全体を縦位の研磨を施している。器内器受部は同心円状に研磨を施し、脚部は横撫で後斜位の刷毛撫でを施している。	
399-4	高坏	覆土内 破片	底13.0	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器内外ともに横撫でを施し、器外面には丹塗りを施している。	

Z区第48号住居跡出土土器一覧表

採回番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
400-1	埴	覆土内 片	頸 5.3 底 1.7	細粒砂含 有・良好	黄 橙	器外面口縁部は縦位の研磨を施し、体部・底部は横位の研磨を施す。器内面口縁部は斜位気味の研磨を施し、体部・底部は指撫でを施している。	3点の 接合
400-2	埴	覆土内 片	口12.8 頸 5.3	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器内外ともに横撫でを施している。	3点の 接合
400-3	台付甕	覆土内 破片	基 6.2	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は縦位の寛刮りを施している。底面脚部には粗粒砂を多量に混入する付加粘土を付加している。	
400-4	台付甕	覆土内 破片	底 8.8	細粒砂多 量・良好	橙	器外面は斜位の刷毛撫でを施し、器内面は端部を折り返し指撫でを施している。	

Z区第61号住居跡出土土器一覧表

採回番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
403-1 157	埴	覆土内 片	口10.8 頸 8.8 底 3.1 高 8.7	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部は頸部からの縦位の寛撫でを施す。頸部下は異なる斜位の寛撫でを施している。器内面は口縁部・頸部・体部は横位の異なる寛撫でを施し、底部は放射状に研磨を施している。器外面に粘土の割れ口が認められる。	
403-2	埴	覆土内 片	口 8.0 頸 6.6	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は縦位の研磨を施し、頸部には刷毛撫での復撫で認められ体部は斜位の寛撫でを施している。器内面口縁部には丹塗りが認められる。頸部下は横撫でを施している。	3点の 接合
403-3	埴	覆土内 破片	口14.0	粗粒砂若 干・良好	赤 橙	器内・外面口唇部周辺は横撫でを施し、以下は縦位の研磨を施す。	6点の 接合
403-4	埴	覆土内 破片	口11.0	細粒砂含 有・良好	赤 橙	器外面は縦位の研磨を施す。器内面は方向性が一定しない研磨を施す。	2点の 接合
403-5	埴	覆土内 破片	頸 9.0	粗粒砂多 量・良好	黄 橙	器外面口縁部は斜位の研磨を施し、頸部下は横位の研磨を施している。器内面は斜位の研磨を施し、体部は横撫でを施す。	
403-6	埴	覆土内 破片	頸 6.3	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器内・外面とも横位・斜位の研磨を施す。	2点の 接合
403-7	埴	覆土内 破片	底 3.0	粗粒砂若 干・良好	黄 橙	器外面は横位の寛撫でを施す。器内面は縦位の研磨を施す。	

第3節 古墳時代（前期）

403-8 157	壇	覆土内 片	径 5.2	粗粒砂若 干・良好	純赤橙	器外面は縦位の研磨を施す。器内面頸部から体部中位までは斜位の寛撫でを施す。器外面上半は凍ハゼが認められる。	9点の 接合
403-9	浅鉢	覆土内 破片	□18.0	粗粒砂若 干・良好	純赤橙	器外面体部頸部で後横位の刷毛撫でを施し、口唇部周辺は横撫でを施す。器内面は横撫でを施す。	
403-10	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□11.0	細粒砂若 干・良好	浅黄橙	器外面頸部下は縦位の刷毛撫でを施し、口縁内・外面は横撫でを施す。	
403-11	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□16.0 径14.6	細粒砂含 有・良好	褐 灰	器外面頸部下縦位の刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施す。頸部周辺は粗雑な指撫でを施している。	2点の 接合
403-12	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	□15.0 径13.5	細粒砂含 有・良好	純 橙	器外面口縁部下段下位から頸部に向かい縦位の磨削りを施しさらに同部位から刷毛撫でを施しており、さらに口縁全体に横撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部下は凹凸が有るが横位の指撫でを施している。	
403-13	台付壺	覆土内	基 5.6	細粒砂含 有・良好	純黄橙	器外面底部周辺は縦位方向の刷毛撫でを脚部に向かい連続的に施しているが、脚部では斜位方向になっている。腰部と脚部の接合は、粗粒砂を多量に混入する付加粘土のみで底部を作っている。腰部器内面は丁寧な指撫でにより平滑しているが、脚部内面は雑な指撫で後付加粘土を付けるがやはり雑な指撫でを施している。	
403-14	台付壺	覆土内	基 5.0	細粒砂含 有・良好	純黄橙	器外面底部から脚部は連続的な刷毛撫でを施している。器内面は腰部で寛撫で後粗粒砂を多量に混入する付加粘土を貼付し底部を作っている。脚部では雑な指撫で後付加粘土を貼付し指撫でを施している。	
403-15	台付壺	覆土内	基 5.0	細粒砂含 有・良好	純黄橙	13に同じ。	
403-16	台付壺	覆土内 片	底 9.1	細粒砂含 有・良好	純 橙	器外面は丁寧な後斜位に刷毛撫でを施している。器内面底部は折り返しており、後行し撫でを施し、腰部との接合部には粗粒砂を多量に含有する付加粘土を貼付している。	3点の 接合
403-17 157	台付壺	覆土内 片	底10.0	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は雑な刷毛撫でを施している。器内面底部折り返し後横位の寛撫でを施している。	7点の 接合
403-18	壺	覆土内 破片	径10.1	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は斜位・縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面は寛撫でを施している。	
403-19	壺	覆土内	□16.0 径11.2	細粒砂含 有・良好	橙	口縁部は複合口縁である。器外面複合部は横位の撫でを施し、口縁部・頸部周辺は縦位の刷毛撫でを施し、さらに寛撫でにより刷毛目を消している。器内面口縁部は横位の研磨を施し、頸部下は横位の寛撫でを施している。	10点の 接合 20と同 一俵体
403-20	壺	覆土内	最21.3	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は縦位の刷毛撫で後同一方向の寛撫でにより刷毛目を消している。器内面は横位の寛撫でを施している。	5点の 接合
403-21 157	壺	覆土内 片	□18.6 径10.3	粗粒砂若 干・良好	橙	器外面口唇部直下は横位の刷毛撫でを施し、口縁部から頸部肩部にかけて一気に縦位の刷毛撫でを施し、口縁部・頸部下は横撫でにより消しており、さらに頸部下では斜位の研磨を施している。器内面口縁部は横位の研磨を施し、頸部から肩部にかけては指撫でを施すが凹凸が著しく、肩部周辺は横位の寛撫でにより平滑になっている。	14点の 接合
404-1	壺	覆土内 破片	□13.9	粗粒砂若 干・良好	橙	複合口縁。器外面口縁部は横撫でを施す。口縁直下は雑な撫でを施し、器内面は横撫でを施す。	

404-2 157	高坏	覆土内 瓦	口16.7 基4.0	粗粒砂含有・良好	純 橙	器外面口唇部周辺は横撫で後口縁部全体・坏部底面まで縦位方向の研磨を施している。底面は縦位の刷毛撫でを先行させている。器内面は器外面と同様であるが、刷毛撫での痕跡は認められない。	2点の 接合
404-3	高坏	覆土内 破片	口18.0	細粒砂含有・良好	純 橙	器外面口唇部周辺は横撫で後口縁部全体・坏部底面にかけて縦位の研磨を施している。口縁部下半は縦位方向の刷毛撫でを先行させている。器内面は縦位方向の研磨を全体に施している。	
404-4	高坏	覆土内 瓦	口15.0	粗粒砂含有・良好	黄 橙	器外面口唇部周辺は横撫でを施しさらに口縁部全体に縦位の研磨を施している。器内面は口唇部周辺は横位の研磨を施し以下は斜位・縦位の研磨を施す。部分的に二次焼成の痕跡により発色している。	2点の 接合
404-5	高坏	覆土内 瓦	底13.0	細粒砂含有・良好	純 橙	器外面は全体的に縦位の研磨を施している。接地部周辺は横位の研磨を施している。器内面には粘土紐の輪横状の痕跡が認められる。下半部は比較的丁寧な横撫でを施しているが、上半部は雑な横撫でを施している。	3点の 接合
404-6	高坏	覆土内		細粒砂含有・良好	鈍赤橙	器外面は縦位の研磨を施している。基部周辺は坏部から脚部にかけて連続的に刷毛撫でを施しており、基部接合部外被粘土の剥落により認められる。この刷毛撫で後基部に向かい発撫でにより基部に粘土を盛り上げている。	

Z区第62号住居跡出土土器一覧表

採回番号 図版番号	器種	出土位置 保存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
407-1	埴	覆土内 破片	口8.0	細粒砂含有・良好	浅黄褐	器外面は無撫でを施した後塗彩を施し、器内面は塗彩を塗り込む様に施している。	
407-2	台付埴 S字状口 縁	覆土内 破片	口14.0 頸12.6	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面頸部下置削り後刷毛撫でを口縁部下段より施し、さらに口縁部全体に横撫でを施している。器内面頸部下には指頭圧痕を残し雑な指撫でを横位に施し、口縁部は横撫でを施している。	
407-3	台付埴 S字状口 縁	覆土内 破片	口14.0 頸12.6	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部下段中段以下を置削りを施した後、縦位の刷毛撫でを施しさらに口縁全体に横位の撫でを施している。器内面は頸部・口縁部に横撫でを施し、頸部は雑な撫でを施している。	
407-4	台付埴 S字状口 縁	覆土内 破片	口14.0 頸12.6	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面頸部下を置削りを施し、口縁全体は横撫でを施している。器内面は頸部下を横位の指撫でを施し、口縁は横撫でを施している。	
407-5	台付埴 S字状口 縁	覆土内 破片	口14.0 頸12.6	細粒砂含有・良好	鈍 褐	器外面頸部下に置削りを施し、刷毛撫では頸部の置削り部分から施している。口縁部は口縁全体を置削り後横撫でを施している。器内面口縁部・頸部は丁寧な横撫でを施し、頸部下も比較的丁寧な横撫でを施している。	
407-6 157	台付埴	覆土内 破片	基5.4	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面は指撫で後頸部底部より連続的に斜位の刷毛撫でを施している。器内面頸部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し丁寧な発撫でを施している。脚部は付加粘土を施し、雑な撫でを施し、器内面全体はそれに先行し雑な指撫でを施している。	
407-7	台付埴	覆土内 破片	底8.0	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面は丁寧な指撫でを施している。器内面は脚部を折り返し指撫でを全体に雑に施している。	

第3節 古墳時代（前期）

407-8	壺	覆土内 破片	口11.0 頸 8.2	細粒砂含 有・良好	純 褐	口唇部は平坦である。器外面は雑な指撫で施しており粘土質の粘土帯が認められる。器内面頸部下は篋撫でを施し、口縁部は篋撫で後横位の研撫を施している。	
-------	---	-----------	----------------	--------------	-----	--	--

Z区第68号住居跡出土土器一覧表

埴 田 番 号 図 版 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
409-1	台付壺 S字状口 縁	覆土内	口15.0 頸13.8	細粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面口縁部に横撫でを施し、下段中位下より縦位方向の刷毛撫でを施し、さらに口縁部下段を横位の指撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。	
409-2	台付壺 S字状口 縁	覆土内	口15.0 頸13.0	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部下より縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施している。	
409-3	台付壺 S字状口 縁	覆土内	口15.0 頸14.3	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部横撫で後下段より斜位方向の刷毛撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、肩部周辺は横位の篋撫でを施している。	
409-4	台付壺	覆土内	基 5.0	粗粒砂含 有・良好	灰 黄	器外面肩部は指撫でを施し、腰部底部より脚部にかけては連続的な刷毛撫でを施している。器内面脚部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し篋撫でにより平滑にしている。脚内面は付加粘土を指撫でにより雑に敷付けている。	

Z区第69号住居跡出土土器一覧表

埴 田 番 号 図 版 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
411-1	台付壺 S字状口 縁	覆土内 胴部欠損	口15.0 頸13.1	細粒砂含 有・良好	純 橙	器内・外面は横撫でを施す。	
411-2 159	台付壺 S字状口 縁	覆土内に 床面より 遊離して いる。	口13.2 頸11.8 蓋 20.8 基 5.8	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面頸部・肩部間は横位の篋撫を施し、腰部底部周辺は縦位の篋撫を施している。口縁部は横撫でを施し口縁部下段中位下より刷毛撫でを施し、肩部は斜位に施している。この肩部の刷毛撫でに先行し肩部下の胴部・底部の刷毛撫でを施している。脚部は基部から斜位に刷毛撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部周辺は雑な指撫でを施しており、胴部・底部は横位の篋撫でを施している。底部には粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し雑な指撫でにより表面を撫でている。脚部は雑な指撫で後付加粘土を施し、表面は雑な指撫でにより撫でている。	

A区第36号住居跡出土土器一覧表

埴 田 番 号 図 版 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
415-1	台付壺	覆土内	口10.1 頸 9.6	細粒砂含 有・良好	淡黄橙	器外面口縁部下段より縦位方向の篋撫を施し、胴部より斜位に刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施している。以下は横位の篋撫でを施している。	

415-2	台付壁 S字状口縁	覆土内 瓦	□11.0 第9.2	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部横断で後下段より縦位方向に刷毛撫でを施しており、さらに口縁部上段に横撫でを施している。肩部周辺には頸部からの刷毛撫でに後行し横位の刷毛撫でを施している。さらに頸部・肩部間には横位の指撫でにより縦位方向の刷毛撫でを厚り消している部分が認められる。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部は縦な指撫でを施しており頸部下は横位の指撫でを施している。
415-3	台付壁 S字状口縁	覆土内 破片	□12.0 第10.2	細粒砂含 有・良好	灰 濁	器外面口縁部横断で後下段中位より縦位方向に笄削りを施し、後行し同部より斜位に刷毛撫でを施しておりさらにこれに後行し口縁部全体に横撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部下は縦な指撫でを施している。
415-4	台付壁 S字状口縁	覆土内 破片	□13.0 第11.2	細粒砂含 有・良好	灰 濁	3に同様。
415-5	台付壁 S字状口縁	覆土内 破片	□14.0 第13.1	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	3に同様。
415-6	台付壁 S字状口縁	覆土内 破片	□14.0 第12.6	粗粒砂含 有・良好	灰 濁	3に同様。
415-7	台付壁 S字状口縁	覆土内	□14.2 第12.0	粗粒砂含 有・良好	灰 濁	3に同様。
415-8	台付壁 S字状口縁	覆土内 破片	—	細粒砂含 有・良好	灰 濁	器内・外面ともに横撫でを施す。
415-9	台付壁 S字状口縁	覆土内 破片	—	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	8に同様。
415-10	台付壁	覆土内 破片	基 4.5	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面頸部から脚部にかけて連続的に刷毛撫でを施し、頸部では縦位に脚部では斜位に施している。器内面は蓋部全体が粗粒砂を多量に混入する付加粘土で成し、横位の指撫でを施している。脚部は付加粘土貼付後指撫でを比較的丁寧に施している。
415-11	台付壁	覆土内 破片	底 7.1	細粒砂含 有・良好	淡 黄	器外面は指撫でを施す。器内面は端部を折り返し指撫でを施している。
415-12	台付壁	覆土内 破片	底 8.0	細粒砂含 有・良好	灰 白	11に同様。
415-13	台付壁	覆土内 破片	底 8.2	細粒砂含 有・良好	黒 濁	11に同様。
415-14	台付壁	覆土内 破片	底 8.5	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	11に同様。
415-15	蓋	覆土内 破片	□14.0 第12.6	細粒砂多 量・良好	浅黄橙	器外面には粘土紐の接合痕が認められ、縦な指撫でを施している。器内面は横位の指撫でを施している。
415-16	蓋	覆り方覆 土内 瓦	□13.9 第10.4	粗粒砂多 量・良好	浅黄橙	複合口縁を呈する。複合部は横位の指撫でを施し、直下は斜位の刷毛撫でを施している。器内面は横位の刷毛撫で後横位の研磨を施している。
415-17	蓋?	覆土内 破片	第13.9	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面頸部より厚く笄削りを施し、さらに縦位方向に刷毛撫でを施している。口縁部は刷毛撫で後横位の指撫でを施している。器内面は口縁部が横位の刷毛撫で後縦位同方向の指撫でを施している。頸部下はこれに先行し横位の指撫でを施している。

第3節 古墳時代（前期）

A区第37号住居跡出土土器一覧表

押印番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
417-1	埴?	覆土内 破片	□12.8	細粒砂含有・良好	橙	器外面は雑な横位の荒撫でを施している。器内面は段を有し丁寧な指撫でを施している。	
417-2	甕	覆土内	最16.0	粗粒砂含有・良好	浅黄橙	器外面は縦位の荒撫でを施している。器内面は横位の荒撫でを施している。	

A区第38号住居跡出土土器一覧表

押印番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
419-1 158	台付甕	床直 % 最11.5 最18.7 基 4.6 底 8.3	□13.0	粗粒砂含有・良好	灰 褐	器外面口縁部横撫で後口縁部下段中位より荒削りを施し肩部は縦位に他の部分は縦位に施している。刷毛撫では口縁部中段より斜位に肩部まで施し、肩部から基部にかけて方向を変える斜位の刷毛撫でを施している。脚部は指撫で後腹部より連続的に斜位に刷毛撫でを施している。器内面は口縁部は横撫でを施し、頸部・腹部周辺は雑な指撫でを施している。肩部・胴部・底部周辺は横位の荒撫でを施しており、これに先行し、肩部・胴部には縦位方向に指の強い引き上げの痕跡が認められる。底面は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し雑な指撫でが施されている。脚部は脚部を折り返し、全体に指撫でを施した後付加粘土を施している。付加粘土は全体的に雑な指撫でを施している。	

A区第50号住居跡出土土器一覧表

押印番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
422-1	器台	覆土内 破片	□11.0	細粒砂含有・良好	橙	器外面口縁部横撫で後縦位の研磨を施している。器内面は横撫でを施している。	

A区第51号住居跡出土土器一覧表

押印番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
424-1	台付甕	覆土内 破片	□18.2 最15.8	粗粒砂多量・良好	黒	器外面口縁部下段より縦位方向の荒削りを施し、頸部直下より縦位方向の刷毛撫でを施している。口縁部は荒削りに後行し横撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施しており、指頭圧痕等の痕跡を顕著に留める。	

A区第138号住居跡出土土器一覧表

押印番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
426-1	埴	P ₂ 内	□10.0	細粒砂含有・良好	純黄橙	口唇部は平坦である。器外面は縦位方向の刷毛撫で後同方向の研磨を施している。器内面は斜位の刷毛撫でを施している。	
426-2	器台	P ₂ 内	基 3.2	粗粒砂含有・良好	黄 橙	脚部には3分割する位置に孔を有する。器外面器受部は荒撫で後雑な研磨を縦位方向に施し、胴部も同方向の研磨を施す。器内面器受部は放射状の研磨を施し、脚部は撫でを施す。	

A区(37・38・50・51・138・148・152号住居跡)

426-3	台付蓋	覆土内 1/2	高 9.0	粗粒砂含有・良好	純黄橙	器外面は丁寧な指撫でを施す。器内面は端部折り返し後指撫でを施している。器外面には粘土層の接合痕が認められる。	
-------	-----	------------	-------	----------	-----	--	--

A区第148号住居跡出土土器一覧表

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
428-1 158	壺	覆土内 No.1 全周	□22.4 頸12.4	粗粒砂含有・良好	橙	有段口縁。口唇部は平出である。口縁部上段には2本一単位の棒状浮文を6箇所貼付する。器外面は全体的に縦位方向に刷毛撫でを施し、さらに口縁部は縦位に研磨を施し、頸部・頸部下は横位に研磨を施している。器内面口唇直下に横位の刷毛撫での痕跡が認められ、全体に横位の研磨を施している。	

A区第152号住居跡出土土器一覧表

検出番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
430-1	埴	覆土内 破片	□10.0 高 9.0	粗粒砂含有・良好	橙	器内・外面共に雑な横位の研磨を施す。	
430-2	埴	床面直上 1/2	最11.0 底 3.0	粗粒砂含有・良好	橙	器外面頸部は横位の研磨を施し、底部周辺は縦位の研磨を施す。器内面は横位の研磨を施す。	
430-3	壺	覆土内 全周	□16.2	粗粒砂含有・良好	灰 濁	器外面は横位の雑な指撫でを施しており、粘土層の輪痕を顕著に残す。器内面は中位下が刷毛撫でを斜位気味に施し、上位は横撫でを施している。	8点の接合
430-4	台付蓋 S字状口縁	覆土内 破片	□11.8 高10.1	細粒砂含有・良好	濁 灰	器外面口縁部横撫で後頸部より縦位方向の荒削りを施し、さらに同方向の刷毛撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。	
430-5	台付蓋 S字状口縁	覆土内 破片	□13.9 高11.9	粗粒砂若干・良好	濁 灰	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向の荒削りを施し、さらに頸部直下より縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面は横撫でを施している。	
430-6	台付蓋S 字状口縁	覆土内 破片	□13.9 高11.9	細粒砂含有・良好	濁 灰	5に同様。器内面頸部下は雑な指撫でを施す。	
430-7	台付蓋 S字状口縁	覆土内 1/2	□13.0 高11.5	細粒砂含有・良好	純 橙	器外面口縁部は刷毛撫で後の横撫でを施す。口縁部下段中位より荒削りを施し、頸部から縦位方向の刷毛撫でを残す。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部・頸部直下は指頸直感を顕著に残し、全体に雑な指撫でを施している。	
430-8	台付蓋	覆土内 破片	—	細粒砂含有・良好	濁 灰	器外面は縦位方向の刷毛撫で後口縁部横撫で時に伴って頸部直下が横撫でされている。	
430-9 158	台付蓋	床面直上 覆土内 1/2	最21.6 高 6.0	細粒砂含有・良好	純 橙	器外面全体に斜位の荒削り後頸部上位は斜位方向、胴部・底部周辺は縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面は全体に横位の丁寧な指撫でを施し、底部はこれに後行し蓋部側と胴部側から粗粒砂を多量に含有する付加粘土を施しており、雑な指撫でが施されている。	

第3節 古墳時代（前期）

A区第173号住居跡出土土器一覽表

障 図 番 号 図 版 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 装 飾 の 特 徴	備 考
433-1	埴	覆土内 破片	頸 8.0	白色粗粒 子含有・ 良好	鈍 橙	器外口縁部は縦位の撫でを施し、肩部は強い横位の撫撫でを施し、体部は斜位の刷毛撫で後撫でを施し、さらに部分的に縦位方向の研磨を施している。	
433-2	埴?	覆土内 破片	口17.0	粗粒砂含 有・良好	浅 橙	口唇部は尖っている。器外面は横位の研磨を施し、頸周辺は縦位の研磨を施し、内面は横位の研磨を施す。	
433-3	埴	覆土内 破片	頸 9.0	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面頸部は罫による縦い線を有する。器部下は横位の撫でを施し、体部は斜位の研磨を施す。器内面頸部は斜位の研磨を施し、体部は撫撫で後暗文様に放射状に研磨を施す。	2点の 接合
433-4 158	小形壺	覆土内 片	頸 9.0 腹14.0 底 4.2	粗粒砂多 量・良好	浅黄橙	器外面全体を斜位の磨削りを施し、後行し斜位方向の研磨を施しているが、底部底面は磨削りのままである。器内面は縦 状に撫撫でを施しており、底部と胴部の部分には接合痕が 認められる。	8点の 接合
433-5 158	台付壺 S字状口 縁	P ₁ 周辺末 面直上層 中・底部 を欠損す る以外は 完器。	口12.0 頸10.6 腹16.7	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	器外口縁部は横撫で後口縁部下段中位下より縦位方向の磨 削りを施し、さらに頸部下より斜位方向の磨削りを器面全体 に施すが胴部下位から底部周辺は縦位方向に近くなってい る。さらに胴部から縦位方向に刷毛撫でを施し、肩部では横 位に肩部直下は斜位に施し、胴部から底部周辺にかけては縦 位に刷毛撫でを施している。器内面は胴部下半が横位の撫撫 でを施し、胴部上半から肩部には斜位に強い撫撫でを施して おり肩部から頸部には下位と上位に強い撫撫でを施してい る。頸部は縦な横撫でを施し、口縁部は横撫でを施している。	
433-6 158	台付壺 S字状口 縁	P ₁ 周辺末 面直上・ 覆土内欠 基 3.6 底 9.2	口14.2 頸12.8 腹18.4	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	器外面・器内面に罫部に就いては5と同様。頸部は器外面 が撫で後斜位の刷毛撫でを施す。器内面は胎部を折り返し撫 撫でを全体に施しており罫部では撫撫で後に粗粒砂を多量に 含有する付加粘土を施し縦な撫撫でを施している。又、頸部 器内面には粘土層の接合痕が認められる。刷毛は5と同一の ものと考えられ、5と同一人の製作と考えられる。胎土も5 同様。	28点の 接合
433-7 158	台付壺	床面直上 層土中	基 4.7 底 9.5	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	器外面が撫で後斜位の刷毛撫でを施す。器内面は罫部を折り 返し撫撫でを全体に施しており罫部では撫撫で後に粗粒砂を 多量に含有する付加粘土を施し、縦な撫撫でを施している。 又、頸部器内面には粘土層の接合痕が認められる。刷毛は5・ 6と同一のものと思われ、胎土も5・6と同様である点から この5・6・7は同一の製作と考えられる。	

遺構外出土土器一覽表

障 図 番 号 図 版 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 装 飾 の 特 徴	備 考
436-1	埴	Z区1溝 破片	口15.0 腹13.3	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	頸部は粘土層の接合痕を残し状に表出している。器外面は 横位の研磨を施し、器内面は縦位の研磨を施している。	
436-2	埴	Z区表土	口12.0 腹10.9	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は縦な撫撫でを横位に施し、器内面は横位の研磨を施 す。	
486-3	埴	A区11住 破片	口14.0 腹 8.3	粗粒砂若 干・良好	鈍 橙	器内面口唇部直下に縦い線を施している。器外面は縦位の 磨削り後上半部は横撫でを施し、さらに粗面に縦位の研磨を 施している。器内面は横撫で後斜位の研磨を施している。	

436-4	埴	A区Ⅲ層 破片	□10.8 類8.0	粗粒砂多 量・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は縦位の寛撫で後横撫でを施し、頸部周辺は縦位の寛撫で直を留めている。器内面は横撫でを施す。	
436-5	埴? 類?	Z区39住 片	□12.0	細粒砂含 有・良好	洗 橙	口縁部の歪みが著しい。器外面は雑な寛撫でを施し、器内面は横撫でを施している。	2点の 接合
436-6	埴? 泥坏?	Z区表土 片	□14.0	粗粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面は雑な縦位の寛撫でを施す。器内面は横撫でを施す。	
436-7	埴	A区77住 片	□ 9.8	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口唇部下は横位の研磨を施し、後行し縦位方向の研磨を施している。器内面は横位の研磨を施す。	
436-8	埴	Z区57住 片	底 1.3	細粒砂含 有・良好	橙 (赤 褐色)	器内・外面共に寛撫でを施す。又、器内外面共に赤色顔料の塗彩が認められる。底部は丸味を帯びる。	
436-9	埴	A区表土 片	底 2.8	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	底部は上げ底。器外面は斜位の寛磨り後研磨を施す。器内面は放射状に研磨を施す。	
436-10	台付甕 S字状口 縁	A区表土 破片	□15.0 類14.8	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	口縁部横撫で後下段より縦位に寛磨りを施し、さらに同方向に刷毛撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。	
436-11	台付甕 S字状口 縁	Z区3住 片	□16.0 類14.0	粗粒砂含 有・白色 粗粒子含 有・良好	鈍 橙	口縁部横撫で後下段より縦位方向の寛磨りを施し、さらに同方向の刷毛撫でを施す。刷毛撫では頸部下-肩部-頸部-肩部間の環位で施し、肩部は斜位に施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部は雑な横撫でを施す。頸部下は横位の寛撫で後同方向の刷毛撫でを頸部直下周辺に施している。	
436-12	台付甕 S字状口 縁	B区45坑 片	□18.3 類16.2	粗粒砂含 有・良好	洗 橙	口縁部横撫で後下段中位より縦位の寛磨りを施し、さらに頸部より同方向の刷毛撫でを施し、再度口縁部に横撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸・頸部下は雑な指撫でを施している。	
436-13	台付甕 S字状口 縁	A区3住 片	□15.0 類13.7	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	口縁部の段が顕著でない。器外面口縁部下段下位より縦位方向の寛磨りを施し、肩部周辺では横位に近い斜位方向の寛磨りを施しており、頸部から粗雑な刷毛撫でを縦位方向に施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は雑な横位の指撫でを施し、頸部下は斜位の指撫でを施している。 A区173号住居跡出土の第433図5・6・7の刷毛と同一の工具により刷毛撫でが施されていると考えられる。	
436-14	台付甕 S字状口 縁	A区表土 破片	□15.0 類13.4	細粒砂含 有・良好	黒	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向の寛磨りを施し、頸部より刷毛撫でを施している。口縁部寛磨り後再度横撫でを施している。器内面は頸部を横位の寛撫で後口縁部に横撫でを施す。頸部下は雑な指撫でを施し肩部周辺の寛撫でを施している。	
436-15	台付甕 S字状口 縁	A区8住 破片	□15.0 類13.8	細粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面口縁部横撫で後下段上位より縦位方向に寛磨りを施し、頸部より刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は広い横撫でを施す。頸部は雑な指撫でを施す。	
436-16	台付甕 S字状口 縁	A区9住 破片	□14.8 類14.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向に寛磨りを施し、頸部より刷毛撫でを施しており、口縁部寛磨り後再度横撫でを施している。器内面は口縁部・頸部は横撫でを施し頸部下は雑な指撫でを施している。	
436-17	台付甕 S字状口 縁	Z区13住 破片	□14.0 類12.2	細粒砂含 有・良好	褐 灰	器外面口縁部横撫で後下段上位より縦位方向の寛磨りを施し、頸部より同方向の刷毛撫でを施しており、口縁部下段研磨り後再度横撫でを施している。器内面は口縁部・頸部は横撫でを施している。頸部下は広い横位の指撫でを施している。口縁部は比較的薄い作りになっている。	

第3節 古墳時代（前期）

436-18	台付墓 S字状口縁	A区9住 破片	□10.0 淵 9.6	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部横撫で後下段中位下より縦位の刷毛撫でを施し、頸部より同方向の刷毛撫でを施しており、口縁部に再度横撫でを施している。器内面は口縁部・頸部に横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。
436-19	台付墓S 字状口縁	Z区17住 破片	□11.2 淵10.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	18に同様。
436-20	台付墓	Z区190 坑・破片	最16.2	細粒砂含有・良好	灰 褐	器外面肩部から斜位方向の刷毛撫で後、頸部下から縦位方向の刷毛撫でを施し、横位の刷毛撫でを施している。
436-21	台付墓	A区132 住・破片	基 5.0 深 8.4	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面肩部は撫で後腰部から縦位方向に施された刷毛撫でが基部の部分で変換し脚部で連続的に斜位に施されている。器内面は端部を折り返し全体に雑な指撫でを施し、粗粒砂を多量に混入する付加粘土を塞・脚部側より施しており、壁筋は腕撫で・脚筋は指撫でにより施されている。
436-22	台付墓	Z区50坑 全周	基 5.5	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面腰部から縦位方向の刷毛撫でが脚部で斜位に変換する。器内面腰部は腕撫で後粗粒砂を多量に含有する付加粘土を施し、さらに足撫でにより平滑にしている。脚部は雑な指撫で後付加粘土を施し指撫でにより雑に仕上げられている。腰部底部は非常に厚い。この土器と胎土・色調・成形・整形・外見が類似するものはZ区第47号住居跡出土のもの（第398図9）とZ区第61号住居跡出土のもの（第403図19）がある。
436-23	台付墓	A区128 住・片	基 5.6	細粒砂含有・良好	黄 橙	器外面腰部から縦位方向の刷毛撫でが脚部で斜位に変換する。器内面腰部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し、深い足撫でが施されている。脚部は全体に指撫でを施した後付加粘土を施し雑な指撫でで仕上げられている。基部の成形は、脚部に塞の立上がり部分を接合し、腰部は後から作られている。
436-24	台付墓	A区120 住・良好	基 5.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面腰部・脚部共に縦位の刷毛撫でを施している。器内面腰部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し、表面は雑な指撫でが施されている。脚部は指撫で後付加粘土を施し、深い指撫でにより仕上げられている。成形は23と同様である。
436-25	台付墓	A区57址 片	基 5.0	粗粒砂含有・良好	浅黄橙	24に同様。
436-26	台付墓	A区表土 破片	基 6.1	細粒砂含有・良好	浅黄橙	器外面腰部は縦位方向の刷毛撫でを施し連続的に脚部に斜位に施している。器内面腰部は腕撫で後粗粒砂を多量に混入する付加粘土を足撫でにより施しており、脚部は全体を指撫で後付加粘土を施し、表面を雑な指撫でで仕上げている。成形は脚部に腰部の立ち上がり部分を接合し、底部は後から付けている。
436-27	台付墓	A区109 住・全周	基 5.4	粗粒砂含有・良好	橙	器外面は腰部・脚部共に指撫でのみを施す。器内面腰部底面は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し足撫でにより平滑にしている。脚部は全体に雑な指撫で後付加粘土を施し雑な指撫でにより仕上げている。
436-28	台付墓	A区123 住・片	基 5.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	26に同様。
436-29	台付墓	Z区57址 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄橙	24に同様。
436-30	台付墓	A区18住 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	22に同様。

436-31	台付壺	Z区57址 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄	23に同様。	
436-32	台付壺	A区145住・全周	基 5.4	細粒砂含有・良好	橙 褐	23に同様。	
436-33	台付壺	A区137住・破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄橙	脚部器外面に縦位・斜位の刷毛撫でを施している。器内面腹部は平滑に指撫でを施している。脚部は比較的丁寧な指撫でを施している。付加粘土は認められない。	
436-34	台付壺	A区130住・破片	基 3.6	細粒砂含有・良好	浅黄橙	23に同様。	
436-35	台付壺	A区9住 破片	基 5.2	細粒砂含有・良好	灰 褐	器外面脚部指撫で後斜位の刷毛撫でを施す。器内面は指撫でを施した後粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し、指撫でにより仕上げている。	
436-36	台付壺	Z区河川敷・破片	基 5.2	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	23に同様。脚内面に付加粘土がヘソ状に出る。	
436-37	台付壺	A区14住 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄橙	24に同様。	
437-1	壺	Z区39住 瓦	口17.0 頸15.0	粗粒砂含有・良好	鈍 褐	口縁部上位に粘土紐の接合痕が明確に認められる。器外面は広い指撫でを施し、器内面は丁寧な横撫でを施している。	
437-2	壺	Z区17住 破片	口16.0	粗粒砂含有・良好	橙	複合口縁。口縁部斜位の刷毛撫で後複合部を作っている。複合部には指撫による押え後横撫でを施している。	
437-3	壺	A区11住 破片	口14.0 頸11.0	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	複合口縁。成形後複合部下位に縦位の刷毛撫でを施す。複合部は横撫でを施す。器内面は方向性の無い研磨を施す。	
437-4	壺	A区表土 破片	—	細粒砂含有・良好	黄 橙	器外面刷毛撫でを部分的に認める。器内面は横位・斜位の刷毛撫でを施す。器面の風化が顕著。	
437-5	壺	A区表土 破片	—	細粒砂含有・良好	黄 橙	器外面は横位の刷毛撫でを施し、器内面は横位・斜位の刷毛撫でを施す。	4と同一個体
437-6	壺	A区13住 破片	—	粗粒砂含有・良好	灰 褐	器外面は縦位の刷毛撫でを施す。器内面は同方向の指撫でを施す。	
437-7	壺	Z区一括 瓦	—	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面刷毛撫で後研磨を施し、器内面は刷毛撫で後横撫でを施している。	
437-8	甗?	A区4坑	—	粗粒砂若干・良好	鈍 橙	器外面縦位の刷毛撫で後口唇直下は横撫でを施している。器内面は横位の刷毛撫で後横位の研磨を施している。	
437-9	高坏	Z区17住 全周	基 3.2	細粒砂含有・良好	橙	器外面は縦位の研磨を施す。器内面坏部は研磨を施し、脚部は緩な横撫でを施している。	
437-10	高坏	Z区13住 瓦	基 4.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	9に同様。	
437-11	器台	A区132住・全周	基 3.2 孔 1.3	細粒砂含有・良好	鈍 橙	脚部に4分割する位置に孔を有する。器外面器受部は縦位の研磨を施し、脚部は斜位の研磨を施す。器内面器受部は研磨を施し、脚部は広い指撫でを施している。	
437-12	器台	A区12住	基 3.2 孔 1.0	粗粒砂若干・良好	橙	脚部に孔の一部を有する。残存量から3単位の孔と考えられる。器外面は縦位の研磨を施し、器内面脚部は緩な横撫でを施し、基部の孔は丁寧な横撫でを施している。基部孔径は1.6cm程を計る。	

第4節 鎌倉時代以降

437-13	高坏? 器台?	Z区5溝 破片	底12.0	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は磨削り後縦位・横位の研磨を施す。器内面は斜位・横位の刷毛撫で後指撫でを施している。
437-14	器台?	Z区12住 破片	底20.0 孔 1.4	細粒砂含 有・良好	橙	器外面磨削で後孔を施し、後行し縦位方向の研磨を施す。器内面接地面周辺は横位の研磨を施し、これは先行し上位を縦位の研磨を施している。器外面接地面周辺は刷毛状工具による刺突を施し擬似縄文を表出している。

第4節 鎌倉時代以降

Z区ヘッピリ坂出土遺物一覧表

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
44-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・(34.0)	白色・黒色鉱 物粒子含有	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤による整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
44-2	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 明赤褐色	紐作り後轆轤による整形。割戻文を挿挿。 瓦胎土のI類aに対比される。	
44-3 159	焼締陶器 鉢	覆土内 破片	—	白・灰色鉱物 粒子を含む	灰	内・外面に轆轤目有り。内面に7+α本の節目あり。器面は酸化気味の赤褐色。	常滑 17・18C
44-4 159	焼締陶器 鉢	覆土内 破片	—	白・灰色鉱物 粒子を含む	灰	内・外面に轆轤目有り。内面に7+α本の節目あり。器面は酸化気味の赤褐色。	常滑 17・18C
44-5	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	底・(12.0)	黒色鉱物粗粒 子を含む	灰黄	紐作り後轆轤により整形。轆轤左回転。 器内面磨減。底面回転未切り。	
44-6 159	施釉陶器 播鉢(褐釉)	覆土内 破片	底・(12.0)	夾雑物無し	淡褐	内外面と底面に鉄釉を施釉。底面に未切り痕。体 部外面に瓦削りあり。内面に10+α本の節目あり。	美濃 18C
44-7 159	施釉陶器 播鉢	覆土内 破片	底・(12.0)	夾雑物無し	淡褐	全面に鉄釉を施釉。底面に未切り痕あり。内面 に3本を一単位とする節目あり。	美濃 18C
44-8 159	施釉陶器 播鉢	覆土内 破片	底・(11.0)	白色微量黒色 鉱物粒子含有	灰	内面に着色しない鉄釉あり。体部外面は磨削り。 内面に7+α本の節目あり。	常滑 17・18C
44-9	軟質陶器	覆土内 破片	口・27.8 底・27.0	白色粒子若干 黒色粒子含有	黄橙	轆轤により整形。轆轤左回転。 瓦胎土のI類bに対比。	
445-1	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色含黒色鉱 物粒子微量	灰	内外面に自然釉がおよぶ。外面に格子印目あり。 内面に紐作り痕あり。器面は暗褐色。	常滑焼 13~16C
445-2	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 微量	灰	外面に撫で整形。内面に指圧痕と紐作り痕あり。 肩彫片。器面は灰色。	常滑焼 13~16C
445-3	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 を含む	黒灰	紐作りで、指頭圧痕を認める。外面に撫で整形 で器面は暗褐色。	常滑焼 13~16C
445-4	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 を含む	黒灰	外面は撫で整形。内面は指頭圧痕と紐作り痕あり。 器面は黒褐色。	常滑焼 13~16C
445-5	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	底・(12.6)	黒色鉱物粒子 を含む	淡灰	内外面に自然釉がおよぶ。底面に砂付着。内面 に瓦整形。底彫片。器面は暗褐色。	常滑焼 13~16C
445-6	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	底・(29.5)	白色鉱物粒子 を含む	淡灰	内外面に自然釉がおよぶ。底面に砂付着。体部 外面に撫で痕あり。器面は褐色。	常滑焼 13~16C

Z区(ヘッピリ坂)

445-7 159	施釉陶器 盤(灰軸)	覆土内 破片	口・(30.0)	夾雑物無し	淡 褐	折口盤の口縁部片である。内外面に灰釉を施釉。	美濃 17・18C
445-8 159	施釉陶器 皿(淡灰色)	覆土内	口・(12.0) 底・(7.0)	夾雑物無し	灰	志野釉。高台内面を除き全面に施釉。淡灰色に 黄色。外面は体部下高台を度で削り出す。	美濃焼 16C後半
445-9 159	施釉陶器 碗(黒釉)	覆土内 破片	口・(10.0)	黒色鉱物粒子 微量	淡 灰	鉄軸の天目軸で褐色の釉が糸目状に入る。内外 面に轆轤目あり。全面施釉。	不詳 17C
445-10 159	施釉陶器 小碗(灰軸)	覆土内 破片	口・(10.0)	夾雑物無し	淡 灰	内外面に灰釉が施釉される。外面体部下半が露 胎となる。口縁は折り口となる。	瀬戸美濃 16・17C
445-11 159	施釉陶器 鉢(灰軸)	覆土内 破片	口・(12.0)	夾雑物無し	淡 褐	内外面に灰釉が施釉される。体部外面工具によ る轆轤目あり。口縁端部は平縁となる。	美濃 不詳
445-12 159	施釉陶器 香炉(菊軸)	覆土内 破片	口・(10.0)	黒色鉱物粒子 を含む	淡 灰	内外面に鉛釉が施釉される。口縁内面に反りあ り。	瀬戸美濃 17・18C
445-13 159	施釉陶器 蓋(淡灰)	覆土内 破片	口・(12.0)	夾雑物無し	淡 灰	口縁端部を除き施釉される。陶製風の蓋か。	不詳 不詳
445-14 159	施釉陶器 皿(淡黄)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 褐	体部下半を除いて施釉。一部露胎となる。内外 面に菊花皿としての凹凸あり。釉調は美濃戸風。	美濃焼 17C前半
445-15 159	施釉陶器 碗(淡灰)	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 を含む	淡 灰	体部外面を除き透明釉を施釉。一部露胎。軸調 は生肌。内外面に轆轤目あり。	瀬戸美濃 17・18C
445-16 159	施釉陶器 鉢(灰軸)	覆土内 破片	底・(11.0)	夾雑物無し	淡 灰	全・面に灰軸施釉。面と底面にトチン状あり。	瀬戸美濃 17・18C
445-17 159	施釉陶器 香炉(菊軸)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 褐	香炉の体部下半である。外面上半のみ鉄軸を施 釉。その他は露胎となる。	美濃 17・18C
445-18 159	施釉陶器 細皿(灰軸)	覆土内 破片	底・(7.0)	夾雑物無し	淡 褐	外面体部のみ灰釉を施釉。底面に糸切りあり。 内面に節目の刻みあり。	美濃 15C前半
445-19 159	施釉陶器 碗(掛分)	覆土内 破片	底・(6.0)	黒色鉱物粒子 を含む	灰	高台端部を除き内面灰軸。外面は鉄軸を掛分す る。高台は削り出し高台。	美濃 18C
445-20 159	施釉陶器 碗(菊軸)	覆土内 破片	底・(5.0)	白色鉱物粒子 微量	淡 褐	内面のみ施釉。他は露胎となる。軸は濃鉛軸。	瀬戸美濃 17・18C
445-21 159	施釉陶器 油壺(鉄軸)	覆土内 破片	底・(10.0)	白・黒色鉱物 粒子微量	淡 褐	鉄軸を内面と外面体部上半に施釉。他は露胎と なる。外面胴部以下・高台は削り出し。	美濃 17・18C
445-22 159	施釉陶器 筒物(鉄軸)	覆土内	底・(19.5)	白・黒色鉱物 粒子微量	淡 褐	内外面に鉄軸が施釉される。底面は糸切り。体 部外面は荒削り。	美濃 不詳
445-23 159	施釉陶器 燈火皿 (鉄軸)	覆土内	口・(10.0) 底・(4.0)	黒色鉱物粒子 を含む	白	底面外部を除き透明釉を施釉。油溜り境と口縁 端部が鉄足状に敷化する。	不詳 18・19C
445-24 159	施釉陶器 燈火皿(鉄)	覆土内	口・(12.0)	夾雑物無し	灰	外面下半を除いて施釉。軸調は酸化気味の鉄軸 を施す。返り端部欠損。	不詳 不詳
445-25 159	磁 器 小碗(染付)	覆土内	口・ 6.4 底・ 3.6 高・ 5.0	夾雑物無し	白	染付磁器で呉須は明るい青色を呈す。精製呉須 か。高台端部は露胎となる。	伊万里系 19・20C
445-26 159	磁 器 小碗(染付)	覆土内	底・ 3.0	夾雑物無し	白	染付磁器で呉須は暗く黄色し、山呉須か。高台 端部に砂付着。	伊万里系 17・18C

第4節 鎌倉時代以降

445-27 159	短軸陶器 罎(淡褐)	覆土内	底・	5.0	夾雑物無し	淡 灰	高台端部を除き、内外面に透明釉を施す。釉はやや酸化気味で鉄足状になる。	京焼 17・18C
445-28	短軸陶器 大皿(唐津)	覆土内	—		白・黒色鉱物 粒子微量	灰	内面に白化粒を施し、淡緑色の緑釉と淡褐色の黄釉を塗り、外面に透明釉を施す。	唐津系 17・18C
445-29 159	磁 器 小碗(染付)	覆土内 破 片	口・	(9.0)	夾雑物無し	白	染付磁器で高須は暗く明るくもない。山梨須が精製須が不明。	伊万里系 18C
445-30 159	磁 器 碗(染付)	覆土内 破 片	底・	7.5	黒色鉱物粒子 微量	淡 灰	広東陶の高台片である。内面に釉の剥ぎ落しがあり、おそらくは蛇目か。	伊万里系 19C前半
445-31 159	磁 器 皿(染付)	覆土内 破 片	底・	4.0	夾雑物無し	白	印判染付で極めて薄いベロ藍を用いる。高台は蛇目高台。	伊万里系 19C後半
445-32 159	磁 器 碗(青磁)	覆土内 破 片	底・	6.0	黒色鉱物粒子 微量	淡 灰	高台部片である。高台端部も含め全面施釉。釉に細かい貫入が入る。	龍泉窯系 15C

A区第1号溝状遺構出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
448-1	土師質土器 (オウラケ)	覆土内 片	底・	6.1	黒色鉱物粒子 若干	酸化焙 浅黄橙	轆轤整形(左回転)。口唇部にススが付着する。生地はA類。	
448-2	土師質土器 (ウラケ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	7.6 5.5 2.1	暗褐色粗粒子 含有	灰 黄 ～黒灰	轆轤整形(左回転)。器内面に有機質の炭化した付着物が見られる。生地はA類。	酸化焙
448-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	28.8	白色粒子混入	酸化焙 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土I類aに対比。	
448-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	25.6	白色粒子多量	酸化焙 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。 赤褐色粒子を含む。(瓦胎土I類aに対比する)	
448-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	28.0	白色粒子を多 量	還元焙 黒 褐	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	
448-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	28.5	黒色粗粒子含 有	中性焙 黄 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	
448-7	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	29.3	白色微粒子 鉱物多量	酸化焙 黄 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	
450-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	39.0	白色鉱物粒子 若干	中性焙 灰 黄	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のII類に対比。口縁部に孔を施す。	
450-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	40.0	白色鉱物粒子 若干	中性焙 灰 黄		450-1と 同一個体
450-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	28.8	黒色鉱物粒子 を含有	酸化焙 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のII類に対比。	
450-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	31.6	赤褐色粒子 混入	酸化焙 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
450-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	23.2	4に同じ	酸化焙 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
450-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	—		4に同じ	中性焙 灰 黄	紐作り後轆轤整形。割変文を2箇所に押捺する。 瓦胎土のI類aに対比。	

A区(1号溝状遺構)

450-7	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	9.8	4に同じ	中性焙赤黒	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のI類aに対比。	
450-8	軟質陶器鉢	覆土内破片	—		黒色・白色鉱物粒子含有	中性焙灰黄	紐作り後轆轤整形。器内面磨減。瓦胎土のI類bに対比。	揃鉢
450-9	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	9.6	赤橙褐色粗粒子含有	酸化焙鈍黄褐色	紐作り後轆轤整形。器内面磨減。瓦胎土のI類aに対比。	揃鉢
450-10	軟質陶器罎	覆土内片	底・	11.4	白色微粒子含有	中性焙明褐色	紐作り後轆轤整形。器内面に縦位で5本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のIV類に対比。	
450-11	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	12.6	白色粒子含有	還元焙黒褐	紐作り後轆轤整形。器内面磨減。瓦胎土のI類aに対比。	揃鉢
450-12	軟質陶器罎	覆土内破片	底・	15.6	白色粒子含有	中性焙灰黄褐色	紐作り後轆轤整形。器内面に斜位で7本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のI類aに対比。	揃鉢
450-13	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・	23.2	黒色鉱物・赤褐色粒子含有	中性焙灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面に横位の研磨を施す。瓦胎土のII類に類似する。	
450-14 160	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		黒色(組)・白色粒子含有	中性焙灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面に2条の横位の凸帯・珠文を貼付し、刺菱文を施す。研磨を施す。	瓦胎土のI類b
450-15 160	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		黒色鉱物・黒色粒子含有	中性焙灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面に横位の凸帯を施す。凸帯上位には押捺文を施す。	14に同じ
450-16	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		黒色鉱物粒子含有	酸化焙橙	紐作り後轆轤整形。口唇部直下に凸帯を施し、珠文等を施す。	
450-17 160	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		黒色粗粒子含有	酸化焙浅黄	紐作り後轆轤整形。器外面に研磨を施し、口唇部直下に2条の凸帯文と内側に雷文を押し捺する。	瓦胎土のII類
451-1 160	軟質陶器円盤	覆土内	長径・	4.8	白色微粒子含有	酸化焙鈍黄褐色	鉢の体部片を転用している。	
451-2 160	焼締陶器大壺	覆土内破片	—		白色鉱物粒子多い	淡灰	口縁部片でM字状を呈す。内外面に横無だが発達する常滑焼IV期に類す。器面は淡褐色。	常滑焼15C
451-3	焼締陶器大壺	覆土内破片	—		白色鉱物粒子を含む	灰	外面に自然釉がおよぶ。内面には紐作り痕と指圧痕がある。器面は暗灰褐色。	常滑焼13~16C
451-4	焼締陶器大壺	覆土内破片	—		白色多い灰黒色鉱物粒含有	淡褐	外面は工具による擦痕があり、内面に撫で痕がある。肩部片。器面は暗褐色。	常滑焼13~16C
451-5	焼締陶器大壺	覆土内破片	—		白・灰色鉱物粒子を含む	淡灰	外面に工具による擦痕あり。内面平滑。器面は暗褐色を呈す。	常滑焼13~16C
451-6	焼締陶器大壺	覆土内破片	—		白色鉱物粒子を含む	灰	内面に自然釉がおよぶ。外面に指痕あり。器面は暗褐色。	常滑焼13~16C
451-7	焼締陶器大壺	覆土内破片	—		白色含む黒色鉱物粒子多	淡灰	外面に刷毛目状工具あり。内面に紐作り痕。器面は暗褐色。	常滑焼13~16C
451-8	磁器碗(青磁)	覆土内破片	—		夾雑物無し	白	鍋手蓮弁文柄の体部片であるが蓮弁は退化気味。内外面は厚く青磁釉が施され発色は枯手を呈す。	龍泉窯14C
451-9	軟質陶器焙烙	覆土内破片	—		黒色鉱物粒子微量	黄灰	内底面に「合」の字を刻印する。瓦胎土のII類に対比される。	

第4節 鎌倉時代以降

451-10	施軸陶器皿(灰軸)	覆土内破片	口・底・高	12.9 8.0 2.2	白色鉱物粒子微量	淡灰	外面体部下半を除いて灰軸を施軸。外面体部下半は置削り。	瀬戸美濃16・17C
451-11	施軸陶器鉢(淡灰)	覆土内破片	口	15.8	白色鉱物粒子微量	淡灰	鉢の口縁部片である。全面に透明釉を施軸。内外面に轆轤目あり。	美濃18C
451-12	施軸陶器埴(灰軸)	覆土内破片	口	13.9	白色鉱物粒子微量	淡褐	碗の口縁部片である。内外面に淡い灰軸を施軸。内外面は平滑である。	美濃17・18C
451-13	施軸陶器壺(鉄軸)	覆土内破片	—	—	白色鉱物粒子微量	淡灰	体部片である。内外面に鉄軸を施軸。外面に3+a条の沈線がめぐる。	不詳 不詳
451-14	施軸陶器鉢(灰軸)	覆土内破片	底	10.7	黒色鉱物粒子微量	淡褐	高台部外面を除き淡い灰軸を施す。内面にトチン痕あり。	美濃18C
451-15	施軸陶器皿(拵分)	覆土内破片	—	—	白色鉱物粒子微量	淡褐	外面に緑・灰軸を拵分し、内面に灰軸を施す。	美濃17・18C
451-16	施軸陶器埴(淡褐)	覆土内破片	底	6.0	白・黒色鉱物粒子微量	淡褐	外面体部下半を除いて施軸。露胎部は褐色に磨光。高台は貼り付。	美濃17・18C
451-17	施軸陶器小碗(褐軸)	覆土内破片	底	3.4	夾雑物無し	淡灰	小碗の高台部片である。内面のみ施軸。他は露胎となる。	瀬戸美濃17・18C
451-18	磁器小皿(染付)	覆土内破片	口	14.9	夾雑物無し	白	内外面に呉須を施文した染付である。呉須は淡青色を呈している。	伊万里系18C
451-19	施軸陶器碗(染付)	覆土内破片	底	4.1	夾雑物無し	淡灰	高台端部を除き施軸。外面に3条の染付呉須の圓線が入る。	唐津系17・18C
451-20	磁器小碗(白磁)	覆土内破片	底	3.0	夾雑物無し	淡灰	高台端部を除き施軸された白磁であるが、欠損部分に染付が施されていたであろう。	伊万里系18C
451-21	石造品宝篋印塔笠	覆土内破片	重	640	石材は麻石安山岩(粗粒)	—	隅飾り突起部で、比較的直線的に立ち上がる。	
451-22 453-1	板碑破片・上半	溝底直上層	—	—	石材は緑色片岩	—	梵字等の様子は認められない。	

A区第1号井戸跡出土遺物一覧表

挿図番号 図原番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
455-1 160	軟質陶器内耳鍋	覆土内破片	口・底	36.0	白色・赤褐色粗粒子含有	中性焙焼 灰〜橙	紐作り後轆轤整形。	
455-2 160	軟質陶器内耳鍋	覆土内破片	口	35.0	1に同じ	中性焙焼	紐作り後轆轤整形。耳部分は双孔を施す。瓦胎土の1類aに対比。	口絵2-12
455-3 160	軟質陶器内耳鍋	覆土内破片	口	48.0	1に同じ	中性焙焼	紐作り後轆轤整形。瓦胎土の1類aに対比。	
455-4 160	軟質陶器鉢	覆土内破片	口	42.8	1に同じ	中性焙焼	紐作り後轆轤整形。瓦胎土の1類aに対比。	
455-5 160	軟質陶器鉢	覆土内破片	口	48.8	1に同じ	中性焙焼	紐作り後轆轤整形。瓦胎土の1類aに対比。器内面にハゼが多い。	
455-6	軟質陶器鉢	覆土内破片	口	34.0	白色・黒色粗粒子含有	還元焙焼	紐作り後轆轤整形。瓦胎土の1類bに対比。	

A区(1号井戸跡) B区(46・159号址、3号井戸跡)

455-7 150	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	□・	38.0	白色粒子含有	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面口唇部直下に2条の横線と内側に16弁の菊花文を押捺する。	
455-8 160	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底・	11.2	赤褐色粗粒子 含有	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤整形。器内面は磨減が著しい。瓦胎土の1類 ^a に対比される。	細鉢
455-9 160	瓦 円盤	覆土内	長径・	8.1		還元焰 灰	女瓦片を転用している。外面は最位の磨でを施す。内面は粘土板剥ぎ取り痕が認められる。	瓦胎土の II類
455-10	焼締陶器 円盤	覆土内	長径・	5.4	白色磁粒・灰 色鉱物粒子含	淡灰	大塚銅部を再加工した円盤状製品で、外面に自然釉がおよび、内面に指頭圧痕が残る。淡褐	常滑 13~16C
455-11	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—		白色多・灰色 鉱物粒子含	灰	頸部片である。内外面に磨であり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
455-12	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—		白・黒色鉱物 粒子を含む	灰	外面に刷毛目状工具痕あり。内面に指頭圧痕あり。器面は褐色。	常滑 13~16C
455-13	蒸釉陶器 盥	覆土内 破片	□・	15.8	夾雑物無し	灰	内外面に灰釉が施される。口縁部は曜反となる。体部には轆轤目が残る。	瀬戸 15C後半

B区第46号址出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
458-1	焼締陶器 火鉢	覆土内 破片		白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡灰	外面に捺痕、内面に紐作り痕あり。器面は茶褐色を呈す。	常滑 13~16C

B区159号址出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
460-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□・	25.6	白色磁粒子含 有	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類に対比される。	
460-2	蒸釉陶器 茶入れ	覆土内 破片			夾雑物無し	淡灰	外面体部下方向露胎となり、他は鉄釉が施軸される。鉄軸は安定した軸調。	瀬戸 15 後~16前

B区第3号井戸跡出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
462-1 161	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 片	□・ 底・ 高・	7.0 5.4 1.7	半透明磁物粒 子含有	酸化焰 淡黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
462-2 161	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 完形	□・ 底・ 高・	7.6 5.4 2.4	黒色磁物粒 子含有	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
462-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	□・ 底・ 高・	8.5 5.2 2.1	赤褐色粒子 を微量	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
462-4	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 片	□・ 底・ 高・	10.2 5.7 3.0	半透明磁物粒 子含有	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

462-5	土師質土器 (カブツラテ)	埋土内 破片	口・ 底・ 高・	9.9 5.8 3.2	黒色鉱物粒子 若干	酸化焰 浅黄緑	1に同じ。 生地はA類。	
462-6 161	土師質土器 (カブツラテ)	埋土内 破片	口・ 底・ 高・	11.7 6.6 3.6	橙褐色粒子散 量	酸化焰 鈍黄緑	1に同じ。 生地はA類。	
462-7	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口・	34.8	白・赤褐色粒 子含有	中性焰 鈍黄緑	紐作り後繼續整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
462-8	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口・	28.4	7に同じ	7に同 じ	紐作り後繼續整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
462-9	焼締陶器 壺	埋土内 破片	—	—	白色多・灰色 鉱物粒子散量	灰	N字口縁の口縁部である。外面に自然釉がおよぶ。器面は茶褐色。	常滑 13 後~14期
462-10	焼締陶器 壺	埋土内 破片	—	—	白色含・黒色 鉱物粒子散量	灰	外面に工具の擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
462-11	焼締陶器 壺	埋土内 破片	—	—	白・灰色鉱物 粒子を含む	淡 灰	外面に工具の擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
462-12 161	鉄 器 小 刀	埋土内	重ね	0.8	—	—	切先を欠損する。推定全長26.8cm、柄は平口。刀身は鍛え合せ目で割れている。	

B区第5号井戸跡出土遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(#)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
463-1 161	土師質土器 (カブツラテ)	覆土内 完 形	口・ 底・ 高・	6.6 3.4 1.6	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 橙 緑	繼續整形(左回転)。 生地はA類。	
463-2 161	土師質土器 (カブツラテ)	覆土内 完 形	口・ 底・ 高・	11.1 6.5 2.7	1に同じ	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
463-3 161	土師質土器 (カブツラテ)	覆土内 完 形	口・ 底・ 高・	11.7 6.6 3.5	1に同じ	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
463-4	土師質土器 (カブツラテ)	覆土内 破 片	口・(16.2) 底・(11.0) 高・(4.3)	—	細粒角礫若干	酸化焰 黄 灰	1に同じ。 生地はA類。	
463-5 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	33.9	白色粒子多量	中性焰 浅 橙	紐作り後繼續整形。片口を有する。 被熱の痕跡を認める。瓦胎土のI類bに対比。	片口鉢
464-1 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	38.0	黒色粒子多量	還元焰 灰	紐作り後繼續整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
464-2 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・	41.0	白色微粒子多 量	還元焰 灰	紐作り後繼續整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
464-3 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	—	—	白色微粒子多 量	還元焰 灰	紐作り後繼續整形。下半部が磨滅している。瓦 胎土のI類bに対比される。	片口鉢
464-4 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	底・	12.0	白色粒子多量	還元焰 鈍 灰	紐作り後繼續整形。下半部が磨滅している。瓦 胎土のI類bに対比される。9本一単位の撮目。	片口鉢
464-5	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破 片	底・	22.0	赤褐色粗粒 子含有	中性焰 鈍黄緑	紐作り後繼續整形。外面面に磨滅した痕跡が認 められる。瓦胎土のI類aに対比される。	

B区(5号井戸跡、1号溝状遺構)

464-6 161	鋳輪陶器 耳笥(鉄輪)	覆土内 破片	—	白・黒色鉱物 粒子微量	屬	外面に鉄輪を施輪。内面に轆轤目あり。葉茶蓋 片である。	鉛線 15・16C
464-7	白 下	覆土内 破片	口・ 底・ 高・	31.2 23.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	
464-8	白 下	覆土内 破片	口・ 底・ 高・	45.4 68.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	縁辺部に漆状の塗布が認められる。 下半部の仕上げが粗雑。

B区第1号溝状遺構出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・変形の特徴	備考	
467-1	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 破片	口・ 底・ 高・	6.6 4.9 2.8	半透明鉱物粒 子微量	轆轤整形(左回転) 生地はA類。		
467-2 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 完形	口・ 底・ 高・	7.2 4.3 2.0	白色粒子若干	轆轤胎 純黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
467-3	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 破片	口・ 底・ 高・	7.5 4.9 2.1	赤褐色粒子含 有	轆轤胎 純黄橙	1に同じ。	
467-4 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 完形	口・ 底・ 高・	7.6 5.5 1.8	半透明鉱物粒 子含有	轆轤胎 純黄橙	1に同じ。	
467-5 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	7.6 4.9 2.2	黒色鉱物粒子 若干	轆轤胎 黒	1に同じ。	2点の接 合
467-6 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 完形	口・ 底・ 高・	7.9 4.5 1.9	白色微粒子微 量	轆轤胎 純黄橙	1に同じ	4点の接 合
467-7	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	7.9 4.5 2.4	黒色鉱物粒子 若干	轆轤胎 黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
467-8 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 完形	口・ 底・ 高・	7.9 6.6 1.9	黒色鉱物粒子 微量	7に同 じ	1に同じ。 生地はA類。口唇部周辺が傷ける。	11点の接 合。
467-9 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	8.0 5.2 1.9	細粒砂を多く 含む	轆轤胎 純黄橙	1に同じ。 生地はA類。	2点の接 合
467-10	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	9.0 7.4 1.5	黒色鉱物粒子 若干	7に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-11 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 完形	口・ 底・ 高・	11.0 5.8 3.1	黒色鉱物粒子 若干	7に同 じ	1に同じ。 生地はA類。口唇部から体部にかけて傷ける。	
467-12 162	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	12.1 6.4 3.4	黒色鉱物粒子 含有	轆轤胎 純黄橙	1に同じ。 生地はA類。	2点の接 合
467-13	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 破片	口・ 底・ 高・	12.2 6.0 6.0	12に同 じ	12に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-14	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	12.5 7.0 7.0	12に同 じ	12に同 じ	1に同じ。 生地はA類。口唇部から体部にかけて傷ける。	
467-15	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 片	口・ 底・ 高・	12.7 7.0 2.8	12に同 じ	12に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

467-16	土師質土器 (ホワラテ)	覆土内 破片	□・ 底・ 13.0 高・ 6.7 高・ 3.6	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	2点の接 合
467-17	土師質土器 (ホワラテ)	覆土内 破片	□・ 底・ 13.3 高・ 6.6 高・ 3.4	16に同じ	16に同じ	1に同じ。 生地はA類。	3点の接 合
467-18	土師質土器 (ホワラテ)	覆土内 破片	□・ 底・ 14.8 高・ 10.0 高・ 3.0	16に同じ	16に同じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-19	土師質土器 (ホワラテ)	覆土内 破片	底・ 5.0	赤褐色粒子微 量	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
467-20	土師質土器 (ホワラテ)	覆土内 破片	底・ 6.0	19に同じ	19に同じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-21	土師質土器 (ホワラテ)	覆土内 破片	底・ 7.0	16に同じ	16に同じ	1に同じ。 生地はA類。	
468-1	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	□・ 29.9	白色粒子多量	還元焰 灰	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比される。	
468-2	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	□・ 30.0	白色粒子・赤 褐色粒子含有	中性焰 黒・橙	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類aに対比される。	
468-3	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子多量 赤褐色粒子若 干	中性焰 鈍黄橙	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類aに対比される。	
468-4	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子含有	酸化焰 鈍黄橙	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類aに対比される。	
468-5	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子多量	還元焰 灰	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-6	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子多量 黒色粒子若干	還元焰 鈍灰	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-7	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	6に同じ	6に同じ	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-8	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子若干	中性焰 黒・橙	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-9	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	底・ 25.0	半透明鉱物・ 白色粒子若干	中性焰 黄橙	紐作り後輪轆整形。底面に腫れ砂痕を認める。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-10	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色・赤褐色 粒子含有	中性焰 橙	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類aに対比する。	
468-11	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□・ 26.8	黒色・白色鉱 物粒子含有	中性焰 鈍黄橙	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類aに対比する。	
468-12	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□・ 27.9	白色粒子含有	中性焰 灰黄濁	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-13	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□・ 33.5	白色粒子含有	還元焰 灰	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類bに対比する。	
468-14	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	□・ 33.8	赤褐色粒子含 有	中性焰 灰	紐作り後輪轆整形。 瓦胎土の1類aに対比する。	

B区(1号溝状遺構)

468-15	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・	36.8	白色・赤褐色粒子若干	酸化焙焼	紐作り後継継ぎ整形。口唇直下に孔を有する。瓦胎土のI類aに対比する。	
468-16	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・	36.9	15に同じ	酸化焙焼 橙	紐作り後継継ぎ整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
468-17	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・	38.0	赤褐色粒子多量	中性焙焼 黄 灰	紐作り後継継ぎ整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
468-18	軟質陶器鉢	覆土内破片	—		細礫含有・白・黒色粒子含有	還元焙焼 褐	紐作り後継継ぎ整形。内器面に「ハ」の字状に6本一単位の掻き目を施す。	瓦胎土のI類b
468-19	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	6.4	白色・赤褐色粒子若干	酸化焙焼 褐 黄	紐作り後継継ぎ整形。内器面に4本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のIV類に対比する。	器内面が磨滅
468-20	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	10.0	白色・黒色粒子含有	酸化焙焼 橙	紐作り後継継ぎ整形。内器面に6本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のI類bに対比する。	器内面が磨滅
468-21	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	10.0	白色・赤褐色粒子含有	酸化焙焼 褐 黄	紐作り後継継ぎ整形。内器面に7本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のI類bに対比する。	器内面が磨滅
468-22	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	11.6	黒色鉱物粒子若干	酸化焙焼 黄 灰	紐作り後継継ぎ整形。内器面に9本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のIV類に対比する。	器内面が磨滅
468-23	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	11.6	白色粒子微量・砂粒多量	中性焙焼 黄 灰	紐作り後継継ぎ整形。内器面に3本以上一単位とする掻き目を施す。瓦胎土のI類bに対比する。	器内面が磨滅
469-1	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・	32.6	白色粒子・赤褐色粒子含有	酸性焙焼 赤 橙	紐作り後継継ぎ整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-2	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・	45.8	赤褐色粒子含有	中性焙焼 灰	紐作り後継継ぎ整形。口唇直下に孔を有する。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-3	軟質陶器鉢	覆土内破片	—		赤褐色粒子含有	中性焙焼 灰	紐作り後継継ぎ整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-4	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・	11.0	白色・赤褐色粒子含有	中性焙焼 灰	紐作り後継継ぎ整形。内器面は著しく磨滅する。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-5 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	口・	31.2	白色粒子若干	還元焙焼 黄 灰	紐作り後継継ぎ整形。被熱の痕跡を認める。外器面に16弁一単位の菊花文を押捺する。	瓦胎土のI類
469-6 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		黒色鉱物粒子含有	中性焙焼 黄 灰	紐作り後継継ぎ整形。被熱の痕跡を認める。外器面に横位の2本の凸帯を施し、内側に縁文を配する。研磨を施す。	方形の火鉢、塵
469-7	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		赤褐色粒子若干	中性焙焼 灰	外器面は研磨を施し、内器面は雑な磨滅を施す。外器面は横により黒い。下位に孔を有する。	方形の火鉢
469-8	軟質陶器火鉢?	覆土内破片	—		金雲母を多量に含む	酸化焙焼	器外器面は平滑な面を施す。内面接合部に掻き破りがある。	近代遺物か?
469-9 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		白色粒子若干	還元焙焼 黄 灰	紐作り後継継ぎ整形。内外面を施す。瓦胎土のV類に対比される。	
469-10 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		黒色粒子混入	還元焙焼 灰	多角形を呈する。器外面は丁寧な面を、器内面は雑な磨滅を。瓦胎土のI類aに対比される。	亀甲文を押捺
469-11	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—		赤褐色粗粒子混入	酸化焙焼	紐作り後継継ぎ整形。内外面を施す。凸帯下に筋を施す。瓦胎土のI類aに対比される。	

第4節 鎌倉時代以降

469-12 162	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 を若干含む	酸化焙 焼・灰	粘土板の接合。外面は丁寧な磨で、内面は平滑 な磨で。瓦胎土の目類に対比される。	
469-13	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	黒色粒子混入	還元焙 焼	10に同じ。	10と同一 個体か?
469-14 162	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	赤褐色粗粒 子多量混入	酸化焙 焼黄褐色	粘土板の接合。外面は平滑な磨で。内面は指磨 で。瓦胎土のI類aに対比される。	
469-15 162	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	黒色粗粒子多 量混入	還元焙 焼・黒	14に同じ。 磨しを施す。	
469-16	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	黒色・赤褐色 粗粒子多量	中性焙 焼・褐	円柱状の脚部。器面は雑な磨位の磨磨で。「メ」 の磨記号が見られる。	瓦胎土の I類a
469-17	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	黒色・赤褐色 粗粒子含有	中性焙 焼・灰	扁平状の脚部。器面は雑な磨位の磨磨で。器面 の風化が著しい。	瓦胎土の I類a
469-18	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	黒色粗粒子を 含む	還元焙 焼 灰	粘土板による接合。脚部は三角形のものに割 みを入れる。	瓦胎土の I類b
469-19 162	軟質陶器 火鉢鉢	覆土内 破片	—	微粒の角隅を 含む	還元焙 焼 灰	成形は、筥による削り出し後、磨磨でにより整 形。磨しを施す。瓦胎土の目類に対比される。	
469-20	軟質陶器 香炉?	覆土内 破片	—	白色鉱物微粒 子多量	中性焙 焼・灰	脚部は平滑な磨磨で施す。 脚端部(接地部)は磨減している。	瓦胎土の I類a
470-1 162	軟質陶器	覆土内 破片	口・ 18.8	白色・黒色鉱 物粒子多量	還元焙 焼黄褐色	孔を3箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	
470-2 162	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を5箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	近代遺物 か?
470-3	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を3箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	1と同一 個体
470-4	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を2箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	1と同一 個体
470-5	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を2箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	1と同一 個体か?
470-6	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	推定孔数7箇所。	1と同一 個体か?
470-7	軟質陶器 焙 焼	覆土内 破片	口・ 38.0	黒色鉱物粒子 を含む	酸化焙 焼	底面は離れ砂痕。内面に「耳」が1箇所残存。 内面は轆轤回転の跡で整形。外面は煤が付着。	
470-8	桃繪陶器 壺	覆土内 破片	—	白・灰色鉱物 粒子を含む	赤 褐	口縁部片で、常滑桃形IV期に類す。器面は暗褐色 を呈す。	常滑 13 後~14前
470-9	桃繪陶器 壺	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉱物粒子微量	淡 灰	頸部片で、内外面に無である。器面は暗褐色 を呈し、酸化気味。	常滑 13・14C
470-10	桃繪陶器 大 壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 微量	淡 灰	胎土はやや砂質土を呈している。外面に自然釉 がおよび、内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13・14C
470-11	桃繪陶器 大 壺	覆土内 破片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡 灰	外面に自然釉がおよび、内面に指頭圧痕あり。 器面は暗褐色。	常滑 13~16C
470-12	桃繪陶器 大 壺	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉱物粒子微量	淡 灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は 淡褐色を呈す。	常滑 13~16C

B区(1号溝状遺構)

470-13	焼締陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色微・黒色 鉱物粒子を含	灰	外面に擦痕、内面に紐作り痕あり。器面は暗褐色を呈す。	常清 13~16C	
470-14	焼締陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色含・灰色 鉱物粒子微量	灰	外面に擦痕、内面に指頭圧痕と紐作り痕あり。器面は暗褐色。	常清 13~16C	
470-15	焼締陶器 壺	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡 灰	外面に自然釉がおよび、内面に紐作り痕あり。器面は増褐色。	常清 13~16C	
470-16	焼締陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡 灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常清 13~16C	
470-17	焼締陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は褐色。	常清 13~16C	
470-18 162	焼締陶器 深鉢	覆土内 破 片	口・ 底・ 高・	21.5 11.9 6.5	白色鉱物粒子 を含む	黒 灰	内面に刷毛目痕、外面に指頭圧痕あり。底面に砂付着。内面に使用摩耗あり。器面は暗褐色。	常清 15C
470-19	底輪陶器 深鉢(褐釉)	覆土内 破 片	—	白色鉱物粒子 微量	淡 褐	内外面に鉄輪を施輪。内面に16本を一単位とする印目あり。外面に轆轤目あり。	美濃 17・18C	
470-20 162	底輪陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破 片	口・	35.7	夾雑物無し	淡 褐	折口鉢口縁部片である。内外面に鉄輪を施輪。外面に工具による轆轤目あり。	美濃 15C
471-1 163	底輪陶器 耳壺(褐釉)	覆土内 破 片	—	白色鉱物粒子 微量	灰	外面体部上半に刷毛塗による鉄輪あり。その他露胎。内面に轆轤目あり。葉茶壺。	瀬戸 16C	
471-2 163	底輪陶器 耳壺(褐釉)	覆土内 破 片	—	夾雑物無し	灰	471-1と同一個体か。外面に鉄輪。内面に轆轤目あり。葉茶壺。	瀬戸 16C	
471-3 163	底輪陶器 壺(灰釉)	覆土内 破 片	—	白色鉱物粒子 微量	淡 灰	外面に露胎り目あり。内面に轆轤目あり。施輪部欠損。葉茶壺。	瀬戸 16C	
471-4	底輪陶器 碗(黒釉)	覆土内 破 片	底・	6.0	夾雑物無し	淡 灰	体部外面下方が露胎となり、他は施輪。軸は黒色の天目軸である。船載か。	中国 14C
471-5	底輪陶器 耳壺(褐釉)	覆土内 破 片	底・	4.9	白色鉱物粒子 微量	淡 灰	内面に施輪される。内面に轆轤目あり。轆轤目右寄り。底部は寛による再調整。	瀬戸 16C
471-6 162	底輪陶器 皿(灰釉)	覆土内 破 片	底・	6.4	夾雑物無し	淡 褐	内外面に鉄輪を厚く全面施輪。底は削り出し高台である。	美濃 16C前半
471-7 162	底輪陶器 皿(淡灰)	覆土内 破 片	底・	8.8	夾雑物無し	淡 褐	全面に乳濁した志野釉を掛、鉄絵が内面に描かれる。鉄絵は褐色に発色。裏鉄は革文か。	美濃 17C
471-8	底輪陶器 壺(褐釉)	覆土内 破 片	—	黒色鉱物粒子 微量	淡 褐	底面を除き内外面に鉄輪を施輪。軸掛は軸境より褐色による。露胎は酸化。	不詳 不詳	
471-9	底輪陶器 蓋(淡褐)	覆土内 破 片	口・ 底・ 高・	7.0 3.6 1.3	夾雑物無し	淡 褐	天井外面に長石軸を施輪。その他は露胎となる。露胎は酸化。	不詳 17~19C
471-10	底輪陶器 鉢(淡黄)	覆土内 破 片	—	夾雑物無し	淡 褐	内外面に長石軸を施輪。口縁部は平縁状となり体部は内傾する。	美濃 17~19C	
471-11	底輪陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破 片	底・	10.9	白色鉱物粒子 微量	淡 灰	内面体部と外面を除いて施輪。軸は鉄輪を基調とする緑色。内面に輪トナシ痕が見られる。	不詳 18・19C
471-12 163	底輪陶器 小壺(褐釉)	覆土内 破 片	口・	15.8	夾雑物無し	淡 褐	口縁部周辺を除いて内外面に施輪。煎輪部の存在は遺物か。	不詳 18・19C
471-13	底輪陶器 小壺(横分)	覆土内 破 片	口・	26.9	夾雑物無し	淡 褐	口縁部を除いて施輪。外面に鉄輪。内面に煎輪を併分る。	不詳 18・19C

第4節 鎌倉時代以降

471-14	磁器 不詳(染付)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	白	高台部片である。脚部は欠損。全面に施軸。外周面に染付による施文あり。	伊万里系 18C
471-15	焼締陶器 耳 壺	覆土内 破片	口・ 15.9	黒色紅物粒子 を含む	白	胎土は磁器質。内外面に自然釉がおよび暗褐色に酸化して黄色。	船載 15・16C
471-16 163	磁器 碗(青磁)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 灰	鎌手蓮弁文碗の口縁部片である。軸は青磁軸を内外面に掛ける。	龍泉窯系 13C
471-17 163	磁器 皿(青磁)	覆土内 破片	底・ 6.0	黒色紅物粒子 を含む	淡 灰	青磁櫻花皿底部片である。高台内面を除き施軸内面に印文あり。露胎は嵌足状に酸化。	龍泉窯系 15・16C
471-18 163	磁器 皿(青磁)	覆土内 破片	底・ 9.0	夾雑物無し	淡 灰	内面中央に輪割ざあり。高台内面は露胎となる青磁軸は薄い。	龍泉窯系 14・15C
471-19 163	磁器 碗(青磁)	覆土内 破片	底・ 4.0	夾雑物無し	淡 灰	高台端部と高台内面を除き施軸。発色は暗く、出来は悪い。	龍泉窯系 14・15C
471-20 163	磁器 合子(白磁)	覆土内 存	口・ 8.0	夾雑物無し	淡 褐	受け部、体部外面下半を除き施軸。露胎部は酸化気味で淡褐色を呈す。	中国 14C
471-21 163	土製品 円盤	覆土内 存	径・ 9.0	—	還元焰 灰	瓦の破片を転用。周辺部は磨いている。第4種瓦当に伴う女瓦。	
471-22 163	土製品 円盤	覆土内 片	—	—	中性焰 灰・褐	瓦の破片を転用。周辺部は磨いている。瓦胎土の目録。	
471-23 163	土製品 円盤	覆土内 存	径・ 5.4	白色紅物粒子 を含む	還元焰 黄 灰	古代の須恵器大甕片を転用。自然釉が付着。周辺は打ち欠いたまま。	
471-24	石製品 石	覆土内 —	—	石材は流紋岩 (磁沢?)	— —	小口面と一側面の使用がほとんどない。他の面はよく使用されている。	手持ち砥 (右利き)
471-25	石製品 砥	覆土内 —	—	石材は流紋岩 (磁沢?)	— —	全面よく使用されている。	24に同じ
471-26	石製品 上白	覆土内 破片	重・ 34.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	下面中央部が大きくへこみ、よく使用されている。	
471-27	石製品 上白	覆土内 破片	口・(21.0) 重・ 560	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
471-28	石製品 上白	覆土内 破片	口・(22.8) 重・ 340	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
471-29	石製品 下白	覆土内 破片	口・(27.0) 重・ 300	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	下白の外縁部分。	
471-30	石製品 下白?	覆土内 破片	口・(32.2) 重・ 196	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-1	石製品 下白	覆土内 破片	底・(27.6) 重・ 180	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-2	石製品 埋鉢	覆土内 破片	口・(29.2) 重・ 740	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-3	石製品 埋鉢	覆土内 破片	口・(34.2) 重・ 280	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-4	石製品 埋鉢	覆土内 破片	底・(14.0) 重・ 400	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		

B区(1号溝状遺構)

472-5	石製品 鏢	覆土内 破片	底・(17.6) 重・230	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-6	石製品 鏢	覆土内 破片	底・(18.6) 重・410	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-7 163	石造品 空風輪	溝底直上 鏢 完形	高・(28.0) 重・8,650	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	外形は丸味強い。	
472-8 163	石造品 板	覆土内 上半部	—	石材は緑色片 岩	— —		
472-9	石造品 板	覆土内 破片	—	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-10 163	石造品 板	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩(粗粒)	— —		
473-1	石造品 板	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩(粗粒)	— —		
473-2 163	石造品 ?	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩(粗粒)	— —	板破片の転用か?周辺部を磨いている。	
473-3	石製品 凹	覆土内 完存	重・2,250	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	凹縁の2面に窪みを有する。	
473-4 163	石製品 凹	覆土内 完存	重・2,750	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	凹縁の3面に窪みを有する。	
473-5	石製品 凹	覆土内 完存	重・180	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	凹縁の1面に窪みを有する。	
473-6	石製品 凹	覆土内 完存	重・760	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	5に同じ。	
473-7	石製品 凹	覆土内 完存	重・600	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	5に同じ。	
474-1 163	石製品 凹	覆土内 完存	重・410	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	自然面の1面に小さな窪みを有する。	縄文時代?
474-2 163	石製品 磨	覆土内 完存	重・300	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	全体がよく磨かれている。1面に工具痕が8箇所認められる。	
474-3	鉄器 釘	覆土内 ほぼ完存	—	—	— —	錆が全体に及んでいる。 鍛えは適有。	X線により 判断
474-4	鉄器 釘	覆土内 完存	—	—	— —	錆が全体に及んでおり、鍛えは不良か?	X線により 判断
474-5	鉄器 釘	覆土内 完存	—	—	— —	3に同じ。	X線により 判断
474-6	鉄器 釘	覆土内 完存	長・10.6 幅・0.6	—	— —	錆が全体に及んでいる。頭部は打ち出し。	X線により 判断
474-7	鉄器 釘?	覆土内 破片	—	—	— —	3に同じ。	X線により 判断
474-8	鉄器 不明	覆土内 破片	—	—	— —	3に同じ。	X線により 判断

第4節 鎌倉時代以降

474-9	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-10	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-11	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-12	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-13	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-14	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-15	鉄不器	器明破	覆土内片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-16	鉄鎌	器	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-17	鉄	器?	覆土内破片	—	—	—	全体に錆が著しく、着装部の上側が欠損する。 鍛えは不良。	
474-18	鉄不	製品明	覆土内破片	—	—	—	筒状の形状を呈する。全体に錆が著しい。	
474-19	銅	鉄	覆土内完	径・ 2.32	—	—	瓶寧元宝	
474-20	銅	鉄	覆土内完	径・ 2.40	—	—	穿に加工痕有り。 政和通宝	
474-21	銅	鉄	覆土内破片	—	—	—	□□元□	

B区第6号溝状遺構出土遺物一覧表

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
540-1	焼締陶器 火薬	覆土内破片	—	白色鉱物粒子を含む	赤褐	胴部下半部で、円外面に態で施す。 酸化焼成気味。	常滑 14・15C

C区第1号掘立柱建物跡出土遺物一覧表

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
541-1	軟質陶器 鉢	覆土内	口・ 33.0	黒色・白色鉱物粒子若干	還元焰 灰黄	紐作り後継継整形。器面は焼しにより黒色を呈する。瓦胎土のV類に対比される。	
541-2 163	軟質陶器 鉢	覆土内	底・ 32.0	赤褐色粗粒子多量	酸化焰 鈍橙	紐作り後継継整形。器面は焼しにより黒色を呈する。瓦胎土のI類aに対比される。	
541-3 163	軟質陶器 内耳鍋	覆土内	口・ 21.0	白色鉱物粒子多量	酸化焰 鈍褐	紐作り後継継整形。器面に焼しの痕跡が認められる。瓦胎土のI類aに対比される。	

C区集石群出土遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
542-1	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 Ⅲ	口・ 7.3 底・ 5.8 高・ 2.0	黒色鉱物粒子 若干	酸化焰 鈍黄褐色	楕圓形(左回転) 生地はA類。	
542-2 190	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 Ⅲ	口・ 11.1 底・ 6.4 高・ 3.1	黒色鉱物粒子 若干	酸化焰 鈍黄褐色	楕圓形(左回転) 体部・口縁部に凍ハズが認められる。生地はA類。	
542-3	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 破片(Ⅲ)	底・ 6.7	赤褐色粒子若干	酸化焰 鈍黄褐色	楕圓形(左回転) 底面に板目の瓦紋。 生地はA類。	
542-4	軟質陶器 内耳 罎	覆土内 破片	—	赤褐色粒子多量	酸化焰 鈍 褐色	紐作り後楕圓形。 瓦胎土のI類aに対比される。	
542-5	軟質陶器 内耳 罎	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子多量	中性焰 褐色・灰	紐作り後楕圓形。底面は離れ砂。 瓦胎土のI類aに対比される。	
542-6 190	軟質陶器 不明	覆土内 破片	最大径 14.1	黒色鉱物・赤褐色粒子混入	中性焰 褐色・灰	紐作り後楕圓形。内面は離れ砂で施す。16弁の菊花文を採押する。瓦胎土のI類a	瓦胎土のI類a
542-7 190	石造品 宝 篋印塔相輪	覆土内 完形	重・ 6,650 長・ 43.2	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	宝珠は直線的な作り。請花・伏鉢の花弁は直線的である。上位請花部に金泥を塗布している。	
542-8 190	石造品 宝 篋印塔相輪	覆土内 完形	重・ 8,350 長・ 44.0	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	宝珠・伏鉢は直線的な作り。請花の花弁も直線的であるが、伏鉢の花弁は覆弁状の丸味を帯びる。上位請花部に赤色塗彩。	
542-9 190	石造品 多層塔相輪	覆土内 完形	重・ 6,850 長・ 42.9	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	宝珠は丸味が強い。請花と九輪の間に水廻りを4箇所配する。花弁は丸味が強い。	
543-1 190	軟質陶器 火鉢	覆土内 脚部破片	底・ 42.0	赤褐色粗粒子多量混入	酸化焰 浅黄褐色	円形を呈する。器外面は焼しにより黒色を呈する。脚部は削り出し、器面は丁寧な置割で施す。	
543-2 190	石造品 多層塔相輪	覆土内 完形	重・ 9,000 長・ 46.0	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	宝珠は丸味が強い。水廻りを有する。請花の花弁は丸味を帯び、伏鉢の花弁は覆弁を呈する。	
543-3 190	石造品 多層塔相輪	覆土内 尖部欠損	重・ 7,550 長・ (46.2)	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	宝珠は丸味が強い。水廻りを4箇所有する。伏鉢の花弁は覆弁を呈する。2と同一工人の作?	
544-1 191	石造品 宝篋印塔笠	覆土内隅 脚突起I 箇所欠損	口・ 32.0 底・ 20.8 高・ 15,900	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	高座間に通子を施し、通子部に赤色塗彩を施す。隅脚突起には両巻き状の文様を加飾する。	
544-2	石造品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 980	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	隅脚突起は外傾し、隅脚突起下の高座間に通子を施す。	
544-3	石造品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 700	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	2に同じ。	
544-4	石造品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 200	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	2に同じ。	
544-5	石造品 不明	覆土内 破片	重・ 640	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	材質から石造品の一部と考えられる。再加工?の工具痕が多数見られる。	
544-6 191	石造品五輪 塔空風輪	覆土内 完形	重・ 27.8 重・ 5,800	石材は角閃石安山岩	—	直線的な外形を呈する。	

第4節 鎌倉時代以降

544-7 191	石造品 五輪塔水輪	覆土内 完形	高・14.0 径・22.6 重・10.300	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	比較的扁平で、中央部に梵字か記号状のものを刻する。	
545-1 191	石造品 板碑	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩	— —	弘安九年の紀年銘を刻する。 上位には、種子の蓮台の一部が遺存する。	
545-2 191	石製品 凹石	覆土内 完存	重・9,600	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	円縁の一面に窪みを有する。	
545-3	石製品 凹石	覆土内 完存	重・2,670	石材は角閃石 安山岩 凝石	— —	円縁の一面に窪みを有する。	
545-4	鉄器 釘	覆土内 上半部	—	—	— —	先端部を欠損する。錆が全体に及んでいる。 X線により判読。	
545-5	銅鉄 銭	覆土内	径・2.33	—	— —	紹聖元宝	
545-6	銅鉄 銭	覆土内	径・2.38	—	— —	元祐通宝	
545-7	銅鉄 銭	覆土内	径・2.40	—	— —	熙寧元宝	
545-8	銅鉄 銭	覆土内	径・2.50	—	— —	宣徳通宝	

C区暗渠状遺構出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
546-1	軟質陶器 内耳罽	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 赤褐色粒子多	中性焰 鈍黄灰	紐作り後轆轤整形。耳部の貼り付用の孔を2箇所に認める。二次焼成の可能性が考えられる。	瓦胎土の1類b
546-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・30.0	白色・黒色鉱 物粒子多量	還元焰 黒灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土の1類bに対比される。	
546-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・31.2	白色・黒色鉱 物粒子多量	還元焰 黒灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土の1類bに対比される。	摺鉢
546-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・41.8	白色・黒色鉱 物粒子多量	中性 鈍黄褐	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土の1類aに対比される。	摺鉢
546-5	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口・22.1	細粒砂を含む	還元焰 灰白	紐作り後轆轤整形。外面は平滑な楕を施す。 瓦胎土の田原に近質。器面は滑らかな。	
546-6	軟質陶器 ?	覆土内 破片	底・16.0	細粒砂を多く 含む	中性焰 暗灰褐色	紐作り後轆轤整形。底部の立ち上り部に四角形削りを施す。器面に横しを施す。	
546-7 192	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 微量	淡灰	肩部片。外面に格子印目あり。内面に紐作り痕と指頭圧痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-8	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡灰	体部片。外面に自然釉がおよび、内面に紐作り痕と指頭圧痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-9 192	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉱物粒子微量	黒灰	体部片。外面に格子印目あり。内面に指痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-10	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉱物粒子含	淡灰	外面に指痕あり。内面に紐作り痕と指頭圧痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C

C区(暗渠状遺構、4号址、1号溝状遺構)

546-11	桃絵陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色含・灰色 鉱物粒子微量	淡 灰	体部片。外面に擦痕あり。内面に指圧痕あり。 器面は暗褐色を呈す。	常滑 13~16C
546-12	桃絵陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡 灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕と指頭 圧痕あり。内面は凍ハゼ顯著。器面は暗褐色。	常滑 13~16C
546-13	桃絵陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	夾雑物無し	淡 褐	外面に擦痕、内面に紐作り痕あり。器面は褐色。	常滑 13~16C
546-14	桃絵陶器 大 壺	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉱物粒子微量	淡 灰	外面に自然釉および、内面に紐作り痕と指頭 圧痕あり。肩部片。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-15	磁輪陶器 皿(灰輪)	覆土内 破 片	口・ 10.5	夾雑物無し	淡 褐	内外面とも灰輪。内外面ともに轆轤目あり。	美濃 17C
546-16	磁輪陶器 鉢(黒輪)	覆土内 破 片	口・ 21.1	白・黒色鉱物 粒子微量	黒 灰	口縁端部を除いて磁輪。釉は鉄釉。	唐津系 17・18C
546-17	磁輪陶器 袋物(撰分)	覆土内 破 片	—	夾雑物無し	淡 褐	外面のみ磁輪。上半を淡灰色釉、下半を黒色鉄 釉を掛分ける。	不詳 不詳
546-18	磁輪陶器 鉢(淡黄)	覆土内 破 片	底・ 11.0	白色鉱物粒子 微量	淡 褐	体部下半片で外面露胎。内面は淡黄灰色釉を掛 す。外面露胎部に煤付着。	不詳 不詳
546-19	磁輪陶器 鉢(褐輪)	覆土内 破 片	底・ 5.6	白色鉱物粒子 微量	淡 褐	円型加工した二次的製品。内面に胎輪を施し、 その他は露胎となる。	瀬戸美濃 17・18C

C区第4号址出土遺物一覧表

探図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度 目(cm) 重 目(g)	—	—	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
549-1	銅 銭	覆土内 完 存	径・ 2.37	—	—	皇宋通宝	

C区第1号溝状遺構出土遺物一覧表

探図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度 目(cm) 重 目(g)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
552-1 192	土師質土器 (ヒツツク)	覆土内 完 形	口・ 7.6 底・ 4.7 高・ 2.3	白色鉱物粒子 若干	酸化焰 鈍黄褐色	轆轤整形(左回轉)。 口唇部の一部に煤が付着する。生地はA類。	
552-2	軟質陶器 内 耳 瓶	覆土内 破 片	口・ 29.0	白色・黒色鉱 物粒子多量	酸化焰 浅黄褐色	紐作り後轆轤整形。 瓦胎士のI類aに対比する。	
552-3	軟質陶器 内 耳 鉢	覆土内 破 片	口・ 29.0	黒色粗粒子・ 白色鉱物粒子	還元焰 暗 灰	紐作り後轆轤整形。体部に練な態でを指す。 瓦胎士のI類bに対比する。	
552-4 192	磁輪陶器 耳 壺(黒輪)	覆土内 破 片	—	白・灰色鉱物 粒子微量	淡 褐	外面に鉄釉が施される。内面に轆轤目あり。葉 茶色。	船載 15・16C
552-5 192	桃絵陶器 耳 壺	覆土内 破 片	—	黒色鉱物粒子 微量	白	胎土は磁質で、内外面に黒褐色の自然釉あり。 外面に黄削り。内面に紐作り痕。471-15と同一。	船載 15・16C
552-6 192	磁輪陶器 耳 壺(黒輪)	覆土内 破 片	底・ 11.2	白色鉱物粒子 微量	灰	外面上部に鉄釉を刷毛塗。器面は即転置調整。 内面に轆轤目。葉茶色。471-1・2と同一。	瀬戸 16C

第4節 鎌倉時代以降

C区第4号溝状遺構出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・装形の特徴	備考
553-1	土師質土器 (コワラケ)	覆土内 破片	底・ 7.0	黒色鉱物粒子 若干	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
553-2	土師質土器 (コワラケ)	覆土内	底・ 8.2	細粒砂微量	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
553-3	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子含 有	還元焙 焼灰黒	方形状を呈する。底面は1枚の粘土板より作る。 足部は貼付後、指跡による整形。壊し。	瓦胎土の 目録対比
553-4 192	軟質陶器 香炉?	覆土内 破片	口・ 7.6	白色鉱物粒子 微量	中性焙 焼灰黄	轆轤整形(左回転)。口縁部に14弁の菊花文を押 捺する。器面は壊しにより黒色を呈する。	瓦胎土の 目録対比
553-5	焼締陶器 大壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 微量	褐	外面に格子印目。内面に紐作り痕あり。器面は 暗褐色を呈す。	常滑 13~16C
553-6 192	施釉陶器 埴(黒釉)	覆土内 破片	口・ 13.0	夾雑物無し	淡灰	外面体部下半が露胎で、鉄輪天目が施される。 火中のため外面は発泡し、内面は皸状に変化。	中国 15C
553-7 192	土製品 円盤	覆土内 存	重・ 22.0 径・ 4.0	白色鉱物粒子 多量	赤褐	大壺の胴部片を転用。	
553-8 192	土製品 円盤	覆土内 存	重・ 29.0 径・ 4.4	白色鉱物粒子 混入	還元焙 焼灰黄	轆轤陶器の鉢の破片を転用。 瓦胎土のI類bに対比される。	
553-9 192	土製品 円盤	覆土内 存	重・ 48.0 径・ 4.8	白色鉱物粒子 混入	還元焙 焼灰黄	轆轤陶器の内耳輪の破片を転用。 瓦胎土のI類bに対比される。	

C区第2号井戸跡出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・装形の特徴	備考
554-1 192	軟質陶器 火鉢	覆土内 脚部片	—	細粒砂を若干 含む	還元焙 焼灰褐	方形を呈する。非常に緻密な胎土で、器面は平 滑で、角は鋭立っており、焼締りも良好である。	

C区第3号井戸跡出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・装形の特徴	備考
555-1	土師質土器 (コワラケ)	埋土内	口・ 7.2 底・ 4.5 高・ 2.1	白色鉱物粒子 混入	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(左回転)。器内底面が盛り上がる。 生地はA類。	
555-2	土師質土器 (コワラケ)	埋土内	口・ 7.8 底・ 5.4 高・ 1.8	細粒砂含有	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
555-3	土師質土器 (コワラケ)	埋土内	口・ 6.6 底・ 5.4 高・ 2.1	黒色鉱物粒子 若干	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
555-4	土師質土器 (コワラケ)	埋土内	底・ 6.8	細粒砂含有	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。底面にシルトのブロックが見られる。 生地はA類。	
555-5	土師質土器 (コワラケ)	埋土内	底・ 6.9	白色・黒色鉱 物粒子含有	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。 生地はA類。	

555-6	土師質土器 (カブツラテ)	埋土内	底・ 径・	8.1	細粒砂含有	酸化焰 淡黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
555-7	土師質土器 (カブツラテ)	埋土内 ⅞	□・ 底・ 高・	12.5 8.3 4.2	細粒砂含有	酸化焰 淡黄橙	1に同じ。底面は回転糸切り後発調整。 生地はA類。	
555-8	土師質土器 (カブツラテ)	埋土内 ⅞	□・ 底・ 高・	13.7 9.5 3.3	細粒砂含有	酸化焰 淡黄橙	1に同じ。底面は回転糸切り後発調整。 生地はA類。	
555-9	土製瓦 円瓦	埋土内 完存	径・	4.8	白色粒子若干	還元相 灰	古代の瓦片を転用している。	

B区第1号土壇墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
560-1 192	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上 完形	□・ 底・ 高・	12.0 6.9 3.0	黒色・白色紅 物混入	酸化焰 淡黄橙	繡織物形(左回転)。 生地はA類。	
560-2 192	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上 欠損	□・ 底・ 高・	12.0 7.5 2.7	黒色・白色紅 物混入	酸化焰 淡黄橙	1に同じ。 生地はA類。	1と同一 工人の作

B区第6号土壇墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
564-1 192	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上層 一部欠損	□・ 底・ 高・	11.7 7.5 2.6	細粒砂若干	酸化焰 純黄橙	繡織物形(左回転)。 生地はA類。	

C区第1号土壇墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
566-1	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上 層⅞	□・ 底・ 高・	7.2 4.8 1.8	黒色紅物粒子 若干	酸化焰 純黄橙	繡織物形(左回転)。 生地はA類。	
566-2 192	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上 層⅞	□・ 底・ 高・	8.1 4.5 1.8	白色紅物粒子 多量	酸化焰 赤褐	1に同じ。 生地はB類。	
566-3	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上層 一部欠損	□・ 底・ 高・	8.7 5.7 2.1	不分明	酸化焰 黒	1に同じ。器面のハゼが著しく、器面は濡されている。生地はA類か？	
566-4	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上 層完形	□・ 底・ 高・	11.6 6.6 2.9	黒色紅物粒子 混入	酸化焰 純黄橙	1に同じ。生地はA類。	
566-5	土師質土器 (カブツラテ)	底面直上 層⅞	□・ 底・ 高・	12.0 6.9 3.0	褐色粗粒子多 量	酸化焰 赤褐	1に同じ。 生地はB類。	

C区第3号土壇墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	— —	— —	器形・整形の特徴	備考
568-1 192	鉄器	人骨内 基先欠損	長・	15.8	— —	大根の鉄。灰目透しを施す。 基先欠損は調査時のものと考えらる。	第5章第 4節参照

第4節 鎌倉時代以降

C区第4号土坑墓出土遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 重量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
569-1 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	底面直上 層 完形	□・ 底・ 高・ 7.8 5.3 1.8	黒色鉱物・赤褐色粗粒子含有	酸化焰 鈍黄褐色	楕圓形(左回転)。 生地はA類。	
569-2	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 口縁部片	□・ 底・ 高・ 11.6 7.2 3.0	細粒砂含有	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-3 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 一部欠損	□・ 底・ 高・ 12.9 7.5 2.4	黒色鉱物・赤褐色粗粒子混入	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-4 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	壁側覆土 一部欠損	□・ 底・ 高・ 12.8 7.8 2.6	黒色鉱物・赤褐色粗粒子混入	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-5 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	人骨直上 突 形	□・ 底・ 高・ 12.6 7.5 2.7	黒色鉱物・赤褐色粗粒子若干	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-6	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 片	□・ 底・ 高・ 16.5 9.0 3.3	赤褐色粗粒砂子混入	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。白色の粗粒シルトを含む。 生地はA類。	

C区第5号土坑墓出土遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 重量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
570-1 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	底面直上 完 形	□・ 底・ 高・ 8.4 5.7 2.0	黒色鉱物粗粒子若干	酸化焰 鈍黄褐色	楕圓形(左回転)。器面に黒疵が見られる。 生地はA類。	
570-2	土師質土器 (カワラテ) 皿	底面直上 破 片	□・ 底・ 高・ 8.3 6.2 1.8	黒色鉱物粗粒子若干	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
570-3 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	底面直上 完 形	□・ 底・ 高・ 11.7 7.5 2.7	黒色鉱物・赤褐色粗粒子若干	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。器面に黒疵が若干見られる。 生地はA類。	
570-4 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	底面直上 片	□・ 底・ 高・ 16.2 9.3 3.8	黒色鉱物・赤褐色粗粒子若干	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。白色の粗粒シルトを混入する。 生地はA類。	

C区第6号土坑墓出土遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目(cm) 重量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
571-1	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 片	□・ 底・ 高・ 6.0 4.5 1.8	細粒砂含有	酸化焰 鈍黄褐色	楕圓形(左回転)。 生地はA類。	
571-2 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 一部欠損	□・ 底・ 高・ 11.4 6.9 2.7	細粒砂・赤褐色粗粒子・黒色鉱物粗粒子含有	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
571-3 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 完 形	□・ 底・ 高・ 11.3 6.9 2.6	細粒砂含有	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
571-4 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 片	□・ 底・ 高・ 11.0 5.4 3.3	赤褐色粗粒子含有	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
571-5 192	土師質土器 (カワラテ) 皿	覆土内 完 形	□・ 底・ 高・ 11.3 6.0 3.0	細粒砂・赤褐色粗粒子含有	酸化焰 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

C区第15号土塚墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
578-1 193	土師質土師 皿(カワラテ)	底面直上 完形	口・ 13.8 底・ 7.8 高・ 3.0	赤褐色粗粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
578-2	鉄器 不明	覆土内 破片	残存長 12.7	—	—	長い棒状を呈する。錆が全体に及んでいる。	X線により判読

C区第16号土塚墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
581-1	石造品 五輪塔地輪	覆土内 完存	高・ 15.6 中・ 23.3 重・ 15,100	石材は溶結凝 灰岩(重見石)	—	上面中央部の水輪と接する部分が磨れている。	
581-2 193	石造品五輪 塔空風輪	人骨直上 完存	高・ 24.5 重・ 5,400	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	空輪上部は丸味を帯び、同側部及び風輪は直線的である。	
581-3 193	石造品宝 篋印塔相輪	覆土内 上半部	重・ 2,210	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	宝珠は丸味を帯びるが、蓮花部の花弁は直線的である。	

C区第31号土塚墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
587-1 193	土師質土師 皿(カワラテ)	底面直上 層片	口・ 11.0 底・ 6.6 高・ 2.3	赤褐色粗粒子混 入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
587-2	鉄器 不明	覆土内 破片	残存長 6.8	—	—	錆が全体に及んでいる。	X線により判読
587-3	鉄器 釘?	覆土内 破片	残存長 4.0	—	—	錆が全体に及んでいる。	X線により判読

C区第37号土塚墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
588-1	土師質土師 皿(カワラテ)	覆土内 破片	口・ 10.7 底・ 7.2 高・ 2.4	赤褐色粗粒子 ・粗粒砂多量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

C区第34号土塚墓出土遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(目)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
589-1 193	土師質土師 皿(カワラテ)	底面直上 層片	口・ 8.6 底・ 6.0 高・ 2.0	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 鈍黄	轆轤整形(左回転)。シルトブロックが多く見られる。生地はA類。	
589-2 193	土師質土師 皿(カワラテ)	底面直上層 一部欠損	口・ 11.4 底・ 7.2 高・ 2.9	赤褐色粗粒子含 有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
589-3 193	土師質土師 皿(カワラテ)	覆土内 完形	口・ 12.6 底・ 7.8 高・ 2.7	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 鈍黄	1に同じ。シルトブロックが多く見られる。生地はA類。	

589-4 193	土師質土器 (カワラテ)	覆土内 完形	口・ 底・ 高・	13.2 7.8 2.6	赤褐色粒子含 有	酸化焙 焼橙	1に同じ。 生地はA類。	
--------------	-----------------	-----------	----------------	--------------------	-------------	-----------	-----------------	--

C区第36号土坑墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
591-1	土師質土器 (カワラテ)	底面直上 覆完形	口・ 底・ 高・	8.3 5.4 2.3	赤褐色粗粒 子混入	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
591-2	土師質土器 (カワラテ)	底面直上層 覆原完形	口・ 底・ 高・	11.1 6.0 2.4	赤褐色粗粒 子混入	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
591-3	土師質土器 (カワラテ)	底面直上 覆完形	口・ 底・ 高・	10.8 6.9 2.6	赤褐色・黒色 鉱物粒子混入	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。 生地はA類。	

D区第2号土坑墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
594-1	土師質土器 (カワラテ)	底面直上 欠	口・ 底・ 高・	11.4 6.6 3.3	黒色細粒子含 有	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(左回転)。底部の作りが厚い。 生地はA類。	
594-2	土師質土器 (カワラテ)	底面直上 完形	口・ 底・ 高・	12.5 6.3 3.3	砂粒混入	酸化焙 焼黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	

D区第6号土坑墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
597-1	土師質土器	壁周辺 一部欠損	口・ 底・ 高・	13.2 5.8 4.6	白色粒子・粗 粒砂含有	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(右回転)。内面には、製作時に重ね置 いた土器の底部の一部が付着している。	
597-2	土師質土器	壁周辺 一部欠損	口・ 底・ 高・	9.2 4.7 2.6	白色粒子・粗 粒砂含有	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(右回転)。 器厚が厚い。	

D区第8号土坑墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
599-1	土師質土器	底面直上 立ち上り部	口・ 底・ 高・	10.4 4.5 3.0	黒色・白色鉱 物粒子多量	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(右回転)。 生地はA類。	

F区第3号土坑墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
600-1	土師質土器 (カワラテ)	底面直上 完形	口・ 底・ 高・	11.1 5.6 3.3	赤褐色粒子若 干	酸化焙 焼黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

F区第5号土壇墓出土遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
601-1 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 一部欠損	□・ 底・ 11.1 高・ 6.3 3.0	褐色粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
601-2	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 12.0 高・ 6.6 3.5	褐色・赤褐色 粗粒子混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	
601-3 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 12.0 高・ 6.6 3.5	赤褐色粒子混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	

F区第6号土壇墓出土遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
602-1 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 12.0 高・ 7.5 3.0	細粒砂若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(右回転)。 生地はA類。	

F区第10号土壇墓出土遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
603-2 193	土師質土器 (カワラケ)	覆土内 片	□・ 底・ 11.7 高・ 7.2 3.6	黒色鉱物粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

G区第3号土壇墓出土遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
604-1 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 12.0 高・ 7.5 2.6	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
604-2 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 14.6 高・ 8.4 3.0	白色・黒色鉱 物粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
604-3 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 14.1 高・ 8.1 2.7	白色・黒色鉱 物粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。黄褐色の粗粒シレットを含む。 生地はA類。	
604-4	焼締陶器 犬壺	覆土内 破片		白色鉱物粒子 含有	赤褐	頸部片で自然釉が付着している。内外面共に常滑 による整形。	常滑 14~15C

J区第1号土壇墓出土遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(目)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
609-1 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 一部欠損	□・ 底・ 7.2 高・ 5.1 1.8	白色微粒子若 干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
609-2 193	土師質土器 (カワラケ)	底面直上層 完形	□・ 底・ 11.4 高・ 7.2 2.6	白色粒子含有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はC類。	

G区第4号土塚墓出土遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
608-1 193	土師質土器 (コフラケ)	底面直上 完形	□・ 底・ 高・ 11.2 7.8 3.2	黒色灰物粒子 多量	酸化焙 純黄橙	轆轤整形(左回転)。底面は糸切り失敗時の部分 より剥脱している。生地はA類。	
608-2 193	土師質土器 (コフラケ)	底面直上 完形	□・ 底・ 高・ 12.9 7.0 3.5	黒色灰物粒子 多量	酸化焙 純黄橙	轆轤整形(左回転)。純黄橙色の粗粒のシルトを 混入する。	

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

昭和62年 2月20日 印刷
昭和62年 2月28日 発行

前橋市元総社町小見地区、群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・
中道南・上野道南(横野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵
文化財発掘調査報告書 8分冊中の第1分冊。

編集／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行／ 勢多郡北鳩村下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第12集一

発行／群馬県教育委員会
前橋市大手町1丁目1番1号
電話 (0272) 23-1111

図 表 編

印刷／朝日印刷工業株式会社